# 混合教育30年間の実践記録

学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校

混合教育30年間の実践記録
武蔵野東高等専修学校

# 混合教育30年間の実践記録

武蔵野東高等専修学校

# 混合教育30年間の実践記録の発刊にあたり

学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校
**校長　清水　信一**

平成28年度、本校は創立 30 周年を迎えることができました。これも多くの皆様のご理解とご協力があってのことと深く感謝申し上げます。また、私にとっては、この上ない喜びでいっぱいであります。

高等専修学校の設立の使命は、発達障がいのある子どもたちが、社会に出るための、学園最後の教育の場として、更には、健常児の優しい友愛の心を最大限に育む、混合教育の実践の場として、正に学園内外の願いと期待で設立されました。

この30年で、本校は、1,946人の卒業生を上級学校、実社会に送り出しました。

生徒と我々教員とで歩んできた30年を振り返ると、生徒の成長、そして、卒業後の生徒の幸せを願い、無我夢中の30年であったように思えてなりません。

しかし、この30年、社会、教育は大きく様変わりし、子どもたちの多様化も大きな課題となってきました。本校の教育も、その時代のニーズに合わせ、時代に合った変化をしてきました。

このような状況下で、昨年の5月20日に、私が参加させていただいた教育再生実行会議の第9次提言が発表されました。

2か所に、高等専修学校の学種名が初めて記載されました。今までは、後期中等教育機関を表す時には、「高等学校等」という表記がほとんどでしたが、今回は、「高等学校、高等専修学校」と、省略されずに並列表記となっています。

更に、5月25日に発達障害者支援法が改正されましたが、その条項の中においても次のように表記されました。

（教育）第8条

高等学校、中等教育学校及び特別支援学校並びに専修学校の高等課程に在学する者も含む。

一般的に、後期中等教育機関では、どうしても、高等学校との格差等でなかなか社会的認知を得られなかった高等専修学校が、このように評価されるようになったのは、全国の高等専修学校と共に、本校の先生方が日々の教育に全身全霊をかけてきた証であり、本校の30年の先進的取り組みに対しての評価であると思っています。

今後は30年の歴史の上に、最終的な本学園の夢である、ユートピアの実現を目指してまいります。

ユートピアとは、障がいのある人とその家族が生涯を共に暮らし、働く場も確保され、更には、一般の方も自由に出入りでき、障がいのある人もない人も、絶えず共存することの出来るコミュニティーであると考えております。

そして、『私の一番の願い』のような社会が形成されることを願っています。

「町」や電車・バスの中で、障がいのある人が突然大きな声を発したり、強いこだわりを示している場面に遭遇した時に、今の私であれば驚くこともなく、その人を理解することができます。

しかし、子どもの頃の私を振り返ってみると、一歩後ずさりし、奇異の視線を送っていたことを思い出します。私の幼児期から始まった学校教育の場に、いかに障がいのある人を理解する教育設定がなされていなかったかを痛感させられます。

確かに、現在の学校教育の場において障がいのある人を理解する環境は、私の幼児期と比較すれば幾分増えている感はありますが、決して十分とは言えません。

また、武蔵野東学園の教員ということで障がいのある生徒を引率して色々な所へ行く機会があります。海外に修学旅行に行った時に、ある生徒が問題行動を起こしたことがありました。その時に、日本人とアメリカ人の捉え方の違いを強く感じたことがあります。日本人であれば、決して全ての人ではありませんが、私の子どもの頃と同じように奇異の目で見ている人が多いように思えます。逆にアメリカ人には、奇異の視線を送る人はほとんどいなかったように感じました。これは、ただ単に国民性の違いだけではないと思います。

「町」の中には、健康な人、障がいのある人、背の高い人、小柄な人等様々な個性を持つ人が共存しています。だから、様々な個性を持つ人が互いに互いを理解し合うことが、みんなが安心して暮らせる「まち」にするために最も必要なことなのです。

学校教育の中で『障がいのある人の理解教育』を根付かせることが、みんなが安心して暮らせる「まち」に近づける最良の方法と考えます。

この理解教育がたくさんの「町」の学校で実施されることにより、ある程度の時間は必要となりますが、幼児期からの積み上げ教育の成果がその国民性に必ずや変化をもたらし、みんなが安心して暮らせる「まち」となることを信じ、願っています。

# 目　次


**発刊にあたり**

**目 次**

**第１章　武蔵野東学園の変遷**……9

Ⅰ．創立者と創立者の教育理念……9

Ⅱ．武蔵野東幼稚園誕生から高等専修学校設立まで……14

１．幼稚園の誕生……学園のはじまり……14

２．小学校設立……理想の学校誕生……15

３．中学校設立……義務教育の完成……16

４．高等専修学校設立……社会自立に向けて……17

Ⅲ．発展し続ける武蔵野東学園……18

１．北原記念館……教育センターと友愛寮……18

２．北原記念体育館……20

３．南アルプスチロル学園・山梨友愛寮……21

**第２章　本校の教育理念**……22

Ⅰ．創立の理念と意義……22

Ⅱ．理想とする人間像……24

Ⅲ．教育方針と重点指導の変遷……25

**第３章　混合教育と個性を生かす人間教育の実際**……32

Ⅰ．健常児の教育……32

１．プランノートの活用……32

Ⅱ．自閉症児の教育……33

１．生活療法……33

２．本校の担う役割念……34

３．自閉症児の教科カリキュラム……34

４．白プランノートの活用……37

Ⅲ．日々の教育……38

１．混合教育・ＨＲカリキュラムと工夫……38

１．混合教育カリキュラム……38

２．HR カリキュラム……41

２．進路指導カリキュラム……44
１．健常児の進路指導……44
２．自閉症児の進路指導……54
３．教科指導……67
１．普通教科指導のカリキュラムと工夫……67
２．専門教科指導のカリキュラムと工夫……73
４．教育行事……93
１．１年生研修……93
２．スポーツ大会……95
３．林間学習……97
４．マラソン大会……99
５．紫峰祭……100
６．合唱コンクール……102
７．スキー教室……103
８．３学年ハワイ学習……105
５．友愛会活動……107
１．友愛会組織……107
２．歴代の友愛会会長……108
３．役員の活動内容……108
４．各部の活動内容……108
５．連合友愛会……109
６．友愛会予算会議……109
６．部活動における混合教育……109
１．ラグビー部……110
２．陸上部……111
３．卓球部……112
４．野球部……113
５．茶道部……114
６．コンピュータ部……115
７．美術部……116
７．特別活動……117
１．自己開示スピーチコンテスト……117
２．聞き取りコンテスト……119
３．就職模擬試験……121
４．スキルチェック……121
５．交流授業……121
６．ボランティア活動……123
７．ボストン研修……123
８．校外交流……126
９．U35……126
10．キャリアプランニングカリキュラム……126
Ⅳ．保護者に対する啓蒙……127
１．保護者会……127
２．保護者研修会……132
１．保護者研修会の歴史と意識……132
２．保護者研修会の主な内容……133

**第４章　混合教育実践の記録**……138
Ⅰ．混合教育の実際……138
１．バディ……138
１．１年生研修……139
２．様々な学校行事……140
３．宿泊学習（林間学習、スキー教室、ハワイ学習等）……141
４．交流給食と縦割り清掃……143
５．バディに関する留意点……143
２．健常児が自閉症児から受ける影響……144
３．自閉症児が健常児から受ける影響……153
４．不登校生が自閉症児から受ける影響……157
５．混合教育を実施していく際の留意点……164
６．混合教育におけるトラブルと解決……166
７．指導上の教師の工夫……173
８．保護者に対する教師の工夫……174
Ⅱ．高等専修学校を取り巻く環境……182
Ⅲ．混合教育における生徒の出席状況……184
Ⅳ．退学者を出さない教育……187
Ⅴ．混合教育の今後の展望……190
１．武蔵野東学園の混合教育……190
２．本校における混合教育の今後の展望……192

Ⅵ．生徒の視点（生徒の作文より）……195
1．「理想を求めて」より……195
1．平成 24 年度……195
2．平成 25 年度……198
3．平成 26 年度……199
4．平成 27 年度……200
2．武蔵野東学園 むらさき会会報より……202
3．卒業文集より……204
Ⅶ．卒業生として本校の教員として……214
1．21 期卒業 2年A組担任 清水貴秀……214
1．混合教育……214
2．一生懸命の大切さ……215
3．人から好かれる……216
2．21 期卒業 1年A組副担任 杉林優子……217
1．感情表現……217
3．21 期卒業 進路指導部 中澤友哉……219
1．信頼関係～ハワイ学習での一例～……219
2．仕事の厳しさ……220
Ⅷ．卒業生と保護者の声……221
1．卒業生の声……221
2．卒業生の保護者の声……234

**第５章 教育環境の変遷**……246
Ⅰ．総合キャリア学科の導入……246
Ⅱ．クラス編成と教員の指導体制……247
1．クラス編成……247
2．担任・副担任制……249
Ⅲ．連合後援会と同窓会のバックアップ……250
1．後援会と連合後援会組織……250
2．後援会の事業計画……250
3．同窓会……253
Ⅳ．友愛寮とチャレンジショップ……257
1．友 愛 寮……257
2．チャレンジショップ「ゆう＆あい」……258
Ⅴ．本校の文部科学省委託事業の歴史……259
Ⅵ．校内環境の変遷……260

**第６章 メディア、書籍**……263
Ⅰ．本校が取り上げられたメディア……263
1．こころの二人三脚……263
2．専門学校新聞……265
1．全国高等専修学校体育大会……265
2．「私のしごと」作文コンクール……272
3．公開授業……281
4．全国高等専修学校協会……282
3．その他 新聞・メディア等……283
1．学校創立 30 周年記念行事 ギネスに挑戦 !! ……283
2．ラグビー部……284
Ⅱ．発刊書籍……292

**第７章 資料等**……295
Ⅰ．学事報告にみる30年の変遷……295
Ⅱ．学校要覧（平成 28 年度）をもとに……327
1．沿革……327
2．学校の概要……332
3．教室配置の変遷……333
4．学校運営組織……337
1．学校運営組織図……337
2．教職員一覧……338
5．卒業生と進路状況……339
1．年度別卒業者数……339
2．主な就職先一覧……340
3．主な進学先一覧……341

編集後記……343

# 第１章　武蔵野東学園の変遷

## Ⅰ　創立者と創立者の教育理念

創立者　北原キヨ

創立の母、北原キヨは大正 14 年 4 月 24 日、現在の栃木県日光市清滝町に生まれました。「キヨ」の名は、土地の「清滝」にちなんでつけられたものといわれています。

幼い頃から利発で「神童」といわれたこともあります。子どもの頃から大変心がやさしく障がい児に対しても違和感のようなものはまったくありませんでした。

小学校高等科を卒業するとすぐに母校の給仕になり、先生方の雑務を手伝っていましたが、その後、教員になることを決意し、独学で教育職員検定試験に挑戦、昭和 16 年に全国最年少の 16 歳で合格、翌 17年からは、教員としての本採用となりました。先輩に教え方を尋ねたり廊下を歩く時には黒板の文字をのぞくようにして歩いたりしていました。また、教え方の１つひとつを子どもとのつき合いの中から見つけ出し工夫をしてきました。いわば、「子どもを教科書として、子どもから学んだ」のです。そして、障がいのある子どもも容易にクラスに溶け込めるように工夫しました。

中学校や高等学校の教員免許を取得したり、自分自身の勉強もしたいという強い願望により上京し、東京都立川市の小学校に勤務しました。上京して 1 年後、明治大学法学部に合格し、４年間昼は教師として働き、夜は学生として学ぶ生活をして中学校・高等学校の社会科教員の免許を取得しました。大学卒業後間もなく創立の父、北原勝平と結婚し、教師を辞め工場経営を手伝いました。

創立者　北原勝平

創立の父、北原勝平は大正 3 年 9 月 23 日、新潟県小栗山村字小栗山に生まれました。株式会社光軽合金鋳造所を設立し、その経営にあたり戦後の復興に寄与する製品を作り出し、通商産業大臣賞を受賞しました。昭和33 年に北原（旧姓永長）キヨと結婚しました。事業がますます拡大し繁栄されていましたが、時代の流れと今後のことを熟考し、妻であるキヨの夢を叶えたいと願い、昭和 38 年に意を決して同社を閉鎖し、２人で幼稚園に夢を託しました。そして、財産を惜しみなく投じて学校法人武蔵野東幼稚園を創立し理事長となりました。その後も北原キヨの情熱を支え温かく見守り、理事長としての大きな決断を次々にしました。

小学校を創立し、自閉症児のために少しでも多くのことを吸収したいと思った北原キヨは、海外研修にも出かけるようになり、生活療法が評価され、昭和 55年にボーリンググリーン大学教育学名誉博士号が授与されました。昭和 63 年には、エイボン女性大賞を受賞しました。平成元年１月14日急逝、従六位勲五等宝冠賞を受賞されました。その７年後、北原勝平は、亡くなりました。

各園校（幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校、ボストン東スクール）設立の過程については後ほど詳しく述べることといたします。

創立者北原勝平・北原キヨの教育理念は、武蔵野東幼稚園の開園時に園児の教育を念頭に置いて明示されました。その後、小学校・中学校そして高等専修学校を設立していくにつれて、その学校の使命を踏まえてそれぞれの教育理念を示しました。それらを、総括的な文章として表すと次のようになります。

「子の幸せを願う親の心を原点として、常に子どもから学びつつ、
一人ひとりの可能性の極限をめざす愛の教育を通して、
世のため人のために尽くす豊かでたくましい人間を育てる。」

この教育理念は、創立者の持って生まれた天性や努力・経験・思索などから自然と構築された世界観・人生観・人間観・教育観からにじみ出たものと考えられます。

創立者が残したことばや文章から、教育観・人間観に関するものを拾い出すと次のようになります。

1. 人間は生存権と同様に教育権を持つ。
2. 子どもは個性的天分を持ち無限の可能性を秘めている。
3. 教育によってそれぞれの子どもの可能性の極限まで伸ばすことができる。
4. 可能性の極限に挑戦する教育とは、限りない愛情と、あきらめずに繰り返す根気の教育である。
5. 子どもの目の高さで教材をながめ、親の視点で子どもを見つめる教師でありたい。
6. 子どもは、自然・社会・文化などの刺激に応じ様々な反応を示すがその反応に指導の奥義が秘められている。
7. 子どもから学ぶために、まず子どもと一緒になって遊べ。
8. 子どもは、教師の背中を見て育ち、教師は子どもの中で育つ。
9. 目的に向かって進むときは必ず苦労が伴う。正しい価値観を持ち、それを乗り越えてこそ夢は現実のものとなる。
10. 夢は必ず実現する。大志を抱いて努力し、粘り強く生きねばならぬ。
11. 基礎・基本を大切にするとともに、創造性と国際性の豊かな幅の広いたくましい人間に育てねばならぬ。
12. 素直な心と自主・自立の精神は、車の両輪である。
13. 数多くのことを経験して感性を磨くとともに、自信をつけることが大切である。
14. お互いを理解し励まし合い、助け合う友愛の心が福祉の心である。
15. 世のために役立ち、人々に必要とされる社会人になれ。
16. 教育の一般原則においては、健常児も自閉症児も同じであるが、内容や方法などの具体面では、差異のあることに注意しなければならない。
17. 弱い動物は群をつくる。自分と同質の集団に属することにより、心にやすらぎを得る。
18. 異質の集団との接触による刺激は、どちらの集団にとっても有用である。
19. いつまでも同じことをしていては、伝統だけの学校と同じように腐る。
20. 常に時代を先取りしなければ学校は終わりだ。
20. 職員の和（輪）がなければ、教育は実らない。
21. 仕事においても常に最高のものをめざせ。
22. 最初は無駄が多いが、その無駄を減らせば力となる。

以上のように、創立者の思考や教育に対する考えの幅は実に広いものです。洋の東西を問わず、過去と未来を貫き、新と旧を併せ持つという、相対するものを兼ね備えています。これらの言葉を踏まえて、前記の教育理念を敷衍してまとめると次のようになります。

「子どもは平等に教育を受ける権利を持つ。それぞれの子どもは天賦の能力を持ち教育によって磨き伸ばされるが、なにより子ども自身のやる気・根気・努力が大切である。その子どもの気力を養い、古今東西の文化の枠にふれさせて、未来を拓き国際社会に役立つ人間に育てねばならない。これが教育に志したものの使命であり、決意したことは身命を賭してやり遂げる気概がなくてはならない。」

この創立者の教育理念（学園の教育）を図案化したものが、シンボルマークです。

武蔵野東学園の教育のシンボルマークは、創立以来営々と行われている教育を象徴し、かつ広くSI（スクール・アイデンティティ）を主張するマークとして、平成２年に制定されその年の学園創立26周年記念式典で発表されました。

企業でいうCI（コーポレート・アイデンティティ）と同じ趣旨のもので、企業では、企業らしさを再認識するとともに、内部的な変革と対外的なイメージを一新しようとしていますがその意気込みを教育の立場から学園に導入しようとしたものです。

このシンボルマークは、本学園の教育のイメージを切り絵で視覚的に表現したもので、内部に対しては教育の理念・思想の徹底・高揚に資し、外部に対しては学園の思いや営みが浸透・定着することを願ってつくられました。いわば武蔵野東学園の旗印です。

モチーフは、「人間と鳥」です。力強い人間の両腕の先が天空に向かって飛翔しようとする鳥になっています。「鳥」はこれから目標に向かって羽ばたいていこうとする子どもであり、それをしっかりと優しく支えている「人間」が巣立ちの日まで育む教師であり父母であります。武蔵野東学園の教育の理念やそのあり方、子どもと教師・父母の理想的な関係がここにシンボライズされています。



## II 武蔵野東幼稚園誕生から高等専修学校の設立まで

### 1．幼稚園の誕生……学園のはじまり

心と体のすこやかな幼児を育てたいという願いのもとに、武蔵野の地にしっかりと根をおろし、朝日の昇るごとき向上をめざす意味をこめて「東」とし、昭和39年（1964）11月に武蔵野東幼稚園を創立しました。その教育理念は、「自然の摂理に従い、四季の変化に即した生活体験を豊富に与えることによって、心身ともにたくましい幼児を育てよう。」というものであり、園訓が次のように定められました。

［園訓］　みんななかよし
　　すなおなこころ
　　こんきのよさ

この理念から導かれた保育を「生活保育」と呼び、そのカリキュラムは、創立者北原キヨがそれまでの20数年にわたる教育体験をもとに独自に打ち立てたものであり、その実践によって園児たちは明るく豊かに成長しています。

当時はまだ幼稚園の数も少なく、幼稚園浪人もいるといった有様で、その施設や教育内容は、現在ほど充実していませんでした。武蔵野東幼稚園の正式開園は昭和40年4月ですが、昭和39年11月に園舎はでき上がっており、開園の準備はすべて整っていたので、奉仕的にこの幼稚園浪人の子どもたちを救い上げようということで、園児を募集しました。応募してきた園児の中に、たまたま自閉症といわれる子どもがいました。その子どもの教育を受ける権利や親の切なる気持ちを考えて受け入れることにしました。

入園した自閉症児の心を開くために、健常な子どもと一緒にした教育（混合教育）を行うだけでなく、自閉症児のための特別の教育（生活療法）を開拓していきました。また、健常な子どもも情緒虚弱で悩める自閉症児も、ともにたくましい成長を遂げるための教育環境の整備に心がけていきました。その努力や成果が高く評価されて、昭和48年5月に文部省研究機関としての指定を受けました。

## 2. 小学校設立……理想の学校誕生

幼稚園における自閉症児教育の成果が世に認められるにつれて、自閉症児の入園希望者が全国より殺到するようになるとともに、卒園後も同じ教育（混合教育・生活療法）を熱望する声が高まり、それはやがて小学校建設運動となって展開していきました。

昭和 50 年（1975）頃の土地事情や経済状況は容易なものではなく、また、小学校における混合教育を成立させる健常児の募集も困難なハードルでした。小学校建設運動は幾多の予想外の苦労に遭遇しましたが、関係諸機関のご理解やご協力を得て、同年11月にはグリーンパーク跡地の一部が学校用地として貸与されることになりました。その後、諸々の認可申請等の手続きを経て、昭和 51 年 11 月に認可されました。昭和 52 年 4 月、親の願い、教師の願い、世の人々の理解と温情が結集した武蔵野東小学校は、常陸宮、同妃両殿下ご臨席のもとに開校式を挙行しました。

小学校の教育理念は、21 世紀の日本を背負い、国際社会で活躍する将来を踏まえた上で次のように定められました。

「教育の原点を直視し　視野の広い　創造性豊かな　たくましい　信頼される子どもを育てよう。」

この教育理念を敷衍して、次のように教育目標が定められました。

［教育目標］　「体力づくりと体験学習を基盤にした知・徳・体一体の学習により豊な感性とたくましい生活力をもった児童を育成する。」

これを受けて、校訓が定められました。

**［校訓］　正しく（正しい知識と勇気ある行動）**
**強　く（強い体と根気のよい心）**
**美しく（まことの友愛）**

## 3. 中学校設立……義務教育の完成

本学園の幼稚園・小学校の卒業生が増えるにつれて、保護者の中に是非、本学園で義務教育を修了させてほしいという強い希望が起こってきました。こうした状況下でまず中学校設立の為の土地探しとなって運動が展開されていきました。

設立に当たり、現在の中学校の場所をめぐって地元の住民から強い反対がありました。「障がい者の通う学校ができると土地の値段が下がる」「静かな住宅街が生徒によって騒がしくなる」「職員が住宅街に違法駐車をして交通の妨げになる」「自閉症の子どもが勝手に家に入り、荒らしまわる」などが主な反対理由でした。これに対し、学園職員・保護者が一丸となって、署名運動を行ったり、説明会を開いたりして人々の理解と協力を得ることに努め、ついに、昭和 58 年（1983）3 月武蔵野東中学校認可となって花開き、ついで同年 4 月開校となって運動が実を結びました。しかし、その時点で学校の設備が全ては完成しておらず、しばらくは東京都青梅市にある学園の青梅山荘で寝食を共にした合宿生活をしたり、小学校の教室で授業を行うなど困難なスタートとなりました。

やがて新しい学校施設が完成し、苦労が報われ夢が現実のものとなりました。同年 9 月には、その校舎で常陸宮両殿下ご臨席のもと、あらためて開校式が挙行されました。

武蔵野東中学校では教育目標を次のように定めました。

「自主学習・自主管理を重視しつつ、体験学習や体力づくりを基盤にした知・徳・体一体の教育により、豊かな人間性とたくましい生活力を身につけるとともに、国際社会に的確に対応できる資質を養う。」

これを受けて校訓が定められました。

**［校訓］　知性（高き知性）**
**根気（粘り強い心と体）**
**友愛（温かき友愛）**

## 4. 高等専修学校設立……社会自立に向けて

武蔵野東中学校を卒業する子どもたちのために高等学校設立をという願いは当然のことで、すぐに高等学校設立の構想を練り準備に取りかかりました。しかし、学校教育法の第１条にある高等学校をつくるということは並大抵のことではありません。土地の確保、校舎建設の資金集めなど、北原勝平理事長とキヨ学園長は、いままでの経験からこれからくるであろう難問が手に取るように分かっていたのです。そして、あのころの血の滲むような苦労を２度と保護者にはさせたくないと考えていました。折しも、15 歳人口はピークに達しており、それ以降は減少の一途をたどるいっぽうで、すでに多くの高等学校では 15 歳人口激減対策、生き残り作戦を真剣に考えていた頃だったのです。このような状況下では、東京都も新たな私立の高等学校設立の認可を出すはずはなく、高等学校設立を断念せざるを得ませんでした。

武蔵野東中学校を卒業する自閉症児のため、社会に出るための最後の教育の場を何としてもつくらなければならないという考えは益々強くなり、比較的設置基準の緩やかな学校教育法でいう第 124 条である専修学校設立に切り替えました。

中学校までの義務教育の課程で培われた基礎的な教養や生活力の他に、自閉症児が社会自立し、将来、世の中に出て役に立つ人間になってもらいたいという願いをこめ、職業の技術や専門知識などを身につける学校として高等専修学校の設立を決意したのです。

まず、西久保にある幼稚園を関前に移転し、その跡地につくることを計画し、実施に踏み切りました。小学校設立や中学校設立の時と違い、すでに本学園の教育を近隣の方にご理解いただいていたため大きな問題もなく、昭和 61 年５月に社会自立を目指す学校として開校したのです。そして、小学校や中学校と同様の混合教育を実施するために、その母体となる健常児を広く外部より募集することになりましたが、学園内ではその前例が無く、混合教育の母体になりうるかという懸念がありました。教育が展開して行くにつれ、懸念が現実化したのも事実です。

しかし、その場面ばめんで健常児と自閉症児、そして教師がそれぞれの事象を通して、多くのことを学び、共に成長することができました。そして、わずか 10 年で、どこの高等専修学校にもない校風を築き上げたのです。

平成 20 年４月には、さまざまなニーズに対応した総合的なキャリア教育を目指すべく、総合キャリア学科を新設。また、平成 26 年４月には校名を武蔵野東高等専修学校へと改名し、本年、創立 30 周年という大きな節目の年を迎えました。



# Ⅲ 発展し続ける武蔵野東学園

## 1. 北原記念館……教育センターと友愛寮

武蔵野東学園は、平成 16 年に創立 40 周年を迎えました。この年、それまで国有地であった小学校の敷地と隣接していた国立特殊教育総合研究所（現国立特別支援教育総合研究所）武蔵野分室の土地を特例適用価格で払い下げることができました。そして、この幸運を生かして北原記念館の建設を計画し、平成 18 年（2006）２月に竣工しました。

北原記念館のシンボルツリーは昔から幸福を呼ぶ木とされている「えんじゅ」を選びました。「えんじゅ」は学名を「CHINESE SCHOLAR TREE」で、SCHOLAR は、学者、学ぶ人、教育ある人の意味があります。「えんじゅ」は子ども達が幸せで勉強に励むことを願って選ばれた木です。

### 1. 環境配慮、自然と親しむ、を目指した施設

北原記念館は、環境に配慮し、自然と親しむ、を目指したエコロジープロジェクトが盛り込まれた建物となっています。

ビオトープと水田を敷地東側に設置し、児童のための自然教育用施設として活用しています。ビオトープでは、フナ、メダカ、タナゴなどを飼育し、蛍にも挑戦しています。地階に設置する雨水貯留槽から水を汲み上げ、麦飯石で浄化し、ビオトープと水田の間を循環させています。動力は太陽光発電で動くモーターです。

屋上に最大 20KW の発電能力のある太陽パネルを設置しました。昇降口に設置される表示パネルで発電量を常に見ることができ、データは理科室の計測用コンピュータに蓄積され、新エネルギー財団との共同研究に活用されています。

また、屋上には天然芝の青空教室を設け、児童、教育センターのプログラム参加者、友愛寮利用者などの憩いの場として活用されています。屋上庭園はヒートアイランド対策のひとつとしても有効です。２階には、小学校５年生、６年生の教室、図工室、音楽室があります。教室には多くの木製の家具を配し、壁にも木を使用しています。２階、３階のバルコニーに、煉瓦ブロックを使用し、風通しのよい目隠しとして、より自然を感じられる施設となっています。地階には、直径４メートル・高さ２メートル（容量 12 トン）の円形木製受水槽を設置して、北原記念館全館に飲料水を供給します。天然の素材（米ヒバ）を使用しているので浄化作用に優れ、水質を改善し、「飲料水をとおした森林浴」を楽しめます。

### 2. 地域に開かれた施設

交差点に面した学園の敷地のかなりの部分を公共スペースに提供しました。これまで狭くて歩行者と自転車がすれすれで通っていた歩道が明るく広々とした歩道に変わりました。単に広くなっただけではなく、そこにはハナミズキやヤマボウシのほかにもイロハモミジ、ラベンダー、ローズマリー、ブルーパシフィックなど季節を彩る木々花々が植えられています。この歩道の広がりに合わせて所轄警察が横断歩道を広げてくださいました。

地下には多目的ホールがあります。児童や保護者が使用するだけでなく、学校や学園で使用しないときには、地域の皆様に貸し出すこともできる施設です。目の前のサンクンテラスに植えられたシンボルツリーの「えんじゅ」の学名にちなんでスカラーホールと名付けました。このホールは南側の歩道から直接サンクンテラスに降りて入れるようにデザインして、外部の方がこのテラスとホールだけを使用していただけるような構造になっています。ホール内には音響設備、テーブルと椅子、ステージなどが完備され、後援会から贈っていただいた自動演奏機付きピアノが置かれています。

地階の床下には大きな雨水貯留槽が設置されています。普段はトイレや散水で利用することになりますが、災害時には 1,000 世帯が1週間使うことのできる生活用水として利用できます。また、北原記念館の雨水枡は防災用水として、地域の皆様に貢献しています。

1階の“Challenge Shop ゆう＆あい”では、近隣の授産施設の自主製品や高等専修学校の生徒が制作した陶芸作品などの展示販売をはじめ、学園に通う児童・生徒の制服等の販売も行っています。また、喫茶や軽食もとることができます。この販売活動や接客業務に関わる生きた教材を、武蔵野東学園に学ぶ児童・生徒のインターンシップの場としても活用しています。

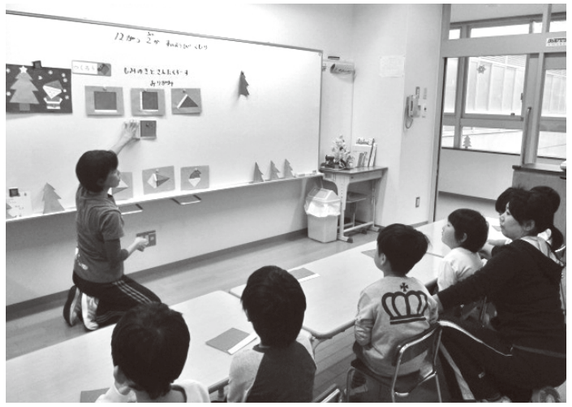


### 3. 自閉症児者の療育・自立のための施設

3階の武蔵野東教育センターでは、学園の教育を求めて全国から来訪される多くの方々のために充実した施設を用意しました。大小の療育ルーム、運動もできるプレイルーム、100 名を収容できるセミナールーム、教育相談室などが完備され、療育、保護者支援、支援者養成の様々な活動の展開が可能となりました。自閉症児教育の中心的役割を担うとともに、その取り組みを広く発信していくことを目指しています。

4階には、親亡き後のことを考えた『真の自立』をテーマに、学園独自のグループホーム“友愛寮”を立ち上げました。各入寮者の状況に応じた適切な支援を心がけ、武蔵野東学園ならではの温かい寮となっています。

一方、地下には卒業生が既にお世話になっている企業との連携をとった、自閉症者のための就労スペースが確保されています。



## 2. 北原記念体育館

平成 18 年（2006）1月末に竣工した武蔵野東中学校新体育館「北原記念体育館」。

最大の特色はプロセニアム（舞台額縁）を持たないオープンステージ。明るい開放的な舞台です。また、武蔵野東学園の「東」（朝昇る太陽、発展向上の印）をイメージした大通りに面した東側の大きな窓も特徴のひとつです。

オープニングセレモニーで初めて新体育館に入った生徒たちは目を丸くしていました。「ありがとうございます！」「うれしいです！」生徒たちはそれぞれに感謝の言葉を口にしていました。

体育の授業だけでなく、昼休みや部活動、入学式や卒業式などの様々なイベント会場として、新体育館はフル回転で利用されています。

## 3. 南アルプスチロル学園・山梨友愛寮

学園創立 50 周年記念事業の一環として、平成 27 年（2016)、山梨県南アルプス市にチロル学園がオープンしました。

ここチロル学園では、都市部において実施することが難しい継続的な農業従事体験を行っています。高齢化と後継者不足で悩む山梨県の古くからの果樹園産地において、農繁期を中心に農業従事体験を重ねることにより、農業分野での就労の可能性を追求しています。

また、武蔵野東学園卒業生のグループホーム山梨友愛寮開設の準備を進めています。

この施設は、南アルプス市所有の都市農村交流センター施設「南アルプスチロル学園」をお借りしているもので、敷地面積 2429.03 ㎡、延べ床面積 621.91 ㎡（1 階 179.43 ㎡、2 階 442.48 ㎡)、木造一部鉄筋コンクリート造２階建、宿泊室（８名分ベッド付）10 部屋、厨房、食堂、研修室、和室（10 畳）２部屋、浴室、トイレ・洗面所、他。別棟として職員寮６ユニット１棟、木工室１棟という施設環境が整っています。本校では農業従事研修の拠点として、小学校や中学校では宿泊訓練の場として、また、児童・生徒のクラブ活動の合宿の場として活用しています。



# 第２章　本校の教育理念

## I 創立の理念と意義

**［校訓］理想 VISION**

**世のために役立ち**
**人々に必要とされる**
**社会人となる**

教育目標 「個性を伸ばして専門的な知識や技術を修得するとともに、友愛の心を高めて人間として成長し、社会に自立する人間を育てる。」

武蔵野東高等専修学校は、創立者の願い（精神）を校訓「理想」として掲げ、義務教育の課程で培われた基礎の上に、社会で自立するための職業技術や専門知識などを身につける学校として設立しました。

創立者北原キヨは生徒手帳の中で「生徒の皆さんに贈る」と、次のように述べています。

「人は夢を抱き、生き甲斐を持って人生を歩んでいきます。そして、目的に向かって進んでいく時、必ず苦労が伴います。この苦労と困難を耐えて乗り切っていった時、初めてその目的は達成され、夢は現実のものとなるのです。みなさんは、そういう夢と理想をいつも胸に高く掲げて前進してください。夢は必ず実現します。私は、１人ひとりの掲げる理想が達成されるよう、創立者であり学園の親として、あなた方に『理想』の校訓を贈ります。この『理想』の中に、あなた達は、明るく生きることを志してください。そして、あなた達が、その明るさで回りに灯をともしていける人間になることを強く願っています。」

また、北原キヨは、本校の開校式式辞の中で、次のように述べています。

**「頭や理屈ではなくて、自分の真心と体を通して学んでください。」**
**「自分は人のために役に立つんだ、という誇りをもってください。」**
**「立派な社会人となるよう自分の得意とする才能を伸ばしてください。」**
**「自分の心を開いて、目を開いて学んでください。そして、大いに努力してください。」**
**「どういうふうにして人の役に立つか、その力の強さが人生の本当の通信簿です。」**
**「いつか、自分が本気にならなくてはいけません。ここで本気になってください。」**
**「人の心のひたむきさ、そして努力する姿が、その人間の偉いとか偉くないとかという価値を決めます。」**
**「一人でも多く世の中の役に立ち、この人も武蔵野東を出たんだと、そういうふうに人に尊敬される人間になってください。」**

前記に示した一語一句は、北原キヨの独自の教育観、人間観から導き出されたものであり、その言葉には教育にかける熱意と深い愛情に満ちた思いや願いが込められています。また、そこから理想とする人間像や、創立の理念を窺い知ることができます。

ここで本校の特徴のひとつである混合教育について、簡単に述べたいと思います。

混合教育とは、自閉症児と健常児が同じ環境の中で学び、相互に影響し合い、共に成長していく教育のことで、本学園では幼稚園創立時より実施しています。本校では、健常児と自閉症児の枠をはずして習熟度別クラス編成とし、さらに多くお互いに良い影響を与え合い、人々のために尽くし１人ひとりを尊重する、友愛の心のあつい人間の育成に力をいれています。その結果、自閉症児は健常児を手本として、その活気ある刺激を受けて成長を促進し、また、健常児は、仲間として共に学ぶ生活の中から友愛の心、生きた福祉の心を身につけると共に、自閉症児のひたむきに努力する姿を見て、努力を惜しまない生き方を学んでいます。詳しくは、第４章をご覧ください。

**◆ 校　　章**

中央部は「武蔵野」にゆかりの深いムラサキの花冠を図案化したものです。そこから出ている５つの光芒は、「東」から昇る旭日を表します。武蔵野の地に根をおろし、旭日のごとく向上をめざす子らをはぐくむという、創立の心を表現したものです。

小学校の校章の光芒の端に１本線が加わって二重になると中学校、２本線が加わって三重になると高等専修学校の校章です。なお、「ムラサキの花」は、学園の花として様々なところに使われています。



## II 理想とする人間像

武蔵野東学園がめざす一貫教育の最終段階としての高等専修学校の教育目標は、「個性を伸ばして専門的な知識や技術を修得するとともに、友愛の心を高め、人間として成長し、社会に自立する人間を育てること」となっています。これは、幅広い人間教育、豊かな全人教育の到達点ともいえるものです。

短い文で書かれた目標ですが、その裏には、次に掲げるような「北原キヨが考える理想の子ども像」が基盤となっているのです。

1. 美的感覚に優れセンスが良く、感情を込めて表現のできる感性の豊かな生徒。
2. 筋道を立てて臨機応変に行動できる知性の豊かな生徒。
3. 人の痛みがわかり、思いやりのある生徒。
4. 人の意見に耳を傾けられ、柔軟な考えができる素直な生徒。
5. 自分の意見をはっきり主張し、根気があり、粘り強く物事を最後までやり通す、志の強い生徒。
6. 心と体のバランスがとれている心身共にたくましい生徒。
7. 人の嫌がることでも進んで行い、集団の一員として活動でき、体験を通して自主的に自立する生活力のある生徒。
8. 夢や誇りを持ち目的意識を常に持って行動できる生徒。
9. 基礎・基本がしっかりしており、自由な発想と工夫ができる創造性の豊かな生徒。
10. 相手の気持ちがわかり正しい自己主張ができ、考えが理論的で国際性の豊かな生徒。

幼稚園、小学校、中学校に続く高等専修学校では、上記の各項目の完成度を高めて、社会に役立つとともに世のリーダーとしての人間形成の完成を目指して指導しています。また、教育の原点を直視すると共に時代の移り変わりに応じたその年ごとの教育の重点を定めて、理想とする人間像に近づく指導を展開しています。

## Ⅲ 教育方針と重点指導の変遷

| 年　度 | 重　点 | ね　ら　い |
|---|---|---|
| 昭和 61 年度 | 混合教育の基礎づくり | 内部進学者と一般からの入学者とのお互いの友情を深め、あたたかい校風をつくる。 |
| 昭和 62 年度 | 普通教科、専門教科の充実<br>労作の効率化 | 自主的かつ積極的に学ぶ姿勢を身につける。不言実行をもって労を惜しまず熱心に働く姿勢と根気を養う。 |
| 昭和 63 年度 | 職場実習の充実<br>言語指導 | 職場実習を積極的に行うことによって自立への自信をつける。<br>論理性のある主張ができる。 |
| 平成元年度 | 職場実習の充実と強化<br>自己主張の仕方と<br>言語表現 | 実習の成果を卒業後の就職に結びつける。<br>自己を正しく表現し、人とのコミュニケーションを図り、社会生活を円滑に送る。 |
| 平成２年度 | 意欲と積極性の強化<br>進路指導の充実 | 日々の生活の中や友愛会活動・行事などの運営に関して生徒に主体性を持たせることで自信を取り戻させる。<br>言葉遣いの改善や状況にあった表現の仕方を学び、実社会において自分の意見をはっきり表現できるようにする。 |
| 平成３年度 | 進路指導の充実<br>言語指導の充実 | 進路に対する自覚と学力の向上<br>面接試験や就職後のことを考慮し正しい敬語を身につける。 |
| 平成４年度 | 進路指導の充実<br>敬語指導 | 家庭で進路について話し合い、生徒、保護者、教師が一体となって進路について共に考える。<br>１年生は、敬語の基礎知識を重点的に覚え、２・３年生は、知識の上に立った実践を重視し、使い方の基本を知る。 |
| 平成５年度 | 自主性と積極性の強化<br>敬語指導の継続 | 自主的かつ積極的にオープンスクールに参加する姿勢を身につけることで、学校行事の運営や友愛会活動へと発展し、やがて社会人となったときに、社会生活の中でそれを生かす。<br>敬語の原点である「挨拶」から徹底していろいろな場面での敬語の必要性を感じ、実践する。 |
| 平成６年度～７年度 | 一般教養の強化<br>自主性と積極性の強化 | ホームルームテストを充実させ、また、各教科の授業の中でも一般教養を盛り込む工夫をし、入社試験や入学試験に備える。<br>オープンスクールやボランティア活動に自主的かつ積極的に参加してより多くのことを吸収する。 |
| 平成８年度 | 進路指導の新たな展開<br>自己開示と表現力の強化 | 職場実習を就職志望の健常児にも実施し、社会人としての心構えを身につけ実社会を学ぶ。<br>自己を理解した上で、自己を正しく表現する力を育てる。 |
| 平成９年度～13 年度 | 進路指導の充実<br>自己開示と表現力の強化 | 就職模擬試験を実施すると同時に普通教科とホームルームテスト・面接指導・作文指導・社会人としての自覚と必要なマナー指導を強化する。<br>自己盲点の発掘援助・挨拶会釈・文章表現力・スピーチ力を強化する。自己教育力を強化する。 |
| 平成14 年度～28 年度 | 進路指導（職業観の育成）<br>自己開示と表現力の強化 | 生徒が自らの力で職業観を育成し中途退職という結果にならないように自己教育力の強化をさらに促す。また、豊富な体験学習等を通して、社会人としての資質（一般常識の向上や礼儀等）向上を目指す。 |

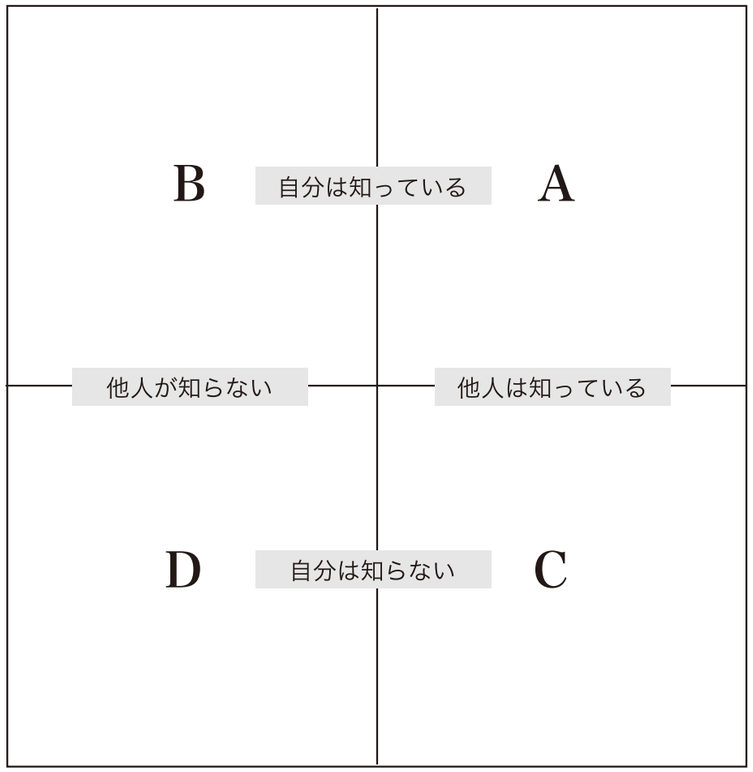
各年度の教育の重点は、社会自立を目指す上で必要な専門的な知識や社会常識だけでなく、基礎的な能力を身につけるという意識を堅持し、その上にそれぞれの時代背景を考慮しながら設定してきました。振り返ってみると、世界情勢や日本の動向がここまで激しく変動することは、誰にも予想できないことでした。社会に直結している本校にとっては、社会の変動や景気の動向を無視することはできません。一般の学校においても同じようなことは言えると思いますが、とくに本校の教育の特質である生活療法・混合教育や進路指導・就職活動といったものが、社会状況と密接な関係があるからです。

「重点の変遷」を見れば分かるように、バブル経済の絶頂期を迎えるまでの数年は、進路指導の充実というものに力を注いできました。これは、各企業との関わりが無の状態でしたので、その関係をより強固なものにしていくよう努力をしてきたわけです。また、もう一方の重点として展開してきた言語指導に関しても、やがて「敬語指導」へと発展しましたが、これはバブル経済崩壊後の不景気な世の中に受け入れられるための必要条件として強調されるようになったからです。しかし、これだけでは氷河期・超氷河期と呼ばれる就職難を乗り越えていくことはできません。そこで、「一般教養の強化」と、自分の周囲で起こる様々な出来事を当事者として対処していけるように「自主性と積極性の強化」ということを重点として力を注いできたわけです。そして、平成 14 年度以降の教育の重点については、これまでの教育の重点を踏襲し、職業教育を推進していく本校の不変の重点として「進路指導（職業観の育成）」「自己開示と表現力の強化」を設定しています。

ここで、平成８年度から取り組んでいる重点のひとつ、「自己開示と表現力の強化」について簡単に述べたいと思います。

本校の生徒の特徴として各自の個性をプラスの指向に働かせることができない傾向があります。そのために、「自分の知らない自分の領域（自己盲点）を減らし、自分の知っている自分の領域（自己視野）を広げること」つまり『自己開示』の強化を行い、自己を理解した上で、自己を正しく表現する力を育てていこうということから始められました。

進路指導において就職試験や入学試験の中で人物重視という観点から殊に面接試験が重要視される時代となりました。併せて面接試験への対応のためだけでなく、これからの社会生活においても、自分の考えをしっかりと相手に伝えることは重要なことで、そのためにも、本校の生徒にとっての『自己開示』は最重要課題となってきたのです。そこで、日々の学校生活の様々な場面において、できる限り多くの生徒に人前で自分のことや考え等について話す機会を設定していこうとする企画が誕生しました。




**※自己開示とは、ジョハリの窓**

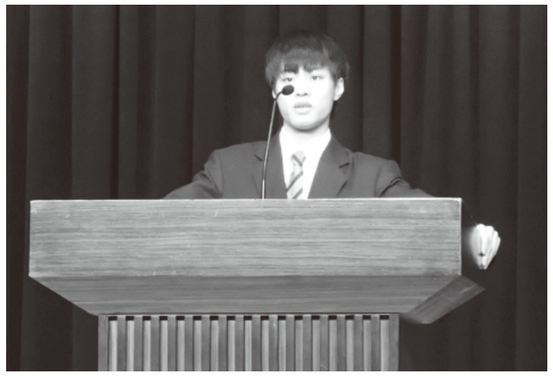
A→開かれた窓
自分も知っているし、他人も知っている一面

B→秘密の窓
自分は知っているが、他人には知らせていない一面

C→盲点の窓
自分では気づいていないが、他人は知っている一面

D→暗黒の窓
自分も気づいていないし、他人にも知られていない一面

自分の身体的な特徴、属性、趣味や意見、過去の行為や感情等、人間はみな、自分自身に関する知識を数多く持っています。これらの中には、たとえば身長や洋服の趣味等、特に自分から知らせなくても、周りの人が容易に知ることができるものもあります。しかし、自分が意図的に打ち明けなければ決して相手が知ることができない事柄もあり、人間は日常生活の中で、特定の人に対してこの種の事柄を伝達することによって、自らを「透明に」することがあり、これを自己開示と呼んでいます。それは本人だけでなく、受ける側の人間にとっても、そして両者の関係にとっても重要な意味を持つものであります。



具体的な展開として、

・自己盲点の発掘援助強化（教師・保護者・友人等による援助）
・挨拶、会釈の強化（自己表現の基礎、糸口）
・文章表現力の強化（プランノートの記入、感想文や作文の指導）
・スピーチ力の強化（校長講話時の突然スピーチ等、発言、発表、会話、面接）
・発想力の強化（VTR や写真等を題材にして、思考力と発想力を養成）



次に、平成14年度から取り組んでいる「進路指導（職業観の育成）」について簡単に述べたいと思います。

本校では卒業後の進路として開校以来フリーターは認めない進路指導を展開しています。学校として家庭と連携を取りながら、生徒自身が自分の力で「職業観の育成」が図れるよう、自己教育力の強化を更に促しています。具体的には、社会性の強化や礼儀等について、本校が運営する「チャレンジショップ」を活用したインターンシップを通して育成を図っています。

ここでいう「自己教育」とは、いわば「他人教育」に対する言葉で、自己の努力によって自己を教育することです。

このように、創立30年が経過した今もなお課題をかかえている現状ではありますが、校訓に掲げている理想の追求を常に念頭に置き、年々重点を前進させながら時代の進展にも対応し、教育の成果をめざして職員一同日々の指導に取り組んでいます。

次に本校の教育を象徴している校歌を紹介します。

この校歌は、故北原キヨが学校に縁のある作詞家の館美保子さんに学校の創立理念を話し、ご理解いただき作詞をしていただいたものです。作曲は、本校の音楽専科の友人で、本学園の小学校、中学校の校歌も作曲した忠平隆さんに依頼しました。忠平さんは 舘さんの詩を深く理解し、素晴らしい作曲をしてくださいました。

# 校　　歌

作詞　館　美保子
作曲　忠平　隆

1

青春の
夢は朝やけ　空のいろ
高き理想を　仰ぎつつ
貫き通す　光の矢
見よ見よ黄金の　扉はひらき
祝福の鐘　鳴りひびく
わが存在の　輝く日
いのちうつくし　匂やかに
　　ほまれあれ　われらの母校
　　武蔵野東高等専修学校

2

若人は
空にきらめく　星のいろ
高き理想に　導かれ
清く義しく　視野ひろき
人間像を　描くもの
知能感覚　業たけて
自然の摂理　さとるとき
生きる甲斐あり　すこやかに
　　さかえあれ　われらの母校
　　武蔵野東高等専修学校



# 第３章　混合教育と個性を生かす人間教育の実際

## I　健常児の教育

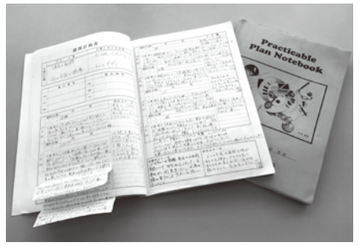
### １. プランノートの活用

本校独自のプランノートは生徒、保護者、教師の 3 者の連携を図るために考えて作成されました。そもそもこのプランノートの起源は本学園の中学校にあり、受験に向けた自主学習の定着、また生徒の自己管理を目標につくられたものを本校の教育に即して改良に改良を重ねて作られています。すなわち、プランノートとは、本校の目指す人間教育の大切な要素といえる「生徒､保護者､教師の三位一体の教育」を築く上での情報交換のノートです。

生徒への効果としては､１週間先に目を向けて自らの生活や学習における目標､計画､予定を立案し、実行に移し、さらに自己評価することができる点、そして、毎日の感想欄の記入による文章力の向上、それに対する教師のコメントによって対話が行われるという点、さらには毎日継続して記入することから就職後の日誌などに対する意識の向上等いろいろ挙げられます。そしてその記録は生徒１人ひとりの成長記録であり、学習記録と共に各自の学校生活の歴史の記述でもあります。学習を苦手とする生徒が本校卒業後に大学進学を果たしているという実績から、文字の丁寧さ、漢字力及び文章力の向上、そして先見性から成る計画立案力が培われ、学習効果の一躍を担っていることはいうまでもありません。

保護者側の効用としては、プランノートを見ることにより子どもの様子や友人関係をつかむことができます。年齢的にも親子の対話が少なく心がつかみにくい年頃であるだけに、子どもの心情や状況がわかるのは非常に有効だと思われます。特に、対人関係を苦手とする不登校生や親に反発する傾向にある素行不良傾向の生徒に関しては、大切な情報収集の場となります。その他、先生との関係をも知ることができます。これらが学校教育の理解や指導方針への協力にもつながることになります。

教師側の利点としては、外からは見えにくい生徒たちの行動や心情を毎日提出されるプランノートによってつかむことができ、このことによって更に生徒の内面にとけ込むことが可能となったり、生徒の情報を多く知ることから「いじめ」や「不登校」に対する予防教育にもつながっています。また、生徒の健康管理や学習状況を把握し自主学習の定着も図れます。更に言葉で表現することが苦手な生徒にとってはコミュニケーションをとる上での手段のひとつとなります。



## II 自閉症児の教育

### 1. 生活療法

本学園の特色のひとつである自閉症児教育は、先に述べた「混合教育」と、ここで取り上げる「生活療法」によって構成されています。「生活療法」の３本柱は、「体力づくり」「心づくり」「知的開発」です。本校での自閉症児教育はそれらの最終段階の指導となります。

本校では、専ら社会自立に向けての指導を中心に行っており、健常児・自閉症児という枠をはずした習熟度別のクラス編成になっており、一般社会に自立できる大人になることを主要目標にしています。よって、「生活療法」の内容も社会に適応し自立することを目指しての段階的指導が中心となっています。

「体力づくり」の面では、体育授業〔クラスで１時間（１Ｃ・２Ｃ・３Ｃは２時間)、学年合同で１時間〕のほか、また、職場での休憩時間の利用にもつながるように、土曜日に実施されているオープンスクールでは、軽運動（バドミントン、卓球、バスケットボール、スポーツ吹矢等）のプログラムを取り入れています。また、放課後の部活動への参加率も年々高くなり、ラグビー部・陸上部・卓球部・野球部等の運動部で活動する生徒も増えてきました。

「心づくり」では、地域社会や職場内でのトラブルにも情緒を安定させ対応できるだけの力を培っておかなくてはなりません。また、現実社会で出会うであろう様々なプレッシャーにも耐えられる指導も必要です。周囲の健常児やその保護者の理解も得られた中での一貫教育という比較的恵まれた環境で成長してきた彼らにとっては、社会という環境は厳しい要素を多く持っています。また、様々な方々の指導に応じていくためには、担任以外の多くの教師が指導に当たることが効果的です。専門教科カリキュラムを導入している本校では、多くの専科教員が生徒指導にあたっていることはそのメリットのひとつです。更に、学校環境の中では、指導者が常にいて指示が出るという生活に慣れてきていますが、自分で考えて行動するトレーニングも、社会自立に向けての大切な学習です。

「知的開発」においては、「開発」というよりも段階的には「連結」と言う方がふさわしいかもしれません。中学校段階までの知的開発で培ってきた力を、社会（職場）で役立つ力になるよう結びつけていくのが本校の役割です。言語的な部分では挨拶や仕事上必要な会話を指導したり、進路に応じての技能や知識、そして社会的なマナーなど、生徒の到達度に応じて様々な成長段階での指導が行われています。



### 2. 本校の担う役割

本校では、「社会自立のための実習」「職場実習」「進路指導の充実」「一般教養の強化」といった項目を開校以来ほぼ毎年重点指導として取り上げてきました。また、「敬語指導」「自主性・積極性」「言語表現」といった項目では、社会に出て自分の考えや思いを伝えられる最低限の力をつけさせることをその目標にしてきました。

このように、学校生活においては何ら問題がなくなっても、新しい環境に対する適応力は弱いので、より確実に社会自立させるための方策として、理解ある地域の企業等の協力を得て２年次に体験実習を行い、３年次は就職を前提とした選考実習を行います。本校では、自閉症児の進路については「家庭を基盤にして、企業や作業所等、社会で働くこと」を目標にしています。生活療法の仕上げの場、それはとりもなおさず社会自立へ向けての仕上げの場でもあります。

### 3. 自閉症児の教科カリキュラム

本校では、週あたり実技 10 時間、理論４時間の総合キャリア学科の各コースにおける専門教科の学習があります。そこで学んだことは、彼らの就労に向けても大切な要素となります。

情報ビジネス、ファッション、調理・製菓コースで学んだ技能は直接就職に結びつくことが多く、職場での仕事に生かされています。その他のコースの内容は就職に直結するケースはあまりありませんが、絵画や陶芸、体育の学習を通じて培った集中力や指示に対する理解力、作業力が就労の際に役立ち、また、趣味のひとつとしてストレス発散にも生かされています。

また、週に３時間組み込まれている「作業学習」では、就労を意識した職場に近い環境を設定し、職場への移行的学習を行っています。１年次に１回、２年次に２回、３年次に１回行われる、１週間の作業週間である校内実習では、終日作業を集中的に行うことで、様々な職場環境に耐えうる力を培っています。

更に、自閉症児のカリキュラムでは専門教科に加え、普通教科として、国語・数学・社会・英語・音楽・体育の教科が設定されていますが、その内容には生活に密着したものや職場で必要な知識などが組み込まれています。本校は社会と直結している学校であり、多くの社会生活技術（ライフスキル）を身につけて卒業させたいと願っています。そのため、「ライフスキルチェック表」を作成しホームルームの時間などに指導しています。また、基本に返り、食事の方法や着替えの方法、トイレマナーなどの見直しとともに、汗をかいた後の処理や、起床・就寝・睡眠時間の指導など生活リズムの見直しも行い、健康管理へのアドバイスを行っています。また、家庭においても学校で行っている内容や家事の手伝いを日常生活に取り入れていくように促しています。

**ライフスキルチェック表**

| 項目 | | チェック | 項目 | | チェック |
|---|---|---|---|---|---|
| 挨拶 | おはようございます<br>行って来ます<br>ただいま<br>お休みなさい<br>いただきます<br>ごちそうさま<br>こんにちは<br>こんばんは<br>お先に失礼します<br>お疲れさまでした<br>ありがとうございます | | 持ち物管理 | 机、ロッカーの整理整頓<br>貴重品、定期の管理<br>制服のかけ方<br>鞄、バッグへの入れ方 | |
| | | | 電話の対応 | 自宅の電話番号<br>帰宅連絡<br>相手の名前の聞き取り<br>用件のメモ書き | |
| | | | 買い物 | メモをみてコンビニで<br>スーパーで<br>小銭の使用 | |
| | | | 衣服調節 | 天気予報を見て考える<br>周囲に合わせる | |
| 身だしなみ | 髪の毛<br>鼻毛、耳掃除<br>爪切り<br>歯磨き<br>ひげ（電気カミソリ）<br>洗顔<br>ネクタイ、リボン等 | | 言葉遣い（敬語） | 間違えている時の言い直し<br>教えてもらう時の言い方 | |
| | | | 通学電車・バス内でのマナー | 落ち着いた行動<br>ひとりごと<br>人と人の間を通る時の言葉 | |
| 時計 | 時計を読む<br>時間を守る<br>時間に対しての意識 | | 洗濯 | 洗濯機の使い方<br>洗濯物を干す<br>洗濯物をたたむ<br>アイロンがけ | |



| 項目 | | チェック | 項目 | | チェック |
|---|---|---|---|---|---|
| 食事 | 食事のマナー<br>（こぼさない、箸等の使い方、肘をつかない、偏食等）<br>食器洗い<br>片付け（元の場所に戻す）<br>テーブル拭き<br>リンゴの皮むき<br>缶切りを使う<br>お湯を沸かす<br>お茶を入れる<br>おにぎりを作る<br>味噌汁を作る<br>野菜炒めを作る<br>卵料理を作る<br>カレーを作る | | 清掃 | 雑巾を絞る<br>四角く拭く<br>ゴミを布巾で包み込む<br>ほうきで掃く<br>洗面所の清掃<br>トイレの清掃<br>掃除機の使い方<br>お風呂の掃除 | |
| | | | その他 | 靴磨き<br>ボタン付け<br>ゴム・ひもを通す<br>携帯電話の使い方<br>図書館・体育館の利用<br>ファストフード店での食事 | |

上記のライフスキルの中で特に１学年においては、「ネクタイの結び方」「挨拶・報告の徹底」「買い物練習」「販売・金銭授受の練習」「タイムカードの学習」。２学年では、職場実習前後の指導として、「電話による連絡報告の練習」「挨拶・返事・身だしなみ・時間の意識」等を学習するほか、週末の余暇を利用した「交通機関の利用」等の学習も促しています。

学校という保護的な環境から、自立を求められる社会という環境に出ていくためには、できるだけ教師も自立を援助する方向で指導を行っています。学校内では、当然と思われていることでも社会には、そのまま通用しないことが多々あります。例えば言語を例にあげると、「生活言語」（本校で指導している生活に必要な言語パターン）から「社会言語」（一般社会で通用する会話やボキャブラリー）への切り替えについては、普通であれば社会に出て修正されていくべきものですが、自閉症児の場合には在学中にその切り替えの指導をして、職場へのスムーズな適応を可能にしています。

## 4. 白プランノートの活用

本校では教員と保護者の意思統一、情報の共有のため、そして生徒の目標・課題を明確にし、それらを日々の指導･支援に活かすために白プランノートというノートを使い、日々の生活の様子(保護者は家庭内の様子･教員は学校の様子)を記入していきます。ノートを互いに記入する中で個々の生徒の課題を浮かび上がらせ、保護者が目標を立案し、教員と保護者が協力し生徒指導をしています。また、24 時間の情報を共有することで、生徒の生活リズム・体調・情緒面の小さな変化も見逃さず、事前に対応することを可能として、起こりうる問題を最小限にとどめること、そして、家庭や学校での指導計画・指導意図、それに対する生徒の反応等の情報を共有することによって、目標に向けて１歩ずつ進めていく段階的指導をより効果的に行うことができます。

また、このノートの中で日々の生徒指導に対する悩みや進路に関する相談を打ち明ける保護者が多くいます。１年生の保護者にとって本校での指導方針をより深く理解することや新しい学校生活を意義あるものにしていくことにつながります。２年生や３年生の保護者にとって子供の進路は、大変重要な問題です。プランノートによって個々にあった職種のヒントも得られます。また、プランノートにある保護者からのメッセージに教員が、１つひとつ丁寧に答え、対応していくことで相互の理解を深めると共に信頼関係を築き上げています。これによって、生徒を中心とした、教員、保護者との三位一体の共同体制が確立されていきます。



# Ⅲ 日々の教育

## 1. 混合教育・HRカリキュラムと工夫

### 1. 混合教育カリキュラム

学年を追うごとに健常児と自閉症児が共に理解しあえる環境を作っています。１年生はまだ自閉症児のこと知らない生徒が多いので、まず１年生研修時に一緒に生活をし個々の特徴を知ることから始めます。また、１つひとつの行事の準備、本番を通し更に個々の特徴を知った上で互いに協力し合い、励まし合い友愛の心を育てていきます。２学年では１年時の内容を継承しつつ深化させ、３学年では武蔵野東学園の教育の集大成として卒業後も互いの交流を深められるような工夫をしています。

**【１学年】**

活動目標　○行事を通して学園への理解を深める。
　　○友人との交流を通し相互理解を深めていく。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | １年生研修 | ・同じペースで生活し相互に理解を深めていき、日々の生活のいろいろな面で協力し合う。 | ・学園の特徴を話す。<br>・いじめなどがないようにする。<br>・自閉症児のビデオを使用。 |
| 5 | スポーツ大会練習 | ・学校行事への理解を深めると共に、１人ひとりの特徴を知り友愛の意味を知る。 | ・自主性を促す。(言葉がけ)<br>・交流給食を行う。<br>・むらさき連合親子運動会。<br>・健常児のボランティア参加。 |
| 6 | スポーツ大会 | ・チームのひとりであることを意識し協力し合っていく。 | ・クラスリーダーのもとで活動していく。<br>・交流給食を行う。 |
| 7 | 林間学習 | ・友達との輪を広げる。 | ・交流給食を行う。 |
| 9 | 球技大会<br>(合同体育時) | ・競技、応援を通して交流を深める。全員が参加意識を持つ。 | ･昼食、昼休みを通した交流を持つ。 |
| 10 | 校外交流 | ・綿密な計画を立て、無理のない交流をとる。 | ・計画書の提出。 |
| 11 | 紫峰祭 | ・自分の分担に責任を持ち、周りに気をくばり作業を進める。<br>・社会性を培っていく。 | ・バディでの行動を行う。 |
| 12 | 合唱コンクール | ・学年クラスの和を深めながら合唱練習を行う。 | ・聴き手として他クラスの曲も鑑賞する。 |
| 1 | スキー教室 | ・校外学習を通してお互い友情関係を深めていく。<br>・生活身辺の自立を心がける。 | ・来年度の横割の生活班を意識して指導する。<br>・所持品の自己管理。 |
| 2 | 友愛会送別会練習 | ・混合教育についてより深く理解する。 | |
| 3 | 送別会<br>卒業式 | ・卒業していく先輩を心を込めて送り出す。 | |

## 【２学年】

活動目標　○正しい相互理解の上に立った交流をする。
　　○社会自立を意識した継続的な交流を目指す。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 新年度を迎えて | ・クラスの一員としての意識を持つ。<br>・昼食を共にし、交流を深める。 | |
| 5 | 連休中の校外交流<br>スポーツ大会練習<br>スポーツ大会 | ・信頼関係のできている者同士で、交流を深める。<br>・練習における交流によりお互いの特性を知る。お互いの活躍の場を見い出す。<br>・各競技を通し、協力し、励まし合う。競技以外でもバディを組む。 | ・計画書の提出。<br>・むらさき連合親子運動会。<br>・健常児のボランティア参加。 |
| 6 | 林間学習 | ・班員同士の交流を深める。<br>気配りをお互いにする。 | ・１人のバディの生徒に負担をかけない。また、自閉症児は依存しすぎない。 |
| 7 | 校外交流 | ・綿密な計画を立て、無理のない交流をする。 | ・計画書の提出。 |
| 9 | 球技大会<br>(合同体育時) | ・競技、応援を通して交流を深める。全員が参加意識を持つ。 | ・昼食、昼休みを通した交流を持つ。 |
| 10 | 進路選択 | ・自閉症児、健常児共に働くことの意味と友達の進路に対しての行動を知る。 | ・職場実習、進路について理解を深めると共に励まし合う。 |
| 11 | 紫峰祭 | ・準備段階から関わり合い、各催し物や営業を成功させる。<br>・お互いの接し方について確認する。 | |
| 12 | 合唱コンクール<br>校外交流 | ・クラスの和を深めながら合唱練習を行う。 | ・聴き手として他クラスの曲も楽しむ。<br>・計画書の提出。 |
| 1 | スキー教室 | ・生活班及びスキー班での交流を深め、助け合う。 | ・自閉症児の荷物整理等についてはできるだけ独力で行う。 |
| 2 | 送別会準備<br>卒業式出席に向けて | ・学年及び全学年の団結力を深める。 | |
| 3 | 送別会<br>卒業式 | ・卒業していく先輩を心を込めて送り出す。 | |



## 【３学年】

活動目標　○卒業後のことを考慮し、自閉症児、健常児共に相互理解しながら活動を深める。
　　○友愛の心を更に育て、コミュニケーションの取り方を深めていく。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 新年度を迎えて | ・クラスの一員としての役割、連帯感を持つ。<br>・自閉症児の問題行動の対処方法を確認すると共に、お互いの長所を認め合う。 | |
| 5 | ハワイ学習<br>スポーツ大会練習 | ・ハワイ学習の事前学習の一環として給食交流及び昼休みの班行動を行う。<br>・荷物の整理は、独力で行う。<br>・安全かつ楽しいハワイ学習になるようにお互いが気を遣う。 | ・むらさき連合親子運動会<br>健常児のボランティア参加。 |
| 6 | スポーツ大会<br>進路についてPart1 | ・各種目応援合戦を通し協力し助け合うことで交流を深める。<br>・職場実習、企業訪問を前に、友達同士励まし合う。 | ・スポーツ大会では優勝できるように、心をひとつにし一致団結する。 |
| 7 | 校外交流計画 | ・計画を立て、高校生年齢に合った交流をする。 | ・計画書の提出 |
| 9 | 球技大会<br>（合同体育時） | ・いろいろな球技のルールを覚える。<br>・競技、応援を通して友達を助け合い、励まし合う事を学ぶ。<br>・卒業後もゲームができるようにする。 | ・夏休み中の校外交流の様子を発表する。<br>・OS・ボランティア参加・昼食、昼休みを通した交流を持つ。 |
| 10 | 進路についてPart2 | ・前期の職場実習、学校、会社訪問の大切さを理解し、お互いに励まし合う。 | |
| 11 | 紫峰祭 | ・給食交流、昼休み交流を行う。<br>・各分担で協力し合い、催し物、営業を成功させる。 | ・貴重品、食券等の自己管理。 |
| 12 | 校外交流<br>合唱コンクール<br>練習 | ・普段できないことを経験し、交流を深める。<br>・協力して練習を行う。 | ・計画書の提出。 |
| 1 | スキー教室 | ・生活班、スキー班において協力し合い、交流を深める。<br>・荷物の整理整頓は独力で行う。 | ・スキー教室が学園生活最後の校外学習であることを意識する。 |
| 2 | 卒業文集作成 | ・文集作成過程の中で個性を生かし、全員が協力し作成に当たる。 | |
| 3 | 卒業式 | ・武蔵野東学園の教育のまとめとして立派に式に参加する。 | ・卒業後も友愛の和を更に深めるようにする。 |

## 2. HR カリキュラム

**【1学年】** 活動目標　○武蔵野東学園の一員であるという意識を持たせ、常に前向きな姿勢を身につける。
○自分の進路を考えさせ、自己教育力をはかる。
○社会性の基本となる「敬語」や「気配り」について身につけさせる。
○社会の習慣や道徳心を身につけさせると共に男女交際や性に対するモラルを考察させる。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 1年生研修に向けて<br>本学園の行事、<br>生徒手帳、校則<br>プランノートの使い方 | 研修への参加意欲を持たせる。<br>本学園に対する理解を深めさせる。<br>行事の大切さをつかませる。 | 皆勤に対する意欲と<br>自閉症児との協調性を持たせる。 |
| 5 | 自主学習<br>校則の確認<br>スポーツ大会メンバー決め<br>「性」道徳教育 I<br>進路学習ガイダンス①<br>スピーチコンテスト① | 就職模擬試験の反省点を踏まえさせる。<br>SHR 時などにも練習する。<br>校内における男女交際の禁止について。<br>進路学習の目的と必要性を理解させる。 | プランノートの学習量を把握する。<br>「友愛」の意識を強く持たせる。<br>検定資格取得について |
| 6 | スポーツ大会について<br>「性」道徳教育 II<br>進路学習ガイダンス②<br>スピーチコンテスト② | スポーツ大会に向けて学年一致団結をはかる。<br>両親の子に対する期待<br>進路学習におけるこれからの自分の課題を見つけさせる。 | 自己を大切にし両親の期待にそう努力、命の貴さを理解させる。<br>作文「自分の課題」 |
| 7 | 夏休みの過ごし方について<br>「性」道徳教育 III<br>自分を知る<br>スピーチコンテスト③ | 生活のリズムの崩れや、目標を見失いがちになる夏休みを意識した言葉がけを行う。<br>自己を大切にする。<br>自分自身を客観的にとらえられるようにさせ、自己理解に努めさせる。 | 夏休み前までを振り返っての作文<br>休み明けの目標をたてさせる。<br>異性との交際の際の「責任」を明確に伝える。 |
| 9 | 球技大会（合同体育時）<br>学年展示準備 | 球技大会により、クラスの団結力を高める。<br>分担を責任持って行う。 | メンバー決め生徒主体 |
| 10 | 後期の目標の立案<br>「性」道徳教育 IV<br>職業、上級学校を知る<br>スピーチコンテスト④ | 明確な目標から今後の努力を導く。<br>小学校段階の性教育ビデオ（小体育科「からだの変化」）<br>卒業後の進路について具体例を挙げながら実感を持たせていく。 | 前期の反省点を踏まえさせる。<br>性に対する認識を一定レベルまでひきあげる。<br>進路決定にむけての知識を与える。 |
| 11 | 紫峰祭に向けて<br>ＨＲテスト強化<br>「性」道徳教育 V<br>職業と適性について I ①<br>スピーチコンテスト⑤ | 紫峰祭での自分の仕事内容を把握させる。<br>自主学習の定着度を確認する。<br>妊娠による損失<br>自分の職業興味を発見させる。 | 時間や仕事に対する責任について考えさせる。<br>妊娠により失うもの<br>履歴書作成練習<br>就職、進学に関わらず必要性があることを理解させる。 |
| 12 | 合唱コンクールに向けて<br>職業と適性について I ②<br>スピーチコンテスト⑥ | 学年、クラスの団結力を育む。<br>生徒同士の連携を高める。<br>自分の適性について考えさせる。 | 課題曲、自由曲の練習の時間、場所の確保に留意させる。<br>基礎学習の重要性を理解させる。 |
| 1 | スキー教室に向けて<br>「性」道徳教育 VI<br>ライフスタイルを考える①<br>スピーチコンテスト⑦ | スキー教室のポイントをつかませる。<br>父、母となるために必要なことを明確に伝える。<br>全体指導から個々の指導へ<br>どういう人生を送りたいのかを考えさせ、進路設計の手がかりをつかませる。 | 校外学習のまとめとしての意識を持たせる。<br>作文「私の将来」 |
| 2 | 後期試験について<br>「性」道徳教育 VII<br>ライフスタイルを考える② | 後期試験の学習計画を立案<br>「エイズ」ビデオの活用<br>将来どのような職業に就きたいかを考えさせる。 | テストの重要性<br>感想作文作成<br>上級校の選択においてもこれをもとに考えさせられるとよい。 |
| 3 | 1年間を振り返って<br>「性」道徳教育 VIII<br>来年度の目標<br>キャリアプランを立てる I | プランノートのまとめ<br>まとめの作文を書かせる。<br>最終目標を踏まえて翌年度のことを考えさせる。<br>希望を実現するための卒業後の進路につい考えさせる。 | 各自の成長度合をはかる。今年度の感想文を書かせる。<br>3 者面談において進路希望を確認しておく。 |



**【2学年】** 活動目標　○進路活動（各自の方向性を明らかにする）
○敬語指導（実践指導）
○性教育（正しいモラルを身につける）
○校則、免許等についての再確認

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 中間学年としての自覚<br>敬語指導<br>クラブ活動のあり方について<br>※進路ガイダンス実施<br>職業と適性について II ① | 様々な役割を前向きに行わせる。<br>テキストを用いて 1 年次の復習を行う。自主性を育てる。<br>自分の能力、適性と希望する職業に求められる能力、適性について調べさせる。 | 新年度にあたって<br>敬語テキスト･連休課題<br>先輩･後輩とのつきあい方 |
| 5 | 進路の方向性について<br>スポーツ大会について<br>※進路ガイダンス実施<br>職業と適性について II ②<br>スピーチコンテスト① | 進学･就職を明らかにする。<br>スポーツ大会練習を生徒主体により計画し進めていく。団結することの必要性を説く。<br>自分に適した職業は何かについて分析してみる。 | 検定に対する意識を高める。<br>第 1 回就職模擬試験<br>スポーツ大会<br>競技･応援練習<br>生徒主体の練習を促す。 |
| 6 | 林間学習について<br>※進路ガイダンス実施<br>個性について考える<br>履歴書指導<br>スピーチコンテスト② | 校外学習の意義をわからせる。<br>自分の個性について理解を深め､個性を生かす進路選択を考えさせる。<br>将来の夢について再確認させる。 | 第 2 回就職模擬試験 |
| 7 | 夏休み中の生活について<br>※進路ガイダンス実施<br>個性について考える<br>履歴書指導<br>スピーチコンテスト③ | 年齢相応の交遊について<br>産業構造の変化を見て今日の産業の様子を探る。<br>企業の変化、労働の面で起きている変化の様子について知る。 | 男女交際･ 自主学習<br>進路説明会資料作成 |
| 9 | 球技大会（合同体育内）<br>前期試験について<br>進路について<br>※進路ガイダンス実施 | 球技大会により､クラスの団結力を高める。<br>試験の重みをわからせる。<br>一般常識の重要性について説く。<br>現実的なものとして意識づける。 | メンバー決め生徒主体<br>進路説明会資料活用<br>早めに取りかかる。<br>プランノートの活用 |
| 10 | 前期のまとめ<br>後期について<br>紫峰祭について<br>※進路別ガイダンス実施<br>職業を調べる①<br>進学先を調べる①<br>スピーチコンテスト④ | 前期を振り返り作文にまとめさせる。<br>積極的な営業活動を促す。<br>進学・就職・就労の 3 グループに分かれ、知識教授を行う。<br>自分の希望する職業、進学先について、情報を収集させる。 | 取得検定の確認<br>厚生労働省一般職業適性検査 |
| 11 | 紫峰祭について<br>進路について<br>※進路別ガイダンス実施<br>職業を調べる②<br>進学先を調べる②<br>スピーチコンテスト⑤ | グループの核となるよう促す。<br>自分の成績を考慮し方向性を決める。<br>資格と職業について調べさせる。<br>何のために進学するのかを確認させる。 | 営業練習他<br>進路調査の実施<br>第 3 回就職模擬試験<br>職場実習希望調査 |
| 12 | 進路について<br>合唱コンクールに向けて<br>冬休み中の生活について<br>※進路別ガイダンス実施<br>進路の方向性について<br>スピーチコンテスト⑥ | 学校･職場訪問報告書の説明。<br>学年、クラスの団結力を育む。<br>生活面の注意<br>自分の進路の方向性について、具体的に考えさせる。 | 課題曲・自由曲の練習時間、<br>場所の確保に留意する。 |
| 1 | スキー教室について<br>後期試験について<br>※進路別ガイダンス実施<br>職業について考える<br>スピーチコンテスト⑦ | 生活力の向上<br>仕上げを行う。<br>試験の重みをわからせる。<br>自分の価値観について知る。<br>職業観について考える。 | 完成度の高い生活班作り<br>進路決定につなげる。<br>健常児就職希望者<br>職場実習準備・実施 |
| 2 | 3 年生を送るにあたって<br>※進路別ガイダンス実施 | 多くの生徒に参加を促し、発表の機会を増やす。 | |
| 3 | 3 年生を送るにあたって<br>最上級生の心構えについて<br>※進路別ガイダンス実施<br>キャリアプランを立てる II | 送別会の企画･運営自覚を促す。<br>希望の進路の実現に向けて、3 年次でのスケジュールを立てさせる。 | 学年のまとめを行う。<br>作文指導<br>職場実習者個人面談<br>作文「進路決定に向けて」 |

**【3 学年】** 活動目標　○最高学年であることを自覚させ、模範たる言動を促す。
○各自の進路を明確なものにし、その進路に向け、準備・努力をさせ決定していく。
○性（エイズも含む）に対する正しい知識を持たせると共に、性のモラルについて学ばせる。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 最高学年としての自覚<br>ハワイ学習について<br>進路希望明確化<br>☆面接練習 | 本校の最高学年であると共に、本学園の最高学年であることを自覚させていく。<br>ハワイの事前学習及び日程把握<br>生徒との懇談を通し進路を決定させていく。<br>個人と集団、それぞれの面接練習を完成させていく。 | プランノート（新年度にあたって）<br>生徒手帳朗読、見直し・敬語<br>ハワイ学習の意義<br>SHR テスト<br>HR での進路別ガイダンス準備 |
| 5 | ハワイ学習（事前）<br>ハワイ学習（事後）<br>進路方針明確化<br>スポーツ大会に向けて<br>敬語<br>スピーチコンテスト予選①<br>☆進路希望ガイダンス実施 | ハワイ学習の最終的な確認を行う。<br>ハワイ学習で何を学んだかについてまとめさせる。<br>体験入学やインターンシップに基づいて進路を考える。<br>競技・応援練習<br>知識だけでなく活用をさせる。<br>進学、就職、就労の進路別それぞれの教室でガイダンスを行い、基礎知識を教授する。 | 日程・持ち物・書類・渡航手続き等について<br>プランノートの活用<br>SHR テスト・就職模擬試験<br>生徒の自主性・積極性を促す。<br>面接試験への導入<br>希望によってそれぞれの教室に行けるようにする。 |
| 6 | 進路ガイダンス<br>スポーツ大会について<br>進路決定・準備開始<br>スピーチコンテスト予選②<br>「性」（モラル）<br>☆進路希望ガイダンス実施 | 各自のこれからの準備・流れについて把握させる。<br>練習・打ち合わせ及び事後指導<br>就職…履歴書練習・面接練習<br>進学…志望校・体験入学等<br>性に対する正しい考え方の確認<br>進路の固定化とガイダンスの工夫を行う。 | 進路ガイダンス熟読<br>プランノートの活用<br>ビデオ等の活用<br>作文練習・就職試験<br>就労者は実習の反省点克服に重点を置く。 |
| 7 | 進路ガイダンス熟読<br>プランノートの活用<br>ビデオ等の活用<br>作文練習・一般常識<br>就労者は実習の反省点<br>克服に重点を置く。 | 就職…履歴書・身上書完成、校内（面接、試験、適性検査）<br>進学…体験入学・志望校決定（面接、常識）<br>７月までの反省と夏期休暇の過ごし方について生徒主体で準備、発表させる。<br>希望者の事前ガイダンスとしては最終まとめとする。 | 共に繰り返しのトレーニングが必要<br>進路に関わる大切なときであること（会社説明会等）・プランノート活用<br>※盆踊りについて<br>夏休み明けには進路決定ガイダンスを行う。 |
| 9 | 就職に向けて<br>進学に向けて<br>紫峰祭の準備<br>☆進路決定ガイダンス実施 | 進路に向けて大切な時期であることを自覚させる。<br>面接・常識・適性・作文等 最終確認<br>書類確認<br>面接・常識・作文練習・推薦・書類準備、完成<br>展示の準備、まとめを行っていく。<br>進路決定者から、卒業後に必要になることについてのガイダンスを行う。 | プランノート活用<br>進路ガイダンス活用<br>９月下旬完成<br>未決定者は先月に引き続き面接練習等を行う。 |
| 10 | 内定者としての心構え<br>進学に向けて<br>紫峰祭の準備<br>自動車運転免許証について<br>スピーチコンテスト予選③<br>☆進路決定ガイダンス実施 | 内定という意味について話をし、心構えを作る。<br>願書準備・完成 面接試験・作文練習<br>役割を確認し準備を進める。進路決定者のみ許可。また、学校生活に支障をきたさない等約束を確認<br>進学、就職、就労の進路別それぞれの教室でガイダンスを行い、卒業後の知識常識を教授する。 | 内定御礼状　手紙の書き方の指導<br><br>希望調査を取る。（10 月上旬）<br>学校の受講システムの説明や、職場での常識等を各クラスで教える。 |
| 11 | 紫峰祭<br>進学試験に向けて<br>敬語<br>性（結婚と性）<br>スピーチコンテスト予選④<br>☆進路決定ガイダンス最終 | 積極的・自主的に参加するよう働きかける。<br>面接・作文試験の最終確認 出願書類準備<br>言葉の見直し（乱れがないかどうか）<br>異性に対する責任を明確にする。<br>進路決定者別の最終ガイダンスを行う。 | 就職組は文集作成開始<br>就職模擬試験 |
| 12 | 進路決定者としての心構え<br>卒業文集制作<br>冬休みの過ごし方<br>スピーチコンテスト予選⑤<br>合唱コンクールに向けて<br>☆進路 HR の充実 | 余裕を出さないように気持ちを引き締めていく。<br>文集制作の計画を立て、進めていく。<br>冬休みの過ごし方について考えさせる。<br>生徒主体で準備運営させる。<br>健常児と自閉症児で場所を分けて HR を行う。<br>離職や中途退学の例をあげ、その防止策を考える。 | 作文等の整理、ピックアップ<br>合唱練習時間の確保（練習は生徒主体）<br>失敗例から打開策を話し合う。 |
| 1 | スキー教室について<br>卒業までの心構え（卒業に向けて）<br>☆進路 HR の実施<br>スピーチコンテスト⑥ | 生活力を確認する。<br>社会人としての意識を高めさせる。<br>離職や中途退学の例をあげての防止策を考える。 | 保健分野の適応機制が単元としてかぶるので活用する。 |
| 2 | 後期試験に向けて<br>卒業文集制作<br>スピーチコンテスト決勝<br>☆進路 HR の実施 | 試験に対する気持ちを作る。<br>計画に沿って各自の分担ですすめさせていく。<br>生徒主体で運営させる。<br>自己紹介や初対面での話し方等の講習を行う。 | 厳しさの指導<br>２月下旬には完成<br>アイスブレイキング等頻繁に行い、交流練習をする。 |
| 3 | 卒業式に向けて<br>文集制作<br>３年間のまとめ<br>卒業にあたって | 卒業式練習<br>完成を目指す。<br>３年間を振り返り、学んだこと・思い出等を話し合う。<br>社会人となることを考えさせる。 | プランノート活用<br>責任等幅広く考えさせる。 |



## 2. 進路指導カリキュラム

### 1. 健常児の進路指導

近年求人数・求人倍率が良好となり、活動しやすくなってきていると感じています。しかしながら、職種を見てみると「建設・建築」「介護」「飲食・サービス」等が圧倒的に多く、高校生が求めている職種とは、かけ離れた実態となっており、ミスマッチが生じていることも事実です。企業側としてもそのミスマッチから生じる離職を防ぐために、採用試験においてこれまでとは違った対応を始めてきています。ここ２年間の就職希望者の活動を振り返ると、採用試験が段階選考になってきたことが特記として挙げられます。一般常識・作文・適性検査といった筆記試験を行い、面接については、段階的に行われています。そうすることにより、企業側も時間をかけて人物評価をするようになってきています。また、東京都は全国で最も恵まれた求人状況にはあるものの、地方から上京して就職を考えている高校生が多数おり、都内在住の高校生は、地方からの高校生と同じ土俵で競争していかなければならない状況にあります。いくら求人に恵まれているからと言っても、このような背景の中で都内在住の高校生は苦戦を強いられているのが現状なのです。就職活動は、景気の波に左右されるものですので、いずれ求人獲得に苦労する時代がやってくるかもしれません。このような状況をふまえ、就職に関する情報の収集を強化していくことは当然のことであり、どのような時代であっても、本校の生徒が必要とされる人材として評価をしていただけるような日々の教育を推進していかなければならないと痛感しているところです。

※企業側が求める５つの資質

「一般常識」、「挨拶」、「言葉遣い」、「正しい身なり」、「時間的な概念」

本校では、卒業までに進路を確実なものとすることを１つの目標としています。あわせて卒業後の進路の方向性として「フリーター」は一切認めていません。その信念に基づいて、これまで苦しい状況はありながらも、進路決定を果たしてきました。しかし、残念ながら本校卒業後の離職（就職して間もなく～３年以内）や、進学した上級学校を卒業後にフリーターとなってしまう卒業生がいることも事実です。

そこで、この問題解決のために本校が重点として取り上げたのが、『職業観の育成』です。具体的には進路指導のカリキュラムの中で、

・就職希望の健常児に対するインターンシップ（職場実習）２年次の実施
・就職模擬試験、適性検査、模擬面接等の実施
・ホームルームにおける進路指導の時間の確保
・進学希望者上級学校訪問等の実施
・外部就職ガイダンス等への参加
・３年生や卒業生による就職、進路活動体験談の発表
（進路講話、年間活動報告会、１年生研修時等）

等、新たな試みとして導入することにしました。

また、紫峰祭（本校の文化祭）における模擬店、レストラン、その他陶芸作品販売等の実施も『職業観の育成』につながるものとして挙げられます。尚、平成 18 年３月に開店した「北原記念館」の１階部分にあるチャレンジショップでは、インターンシップ、つまり就業体験の場を確保し、ショップを通して企画、運営、具体的には商品計画、仕入れ、会計、接客、販売等を体験させることにより、流通の仕組みや経済の仕組みを学ばせ、更なる『職業観の育成』を図ることができます。

そして、学校の進路指導はもちろんのこと家庭における『職業観の育成』の場を設定することを保護者に投げかけてきました。学校と家庭とで連携を図ることによってさらに強固な『職業観の育成』へつながるものと確信しています。

以上のことから、『職業観の育成』は、本校の教育において最重点課題であり、今後も継続、発展させていかなければなりません。



**a. 健常児の進路指導**

**・進路指導の変化**

健常児の進路指導については、現在、進路指導部と学年・クラスとの連携により進められています。平成７年度までは３学年の担任の中から１名が進路指導主任として、企業と学校側との窓口となって進路指導を展開していました。個々の生徒を十分把握しての指導という点に関してはメリットがありましたが、バブル経済崩壊後の求人数激減の時代を乗り切るには厳しいと判断し、平成８年度から学校側の窓口の固定化を図ることにより、継続的でスピーディな対応ができるように進路指導主任を専任としておくことになりました。以降、進路指導部と学年・クラスとの連携を密に図ることで、厳しい時代を乗り越えてきました。進路指導部は、企業や上級学校との連絡・調整を図り、学年、クラスの担任・副担任により生徒指導（家庭との連携）がなされ、互いの役割を全うし、情報交換・連携を密に図る中で展開されています。

そもそも職業教育を柱に教育が展開されている高等専修学校ではありますが、時代の流れ、その時々の経済状況によって健常児の進路希望も大きく変化する様子が窺われます。ここ５年間の統計をみると、健常児の進路先は、少ない年度で 42％、多いときは 81％が進学という状況です。就職指導はもちろんのこと、進学指導においても、生徒の多様なニーズに応えるべく年々変化する卒業後の進路に対応できる進路指導の構築を目指しています。

また、進路指導の充実を図るために、様々な工夫も凝らしてきました。本校独自の就職模擬試験（旧４科大会、一般常識対策試験（全学年対象））に加え、「自分を知る」ための情報収集として、職業レディネステスト（職業興味、２年次実施）、厚生労働省編一般職業適性検査（職業能力・２年次実施）、SPI 検査（３年次実施）等を導入しています。更に、働くということを実際に体験した上で就職活動をするために就職希望者に対してはインターンシップを、上級学校ではどのようなことを学ぶところなのかを知った上での進学活動をするために、進学希望者に対しては上級学校訪問（ともに２年次）を実施するようになりました。これらにより、自分の個性・適性を把握し、進路に関する情報を具体的に収集し整理する中で、自分の卒業後の進路について真剣に考えるようになり、更には自分が進みたい道筋を立て、計画的な活動を進めていく力を生徒たち自らが身につけられるようになってきました。

**・就職指導**

バブル経済崩壊後、就職指導を展開する上で最も苦労したのは求人の獲得でした。本校は、無料職業紹介所の届け出をして独自に求人開拓をしてきましたが、この経済状況下では限界に達していました。そこで、ハローワーク三鷹をはじめ都内ハローワーク、埼玉・山梨県内のハローワークにまで足を運び、求人情報収集に努めたこともありました。

そもそも本校は学校教育法124条に掲げられている高等専修学校(専修学校高等課程)であり、学校教育法第１条に掲げられている高等学校とは異なるためにハローワークで得られる高等学校卒業予定者の求人情報がタイムリーに得られないという取り扱いの格差がありました。同じ 18 歳でありながら、高等専修学校の生徒は 18 歳で卒業する高等学校卒業予定者の求人情報が得られず不利な状況下で就職活動を進めなければなりませんでした。しかも、本校宛に届く求人票は、ほとんどが 20 歳以上で卒業する専門学校等卒業予定者対象のものばかりでした。いくら職業教育の充実を図ったとしても、やはり人生経験を積み重ねた学生と同じ土俵の上での採用選考は不利な状況には変わりありません。過去、服飾販売を目指してチャレンジした女子生徒がいました。彼女は１次試験、２次試験をクリアし、最終試験の社長面接まで進みました。しかし、最終試験に残っている他の学生と比較して、即戦力であるかどうかを考えると彼女が不利になってしまうということを人事担当の方よりお話しいただき、最終試験を受けることを断念したことがありました。法的な位置づけが異なることにより、同じ 18 歳の生徒にこのような格差があっていいのだろうかと、様々な方面からこの格差是正に努めるべく運動をしてきました。

その結果、平成 16 年３月 30 日付で、ハローワークにおける高等専修学校卒業予定者に係る職業紹介業務の取り扱い等については、高等学校卒業予定者と同様になされることとなりました。永年の懸案であった事項であるが故に、この大きな変化は本校の就職指導にとっても大きな前進となりました。以降、求人情報は高等学校卒業予定者と同様７月１日の求人公開とともに情報を収集することができるようになりました。

また、ハローワークで行われる職業安定担当者会議に進路担当者が参加できるようになり、合同企業説明会や合同企業面接会をはじめとしたイベントに生徒たちが高校生と同様に参加できるようになりました。更には、本校で行う進路説明会等においても講師として東京労働局、ハローワークの担当者に講演していただく（無料）機会も得ることができました。また、高校２年生、３年生を対象とした就職ガイダンス等への参加もできるようになり、学校内だけの学習にとどまらず、外部研修も加えて更に深い就職指導が展開できるようになりました。



本校では、開校当初よりフリーターを進路として認めないことを基本方針としてきました。就職状況が厳しい中においても、何とか就職内定を頂いて卒業式を迎えることができています。しかしながら、職場定着には未だ課題を残している現状があります。世間では「七五三現象」と呼ばれる言葉があります。それは、新規卒業者が３年間の内に離職してしまっている状況を意味するもので、中学卒業者が７割、高校卒業者が５割、大学卒業者の３割が離職していることを指して言うのだそうです。高校卒業者５割の数字までにはいたりませんが、本校においても毎年少なからず離職してしまう卒業生がいることも事実です。

数年前より、進路指導部としてはインターンシップの企画充実を図ったり、入社後の職場訪問や職場との連絡を密にしたり、学年・クラスにおいては就職内定後の学校生活の在り方や内定後から入社までにおけるガイダンスをホームルーム等で繰り返し行い、職場定着に結びつくよう取り組みを進めています。同じ反省を繰り返さないためにも「石の上にも３年」ということわざがあるように、社会に出て行く上での精神的スキルを身につけるように指導しています。

**・進学指導**

希望職種への就職のため、また技術・資格を取りたい等の理由から、本校の生徒も進学を希望する生徒がある時期から増えてきました。また進学の多様化に伴い進学先志向にも大きな変化が生まれ、大学・短期大学への希望者が年々増えてきていました。

その背景には、就職難に加えて、2 年制以上で専門士の学位を取得できる専門学校から大学への編入学が可能（平成 11 年度から）になり、4 年制の高度専門士の学位を取得できる専門学校は大学院への入学資格が付与された（平成 18 年度から）こと、更には平成 19 年に“大学全入時代”を迎えたこと、短期大学が 4 年制大学へ移行、募集停止になる等、また専門学校が主に行っていた職業教育を大学側が新たな学部・学科として導入するようになったこと等の要因があげられます。また、2008 年のリーマン・ショックに端を発する就職難から大学・短期大学を卒業しても進路が決まらず、資格取得のために専門学校へ進学する学生も増えてきたこともあり、卒業後の進路も大きく様相が変わってきました。

また、入試制度にも大きな変化がありました。新たな入試制度として AO（アドミッションオフィス）入試（専門スタッフと、大学の教員が協力し、通常の入学試験と違う視点から入学者を選抜する入試で、書類審査と面接にウエイトがかけられます。出願条件に学校推薦は必要なく自分をアピールできるもの、文化・スポーツ活動、生徒会活動、ボランティア活動、語学力、取得資格が必要とされます。）の出現、自己推薦やその他の推薦制度の多種多様化により、入試においての様々な選択肢が増えたことも一要因と考えられます。本校の生徒にとっては、AO 入試や自己推薦等の多様化は、3 年間で取得した多くの検定資格や学校生活で培った特別活動等を評価の対象としてアピールできる入試制度であり、大学・短期大学進学に向けての最良の方法となりました。

しかし、健常児の進学については、ここ数年で新たな傾向を見出すことができます。2011 年の東日本大震災により建設・建築の需要が大きく伸びたこと、今後も一層拍車がかかるであろう少子高齢化の流れの中での人材不足、なかなか脱却できないでいる日本経済のデフレ状況等の要因が考えられますが、本校の進学希望者の割合に減少が窺われます。10 年前の時点で過去 5 年間の本校の平均進学率が 65％であったのに対し、昨年度までの 5 年間で見てみると 45％となっています。前々項「進路指導の変化」でも述べましたが、その時々の時代の流れや社会・各家庭の経済状況により大きく変化することがこれからも予想されます。今後もそういった諸条件を視野に入れながら進路指導を展開する必要性を感じています。

また、本校における進学の特色のひとつとして、3 年間混合教育という環境の中で自閉症児と共に生活することにより福祉・教育の道を志す生徒が毎年数名出てきていま



幼稚園や高等専修学校の教諭（本学園幼稚園において 1 名、本校において 3 名の卒業生が教員として活躍しています。）・保育士・介護福祉士等を目標に歩んでくれることは、私たち教員にとっては嬉しい限りです（本学園が運営するグループホームにおいても本校卒業生 1 名が支援員として勤務）。専門学校進学者は、基本的に本校で 3 年間学んだ専門学科を更に深める方向に進んでいます。10 月 1 日の推薦入学出願に合わせて、計画的に進めるようにしています。推薦入試に出願するようにしています。大学・短期大学への進学は、以前は一般入試のハードルを越えないとなかなか進むことができなかったこともありましたが、高等専修学校に対して公募制推薦の出願を認める大学・短期大学が増えています。

また、公募制推薦が不可能であっても、自己推薦やAO入試での大学・短期大学に挑戦できることが可能になり、受験の機会が拡大されました。生徒たちにとって、3 年間で取得した検定資格や特別活動等を武器にチャレンジする場が生まれたのです。実際、ここ数年における本校の大学・短期大学進学者の半数以上は、AO 入試・自己推薦で道を切り開いてきました。また、現在はいくつかの大学・短期大学から本校に対し、指定校推薦枠をいただけるようにもなりました。また、部活動の活性化と体育科の設置に伴って、スポーツ(主に本校ではラグビー)推薦での道筋も可能となってきています。

進学先決定後は、就職指導と同様に重要なポイントとして指導にあたっています。上級学校を卒業したものの就職が決まらず、フリーターになっている卒業生がいることもあり、何のために進学するのかを再考させ、確固たる目的意識を形成させて送り出すことに努めています。

## b．進路指導カリキュラム（健常児）

### 【1 学年】

活動目標　○自分自身を客観的に捉える力を養うと共に、将来の目標を実現させるための進路計画を考えさせる。
○職業・上級学校についての理解を深めさせる。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 学校生活への期待 | ・学園、学校の特徴さらには友達の個性について理解させる。<br>・学校生活をスタートする上での留意事項について確認させる。 | ・１年生研修において実施する。<br>・各自のプロフィールを作成し、分析させる。 |
| 5 | 進路学習ガイダンス① | ・進路学習の目的と必要性を理解させる。<br>・進路学習の具体的な内容や方法について学習させる。 | ・就職模擬試験の意義について<br>・検定資格取得について |
| 6 | 進路学習ガイダンス② | ・進路学習におけるこれからの自分の課題を見つけさせる。 | |
| 7 | 自分を知る① | ・自分自身を客観的にとらえられるようにさせ、自己理解に努めさせる。 | ・友人の長所探しを活用する。 |
| 9 | 職業を知る<br>上級学校を知る | ・世の中の職業には、様々なものがあることに気づかせる。<br>・上級学校の種類と、その教育の特色について理解を促す。 | ・その職業に必要な資格や技能も含めて調べさせる。<br>・卒業後の進路の方向性について理解させる。 |
| 10 | 職業と適性についてⅠ① | ・自分の職業興味を発見させる。 | |
| 11 | 社会を知る①<br>職業と適性についてⅠ② | ・日本の経済の現状及び雇用状況について知らせる。<br>・自分の適性について考えさせる。 | |
| 12 | 社会を知る②<br>ライフスタイルを<br>考える① | ・ニート、フリーターについての正しい認識を持たせる。<br>・どういう人生を送りたいのかを考えさせ、進路設計の手がかりをつかませる。 | ・卒業後の進路としてフリーターは認めない理由について結びつける。 |
| 1 | 社会を知る③<br>ライフスタイルを<br>考える② | ・高校卒業者の就職状況及び上級学校卒業者の就職状況について知らせる。<br>・将来どのような職業に就きたいかを考えさせる。 | |
| 2 | 自分を知る②<br>キャリアプランを<br>立てるⅠ① | ・入学当初までの自分と今の自分について比較し、その変化、成長に気づかせる。<br>・各自の希望を実現するための卒業後の進路について考えさせる。 | ・３者面談において進路希望を確認しておく。 |
| 3 | 将来に向けての目標設定<br>キャリアプランを<br>立てるⅠ② | ・各自の１年間の自己評価をもとに将来のあり方について考えさせる。 | ・卒業後の方向性を踏まえ、来年度の目標を立てさせる。 |



### 【2学年】

活動目標　○自分の個性を生かす進路の方向性を具体的に考えさせていく。
○希望する進路実現に向けて堅実な計画性を持って実践させていく。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 個性について考える | ・自分の個性について理解を深め、個性を生かす進路選択を考えさせる。(自分の「強み」「弱み」を知る)<br>・将来の夢について再確認させる。 | ・１年修了時に立てた目標について確認させる。（今年度の目標） |
| 5 | 職業と適性についてⅡ① | ・自分の能力、適性と希望する職業に求められる能力、適性について調べさせる。 | ・チャレンジショップにおけるインターンシップ事前学習<br>・職業レディネステスト |
| 6 | 職業と適性についてⅡ② | ・自分が興味関心を持っている職業、自分に適した職業は何かについて分析させる。 | ・インターンシップ（チャレンジショップにて）<br>・３者面談 |
| 7 | 進路の方向性についてⅠ | ・自分の適性と興味関心を持っている職業に整合性があるかどうかを確認させる。<br>・職業（職種）を調べさせる。 | ・職業レディネステストの結果を参考にさせる。<br>・進路説明会資料作成<br>・インターンシップ（チャレンジショップにて） |
| 9 | 職業を調べる①<br>進学先を調べる① | ・自分の希望する職業、進学先について、情報を収集させる。 | ・進路説明会<br>・インターンシップ（チャレンジショップにて）<br>・厚生労働省編<br>一般職業適性検査 |
| 10 | 職業を調べる②<br>進学先を調べる② | ・資格と職業について調べさせる。<br>・何のために進学するのかを確認させる。<br>（自分の将来の職業イメージを描かせる） | ・インターンシップ（チャレンジショップにて） |
| 11 | 進路の方向性についてⅡ | ・自分の進路の方向性について、具体的に考えさせる。 | ・第１回進路希望調査の実施、その結果をもとに家族での話し合いを促す。<br>・インターンシップ先企業開拓<br>・インターンシップ（チャレンジショップにて） |
| 12 | インターンシップ①<br>上級学校訪問① | ・インターンシップに向けての準備を始めさせる。<br>・上級学校訪問に向けての準備を始めさせる。<br>・企業面接準備、学校調べを始めさせる。<br>（自分の将来の職業イメージを描いたうえで） | ・上級学校訪問アンケート<br>・インターンシップ（チャレンジショップにて）<br>・３者面談<br>（必要のある生徒：進路の方向性について確認） |
| 1 | インターンシップ②<br>上級学校訪問② | ・インターンシップ事前面接において留意事項を確認させ、実施につなげさせていく。<br>・上級学校訪問における留意事項について確認させ、訪問先の学校の情報収集を積極的に行わせる。 | ・事前調査学習の充実<br>・インターンシップ（チャレンジショップにて）<br>・実習日誌、上級学校訪問報告書の活用 |
| 2 | インターンシップ③<br>上級学校訪問③ | ・実施及び実施後のまとめの学習を行わせる。<br>・ハローワークの存在を知らせる。 | ・実施後の報告書、自己評価、礼状の作成。<br>・インターンシップ（チャレンジショップにて）<br>・３者面談（進路の方向背について具体的に） |
| 3 | キャリアプランを立てるⅡ | ・希望の進路の実現に向けて、３年次でのスケジュールを立てさせる。 | ・インターンシップ（チャレンジショップにて）<br>・高校２年生を対象とした就職ガイダンスへの参加 |

**【３学年】**

活動目標　○卒業後の進路決定に向けて積極的な計画・実践をさせる。
　　○将来に目を向け、自分のライフプランを考えさせる。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 進路選択のステップ<br>進路説明会<br>進路希望明確化 | ・高校生活２年間を振り返ると共に進路に向けての課題を設定させる。<br>・生徒との面談を通して進路の希望を明確なものとしていく。 | ・ハローワーク挨拶<br>全国高等学校便覧、高等学校事業報告書の提出<br>・進路説明会準備<br>・職業安定担当者会議<br>・進路別ガイダンスの準備 |
| 5 | 進路方針明確化<br>進路希望別ガイダンス | ・面談をもとに就職先、進学先を決定し、進路決定までの計画を立てさせる。<br>・面接・履歴書作成練習。 | ・卒業生の状況調査<br>・企業へのコンタクト |
| 6 | 就職希望者最終調査<br>就職・進学への準備開始<br>進路希望ガイダンス | ・就職情報を整理し、試験に向けての学習を進めさせる。<br>・志望校の情報を収集し、試験学習を進めさせる。<br>・模擬面接を通し、本番に向けて自信を養わせる。 | ・SPI 検査<br>・求人票送付願い<br>・AO 入試準備開始<br>・校内模擬面接実施<br>・３者面談（進路方向性最終確認）<br>・進路指導担当者会議 |
| 7・8 | 進路希望別ガイダンス<br>面接試験に向けて重点指導<br>会社説明会・一日体験入学 | ・面接の心構え、基本マナーについて学習させる。<br>・会社説明会、１日体験入学の報告書を提出させる。 | ・求人票確認<br>・就職希望最終確認<br>・暑中見舞い送付<br>・会社説明会／体験入学<br>日程表の作成<br>・夏期休暇中の日直業務<br>・高校生就職<br>ガイダンスへの参加<br>・高校生のための合同企業説明会 |
| 9 | 就職採用試験に向けて<br>進学に向けて<br>進路決定ガイダンス | ・応募書類の最終確認及び就職試験（9/16～）に万全の態勢で臨ませる。<br>・出願に向けての準備、試験に向けての学習を進めさせる。 | ・調査書清書完了<br>・進学希望最終調査<br>・応募書類郵送（9/5～）<br>・校内推薦決定会議<br>・専門学校回り<br>・出願書類完成<br>・AO入試準備・確認 |
| 10 | 推薦入試出願（10/1）<br>推薦入学試験<br>進路決定ガイダンス<br>就職内定者としての心構え | ・推薦入試に万全の態勢で臨ませる。<br>・内定という意味について話をし、心構えを作らせる。 | ・内定者お礼状送付<br>・大学、短大受験者の学習計画の立案確認<br>・内定者、合格者貼り出し<br>・紫峰祭のご案内（内定先の企業）<br>・進路指導担当者会議<br>・就職面接会（必要に応じて） |
| 11 | 専門学校<br>一般入試出願（11/1）<br>一般入学試験<br>進路決定<br>ガイダンス最終 | ・進学に向けての積極的なライフプランを立てさせる。 | ・進路先住所リスト確認 |
| 12 | 進路決定者としての心構え<br>大学・短大一般<br>入試準備<br>進路 HR の充実 | ・余裕を出さないよう気持ちを引き締めさせていく。<br>・出願の準備、試験に向けての学習を進めさせる。<br>・入試に万全の態勢で臨ませる。<br>・離職や中途退学の例をあげ、その防止策を考えさせる。 | ・年賀状送付<br>・内定先へ年度末予定送付 |
| 1 | 大学・短大入試<br>進路 HR の実施 | ・出願の準備、試験に向けての学習を進めさせる。<br>・入試に万全の態勢で臨ませる。<br>・卒業までの学校生活及び４月からの生活に向けての心構えを作らせる。 | ・資料、ファイルの整理<br>・進路指導担当者会議 |
| 2 | 大学・短大入試<br>進路 HR の実施 | ・入試に万全の態勢で臨ませる。<br>・自己紹介や初対面での話し方などの講習を行う。 | ・資料、ファイルの整理<br>・卒業式のご案内（2/10 前後に）<br>・ハローワーク三鷹ジョブサポーターと連携して、４月からの心構えを主とした授業を取り入れる。 |
| 3 | ライフプランを立てる | ・学校生活を振り返って、将来のライフプラン作りを行わせる。特に４月からの生活における心構えを再確認させる。 | ・進学票、求職票完成<br>・進路先一覧作成<br>・卒業証明書、成績証明書作成（期日限定）<br>・入学式、入社式<br>レタックス送付 |

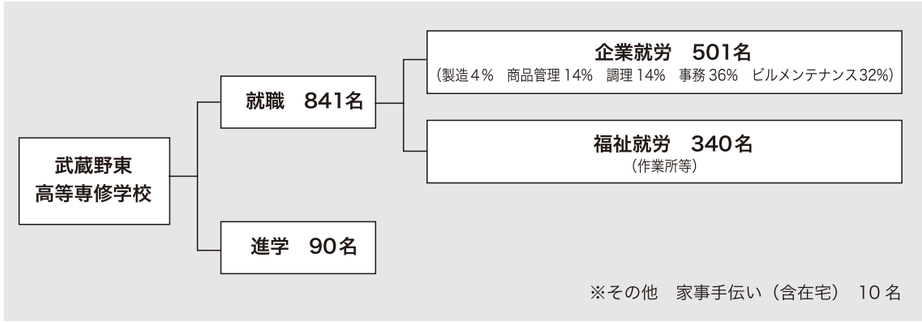


## 2. 自閉症児の進路指導

平成 27 年度（2016 年３月卒業）までに本校を卒業した自閉症児は 941 名、そのうち企業就労は 501名（54%）、作業所等への福祉就労は 340名（36%）、大学・短大・専門学校等への進学者は90名(10%)。教育は困難といわれている自閉症児であるが、幼児期の身辺自立から始まり生活自立、更に社会自立に向け一貫教育の成果は、下記の数値からみて世界に類がありません。

平成18年1月竣工の北原記念館に、インターンシップの場としての「チャレンジショップ」とショートステイのできる「友愛寮（在校生の寮・卒業生のグループホーム）」を開設しました。これにより３歳から親亡き後までの体制が整備されつつあります。

### a. 進路の方向性




### b. 1 年次から３年次までの進路指導

**・１学年**

目標として机上の覚える学習から実社会で通用する社会性を身につけることへの切り替え、作業学習を通じて働くことの意味と総合的な力を身につけることを理解させること、労働の習慣化（持続性）、作業速度・正確性（集中力）の強化、報告訓練、整理整頓を重点に指導を展開しています。

保護者へは、面談や保護者研修会等を通じて、現在の障がい者の就労現状、進路に対する意識、その具体的方向性を持っていただくこと、また作業学習の課題、地域ネットワークでの活動、療育手帳取得について話し合い、卒業まで３年間しかないというところ等を認識してもらうよう働きかけています。そうすることで、保護者と担任のコミュニケーション、及び、進路に対する考え方の一致が図られます。校内実習を１年次に１回設け、１週間、実際の職場と同じような環境で仕事を体験します。

・２学年

目標として１学年の内容につけ加えて、仕事に対する責任感や、忍耐力の強化、役割分担の把握、周囲への協調や気働き等を重点に指導を展開しています。

２学年の職場実習（通常２週間ですが、受け入れ先により異なります。）は９月以降に行われますが、実習先は生徒の個性・現状の能力を考慮し、また、保護者向けに行われた進路希望調査に基づき担任と進路指導部が検討し決定します。なお前期後期それぞれ１回ずつ、校内実習を設け、実習先の課題を分析し、それに対するシミュレーション訓練を行い、生徒が環境適応できるような配慮も行う場合もあります。そのため生徒によっては、規定時間外の訓練（いわゆる残業）を取り入れたり、「主任」等の役割を持たせて周囲への気配りを意識させてもいます。ですが、基本的にはどのような職場でも通用する社会性を高めることに力を入れています。保護者に対しては、12月までに先ほど述べた進路希望調査を行い、これをもとに懇談の中で卒業後の進路をどのように進めていくかを中心に話し合います。その中で、就労や進学といった保護者の希望を率直に出してもらうと共に、生徒の個性や能力、職場実習の反省・課題等を話題にしていきます。その上で、どのような進路が適切かを検討し、おおよその方向性を見出すようにしていきます。その後、家族で話し合い検討する期間を設け、目指す方向性をしぼり込み、必要に応じて随時、話し合いも行っていきます。このようにして、保護者と学校の進路に対する考え方を一層接近させていきます。

・３学年

目標として２学年までのものに加えて、社会生活に必要なスキルを身につけさせることや社会人としての自覚を育成することを重点に指導を展開しています。

就労を希望する生徒については、ハワイ学習以降、就職を前提とした実習があるため、企業就労か福祉就労か、就労地や仕事の内容の希望等について保護者と相談し就労先を決定します。その職場の作業課題を分析し、必要に応じそれに基づいたシミュレーション訓練を行います。その訓練の中で更に企業等の理解を得て就労に結びつけます。また、家庭と連携しながら職場に定着できるようにしています。本校では基本的に進学は勧めておりません。それは高学歴故に求められる技能が高くなるばかりでなく、高等教育機関には本校のような進路指導体系が確立できていないのが現状だからです。



**c. 職業教育**

様々な技術（スキル）を１つひとつの事象ごとに教えるのではなく、１人の社会人として必要な総合的な力、１人の人として生きていく力を身につけさせていくことに着目します。基本的な挨拶や元気の良さ、人が欲するもの（こと）を察して動く気働き、人から「ありがとう」と感謝される行動等が進んでできるようにさせていくことにより社会適応力を向上させていきます。その為に自分自身のことは自身でしっかり行い、自分よりも周囲の人のことを思うことについて経験を通して気づかせていきます。

具体的には、

①手 伝 い：学校では係の仕事や役割に責任を持ち、最後までやり通します。
家庭では家事全般を独りでできるように練習します。
※『指示を正しく理解し、正しい行動に移す』という基本スキルを身につけさせます。

②職業訓練：働く意識と意欲を作業学習、校内実習、職場実習を経験させ就労へと導いていきます

## d．進路指導の実際

**・職業訓練**

［ア］職業教育：（働くということ、人と関わり人間関係を円滑にすること）

生きていくための生活力の上に立つ実社会で必要な力、実社会および職場で通用する力を学校生活、家庭生活を通して身につけさせていきます。一言で言うと社会性を身につけさせるということとなります。

例えば、雰囲気を明るくする態度（元気な挨拶や素早い反応）、人が好まないような役割にも進んで取り組む純粋で真面目な姿勢（清掃、片付け、整理整頓、雑用等）を育みます。

つまり、部分的な技術を習得させるだけではなく、働くために必要な総合的な力を身につけさせていくということです。

### ※社会自立に向けての指導ポイント

**【日常生活】**

・時間の意識
・数の認識
・身だしなみ（整容）
・マナー･エチケット（清潔さを保つ、不快にさせない）
・排泄
・食事（マナー・偏食・栄養）
・生活リズム（睡眠含む）
・洗濯、清掃、整理整頓
・調理
・行動（待つ、継続）
・耐性
・物の管理
・金銭管理
・レクリエーション、レジャー
・コミュニケーション（会話、連絡）
・安全
・医療（薬、通院）
・性

**【仕事】**

・行動抑制（問題行動を自己コントロール）
・知的水準（道具・用具が理解でき、作業手順が理解、記憶できる）
・交通機関の利用
・勤務姿勢（気働き、丁寧さ、確実さ、素早い反応、能率・効率アップ）
・対人関係
・責任感
・持続力
・確認と報告

［イ］作業学習：様々な場面において、卒業後の生活を見据えて指導を展開していますが、カリキュラムとして時間割の中に位置づけているのがＣ組対象の「作業学習」です。

作業学習は基本的に週３時間の授業があり、大きく２つのポイントに分けて授業を展開しています。



**①仕事に付随するスキルや意識**

「自己の仕事（作業）を円滑に進めることができる」ということだけでは就労先へのスムーズな適応力を 100％習得したとは言えません。

１人ひとりの生徒の状況に応じたコミュニケーションスキルや社会性を身につけさせていかなければ就労先での長期定着は難しいものになります。

**・働く意識と意欲**……「～をしましょうか」「次に何をしましょうか」等、人から「ありがとう」と言われる積極的な行動を心がけさせます。

**・挨拶、返事**……コミュニケーションの基本であり、明るく元気の良い返事・挨拶を普段から心がけるようにします。

**・基本的なマナー／エチケット／常識**…身だしなみを始めとする衛生管理は勿論のこと、人の前を横切る時に「失礼します」と一言声をかけ、「後ろを通ります」と背後を通るときに声をかける等の配慮をします。また、様々な場面で、譲ることや待つことを実践します。

**・意思伝達**……トイレに行きたい時や体調不良の時に適切に申し出ることができるように指導します。

**・報告／連絡（伝達）／相談（わからないことを尋ねるを含む）**……仕事が終了した時の報告やミスをしてしまった時の正直な報告は周囲との円滑な仕事の進行上必要なことです。

**・会話、コミュニケーション**……敬語の使い分けや適切な話題で会話を心がけ、周囲との円滑な関係を保たせます。

**・時間と約束事を守る意識**……自分のペース、自分のやり方で仕事を進めるのではなく、周りに合わせることを指導します。

**②仕事に直接関わるスキルアップ**

指先の力や握力等のデリケートなコントロールができる能力を始め、作業の巧緻性やスピード等を総合した能力のことを指しますが、ダイレクトメールの作業の場合、具体的には封入物の識別や郵便番号の仕分けや計数、検品等のことを指します。

**・紙折り**……２つ折り、３つ折り等。角と角を合わせ、目印となる箇所で折る等の集中力が必要です。

**・丁合**……内容物を決められた枚数重ねていく作業ですが、封入物の識別や指先の繊細な感覚が必要になります。

**・封入**……内容物を封筒に入れる作業ですが、封筒を傷めることなく、内容物をスムーズに封筒に入れなければならないために、握力や指先のデリケートなコントロールが要求されます。

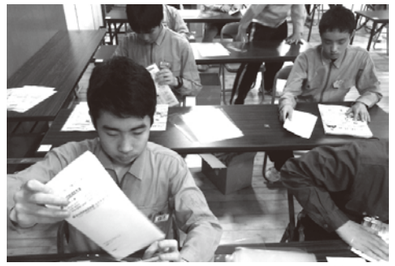
**・封緘**……いわゆる糊貼りのことです。つける糊の量の加減等が重要なポイントになります。

**・検品**……製品の正否を確認する大切な工程です。ミスを識別する高度な能力が求められます。また、ミスを発見したらそれを報告し、訂正できる力も必要となります。

**・計数**……指定された数で束にし、総数を数える作業で、数が合わない場合は合うまで確認作業を行います。

［ウ］校内実習：１週間、学校を会社に見立てて、仕事を行います。終日、作業中心のスケジュールに則った生活を送ります。作業技術の向上を始め、挨拶、反応や報告、周囲とのコミュニケーションのノウハウ等、仕事上必要な円滑な適応を図るための総合的な能力を習得することを目的としています。

- **１年次**…… 12月中旬
  ※初年度の作業学習のまとめ、及び２年次の職場実習に向けての課題点を明確にする。
- **２年次**…… ①５月中旬
  ※１年次の課題克服確認
  ②９月中旬
  ※職場実習に向けた直前指導
- **３年次**…… ４月下旬
  ※就労を前提とした職場実習に向けての最後の確認と作業学習のまとめ


封入作業

仕分け作業

［エ］職場実習：実際の職場に行き、職業訓練の仕上げと就労活動を行います。２年次は体験実習と位置づけ、失敗したことを反省材料として３年次の実習に向けて努力させていきます。一方、３年次の職場実習は就職試験としての意味合いが強く、「第１回目の就労試験」と考えます。この第１回目の職場実習で評価の高かった生徒の中には、この段階で就労先がほぼ確定した例もあります。３年次の職場実習は、言うまでもなく就労を前提とした重要な実習となり、作業能力だけでなく、周囲とのコミュニケーション能力等、総合的な適応力が実習先で試されます。この基準をクリアできた生徒が内定を獲得することができます。



| **《実社会に受け入れやすい特性》** | **《実社会に受け入れにくい特性》** |
|---|---|
| ・真面目さ | ・問題行動 |
| ・一生懸命さ | ・しつこさ（こだわり） |
| ・純粋さ | ・コミュニケーションがとれない |
| ・意欲 | ・相手の気持ちを察知しない行動 |
| ・正確さ（こだわりの活用） | ・マナー・エチケットの欠落（鼻ほじり、放屁、くしゃみ） |
| ・元気良さ | ・時間へのこだわりから退勤時間丁度に退勤してしまう。 |
| | ・退勤時間が迫るとソワソワして仕事にならない。 |
| | ・融通がきかない。 |

［オ］スキルアップトレーニング：２月の後期試験後に組まれる、キャリアプランニングカリキュラムの中のひとつです。現状では就労を希望する自閉症児に関しては、この講座を選択します。講座内容は、実践的なダイレクトメール等の仕事を始め、紙折り練習、計数トレーニングを通し、正確性や持続性等の苦手な部分を強化トレーニングしながら、社会性、コミュニケーションスキル等もトレーニングしてきます。

［カ］タイムカードの使用：社会人としての意識づけと、習慣づけの訓練として自閉症児を対象としてタイムカードの打刻を実施しています。一般企業、作業所等で行われているタイムカード制を模したもので在学中より行い、卒業後の職場でスムーズに適応できることを目的としています。本校では、朝登校後に教室に行く前に打刻し、下校直前にまた打刻します。

［キ］
農業従事研修
（おやてっと隊）：

平成21年度より、１Ｃ（1・2）、２Ｃ、３Ｃの生徒は、山梨県南アルプス市において NPO 南アルプスファームフィールドトリップの協力を得て、農業従事研修に取り組んでいます。本研修では、「自然に親しみながら規律正しい集団生活を送ると共に、農業体験を重ねることにより農業分野での就労の可能性を追求すること」を目的としています。

| 月 | 学　年 | 研　修　内　容 |
|---|---|---|
| 5月 | ２年Ｃ組 | 開墾作業、除草作業、さくらんぼ収穫、さくらんぼ種取り、田植え |
| 7月 | ３年Ｃ組 | 薪割り、種まき、除草作業、果樹園のマルチ張り、さくらんぼのへた取り、箱詰め |
| 10月 | １年Ｃ組 | 開墾作業、除草作業、稲刈り、稲干し |

（注）「おやてっと」とは山梨県の農家で使われている言葉で、「農作業のお手伝い」を意味します。

## 自閉症児　卒業後の進路状況

| 卒業年度 | 自閉症児卒業者数 | 企業就労 | | 福祉就労 | | 進　学 | | 家事手伝い | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和63年度 | 53 | 26 | 49% | 21 | 40% | 6 | 11% | 0 | 0% |
| 平成元年度 | 29 | 19 | 66% | 4 | 14% | 4 | 14% | 2 | 7% |
| 平成 2年度 | 23 | 14 | 61% | 4 | 17% | 4 | 17% | 1 | 4% |
| 平成 3年度 | 27 | 15 | 56% | 8 | 30% | 3 | 11% | 1 | 4% |
| 平成 4年度 | 24 | 17 | 71% | 5 | 21% | 2 | 8% | 0 | 0% |
| 平成 5年度 | 20 | 15 | 75% | 4 | 20% | 1 | 5% | 0 | 0% |
| 平成 6年度 | 29 | 13 | 45% | 14 | 48% | 2 | 7% | 0 | 0% |
| 平成 7年度 | 29 | 17 | 59% | 9 | 31% | 3 | 10% | 0 | 0% |
| 平成 8年度 | 21 | 8 | 38% | 12 | 57% | 1 | 5% | 0 | 0% |
| 平成 9年度 | 22 | 11 | 50% | 9 | 41% | 2 | 9% | 0 | 0% |
| 平成10年度 | 26 | 11 | 42% | 10 | 38% | 3 | 12% | 2 | 8% |
| 平成11年度 | 28 | 12 | 43% | 10 | 36% | 5 | 18% | 1 | 4% |
| 平成12年度 | 27 | 10 | 37% | 12 | 44% | 4 | 15% | 1 | 4% |
| 平成13年度 | 28 | 8 | 29% | 16 | 57% | 4 | 14% | 0 | 0% |
| 平成14年度 | 34 | 16 | 47% | 10 | 29% | 8 | 24% | 0 | 0% |
| 平成15年度 | 29 | 10 | 34% | 10 | 34% | 9 | 31% | 0 | 0% |
| 平成16年度 | 37 | 18 | 49% | 14 | 38% | 5 | 14% | 0 | 0% |
| 平成17年度 | 34 | 19 | 56% | 11 | 32% | 4 | 12% | 0 | 0% |
| 平成18年度 | 34 | 17 | 50% | 13 | 38% | 4 | 12% | 0 | 0% |
| 平成19年度 | 36 | 18 | 50% | 16 | 46% | 1 | 2% | 1 | 2% |
| 平成20年度 | 49 | 27 | 55% | 19 | 39% | 2 | 4% | 1 | 2% |
| 平成21年度 | 43 | 28 | 65% | 11 | 25% | 3 | 7% | 1 | 2% |
| 平成22年度 | 44 | 23 | 52% | 20 | 45% | 1 | 2% | 0 | 0% |
| 平成23年度 | 47 | 27 | 57% | 17 | 36% | 3 | 6% | 0 | 0% |
| 平成24年度 | 42 | 26 | 62% | 13 | 31% | 3 | 7% | 0 | 0% |
| 平成25年度 | 44 | 29 | 66% | 15 | 34% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| 平成26年度 | 45 | 25 | 56% | 17 | 38% | 3 | 7% | 0 | 0% |
| 平成27年度 | 37 | 22 | 59% | 15 | 41% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| **合計** | **941** | **501** | | **339** | | **90** | | **11** | |
| **平均** | **33.7** | **17.9** | **53%** | **12.1** | **36%** | **3.3** | **10%** | **0.4** | **1%** |

## e. 卒業後のケア

**・職場定着指導（巡回指導、ジョブコーチ等）**

卒業後も必要に応じて在学中と同様の指導をしており、卒業後１年間は職場に定着できているか巡回指導を行っています。卒業生の進路先を訪問し、自閉症児が仕事に取り組んでいる様子を見学し、進路先の担当者等と会って、彼らが進路先でどのように過ごしているか、どのような課題や問題点を抱えているかなど話を聞いています。また、必要に応じて本人や家庭の相談にものりながら、進路先と協力して問題点の改善に努めています。こうした進路先と家庭と学校との連携により自閉症児の職場定着を図っています。

更に、必要に応じてジョブコーチに入り、進路先の担当者等から聞いた仕事上の問題点と課題を克服するための指導も行っています。

**・余暇活動支援（卒業生講座、旅行、むらさきOB会との連携事業等）**

土曜日のオープンスクールでは卒業生を対象とした講座も開講しています。講座内容としては、映画鑑賞、電卓練習、調理、そば打ち、ものづくり、美しい文字、シェイプアップ、食事マナー等を行っています。卒業した自閉症児の中には、職場の休業日等に学校に顔を出す卒業生も多くおり、卒業後も本校の先生方と一緒に旅行をという要望も多く、20 数年前には校長が音頭をとりスキー旅行、バーベキュー大会、カラオケ大会等が毎年実施されていました。これらの行事には多くの自閉症児が参加し、ボランティアの教師と行動を共にしながら楽しみました。また、卒業生の保護者から、ぜひ子どもたちと一緒に海外にという強い希望もあり、グアムやハワイに旅行に行ったこともあり、平成 21 年度にも夏にグアム旅行を企画していましたが、残念ながら新型インフルエンザの流行により中止となりました。また、むらさきOB 会との連携事業としてクリスマス会も毎年恒例の年末イベントとなっています。

**・友愛寮**

卒業した自閉症児が、グループホーム等地域移行のために本学園では、入寮サービスを運営しています。入寮者は、朝、それぞれの勤務先・通所先に通い、仕事をした後に、帰宅するという職住分離のグループホームに近い形のサービス内容となっています。

この寮では、本学園の教職員が中心となって支援サービスを行うため、健康管理などきめ細かな対応がなされています。

また、本学園在籍の園児・児童・生徒のショートステイのサービスを受け付けており、保護者の急な病気や事故等にも対応できるようになっています。



## f. 進路指導カリキュラム（自閉症児）

**【１学年】**

活動目標　○進路を明確にし、目標設定を行う。
　　○労働の意味を理解し、職業人となる自覚を持たせる。

| 月 | 指導内容 | 留意事項 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 教材・教具を用いた<br>作業前トレーニング | 個人の能力の把握<br>・粗大運動<br>・微細運動<br>・知的レベル<br>・作業速度、正確性 | 家庭への働きかけ<br>・挨拶、返事<br>・買い物<br>・交通ルール<br>・家庭での役割を持つ |
| 5 | ４月より継続 | ４月より継続 | ・身辺管理<br>「清潔感」「持ち物管理」<br>・社会的マナー<br>「食事マナー」等 |
| 6 | 作業学習開始 | 労働の意味理解<br>労働の習慣化（持続性等）<br>作業速度、正確性の強化<br>報告訓練「終わりました」<br>整理整頓 | 進路指導のあり方を保護者研修会時に説明し、理解を深める |
| 7 | 作業学習 | ６月より継続 | ３者面談<br>・療育手帳の有無<br>・進路に対する意識<br>・作業学習の弱点 |
| 9 | 作業学習 | ビジネスマナーの向上<br>人間関係作りのポイント | |
| 10 | 作業学習 | ９月より継続 | C組農業就事研修 |
| 11 | 作業学習 | 個人の作業能力の強化<br>・正確性の追求 | |
| 12 | 作業学習<br>第１回校内実習（１週間） | 個人の作業能力の強化<br>・正確性の追求<br>作業中の問題点を把握する。<br>休み時間の過ごし方の指導 | ３者面談<br>・進路が具体化しているかどうかの確認<br>・作業学習の課題について |
| 1 | 作業学習 | 個人の作業能力の強化<br>・作業速度の向上 | |
| 2 | 作業学習 | 個人の作業能力の強化<br>・作業速度の向上 | ３者面談<br>・親の会での活動等<br>・進路の方向性の決定 |
| 3 | 作業学習 | 個人の作業能力の強化<br>・作業速度の向上 | |

## 【２学年】

活動目標　○自立心、向上心、責任感を身につける。
　　○希望進路先の決定

| 月 | 指　導　内　容 | 留　意　事　項 | そ　の　他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 作業学習 | １年次と同様<br>・役割と分担の把握<br>・協調性、忍耐力の強化<br>・周囲への気配り | 各地域行政との職場実習の<br>打ち合わせ |
| 5 | 第２回校内実習（１週間） | 第１回校内実習の課題を再確認し、<br>克服していく。 | 実習全般についての説明<br>Ｃ組農業従事研修 |
| 6 | 作業学習<br>履歴書の書き方<br>面接練習 | 挨拶、返事を含めた基本的な<br>面接対応練習を行い、意識させる。 | |
| 7 | ３者面談 | 10月に行われる職場実習を意識し行わせる。<br>・指示レベルを高めて行う。<br>・残業をいれる。 | 職場開拓を行う。<br>・企業就労は３年生と連携を行う。<br>・福祉就労はプロフィールを送付 |
| 9 | 第３回校内実習（１週間） | 実習先の課題を分析し、それに対する。<br>シミュレーション訓練を取り入れる。 | 進路説明会<br>・就職までの手順説明<br>・保護者の意識向上<br>・進路希望調査①<br>職場実習先を確定する。<br>職場実習費の回収 |
| 10 | 作業学習<br>職場実習（体験） | 実習現場にて作業を体験する。<br>（年度内実施） | 巡回指導を随時行う。<br>実習終了後反省会を行う。 |
| 11 | 作業学習<br>職場実習（体験） | 職場実習の反省をもとに<br>個人に合わせた指導を行う。 | |
| 12 | 作業学習<br>職場実習（体験） | 職場実習の反省をもとに<br>個人に合わせた指導を行う。 | ３者面談<br>・職場実習での反省をもとに今後の課題を明確にする。 |
| 1 | 作業学習<br>職場実習（体験） | 職場実習の反省をもとに<br>個人に合わせた指導を行う。 | |
| 2 | 作業学習<br>余暇の過ごし方<br>（公共施設の利用等）<br>職場実習（体験） | 職場実習の反省をもとに<br>個人に合わせた指導を行う。 | ３者面談<br>・３年次の職場実習について |
| 3 | 作業学習（まとめ）<br>職場実習（体験） | 職場実習の反省をもとに<br>個人に合わせた指導を行う。 | ３年次の職場実習を意識して行う。<br>・休憩時間の過ごし方 |



## 【３学年】

活動目標　○社会生活に必要なスキルを身につけさせる。
　　○社会人となる自覚の育成

| 月 | 指　導　内　容 | 留　意　事　項 | そ　の　他 |
|---|---|---|---|
| 4 | 作業学習<br>第４回校内実習（1週間） | 労働習慣の修得度を確認する。<br>職場実習に備えて、意識づけを行う。 | 職場実習の職場開拓<br>公立作業所進路会議<br>企業実習調整会議<br>進路説明会<br>最終進路希望調査の実施 |
| 5 | 作業学習 | 実習先の作業の課題分析に基づいた<br>シミュレーション訓練を行う。 | ・職場実習費の回収<br>・就労に向けての説明 |
| 6 | 作業学習<br>職場実習（就労前提） | 内定をもらえるように緊密な連絡を徹底する。<br>内定が出なければ、すぐに次の実習場所の<br>開拓を始める。 | 生徒側への働きかけと企業への働き<br>かけの両側面への介入が必要である。<br>３者面談<br>・進路について |
| 7 | 作業学習<br>職場実習（就労前提）<br>お礼状を送る | ６月留意事項同様 | ハローワーク（公共職業安定所）<br>へ求職登録を行う<br>Ｃ組農業従事研修 |
| 9 | 作業学習<br>職場実習（就労前提） | 内定者　職場実習での弱点強化<br>未定者　職場実習 | 企業就労から福祉就労へ希望を<br>変える場合は早めに行うこと。<br>９/15 以降（求人票依頼） |
| 10 | 作業学習<br>職場実習（就労前提） | 未定者　職場実習 | 内定後<br>・採用条件<br>・入社日<br>・助成金について<br>保護者同伴も可 |
| 11 | 作業学習<br>職場実習（就労前提） | 社会的に見て不適切だと思われる行動に<br>ついては徹底した指導を行う。<br>未定者　職場実習 | |
| 12 | 作業学習<br>職場実習（就労前提） | 未定者　職場実習 | 年賀状の投函について<br>３者面談<br>・進路先と保護者のつきあい方 |
| 1 | 作業学習<br>金銭について（給与等）<br>職場実習（就労前提） | 未定者　職場実習 | 求人票の見方 |
| 2 | 内定挨拶 | 未定者　職場実習 | 職業センターにて知的障害者の<br>判定実施（重度・重度以外） |
| 3 | 社会に向けての心得 | | 企業との顔合わせ<br>・各種助成金の調整<br>祝電<br>※入社（所）日／入社（所）式等<br>の確認 |

## 3. 教科指導

### 1. 普通教科指導のカリキュラムと工夫

普通教科では、継続して進路決定のための入学試験や就職試験に対応できる力、社会生活に必要な知識を身につけ社会に出ても恥ずかしくないように、各教科本校独自のカリキュラムを作成し、日々の授業を展開しています。各クラス、各教科担当と共に個々の生徒の基礎学力の定着を図り、また学習が苦手な生徒の学習意欲向上のためにホームルームテストを行っています。生徒が実績を得ることで自信をつけ、自主学習をするようになっていきます。

また検定資格の取得にも力を入れていますので、オープンスクール時の補習講座や朝の勉強会等を開いています。そして、今までの実績により、本校の教員が検定の試験官や会場校として認定されています。（専門教科の検定資格取得も同様です。）

**［国語］**

社会生活に必要な国語力を身につけさせるために、平成３年度に作成した「敬語テキスト」を用いて、敬語の指導を継続して行っています。日常使っている敬語を体系的に学習させ論理的思考力を養うと共に、その時々で流行した曲を使用して授業を展開し敬語を身近に感じさせながら正しい表現を覚えさせています。また「ペン字」の授業では文字を正確に書くことに重点を置き、指導しています。更に「漢字能力検定」、「硬筆書写技能検定」に向けての学習にも取り組んでいます。

**［数学］**

数学における基礎的な力を充実させ、就職、入学試験に対応できる力を身につけることを目標に、主に小学校、中学校で学習する内容を確実に理解できるように指導しています。

数学を苦手とする生徒が多いので、教科書の他に補助プリントの充実を図っています。１年生では四則計算から始まり、数に関する基本的事項を学習させ、理解を深めさせています。

授業の中では小テストを行い、生徒の理解度の向上を図っています。

**［社会］**

１年生は「地理」、２年生は「日本史」、３年生は「世界史」を学習します。「地理」においては、日本及び世界を知ること、「日本史」においては、現代の日本に至るまでの過程をつかませると共に今後の日本についても考察させること、「世界史」においては、日本の歴史を踏まえた上で、世界の出来事にも目を向けられるようになり、自分と世界の関係を考察させること等、それぞれの目標を定めています。また「日本史」、「世界史」の授業ではオリジナルの年表を活用し、1 年間かけて歴史の流れを理解できるようにしています。

スクラップノート作成も引き続き力を入れ、世の中の出来事に興味を持たせ、また就職及び入学試験での時事問題に対応できる力を養成しています。年度末にはスクラップノートコンテストを実施し、全教員が採点者になり、優秀作品を表彰します。また視聴覚教材（TV、DVD）や新聞記事を活用することにより、多方面から興味を持たせ教育効果をあげています。

また、「平成 28 年の選挙から選挙権年齢が 18 歳に引き下がる」ことに伴って、平成 27 年度より『「有権者としての心得」として「選挙・政治に関する」基本知識を身につけさせる』ことを念頭に入れた主権者教育を取り入れました。

**［英語］**

基本英単語、基礎英文法の学習を行い、４技能（Listening, Speaking, Reading, Writing）の総合的な力を身につけ、表現力を養い、国際人としての素養を高めることを目標としています。

以前は、オリジナルテキストを使用し、生徒の興味関心に合わせた教材を使用していましたが、平成24 年度からは市販の教科書「All Aboard」を活用しながら基礎英文法の習得、単語集「Database 1700」を用いて語彙力の強化を図っています。また、「実用英語技能検定」の積極的な受験も促しています。工夫点として、be 動詞の疑問文・否定文の作り方を歌で覚えたり、短文で表した「武蔵野東の１日」（朝起きてから寝るまでの生徒の１日）を英語で覚えさせています。また英語の歌・映画のプレビューを活用し英語への興味関心を深めるとともにリスニング力の向上を図っています。

［音楽］

短い時間の中で、音楽の楽しさを感じさせ、情操を養うことを目標にし、生涯に渡って音楽と付き合っていけるよう、自閉症児の言語指導の位置づけとして授業を行っています。選曲は校歌や合唱コンクールでの課題曲に留まらず、J-POP など生徒たちが知っている曲を取り入れています。

［保健体育］

体の柔軟性の強化を図り、運動の重要性や体力を高めるためのトレーニングについて理解させると共に、運動を楽しく安全に行わせること、また保健分野では、生活に密着した保健の知識を得ることを目標に指導しています。

授業は、バスケットボール、バドミントン、器械体操等限られたスペースに適した種目を選択し、また保健の授業では、各教室に設置されたモニターを利用し、時代に即した保健の話題の映像を流し意識を高めさせています。

**共通資格取得目標**

日本漢字能力検定協会　「漢字能力検定試験２～10 級」（文部科学省認定）
日本書写技能検定協会　「硬筆書写技能検定試験１～５級」（文部科学省後援）
日本英語検定協会　「実用英語技能検定試験２～５級」（文部科学省認定）
全国経理教育協会　「社会人常識マナー検定試験１～３級」（文部科学省後援）
職業教育・キャリア教育財団　「ビジネス能力検定２、３級」（文部科学省後援）



## 普通教科 年間カリキュラム

**・国語**

| | ［1学年］国語総合 | ［2学年］国語総合 | ［3学年］国語表現 |
|---|---|---|---|
| 4月 | 漢字検定学習 | 敬語　漢字 | 敬語の使い方 |
| 5月 | 漢字検定学習　敬語 | 敬語　漢字 | 現代文に親しむ |
| 6月 | 敬語 | 敬語　漢字 | 現代文に親しむ |
| 7月 | 敬語 | 敬語まとめ | 古典文学に親しむ |
| 9月 | 敬語　漢字の書き取り | 前期授業内容の復習 | 古典文学に親しむ |
| 10月 | 日本語を見つめる（現代文読解） | 漢文 | 古典文学に親しむ 詩・短歌・俳句 |
| 11月 | 日本語を見つめる（現代文読解） | 漢文 | 詩・短歌・俳句 |
| 12月 | 古文に親しむ | 漢文 | 詩・短歌・俳句 |
| 1月 | 古文読解 | 漢文 | 詩・短歌・俳句のまとめ |
| 2月 | １年間のまとめ | １年間のまとめ | １年間のまとめ |
| 3月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |

**・ペン字（1・2学年）・小論文（3学年）**

| | ［1学年］ペン字 | ［2学年］ペン字 | ［3学年］小論文 |
|---|---|---|---|
| 4月 | 楷書・行書の基本点画 | 楷書・行書の基本点画 | 原稿用紙の使い方 |
| 5月 | 検定説明 | 検定説明 | 語彙力･文法力の育成 |
| 6月 | 速書き　理論問題 | 速書き　理論問題 | 文章構成能力の育成 |
| 7月 | 行書の基本点画 | 行書の基本点画 | 文章を書くⅠ |
| 9月 | 部首のくずし方 | 部首のくずし方 | 文章を書くⅡ |
| 10月 | 速書き　掲示・理論問題 | 速書き　掲示・理論問題 | 文章を書くⅡ |
| 11月 | 速書き　理論問題 | 速書き　理論問題 | 文章を書くⅡ |
| 12月 | 年賀状の書き方 | 年賀状の書き方 | 課題作文 |
| 1月 | 速書き　理論問題 | 速書き　理論問題 | まとめⅠ |
| 2月 | １年間のまとめ | １年間のまとめ | まとめⅡ |
| 3月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |

## ・数学

| | ［1 学年］数学 I | ［2 学年］数学 I | ［3 学年］数学 II |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 四則計算 | 実数　一般常識 | 複素数と方程式　一般常識 |
| 5 月 | 数の性質 | 実数　一般常識 | 複素数と方程式　一般常識 |
| 6 月 | 整式とその計算 | 方程式　一般常識 | 複素数と方程式　一般常識 |
| 7 月 | 一般常識 | 方程式 | 複素数と方程式　一般常識 数学 I のまとめ |
| 9 月 | 式の計算 | 関数 | 複素数と方程式 |
| 10 月 | 式の計算 | 関数 | 図形と方程式　一般常識 |
| 11 月 | 分数式の計算 | 関数 | 図形と方程式　一般常識 |
| 12 月 | 式の計算・分数式のまとめ | 三角比と図形 | 図形と方程式　一般常識 |
| 1 月 | 方程式と不等式 | 三角比と図形 | 三角関数　微分　一般常識 |
| 2 月 | 方程式と不等式　１年間のまとめ | １年間のまとめ | ３年間のまとめ |
| 3 月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |

## ・社会

| | ［1 学年］地理 | ［2 学年］日本史 | ［3 学年］世界史 |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 自然環境 | 古代国家の形成 | ハワイ史 |
| 5 月 | アジアの諸地域① | 古代国家の確立 | ﾕｰﾗｼｱの諸地域世界① 諸文明の接触と交流 |
| 6 月 | アジアの諸地域② | 貴族政治と国風文化 | ﾕｰﾗｼｱの諸地域世界② 2～12 世紀の世界 |
| 7 月 | ヨーロッパ | 中世社会の展開 | ﾖｰﾛｯﾊﾟの世界 13～16 世紀の世界 |
| 9 月 | アフリカ、選挙について | 選挙について、統一政権の成立 | 17､18 世紀の世界 |
| 10 月 | アングロアメリカ | 幕藩体制の展開① | 19 世紀の世界形成と展開 |
| 11 月 | ラテンアメリカ | 幕藩体制の展開② | 帝国と民族の時代 |
| 12 月 | オセアニア 現代社会と日本 | 大日本帝国の形成 選挙について | 二つの世界大戦の時代、選挙について |
| 1 月 | 後期試験対策 | 二つの世界大戦と平和 | 冷戦と民族独立の時代 |
| 2 月 | １年間のまとめ | １年間のまとめ | ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化の中の危機 １年間のまとめ |
| 3 月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |

## ・英語

| | ［1 学年］英語 I | ［2 学年］オーラルコミュニケーション I | ［3 学年］オーラルコミュニケーション I |
|---|---|---|---|
| 4 月 | オリエンテーション | １年生の復習 | ハワイ学習に向けて |
| 5 月 | be 動詞・一般動詞（現在形） | 助動詞 | ハワイ学習に向けて　動名詞 |
| 6 月 | 否定文と疑問文 | 不定詞 | 受け身 |
| 7 月 | be 動詞・一般動詞（過去形） | 助動詞・不定詞の復習 | 現在完了形 |
| 9 月 | 前期試験対策 | 前期試験対策 | It の用法 |
| 10 月 | 現在進行形 | 動名詞 | 関係代名詞 |
| 11 月 | 過去進行形 | 受け身 | 比較表現 |
| 12 月 | 助動詞 | 動名詞・受け身の復習 | 現在完了･It の用法・関係代名詞の復習 |
| 1 月 | 後期試験対策 | 後期試験対策 | 後期試験対策 |
| 2 月 | １年間のまとめ | １年間のまとめ | １年間のまとめ |
| 3 月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |



## ・音楽

| | ［1 学年］ | ［2 学年］ | ［3 学年］ |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 発声・発音練習　リズムトレーニング | 発声・発音練習　リズムトレーニング | 発声・発音練習　リズムトレーニング |
| 5 月 | 発声・発音練習　リズムトレーニング | 発声・発音練習　リズムトレーニング | 発声・発音練習　リズムトレーニング |
| 6 月 | 合唱コンクール曲目 | 合唱コンクール曲目 | 合唱コンクール曲目 |
| 7 月 | 合唱コンクール曲目 | 合唱コンクール曲目 | 合唱コンクール曲目 |
| 9 月 | 合唱コンクール曲目　発声・発音練習 リズムトレーニング | 合唱コンクール曲目　発声・発音練習 リズムトレーニング | 合唱コンクール曲目　発声・発音練習 リズムトレーニング |
| 10 月 | 合唱コンクール曲目 学園歌 | 合唱コンクール曲目 学園歌 | 合唱コンクール曲目 学園歌 |
| 11 月 | 合唱コンクール曲目 学園歌 校歌 | 合唱コンクール曲目 学園歌 校歌 | 合唱コンクール曲目 学園歌 校歌 |
| 12 月 | 合唱コンクール曲目 校歌 | 合唱コンクール曲目 校歌 | 合唱コンクール曲目 校歌 |
| 1 月 | 発声・発音練習　リズムトレーニング | 発声・発音練習　リズムトレーニング | 発声・発音練習　リズムトレーニング |
| 2 月 | 校歌　仰げば尊し | 校歌　仰げば尊し | 校歌　仰げば尊し |
| 3 月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |

## ・体育

| | ［1 学年］ | ［2 学年］ | ［3 学年］ |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 基本姿勢･基本動作　スポーツ大会練習 | 基本姿勢･基本動作　スポーツ大会練習 | 基本姿勢･基本動作　スポーツ大会練習 |
| 5 月 | スポーツ大会練習　バドミントン | スポーツ大会練習　バドミントン | スポーツ大会練習　バドミントン |
| 6 月 | バドミントン | バドミントン | バドミントン |
| 7 月 | バスケットボール | バスケットボール | バスケットボール |
| 9 月 | バスケットボール　球技大会 | バスケットボール　球技大会 | バスケットボール　球技大会 |
| 10 月 | バスケットボール 球技大会 マラソン大会 | バスケットボール 球技大会 マラソン大会 | バスケットボール 球技大会 マラソン大会 |
| 11 月 | スキー理論　ミニトランポリン | スキー理論　ミニトランポリン | スキー理論　ミニトランポリン |
| 12 月 | スキー陸上トレーニング ミニトランポリン | スキー陸上トレーニング ミニトランポリン | スキー陸上トレーニング ミニトランポリン |
| 1 月 | 器械体操（マット） | 器械体操（マット） | 器械体操（マット） |
| 2 月 | 器械体操（マット 跳び箱）１年間のまとめ | 器械体操（マット 跳び箱）１年間のまとめ | 器械体操（マット 跳び箱）１年間のまとめ |
| 3 月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |

## ・保健

| | ［1 学年］ | ［2 学年］ | ［3 学年］ |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 身体の各器官① | 現代社会の健康① | 文明社会と健康① |
| 5 月 | 身体の各器官② | 現代社会の健康②③ | 文明社会と健康②③ |
| 6 月 | 身体の各器官③④ | 現代社会の健康④⑤ | 文明社会と健康④ |
| 7 月 | 嗜好品と健康　人工呼吸 | 現代社会の健康⑥⑦ | 救急法　応急処置 |
| 9 月 | 前期まとめ | 現代社会の健康⑧ | 精神構造を知る①②③ |
| 10 月 | 病気の起こる仕組みとその予防①② | 社会生活と健康① | 精神構造を知る④ |
| 11 月 | 病気の起こる仕組みとその予防③ | 現代社会と健康⑨⑩ | 適応機制 |
| 12 月 | 早期発見 早期治療，病気になったときの心構え | 社会生活と健康② | 生きるということ |
| 1 月 | 病気の起こる仕組みとその予防④ | 社会生活と健康③ ライフステージと健康 | 保健まとめ |
| 2 月 | けがの起こる仕組み①② | １年間のまとめ | ３年間のまとめ |
| 3 月 | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム | キャリアプランニングカリキュラム |

## 2. 専門教科指導のカリキュラムと工夫

従来の３課程４学科６コース（家政高等課程家政科調理、被服、技能高等課程情報処理科、文化教養高等課程芸術科絵画、陶芸、文化教養高等課程体育科）在学期間同一コースで学びを深めるカリキュラムから、平成 20 年度より１学科７コース（総合キャリア学科調理コース、被服コース、情報コース、絵画コース、陶芸コース、体育コース、大学受験コース）を設置し、半期ごとのコース変更を可能にするカリキュラムとなりました。平成 26 年度の校名変更に伴い調理コースは、調理・製菓コース、被服コースはファッションコース、情報コースは、情報ビジネスコースと名称を変更しています。

**従来の専門教科体系**

家政高等課程
家政科
・調理　・被服

技能高等課程
情報処理科

文化教養高等課程
芸術科
・美術　・陶芸

文化教養高等課程
体育科

**現在の専門教科体系**

| 総合キャリア学科 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 陶芸コース | 絵画コース | 調理製菓コース | ファッションコース | 情報ビジネスコース | 体育コース | 大学受験コース |

専門実技教室も各コースの特色に合わせ、４階に絵画・陶芸の教室が設けられ、地下１階にあった調理室も最新式のグリル併用調理台を６台設置しました。また１階に第1PC ルームと第2PC ルームを設けることで情報ビジネスコースが PC ルームを使用しているのと同時に他のコースも PC を利用した動画の閲覧や調べ物学習等ができるようになりました。15 歳から 18 歳という多感で重要な３年間を生徒１人ひとりが自分の個性を生かし、能力を発揮できる専門教科を選択することができます。体育コースは心と体を鍛えることで人間教育、社会に出てからの忍耐力を養います。またどの専門教科も職業教育として社会に適応できる広範囲の専門分野の知識及び技術を学び、確立していけるだけの充分な力を身につけさせるよう努めています。その一環として紫峰祭においては展示や販売、食事のサービス、ステージショー等があります。

教師に必要な最大の資質は、授業力にあります。授業の導入や展開、実技試験のあり方等を討議し、研究授業を重ね授業の反省や他専門教科からのアドバイスを授業に取り入れていく実践的な授業力の向上にかかわる研修をしています。教材研究も短い周期で変わる時代の流れを適所に取り入れ、生徒たちの興味や関心を考慮しながら、新鮮な教材づくりに取り組んでいます。

次頁より各専門コースの３カ年カリキュラム及び各教科における工夫点を列挙します。

## a. 各専門コース 年間カリキュラム

### 陶芸コース

**・1年次　前期**

| | 実技　陶器製作Ⅰ | 理論1　美術概論Ⅰ | 理論2　美術史Ⅰ |
|---|---|---|---|
| 4月 | 土練りの基本練習 | レタリング検定ガイダンス | 旧石器時代 |
| 5月 | ろくろ成形 | 書体の理解　用具の理解 | 新石器時代 |
| 6月 | 施釉 | レタリング検定対策 | 古代美術 |
| 7月 | 紫峰祭展示作品「表札」 | 紫峰祭ポスター作成 | オリエント美術 |
| 9月 | 紫峰祭準備　前期まとめ | フリーハンド字体視写 | エジプト美術 |

**・1年次　後期**

| | 実技　陶器製作Ⅱ | 理論1　美術概論Ⅱ | 理論2　美術史Ⅱ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 焼き物の制作工程の学習 | グラデーション制作 | ギリシャ美術 |
| 11月 | 手びねり成形の基礎 | デザイン表現技法 | ローマ初期キリスト教美術 |
| 12月 | 施釉 | ポスターカラー | ビザンティン美術 |
| 1月 | アートスケープ展示作品 | 版画の種類 | ロマネスク美術 |
| 2月 | 自由制作　後期まとめ | ロゴマークとシンボルマーク | ゴシック美術 |

**・2年次　前期**

| | 実技　陶器制作Ⅲ | 理論1　美術概論Ⅲ | 理論2　美術史Ⅲ |
|---|---|---|---|
| 4月 | 土練りの基本練習 | 字体の理解 | 原始から中世について |
| 5月 | ろくろ成形基礎中心取り | 部首エレメントの理解 | イタリアルネッサンス① |
| 6月 | 紫峰祭展示作品「時計」 | 検定対策及び反省 | イタリアルネッサンス② |
| 7月 | 販売作品制作 | 紫峰祭ポスター制作 | 作品鑑賞 |
| 9月 | 自由制作　前期まとめ | デザインの基礎技法 | イタリアルネッサンス③ |

**・2年次　後期**

| | 実技　陶器制作Ⅳ | 理論1　美術概論Ⅳ | 理論2　美術史Ⅳ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 土練りの基本練習 | 構図と構成バランス感覚 | 作品鑑賞 |
| 11月 | 手びねり成形の基礎 | ペーパークラフト | 北欧ルネッサンス① |
| 12月 | 窯詰め　素焼き　本焼き | ペーパークラフトの応用 | 北欧ルネッサンス② |
| 1月 | 自由制作 | レタリング検定過去問題 | 古典派、ロマン派 |
| 2月 | 自由制作　後期まとめ | まとめ | 自然印象派、印象派 |



### 陶芸コース

**・3年次　前期**

| | 実技　陶器制作Ⅴ | 理論1　美術概論Ⅴ | 理論2　美術史Ⅴ |
|---|---|---|---|
| 4月 | やきものの制作工程学習 | 和文書体の理解 | 印象主義 |
| 5月 | ランプシェード制作 | 欧文書体の理解 | 象徴主義 |
| 6月 | 販売作品制作　自由制作 | レタリング検定対策 | 後期印象主義 |
| 7月 | 販売作品制作　自由制作 | レタリングと鑑賞の復習 | フォービスムと表現主義 |
| 9月 | 自由制作　前期まとめ | シルクスクリーン | キュビスムと未来派 |

**・3年次　後期**

| | 実技　陶器制作Ⅵ | 理論1　美術概論Ⅵ | 理論2　美術史Ⅵ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 紫峰祭準備　販売練習 | 指定書体による文章表現 | 素朴派 |
| 11月 | アートスケープに向けて | 書体造形及び構成 | エコール・ド・パリ |
| 12月 | 成形　施釉 | シンボルマークデザイン | シュルレアリズム |
| 1月 | 焼成準備　焼成 | 文字の色彩表現 | 現代の美術 |
| 2月 | 焼成 仕上げ 後期まとめ | 美術概論まとめ | 現代美術のまとめ |

## 絵画コース

### ・1 年次　前期

| | 実技　絵画制作 I | 理論 1　美術概論 I | 理論 2　美術史 I |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 静物素描及び淡彩 1 作品 | レタリング検定ガイダンス | 旧石器時代 |
| 5 月 | 静物素描及び淡彩 2 作品 | 書体の理解　用具の理解 | 新石器時代 |
| 6 月 | 静物画　鉛筆淡彩① | レタリング検定対策 | 古代美術 |
| 7 月 | 静物画　鉛筆淡彩② | 紫峰祭ポスター作成 | オリエント美術 |
| 9 月 | 静物画　鉛筆淡彩③ | フリーハンド字体視写 | エジプト美術 |

### ・1 年次　後期

| | 実技　絵画制作 II | 理論 1　美術概論 II | 理論 2　美術史 II |
|---|---|---|---|
| 10月 | 静物画　アクリル① | グラデーション制作 | ギリシャ美術 |
| 11月 | 静物画　アクリル② | デザイン表現技法 | ローマ初期キリスト教美術 |
| 12月 | 自画像　アクリル① | ポスターカラー | ビザンティン美術 |
| 1 月 | 自画像　アクリル② | 版画の種類 | ロマネスク美術 |
| 2 月 | 自画像　アクリル③ | ロゴマークとシンボルマーク | ゴシック美術 |

### ・2 年次　前期

| | 実技　絵画制作 III | 理論 1　美術概論 III | 理論 2　美術史 III |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 自由制作（F30 以上）① | 字体の理解 | 原始から中世について |
| 5 月 | 自由制作（F30 以上）② | 部首エレメントの理解 | イタリアルネッサンス① |
| 6 月 | 自由制作（F30 以上）③ | 検定対策及び反省 | イタリアルネッサンス② |
| 7 月 | 自由制作（F30 以上）④ | 紫峰祭ポスター制作 | 作品鑑賞 |
| 9 月 | 自由制作（F30 以上）⑤ | デザインの基礎技法 | イタリアルネッサンス③ |

### ・2 年次　後期

| | 実技　絵画制作 IV | 理論 1　美術概論 IV | 理論 2　美術史 IV |
|---|---|---|---|
| 10月 | 自由制作（F30 以上）① | 構図と構成バランス感覚 | 作品鑑賞 |
| 11月 | 紫峰祭展示　自由制作② | ペーパークラフト | 北欧ルネッサンス① |
| 12月 | 自由制作③ | ペーパークラフトの応用 | 北欧ルネッサンス② |
| 1 月 | 自由制作④ | レタリング検定過去問題 | 古典派、ロマン派 |
| 2 月 | 自由制作⑤ | まとめ | 自然印象派、印象派 |



## 絵画コース

### ・3 年次　前期

| | 実技　絵画制作 V | 理論 1　美術概論 V | 理論 2　美術史 V |
|---|---|---|---|
| 4 月 | 自由制作（F30 以上）① | 和文書体の理解 | 印象主義 |
| 5 月 | 自由制作（F30 以上）② | 欧文書体の理解 | 象徴主義 |
| 6 月 | 自由制作（F30 以上）③ | レタリング検定対策 | 後期印象主義 |
| 7 月 | 自由制作（F30 以上）④ | レタリングと鑑賞の復習 | フォービスムと表現主義 |
| 9 月 | 自由制作（F30 以上）⑤及び自画像 | シルクスクリーン | キュビスムと未来派 |

### ・3 年次　後期

| | 実技　絵画制作 VI | 理論 1　美術概論 VI | 理論 2　美術史 VI |
|---|---|---|---|
| 10月 | 自由制作（F30 以上） | 指定書体による文章表現 | 素朴派 |
| 11月 | 紫峰祭展示　自由制作 | 書体造形及び構成 | エコール・ド・パリ |
| 12月 | 自由制作、自画像① | シンボルマークデザイン | シュルレアリズム |
| 1 月 | 自由制作、自画像② | 文字の色彩表現 | 現代の美術 |
| 2 月 | 自由制作、自画像③ | 美術概論まとめ | 現代美術のまとめ |

## 調理・製菓コース

### ・1年次　前期

| | 実技　調理・製菓実習Ⅰ | 理論1　調理・製菓理論Ⅰ | 理論2　衛生学Ⅰ |
|---|---|---|---|
| 4月 | 調理器具の使用方法 | からだの仕組みと食べ物 | 食品衛生管理の意義 |
| 5月 | 包丁練習　汁物 | 栄養素の役割 | 食品衛生の定義のまとめ |
| 6月 | 米飯　味噌汁 | 栄養素の種類と働き① | 食品衛生管理関連業務 |
| 7月 | 炒め物 | 栄養素の種類と働き② | 食品添加物 |
| 9月 | 前期のまとめ | 前期のまとめ | 前期のまとめ |

### ・1年次　後期

| | 実技　調理・製菓実習Ⅱ | 理論1　調理・製菓理論Ⅱ | 理論2　衛生学Ⅱ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 紫峰祭販売品調理 | 栄養素の種類と働き③ | 食中毒 |
| 11月 | 油脂を使った料理 | ５大栄養素まとめ | 細菌性食中毒 |
| 12月 | クリスマス、正月料理 | 消化と吸収 | 自然毒による食中毒 |
| 1月 | 野菜の料理、煮物 | 後期試験対策 | 化学性食中毒 |
| 2月 | 後期のまとめ | 後期のまとめ | 後期のまとめ |

### ・2年次　前期

| | 実技　調理・製菓実習Ⅲ | 理論1　調理・製菓理論Ⅲ | 理論2　衛生学Ⅲ |
|---|---|---|---|
| 4月 | 料理の基本　基本切り | 調理の基本 | 公衆衛生概論 |
| 5月 | 日本料理 | 食品の性質と調理 | 公衆衛生行政 |
| 6月 | 出汁巻き玉子 | 魚介類、獣鳥肉類、豆類 | 感染予防 |
| 7月 | みそ汁、つみれ汁 | 野菜類、いも類、果物類 | 寄生虫予防 |
| 9月 | 前期のまとめ | 前期のまとめ | 前期のまとめ |

### ・2年次　後期

| | 実技　調理・製菓実習Ⅳ | 理論1　調理・製菓理論Ⅳ | 理論2　衛生学Ⅳ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 西洋料理①　コロッケ | 穀類 | 学校保健 |
| 11月 | 西洋料理②　グラタン | 砂糖、油脂類 | 労働衛生 |
| 12月 | 中国料理①　包子 | 調理の手法 | 生活習慣病予防 |
| 1月 | 中国料理②　小籠包 | 調理法 | 精神保健 |
| 2月 | 後期のまとめ | 後期のまとめ | 後期のまとめ |



## 調理・製菓コース

### ・3年次　前期

| | 実技　調理・製菓実習Ⅴ | 理論1　調理・製菓理論Ⅴ | 理論2　衛生学Ⅴ |
|---|---|---|---|
| 4月 | 料理の基本　基本切り | 日常食の献立 | 衛生法規とは |
| 5月 | 日本料理①　肉じゃが | 食物費　調理の能率 | 法規の種類 |
| 6月 | 日本料理②　茶碗蒸し | 献立作成 | 調理師法 |
| 7月 | 日本料理③　鰤の煮付け | 給食と献立作成 | 食品衛生法 |
| 9月 | 前期のまとめ | 前期のまとめ | 前期のまとめ |

### ・3年次　後期

| | 実技　調理・製菓実習Ⅵ | 理論1　調理・製菓理論Ⅵ | 理論2　衛生学Ⅵ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 西洋料理①　グラタン | 食事の様式と調理 | 地域健康法　健康増進法 |
| 11月 | 西洋料理②　ピザ | 日本料理の献立 | 行政における感染症予防 |
| 12月 | 正月料理　おせち料理 | 日本、西洋料理のマナー | 栄養士法 |
| 1月 | 創作料理 | 中国料理のマナー | 製菓衛生師法 |
| 2月 | 後期のまとめ | 後期のまとめ | 後期のまとめ |

## 体育コース

### ・1年次　前期

| | 実技　スポーツ・体操Ⅰ | 理論1　体育理論Ⅰ | 理論2　スポーツマネジメントⅠ |
|---|---|---|---|
| 4月 | 体力測定　集団行動 | 競技スポーツの魅力 | ライフマネジメント |
| 5月 | 集団行動　トレーニング | 生涯スポーツの魅力 | スポーツ栄養の基礎 |
| 6月 | 前期キャンプ実習 | スポーツの楽しみ方 | 目的に応じた栄養摂取① |
| 7月 | トレーニング | スポーツの起源 | 目的に応じた栄養摂取② |
| 9月 | 前期のまとめ | スポーツの変容と発展 | 危険予知トレーニング |

### ・1年次　後期

| | 実技　スポーツ・体操Ⅱ | 理論1　体育理論Ⅱ | 理論2　スポーツマネジメントⅡ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 後期キャンプ実習 | これからのスポーツ | スポーツと水分補給 |
| 11月 | 柔道　バレーボール | 競技力と精神力の関係 | W-up と C-dw の必要性 |
| 12月 | 柔道　バレーボール | メンタルトレーニング① | スポーツ障害とその予防 |
| 1月 | 柔道　バレーボール | メンタルトレーニング② | スポーツ事故の応急処置 |
| 2月 | 後期のまとめ | 後期試験対策 | 後期試験対策 |

### ・2年次　前期

| | 実技　スポーツ・体操Ⅲ | 理論1　体育理論Ⅲ | 理論2　スポーツ科学論Ⅰ |
|---|---|---|---|
| 4月 | トレーニング　合同体操 | トレーニング（有酸素運動） | 心理状況と競技力 |
| 5月 | 器械運動　トレーニング | トレーニング（無酸素運動） | ポジティブシンキング |
| 6月 | 前期キャンプ実習 | 生活やスポーツと体力 | 動機付けの種類 |
| 7月 | 器械運動　トレーニング | 体力の向上 | プラス思考の動機付け |
| 9月 | 前期のまとめ | エネルギー供給機構 | 実力発揮の為の条件 |

### ・2年次　後期

| | 実技　スポーツ・体操Ⅳ | 理論1　体育理論Ⅳ | 理論2　スポーツ科学論Ⅱ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 後期キャンプ実習 | PDCA サイクル計画 | メンタルトレーニング |
| 11月 | 柔道　バスケットボール | スポーツテストの種類 | 勝利至上主義とドーピング |
| 12月 | 柔道　バスケットボール | 有酸素トレーニング | スポーツをする権利 |
| 1月 | 柔道　バスケットボール | 無酸素トレーニング | スポーツと環境問題 |
| 2月 | 後期のまとめ | SAQ トレーニング | 変わる社会、変わるスポーツ |



## 体育コース

### ・3年次　前期

| | 実技　スポーツ・体操Ⅴ | 理論1　体育理論Ⅴ | 理論2　社会体育学Ⅰ |
|---|---|---|---|
| 4月 | 体力測定　合同体操 | 地域スポーツクラブ | 競技スポーツの問題点 |
| 5月 | 合同体操　トレーニング | 総合型地域スポーツクラブ① | 勝利至上主義の変遷 |
| 6月 | 前期キャンプ実習 | 総合型地域スポーツクラブ② | 生涯スポーツの問題点 |
| 7月 | トレーニング　ラグビー | 部活動の意義 | コミュニティスポーツの形骸化 |
| 9月 | 前期のまとめ | 部活動の企画、運営、管理 | スポーツと環境問題 |

### ・3年次　後期

| | 実技　スポーツ・体操Ⅵ | 理論1　体育理論Ⅵ | 理論2　社会体育学Ⅱ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 後期キャンプ実習 | スポーツに関わる職業、免許 | スポーツと社会 |
| 11月 | 柔道　バドミントン | スポーツキャリアと職業 | スポーツと振興政策 |
| 12月 | 柔道　バドミントン | 効果的なスポーツ指導 | スポーツと経済 |
| 1月 | 柔道　バドミントン | スポーツ指導の充実 | スポーツ産業 |
| 2月 | 後期のまとめ | 後期試験対策 | 後期試験対策 |

## ファッションコース

### ・１年次　前期

| | 実技　ファッション実習Ⅰ | 理論１　ファッション理論Ⅰ | 理論２　服飾デザインⅠ |
|---|---|---|---|
| ４月 | スカート基本形制作 | 婦人服 | 服飾デザインの意義 |
| ５月 | スカート製作① | アパレル CAD | 婦人服の基本形 |
| ６月 | スカート製作② | 縫製① | スカート① |
| ７月 | スカート製作③ | 縫製② | スカート② |
| ９月 | スカート製作④ | 縫製③ | スカート③ |

### ・１年次　後期

| | 実技　ファッション実習Ⅱ | 理論１　ファッション理論Ⅱ | 理論２　服飾デザインⅡ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 胴部原型 | 作図の基礎① | 服飾の形体 |
| 11月 | ブラウス・シャツ製作① | 作図の基礎② | ブラウス① |
| 12月 | ブラウス・シャツ製作② | ダーツ① | ブラウス② |
| １月 | ブラウス・シャツ製作③ | ダーツ② | ブラウス③ |
| ２月 | ブラウス・シャツ製作④ | 切り替え線 | ブラウス④ |

### ・２年次　前期

| | 実技　ファッション実習Ⅲ | 理論１　ファッション理論Ⅲ | 理論２　服飾デザインⅢ |
|---|---|---|---|
| ４月 | 切り替え線の入った作品① | 衣服材料① | 色彩の基礎 |
| ５月 | 切り替え線の入った作品② | 衣服材料② | ワンピース① |
| ６月 | 切り替え線の入った作品③ | 繊維製品の種類と用途① | ワンピース② |
| ７月 | 切り替え線の入った作品④ | 繊維製品の種類と用途② | ワンピース③ |
| ９月 | 切り替え線の入った作品⑤ | 繊維製品の種類と用途③ | ワンピース④ |

### ・２年次　後期

| | 実技　ファッション実習Ⅳ | 理論１　ファッション理論Ⅳ | 理論２　服飾デザインⅣ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 自由作品製作① | アパレル業界① | 配色の論理 |
| 11月 | 自由作品製作② | アパレル業界② | 材質感、柄の基本 |
| 12月 | 自由作品製作③ | アパレル業界③ | パンツ |
| １月 | 自由作品製作④ | アパレル業界④ | ジャケット① |
| ２月 | 自由作品製作⑤ | アパレル業界⑤ | ジャケット② |



## ファッションコース

### ・３年次　前期

| | 実技　ファッション実習Ⅴ | 理論１　ファッション理論Ⅴ | 理論２　服飾デザインⅤ |
|---|---|---|---|
| ４月 | フォーマルウエア製作① | 着装の意義 | 衣服のはじまり |
| ５月 | フォーマルウエア製作② | 洋装 | 西洋の服飾の変遷①古代、中世 |
| ６月 | フォーマルウエア製作③ | 和装 | 西洋の服飾の変遷②近世 |
| ７月 | フォーマルウエア製作④ | 和服の製作① | 西洋の服飾の変遷③近代 |
| ９月 | フォーマルウエア製作⑤ | 和服の製作② | 西洋の服飾の変遷④現代 |

### ・３年次　後期

| | 実技　ファッション実習Ⅵ | 理論１　ファッション理論Ⅵ | 理論２　服飾デザインⅥ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 服飾手芸　編み物① | 子供服① | 日本の服飾の変遷①古代 |
| 11月 | 服飾手芸　編み物② | 子供服② | 日本の服飾の変遷②中世 |
| 12月 | 服飾手芸　刺しゅう① | 子供服の作図 | 日本の服飾の変遷③近世 |
| １月 | 服飾手芸　刺しゅう② | 子供服の型紙 | 日本の服飾の変遷④近代 |
| ２月 | 服飾手芸　染色 | 子供服の着装 | 日本の服飾の変遷⑤現代 |

## 情報ビジネスコース

### ・１年次　前期

| | 実技　コンピュータ実技Ⅰ | 理論１　ビジネス常識Ⅰ | 理論２　コンピュータ理論Ⅰ |
|---|---|---|---|
| ４月 | Word①　基本操作① | 正確な数字　電卓の機能 | ガイダンス　PC 操作基本 |
| ５月 | Word②　ビジネス文書 | 電卓　見取り算・乗算 | コンピュータの５大機能 |
| ６月 | Word③　罫線作表 | 電卓　除算・複合算 | ビジネス文書のルール |
| ７月 | Word④　諸機能の理解 | 電卓　伝票算 | ワープロ、パソコン専門用語確認 |
| ９月 | 検定　前期試験対策 | 前期試験対策 | 前期試験対策 |

### ・１年次　後期

| | 実技　コンピュータ実技Ⅱ | 理論１　ビジネス常識Ⅱ | 理論２　コンピュータ理論Ⅱ |
|---|---|---|---|
| 10月 | Word⑤　図形描画 | 簿記とは　基本語句 | ハードウェア① |
| 11月 | Word⑥　図形とテキスト | 勘定と勘定科目　仕訳 | ハードウェア② |
| 12月 | Word⑦　ワードアート | 取引の構成要素　仕訳 | ソフトウェア① |
| １月 | 検定　後期試験対策 | 総勘定元帳　転記 | ソフトウェア② |
| ２月 | 新聞作成　後期試験対策 | 簿記検定　後期試験対策 | 後期試験対策　まとめ |

### ・２年次　前期

| | 実技　コンピュータ実技Ⅲ | 理論１　ビジネス常識Ⅲ | 理論２　コンピュータ理論Ⅲ |
|---|---|---|---|
| ４月 | Excel①　導入 | ビジネス常識検定概要 | コンピュータと情報 |
| ５月 | Excel②　関数式 | B 検過去問題対策① | ハードウェア構成と役割 |
| ６月 | Excel③　検定試験対策 | B 検過去問題対策② | 出力装置 |
| ７月 | Excel④　グラフ | B 検、前期試験対策 | 入力装置 |
| ９月 | Excel⑤　まとめ | 前期試験対策 | 前期試験対策 |

### ・２年次　後期

| | 実技　コンピュータ実技Ⅳ | 理論１　ビジネス常識Ⅳ | 理論２　コンピュータ理論Ⅳ |
|---|---|---|---|
| 10月 | PowerPoint①基本操作 | 仕訳の復習 | OS とアプリケーション |
| 11月 | PowerPoint②基本操作 | 計算問題　補助簿 | ネットワークとは |
| 12月 | プレゼンテーションとは | ８桁精算表の作成① | インターネット |
| １月 | PowerPoint③まとめ | ８桁精算表の作成② | セキュリティ |
| ２月 | PowerPoint④まとめ | 簿記検定　後期試験対策 | 情報モラル 後期試験対策 |



## 情報ビジネスコース

### ・３年次　前期

| | 実技　コンピュータ実技Ⅴ | 理論１　ビジネス常識Ⅴ | 理論２　コンピュータ理論Ⅴ |
|---|---|---|---|
| ４月 | Photoshop①基本操作 | PC 会計の知識 | 情報社会の恩恵 |
| ５月 | Photoshop②各種機能 | 仕訳と起票、試算表の仕組 | デジタルとアナログ |
| ６月 | 検定、進路考査対策 | 会計処理① | 進路考査対策 |
| ７月 | Photoshop③自由制作 | 会計情報の活用① | 調べ学習と発表準備 |
| ９月 | Photoshop④ポスター制作 | 実務の知識 | プレゼンテーション技法 |

### ・３年次　後期

| | 実技　コンピュータ実技Ⅵ | 理論１　ビジネス常識Ⅵ | 理論２　コンピュータ理論Ⅵ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 検定試験対策 | 会計処理② | 調べ学習と発表 |
| 11月 | Photoshop⑤ポスター作成 | 会計処理③ | インターネット① |
| 12月 | Photoshop⑥自由制作 | 会計情報の活用② | インターネット② |
| １月 | Photoshop⑦ポスター作成 | 現代経理実務とその実態 | 情報の活用 |
| ２月 | 後期試験対策　まとめ | 簿記検定　後期試験対策 | 後期試験対策　まとめ |

## 大学受験コース

### ・2年次　後期

| | 理論１　英語総合Ⅰ | 理論２　英文解釈Ⅰ | 理論３　時事問題演習Ⅰ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 英語の基礎① | 主語、補語、目的語 | ニュースの捉え方 |
| 11月 | 英語の基礎② | it を含む構文 | 進学情報の掴み方 |
| 12月 | 英語の基礎③ | 不定詞を含む構文① | 大学入試で必要な知識 |
| 1月 | 英語の基礎④ | 不定詞を含む構文② | 大学の学部と仕事の責任 |
| 2月 | 英語総合のまとめ | 名詞、代名詞、関係詞の構文 | 志望校選択の仕方 |

| | 理論４　国語表現Ⅰ | 理論５　小論文Ⅰ |
|---|---|---|
| 10月 | 基礎文法 | 小論文とは |
| 11月 | 漢字力強化 | 文章表現 |
| 12月 | 古典文法入門 | 読解力 |
| 1月 | 漢文入門 | 作文力 |
| 2月 | まとめ | 提案力（プレゼン） |

### ・3年次　前期

| | 理論１　英語総合Ⅱ | 理論２　英文解釈Ⅱ | 理論３　時事問題演習Ⅱ |
|---|---|---|---|
| 4月 | ５文型 | 長文トレーニング① | 時事問題　日本国憲法 |
| 5月 | 時制（現在、過去、未来） | 長文トレーニング② | 時事問題　ディベート① |
| 6月 | 完了時制 | 長文トレーニング③ | 時事問題　ディベート② |
| 7月 | 時制まとめ | 長文トレーニング④ | 時事問題　ディベート③ |
| 9月 | 形容詞、副詞、比較 | 長文トレーニング⑤ | 時事問題　ディベート④ |

| | 理論４　国語表現Ⅱ | 理論５　小論文Ⅱ |
|---|---|---|
| 4月 | 文の構成 | 小論文の基礎 |
| 5月 | テーマの捉え方 | 文章表現力 |
| 6月 | 自己紹介文 | 小論文のルール |
| 7月 | 課題文記述 | 志望理由の記入法 |
| 9月 | 面接における自己表現① | 大学受験対策① |



## 大学受験コース

### ・3年次　後期

| | 理論１　英語総合Ⅲ | 理論２　英文解釈Ⅲ | 理論３　時事問題演習Ⅲ |
|---|---|---|---|
| 10月 | 不定詞、動名詞 | 長文トレーニング⑥ | 時事問題　ディベート⑤ |
| 11月 | 分詞、関係代名詞 | 長文トレーニング⑦ | 時事問題　ディベート⑥ |
| 12月 | 受動態 | 長文トレーニング⑧ | 時事問題　ディベート⑦ |
| 1月 | 総合問題演習 | 長文トレーニング⑨ | 時事問題　ディベート⑧ |
| 2月 | まとめ | まとめ | まとめ |

| | 理論４　国語表現Ⅲ | 理論５　小論文Ⅲ |
|---|---|---|
| 10月 | 面接における自己表現②<br>長文読解①<br>漢字検定学習 | 大学受験対策② |
| 11月 | 作文における自己添削<br>長文読解②<br>語彙力育成① | 大学受験対策③ |
| 12月 | 原稿用紙の使い方<br>長文読解③<br>語彙力育成② | 大学におけるレポート① |
| 1月 | 表現上のマナー<br>長文読解④ | 大学におけるレポート② |
| 2月 | まとめ | 大学における論文 |

## b．各専門コース 指導工夫点

### ［ア］ 陶芸コース

**①成形について**

・輪積み成形で形になりにくい場合、石膏型や素焼きの型だけでなく、厚めの土を乾燥させたものを型にすることでいろいろな作品に変化させ、形にしていく。
・ろくろ成形でも同様の方法で作品を器にしていく。

**②削りについて**

・削りの厚みを意識させるため、器の底に画鋲を数個突き刺し削りの最中針先にコツコツ当たった時点で削りを終了することで失敗を防ぐことができる

**その他**

・自分自身で制作のどの工程まで終了しているかを確認させ授業に取り組ませている。
・土の粘り、硬さを感じるよう促しつつ土練りや成形をさせている

### ［イ］ 絵画コース

**①素材**

・油絵具に比べ何倍も乾燥が速く、重ね塗りが可能なアクリル絵具を主な素材として取り入れることで、スピーディな制作の展開を促し、作品の質の向上につなげている。

**②制作**

・下描きをせず、キャンバスに直接絵具で描かせていくことにより、素材の特性理解と失敗等を恐れず積極的に制作に臨む姿勢の向上を図っている。この姿勢が各々の個性を伸ばすことにも反映されている。
・２年次からは自由制作を中心に授業を展開することより、自己表現に対する探求心や表現力の向上を図っている。
・完成期日を常に意識させることで、計画性の向上を促している。

**③作品鑑賞**

・画集やビデオ鑑賞等により多くの名画に触れさせることで、絵心や自分の表現の方向性を見つめる姿勢を促している。

**④個別指導**

・個別指導の充実を図り、制作上の悩みの解消や課題の克服等、個々に即した対応に時間を掛け完成につなげさせている。



### ［ウ］ 調理・製菓コース

**①調理実技**

・床と調理台にテープを貼り、足や包丁を持つ位置を視覚化し、正しい姿勢を意識させている。
・包丁を片刃にし、右利き用、左利き用の両方揃え、正しい切り方を身につけさせている。
・鍋振りの練習として、布巾を使いひっくり返す、小皿を鍋の上で回すことをしている。

**②グループワーク、授業の方法に関して**

・集団調理が基本であるが、その日のプログラム、個々の力量に合わせ、柔軟な班割りを行っている。状況によって不均等な班割り（班の人数の差、力量の差）を行い、１人ひとりが成長できるよう工夫している。
・１回の授業の中でも全員が全く同じ内容ではなく、個々のスキルに合わせたプログラムを組むことがある。（班によって、個々によって違う授業内容）
・自分の仕事、自分の班の作業が終了しても常に周囲を意識させ、終わっていない班や全体的なことに対する気遣いを常に促している。

### ［エ］ ファッションコース

**①和服製作**

・普段の授業では、洋裁のみのカリキュラムであるため、ミシンを使って簡単にできる和服の製作方法を調べ、平面構成を知る機会にした。

**②共同作品**

・全員で流れ作業のように作業をし、協力して作ることを体験させている。

**③自閉症児の手縫いの指導**

・個々の段階に合わせた練習をさせている。(印からずれる生徒:ボタンつけからヒントを得て、紙にきりで穴をあけ、そこを通していくことでまっすぐ等間隔で縫う感覚をつかませた)

**④ミシンの導入**

・26 年度初めに新型の家庭用ミシンとコンピュータミシンを購入した。裾の始末や刺しゅうをミシンで行うことができる。

**⑤被服製作**

・衣服製作では、２年生以降は囲み製図を用い、製作に時間をかける工夫を考えてきた。

**⑥服飾手芸**

・３学年は紫峰祭後から編み物、刺しゅう等の服飾手芸に取り組ませている。特に自閉症児の卒業後の余暇活動や手先のトレーニングを兼ねている。

**⑦最新のニュース**

・日頃から服飾関係の記事やニュースの情報収集をするようにし、それを授業の中で扱うようにした。

## ［オ］ 体育コース

**①１年生マネジメント理論Ⅰ**

単元：栄養学、危険予知トレーニング

基本的には保健体育同様にＩＣＴを活用した。実技と並行して体作りについて学ぶ機会を設けた。トレーニングルームにはベンチプレス MAX が掲示されていて、体重に関しても目で見える形で残すことにより成長を促していく。レポート作成もままならないことから（自主的にデータはとれない）、運動→結果記入→評価の流れを明確にした。食事の摂り方についても食事量を増やし、体重を数値化していくことで体作りへの意識を高めていく。

**②２年生トレーニング科学論Ⅰ**

単元：実力発揮の条件

競技力向上のための心理状態について学ぶ。実体験の共有をして、リラクセーショントレーニングを理論の時間に実施した。知識を得ても実践で生かさなければ身にならないといった本校生徒の特長から体感させた。心理状態の変化によりパフォー

## ［カ］ 情報ビジネスコース

**①入力ミスを少なくするための指導**

入力ミスには大きく分けて次の２つのパターンが考えられる。

その１、タイピングミスによるもの

その２、漢字が読めないことからくる誤字脱字

情報ビジネスコースでは、この ２ つの入力ミスを克服すべく、段階をおった指導をしている。

**②その１　タイピングミスによるもの**

ミスの原因は、キーの位置を正確に覚えていないことが考えられる。

そこで、対策として

・入力ミスをしないように意識を高める。（姿勢、椅子の高さなどを調整）
・原稿を画面の近くにセットし、視線の動きを最小限にする。
・キーの位置を確認しながら入力する。（ホームポジションの習得）
・適切な漢字変換を行う。（文節変換、連文節変換）
・間違いやすいキーを多く含む文章を繰り返し練習する。
・タイピング中の手の上にタオルをかけ手元が見えないまま入力する。
・２人１組になって入力する相手の指使いをチェックする。
・タイピング入力練習ソフトなどを使って練習する。

※確実なタッチタイピングを目指す。

また、指導者は机間指導を行い、正しい運指が行われているか確認する。

**③その２（漢字が読めないことからくる誤字脱字）**

ミスの原因は、漢字が読めないことである。

そこで、対策として

・漢字の読み書きの練習を継続して行う。
・新聞やインターネット上の記事等の入力練習をする。（読めない漢字は自分で調べる）
・入力した文章を自分で校正する。（校正記号も同時に覚える）
・読み上げられた文章を聞き取り入力する。（慣れてきたら徐々に読む速度を早める）

※検定取得を目標に掲げる等して、練習意欲を高める努力が必要です。入力技能を上達させるためには継続することです。「継続は力なり」。

## 4. 教育行事

### 1.1 年生研修

様々な個性を持つ生徒たちが本校に入学して行う最初の行事です。入学したばかりで何も分からず不安だらけの新入生たちは、この２泊３日の合宿で寝食を共にすることで、周りの生徒たちも自分と同じ気持ちであることを感じ、仲良くなっていきます。この友達作りを第１の目標とし、新しい友達との交流を通して友愛の心を深め、その後の学校生活をスムーズに送れるようにしていくことがこの「１年生研修」の目的です。また、本学園の中学校から入学してきた自閉的傾向の生徒たちと接し、自閉症児に対する正しい理解と、混合教育の中で学ぶことを意識させます。また、自閉症児においても、新しい環境に順応させると共に高校生年齢であるということを自覚させていきます。

更に、学校生活・武蔵野東学園・創立者の思い・学校生活のルール等についても学びます。また、教師側にとっては、この研修は生徒１人ひとりの個性をつかむための重要な機会となっています。

この２泊３日の研修で、生徒たちは新しい学校生活に向けて気持ちの上での準備ができ、目標を持って学校生活を送り始めるようになります。またこの研修によって、公立の中学校から入学してきた生徒は、これまでの自分に欠けていたものを発見したり、自分を変えようと決心したりします。入学してわずか数日のうちに、生徒自身は大きな変化を遂げるわけです。生徒にとってこの「１年生研修」は、３年間の学校生活をスタートする上で重要な行事として位置づけられています。

「１年生研修」は開校当初から行われており、初めは青梅にある学園の施設東山荘を利用した山荘合宿という形でスタートしました。その後、平成４年度にはオリンピック村で、平成５年度からは府中青年の家を使用し、平成 17 年度からは高尾の森わくわくビレッジ、平成 23 年度からは八王子おおるりの家で行われています。

研修の概要は次の通りです。

**[１日目]**

学校集合 → おおるりの家着 → 入館 → 荷物整理 → 昼食 →
第１回研修（研修の目的と予定、本学園と混合教育）→ 入浴 → 夕食 →
第２回研修（生徒としての心得、音楽研修）→ 就寝準備 → 消灯

**[２日目]**

起床 → 朝礼、ジョギング → 朝食 →
第３回研修（学校生活の流れと学校行事、体育研修、プランノート研修）→
昼食 → 第４回研修（オリエンテーリング）→ 入浴 → 夕食 →
第５回研修（各クラスでの研修）→ 研修まとめ → 就寝準備 → 消灯

**[３日目]**

起床、荷物整理、清掃 → 朝食 →
第６回研修（作文研修）→ 学校へ移動 → 学校にて２・３年生と交流給食 →
第７回研修（校長先生の話、３年生・卒業生の話、まとめ）→
各クラス HR → 下校

## 2. スポーツ大会

毎年６月に行われるスポーツ大会は、各競技や活動の中で、健常児と自閉症児が自然に触れ合い、理解し合える混合教育という本学園独自の教育実践を、自然に理解していく上でも大事な行事のひとつと言えます。

開校当初は武蔵野市内の大きなグラウンドで幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校合同で「連合体育祭」として秋に行っていましたが、開校３年目より本校単独で学園の小学校の校庭を借りて行うようになりました。１回目、２回目は雨天のため小学校の体育館で実施することになり、３回目以降は、天候に左右されない会場ということで武蔵野市教育委員会や、体育振興事業団等のお力添えをいただき、武蔵野総合体育館メインアリーナにおいて広いスペース、充実した設備の中で行っています。

「生徒の自主的な企画・運営」をスローガンに新学期早々よりプログラムの見直し、各競技のルール確認等企画運営を実行委員長、副委員長はじめ実行委員会の生徒が中心に進めています。オープニングの合同体操は、平成 16 年度より体育コースの上級生が実技の時間をつかって企画しています。障がいのある生徒たちにもできる易しい基本的な動作を中心に組み合わせ、「易しいことを確実に！」というテーマで、曲想に合った動き、動作のつなぎをどうすればスムーズにいくか等、皆で動きながら１つひとつ確認をし、創っていきます。

「学年一致団結」を目標に、各種目の競技練習をはじめ生徒の手作りによる応援合戦の練習等、生徒が壇上に立ってリーダーシップをとり練習を進めていきます。教師側は要所要所でアドバイスを行い生徒の自主性を尊重しながら足りない部分を補っていきます。

平成 17 年度、第 18 回大会より学年スローガンをプリントした学年カラーＴシャツを作製し、それを着て大会に参加するようになりました。

競技の部、応援の部共に学年対抗となっており、ともすると最上級生であり経験が豊富な３年生が圧倒的な大差をつけることが前提のように思われる大会ですが、入学して間もない１年生にとっては、在学中の完成形を間近で見ることにより、上級生の自主的な姿勢や力強いパフォーマンスに憧れ、自らの至らなさに気がつくことができる、学校生活の足掛かりになる行事となっています。保護者にとっても子どもが本校に入学するまでの様々な経緯から、今後の成長に不安な気持ちがあって当然です。しかしながら我が子と同様の特性や経験をしてきた目の前に見る上級生の姿と将来の我が子の姿を重ね合わせ、より一層本校の教育理念のもと保護者としての教育に力を注ぐ気持ちが湧く場となっています。

学年スローガンをプリントした学年カラーＴシャツ

**《スポーツ大会プログラム》平成 28 年度**

開会式
開会の辞
オープニング　合同体操
優勝旗返還
校長の話
選手宣誓

［1］むかでリレー
［2］40m走　予選
［3］３人４脚
［4］台風の目
［5］ワン・フォー・オール
［6］ 40m走　決勝
［7］一発逆転（玉入れ）（保護者競技）

ランチタイム

創業 30 周年記念イベント「ギネスに挑戦」
応援合戦
［8］綱引き
［9］雑巾がけリレー
［10］大玉送り
［11］学年対抗リレー
閉会式
整理体操
成績発表
校長講評
校歌斉唱
閉会の辞

## ３. 林間学習

１学年、２学年生徒を対象にした校外学習を夏の一大イベントとして７月に実施しています。開校当初から平成 21 年度までは臨海学習を実施していましたが、度重なる地震や自然災害の影響により、平成 22 年度より林間学習に移り変わりました。翌年の平成 23 年３月 11 日に東日本大震災が発生しました。その後の活動で生徒は身を持って「生きることの大切さ」を学ぶことになります。自然豊かな山々に囲まれ、夜になると満天の星空が広がる中での３泊４日の林間学習は普段の生活では経験することができない貴重な経験の場となっています。

目的としては、自然活動を通して心身を鍛えると共に、クラスメイトと３泊４日を共にして社会性や協調性、友愛の精神を身につけることに重点を置いています。

特に、１年生は、自閉症児と健常児がバディを組み活動をする初めての校外学習となります。バディは事前に職員の学年会にて協議を重ね決定し、通常の学校生活の中で事前交流を行ってから、林間学習に臨みます。緊張した面持ちで１年生はスタートを切りますが、２年生を良い手本にし、試行錯誤を繰り返し、お互いに理解が深まっていきます。

安全に留意しながら個々の能力に応じて活動を進めていきます。自然と共に生きることにより、日常生活でのスキルが明らかになります。

限界に挑戦する気持ちや、自然に対する畏敬の念を身につけています。

屋外炊事にてカレー作り

キャンドルファイヤー

林間学習日程表

| １日目 | ２日目 | ３日目 | ４日目 |
|---|---|---|---|
| 7:50　集合 | 6:30　起床 | 6:30　起床 | 6:00　起床 |
| 8:10　出発 | 7:40　朝食 | 7:00　１年生朝食 | 荷物移動 |
| (休憩) 談合坂ＳＡ 道の駅三富 | 9:00　ハイキング開始 | ２年生屋外炊事 | 7:00　１年生朝食 |
| 11:30　げんきプラザ着 | 11:00　ハイキング終了 | 9:00　勤労体験活動 | ２年生屋外炊事 |
| 入所式 | 11:30　１年生屋外炊事 | 10:50　体験活動終了 | 9:00　１年生 |
| 12:20　１年生昼食 | 12:00　２年生昼食 | 11:00　１年生屋外炊事 | 林間学習まとめ |
| ２年生屋外炊事 | 2:00　勤労体験活動 | 12:00　２年生昼食 | ２年生 |
| 2:20　火起こし体験 | 3:50　体験活動終了 | 2:00　勤労体験活動 | 勤労体験活動 |
| 4:20　体験活動終了 | 4:20　１年生出し物準備 | 4:00　体験活動終了 | 10:45　体験活動終了 |
| 4:30　１年生屋外炊事 | ２年生屋外炊事 | 5:30　夕食 | 11:00　退所式 |
| 5:30　２年生夕食 | 5:30　１年生夕食 | 6:30　入浴 | 11:15　出発 |
| 7:00　入浴・自由時間 | 6:20　入浴・自由時間 | 7:45　キャンプファイヤー | 12:30　昼食（万寿園） |
| ２年生天体観測 | 8:00　班長会議 | 9:00　キャンプファイヤー | 1:30　出発 |
| 8:00　班長会議 | 8:10　体育コース会議 | 終了 | （休憩）石川 PA |
| 8:10　体育コース会議 | 8:30　学習会 | 9:15　班長会議 | 3:30　学校着・解散 |
| 8:30　学習会 | 9:00　就寝準備 | 9:30　体育コース会議 | |
| 9:00　就寝準備 | 9:30　消灯 | 就寝準備 | |
| 9:30　消灯 | | 10:00　消灯 | |

## 4. マラソン大会

体力健康の維持増進と、自閉症児の体力発散を目的に、平成 10 年度よりマラソン大会を実施しています。平成 28 年度より熱中症対策で給水所を設けました。

回を重ねるにつれて、個人の記録更新（自己への挑戦）、クラス対抗の優勝に向けて一致団結すること（友人を励ます）、等のスローガンが確立されてきました。

武蔵野中央公園の自然の中で、1 周約 1 km のコースを、男子 5 周、女子 3 周走りますが、走り終えた時の達成感は何事にも代えることができません。更には、個人で速さを競うだけではなく、走ることが苦手な生徒に対して惜しみない声援を送ることや、伴走をして励ます様子が多く見られるようになったことからも、友愛精神が育くまれていることが伝わってきます。

スタート直後の様子

走っている様子

## 5. 紫峰祭

11 月 11 日は本学園の創立記念日にあたり、それにちなんで紫峰祭は毎年 11 月の上旬の週末に、3 日間にわたり実施される重要な学校行事のひとつです。初日の「創立記念式典」と「前夜祭」、2 日目の「営業日」、3 日目の「自由参観日（休校日）」の日程で行われますが、この全日程を総称して「紫峰祭」と呼んでいます。“職業教育”を教育の重点のひとつに掲げている本校では、専門コースをはじめとする学習活動や労作を重視した指導を展開しており、その為、この「紫峰祭」は単なる学園祭ではなく、学習活動の集大成として「生きた学習」を体験できる社会学習としての側面を持つ行事となっています。また、この日の営業活動は、ただ利潤追求に終始するのではなく、接客時の言葉遣いやマナー、会計等を含めた対応力を学ぶ等、社会人になるために必要な技能を身につける恰好のプレ学習となっています。

この「紫峰祭」という呼称の由来は、「紫」が創立者北原キヨが愛されたむらさき草をイメージしており、「峰」は富士山や阿蘇山のような日本を代表する雄大な山を想起させるスケールで、本学園が時代を超えて力強く雄々しい姿で存在し続けることを象徴しています。

初日の午前は、地下講堂において「創立記念式典」が行われ、厳かな雰囲気のもと、本学園の創立記念日を祝い、更なる発展を祈念します。

厳粛に行われた式典とは対照的に、午後は紫峰祭実行委員会（友愛会役員会）の生徒が中心となり「前夜祭」が行われ、華やかな賑わいを見せます。

２日目は「紫峰祭当日」となります。日頃の学習活動の集大成ともいえるこの日は、「ここコン」（本校が主催している中学生を対象にした作文コンクールの略称）の表彰を皮切りに、生徒自身が主役となり様々な活動が展開されます。各専門コースが運営するブース、茶道部の茶会、ラグビー部の店、また３学年の生徒による模擬店等の活動が行われますが、中でも地下講堂で行われる体育コースとファッションコースのステージショーは好評で、３学年の生徒が製作したウェディングドレスを披露するパフォーマンスは紫峰祭の大きな目玉となっています。

当日の様子

ステージショー

## 1. 平成 28 年度　紫峰祭における生徒の活動

**～4Ｆ～**

◆陶芸展示販売……美術室

**～3Ｆ～**

◆展示（学園紹介展示・学校紹介・専門コース・ボストン研修・
　　アートスケープ展）……１年Ａ組教室
◆ラグビー部展示・販売……１年Ｂ組教室
◆3 学年 模擬店……友愛室
◆後援会バザー……２年Ａ組教室
◆絵画・陶芸コース、美術部の展示……２年Ｂ組教室
◆むらさき OB 会の店……３年Ｂ組教室
◆30 周年記念事業スタンプラリー……１年 A 組教室

**～2Ｆ～**

◆茶道部による茶会……和室

**～1Ｆ～**

◆初級コンピュータ教室……第２コンピュータ室
◆農業従事物品販売……談話室

**～ＢＦ～**

◆ステージショー
◆レストラン（調理・製菓コース）

## 6. 合唱コンクール

昭和 62 年度（創立２年目）に、自己開示の場として、またクラスを一致団結する場として「音楽会」が始まりました。高校生年齢の生徒たちの歌うことに対する恥ずかしさを少しでも取り除くと共に、真剣に授業に取り組む姿勢を養うということがねらいのひとつでした。

平成元年度までは７月と 10 月の年２回行われており、年１回行われるようになったのは平成２年度からで、翌平成３年度には名称も「合唱コンクール」と変えました。会場として平成５年度（第 10 回）から「武蔵野市民文化会館」、平成 12 年度（第 17 回）からは「三鷹市芸術文化センター」で行うようになりました。

平成４年度から平成 19 年度まで合唱指導が全校音楽（9:00 ～ 9:20　週２回）という形で行われていましたが、現在はＣ組のみで音楽の授業を行っています。

平成 25 年度は、記念すべき第 30 回の開催にあたり、全教員から生徒・保護者へ映像でのプレゼントを贈るという試みが行われました。

友愛会音楽部生徒が合唱コンクールに向けて、教員と話し合いを持ったり、また当日のアナウンスを務める等、自分たちの手で行事運営をすることにより、生徒たちの成長につなげています。更に、友愛会音楽部以外の生徒たちも合唱コンクールに向けて、先読みをして練習の計画を立てたり、クラスの皆をまとめる力を伸ばしたりと、様々な経験をすることで「歌うこと」以外にも多くの学びを得ています。

## 7. スキー教室

スキー教室は、昭和 61 年度より尾瀬戸倉スキー場、平成元年度より奥日光湯元スキー場に変更、平成 17 年度より白樺リゾートスキー場にて実施しています。全生徒が安全に、かつ余裕を持って講習を受けることができるよう、ゲレンデや、周辺の気候、アクセス等に気を配り、開校当初より講習場所の選定をしてきました。

このスキー教室は３学年揃って宿泊を行う、唯一の校外学習です。スキーの技術習得だけでなく、規律正しい合宿生活を送るなかで、友人との交流を深める場となっています。特に３年生は学校生活最後の校外学習となるので、心から楽しんでいる様子が窺えます。

初心者でも３年継続して体験するので、ほとんどの生徒がスキーの基本技術、自然と親しむ心・知識を身につけて卒業していきます。

また、最終日には帰校途中に現地ならではの観光地を訪れ、社会科見学として、見聞を広め、地方の歴史や文化等を学ぶことに役立てています。訪れる場所は、フルーツ公園、ワイナリー、美術館、博物館等を３年間１周期として設定し、３年間で３か所見学できるようにしています。

講習の様子

スキー教室日程表

| １日目 | ２日目 | ３日目 |
|---|---|---|
| 8:00　集合 | 7:00　起床 | 6:40　起床 |
| 8:30　出発 | 7:30　朝食 | 7:30　朝食・荷物整理 |
| （休憩）　双葉 S.A | 9:00　ゲレンデ移動 | 8:55　バス内集合 |
| 12:00　ホテル着 | 9:30　講習開始 | 9:00　出発 |
| 12:30　昼食・休憩 | 11:15　講習終了 | 10:30　３年毎 |
| 2:00　開講式 | 12:00　昼食・休憩 | ・笛吹川フルーツ公園 |
| 講習開始 | 1:45　ゲレンデ移動 | ・マンズワイン |
| 4:00　講習終了 | 2:00　講習開始 | ・山梨県立美術館 |
| 4:30　入浴・自由時間 | 3:30　講習終了 | 等を見学。 |
| 6:30　夕食 | 4:30　入浴・自由時間 | 12:15　昼食 |
| 7:30　班長会 | 6:30　夕食 | 1:15　バス内集合 |
| 7:45　スキー班講習 | 8:00　班長会 | 1:20　出発 |
| 8:20　講習終了 | 8:20　閉講式 | （休憩）　石川 S.A |
| 9:00　就寝準備 | レクリエーション | 3:30　学校着 |
| 9:45　消灯 | 9:15　就寝準備 | 4:00　解散 |
| | 9:45　消灯 | |

## 8.3学年ハワイ学習

毎年５月に実施される３年次の修学旅行のことで、４泊６日間という校外行事の中で最も長い日程が組まれている行事です。それまでの校外学習で得た経験やスキルを活かすことだけに留まらず、国際的な感覚を少しでも身につけさせるべく、スケジュールの随所に海外の文化、風習等を生きた形で学習できるよう、教育的配慮、工夫がされています。また特筆する点として「バディの深化」が挙げられます。海外のホテルに２～３名１部屋で宿泊すること、加えて平成 17 年度より、自由研修、体験学習時において、「グループ行動」の形をとることになったことで、バディを中心とした生活が他の校外学習より濃厚になっています。この点から考えて、ハワイ学習は、いわば「混合教育の集大成の行事」といえます。生徒たちはこのハワイ学習で、バディの核心に触れ、より互いの絆を確認し合うことができます。

６日間、バディで生活していく過程には、楽しい経験だけでなく、予期せぬトラブルもしばしば起こります。自閉症児は様々な障がい特性を持っているため、それまでの校外学習では見せなかった面を、思いがけない形で表出することがあります。それを受け止められない健常児が、苦悩を訴えてくることも珍しいことではありません。そういった生徒に適切なアドバイスを与え、フォロー指導を施すことで、生徒は再度友達と向き合い、新たな姿勢でハワイ学習を「やり遂げる」ことになり、障がいのある友達と自己に対する新たな発見と理解につなげていきます。

ワイキキビーチにて

パールハーバー・戦艦ミズーリ見学

ハワイ学習日程表

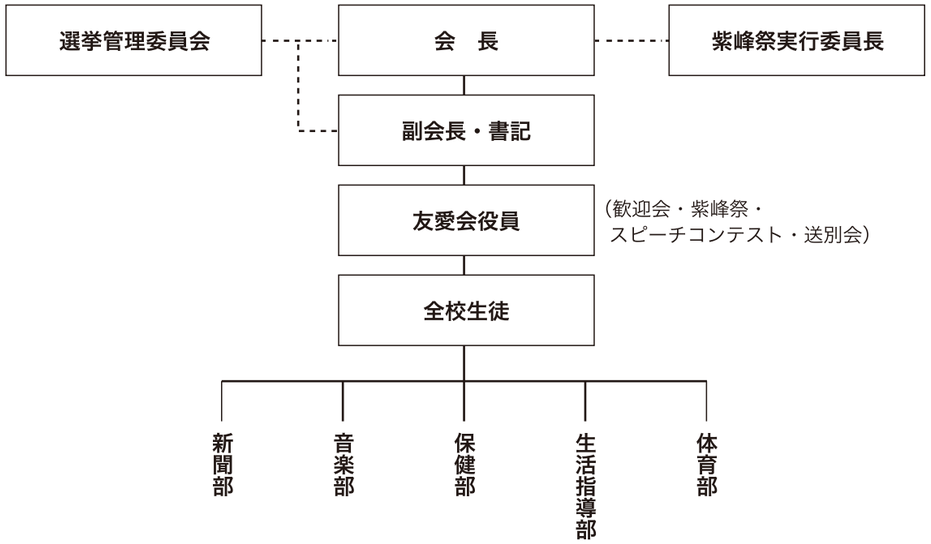
| １日目 | ２日目 | ３日目 |
|---|---|---|
| 13:00 集合 | 6:15 起床 | 6:00 起床 |
| 13:40 学校出発 | 7:00 朝食 | 7:00 朝食 |
| 16:00 成田空港到着 | 8:00 ホテル出発 | 8:40 ホテル出発 |
| 20:00 離陸 | 8:30 体験学習① | 9:20 体験学習② |
| ― 日付変更線通過 ― | （パールハーバー） | （ドール・パイナップル畑） |
| 8:30 ホノルル到着 | （戦艦ミズーリ） | 11:35 昼食 |
| 9:30 バスにて市内観光 | 12:45 自由研修① | （ポリネシア文化センター） |
| （ヌアヌ・パリ） | （グループごとの買い物・昼食） | 15:15 文化センター出発 |
| （パンチボールの丘） | ホテル・プール | （モアナルアガーデン） |
| 13:00 宿泊ホテル到着 | 17:00 ホテル集合 | 17:10 ホテル到着 |
| （パシフィック･ビーチホテル） | 17:40 ホテル出発 | 18:20 夕食 |
| 昼食 | （マジックアイランドにて | チャイナガーデン |
| （その後、近くの店にて買い物） | 夕食、BBQ） | 20:20 ホテル着 |
| 16:00 ホテル内自由行動 | 19:45 ホテル到着 | 21:30 消灯 |
| 18:30 夕食 | 21:30 消灯 | |
| 20:30 消灯 | | |

| ４日目 | ５日目 |
|---|---|
| 6:00 起床 | 6:00 起床 |
| 7:00 朝食 | 6:30 朝食 |
| 9:30 ホテル出発 | 7:30 ホテル出発→空港へ |
| 9:45 体験学習③ | 10:58 離陸 |
| （ハワイ大学カピオラニカレッジ） | ― 日付変更線通過 ― |
| 12:05 ハワイ大学出発 | ６日目 |
| 12:20 自由研修② | 14:55 成田到着 |
| （グループごとの買い物・昼食） | （リムジンバスにて帰校） |
| 15:00 ビーチ移動 | 17:30 学校到着 |
| （ワイキキビーチにて海水浴） | 17:55 解散 |
| 17:10 ホテル到着 | |
| 18:30 夕食 | |
| （夕食後、レクリエーション） | |
| 21:30 消灯 | |

## 5. 友愛会活動

### 1. 友愛会組織

創立者北原キヨは、混合教育を実施するにあたり、生徒同士が互いを仲間として受け入れ、相手の立場になって考え、協力し合う心、つまり、「友愛の心」を育むことに力を注ぎました。本校ではこの「友愛の心」を土台として全校生徒の活動を組織し「友愛会」と称して、運営しています。




※会長及び副会長は各１名で校長が任命し、任期は１年としていましたが、平成11年度から選挙管理委員会が発足され全校生徒の選挙による投票の結果、三役（会長、副会長、書記）を決定する形となりました。

※役員は各クラス２～４名を学級担任が任命し、任期は１年としています。

### 2. 歴代の友愛会会長

| | | | |
|---|---|---|---|
| 昭和 63 年度 | 井上　利貞 | 平成 15 年度 | 森田　正樹 |
| 平成　元年度 | 坂元　克滋 | 16 年度 | 杉村　海里 |
| 2年度 | 石川　勝治 | 17 年度 | 浅利　彩乃 |
| 3年度 | 吉野　康之 | 18 年度 | 高山　和也 |
| 4年度 | 田中　秀樹 | 19 年度 | 栗原　啓 |
| 5年度 | 深井　勇一 | 20 年度 | 杉林　優子 |
| 6年度 | 庭野　嘉照 | 21 年度 | 畑　　聖弥 |
| 7年度 | 菊池　伸宏 | 22 年度 | 榊原　真里 |
| 8年度 | 佐藤　和敏 | 23 年度 | 木﨑　嵩 |
| 9年度 | 矢波　賢太 | 24 年度 | 栗原　なつ未 |
| 10 年度 | 小川　晃 | 25 年度 | 田口　翔 |
| 11 年度 | 新名　弘崇 | 26 年度 | 鹿島　茉莉 |
| 12 年度 | 中川　勉 | 27 年度 | 下山　千春 |
| 13 年度 | 小川　えみ | 28 年度 | 朝比奈　更紗 |
| 14 年度 | 森田　正樹 | | |

### 3. 役員の活動内容

クラスのまとめ
友愛会主催の新入生歓迎会及び送別会の企画・運営
生徒手帳・敬語テキストの朗読・実践
自己開示スピーチコンテストの運営
年に２回連合友愛新聞（「友愛のつばさ」）発行
紫峰祭実行委員会兼務
校内ルールの周知

### 4. 各部の活動内容

各部員の任期は半年とする。ただし音楽部は合唱コンクールが終わるまでとし、友愛会役員と生活指導部は通年とする。

体　育　部：体育授業準備、スポーツ大会及び球技大会の企画の運営、体育器具管理
新　聞　部：平成２年に発足し、行事毎に友愛新聞を発行
音　楽　部：合唱コンクール企画・運営、学級内歌唱指導
保　健　部：校内美化、清掃用具の管理、身体計測の補佐
生活指導部：校内風紀指導、校外学習レクリエーション、身だしなみのチェック

### 5. 連合友愛会

平成６年度に、当時の友愛会会長が、阪神･淡路大震災への義援金について、幼･小･中に呼びかけたことをきっかけに、学園内に幼・小・中・高連合の友愛会を作ったらどうかという声があがり、連合友愛会が発足されました。そして各園校の様子を学園内の１人ひとりに知らせるために、平成７年３月に連合友愛新聞の創刊号が発行されました。その後､新聞のタイトルを募集し選考した結果｢友愛のつばさ｣に決定しました。第２号からはこのタイトルが用いられ、現在は 10 月、３月の年２回発行し第 53 号に至ります。各園校の取り組みや行事の様子等を紹介しています。

また、連合友愛会としてユニセフ募金や震災の義援金、エコキャップの回収等にも積極的に取り組んでいます。

### 6. 友愛会予算会議

平成 15 年度より、友愛会や各クラブの年次教材で必要なものなどは、１年間の予算を決めて会議に請求し、友愛会から予算を出していただく形になりました。これにより、消耗品以外のものが、計画的に購入できるようになりました。

## 6. 部活動における混合教育

本校の部活動は、初年度の男子４人の有志によるバスケットボール部から始まりました。翌年度からは、学校生活のリズムを整えにくい多くの生徒のことを考えて、生活リズムを整え規則正しい生活を維持させていくことを目的に、部活動は全員必修となりました。数年後、生徒の生活リズムも落ちつき、平成元年の２学期より、より強い部活動運営へと移行してきています。体育系の部活動では、全国高等専修学校体育大会や東京都高等学校体育連盟（以下、「高体連」と書く）の大会へ参加し、勝利を収めることが目標となってきました。ことに、文化教養高等課程に体育科が設立された平成 15 年度ごろからは、公式の試合で本校の生徒が活躍する姿が目立つようになりました。また、健常児のみならず自閉症児の活躍も目立ってきています。

現在体育系の部活動は、ラグビー部、陸上部、卓球部、野球部、文化系の部活動は、茶道部､コンピュータ部､美術部があります。各部活動の紹介と活動の工夫点､エピソードについて以下に紹介します。

### 1. ラグビー部

（平成 12 年に創部　部員数 80 名、そのうち障がいのある生徒 45 名）

当初は少ない部員の中で、日本大学鶴ヶ丘高等学校との合同チームでの試合参加でしたが､現在では着実に力をつけており､都内の高体連の大会でも勝利を収めています。

**・活動の工夫点**

ラグビー部には試合に出場し勝利を目指す部員と主に障がいのある生徒でコンタクトプレー等は行わず、集団での活動を通して様々なことを学んでいく部員がいます。部活動の練習時間、合宿等は全て一緒に行っていますが、コンタクトプレーや試合形式の練習の際には別の練習を行います。また試合の際にボールボーイ､ウォーターボーイ等、試合運営の裏方の役割を担い、合宿では洗濯や清掃、各部屋のシーツ交換等も行い、卒業後の就労を見据えての活動も行っています。

**・エピソード**

全国大会にも出場していた強豪校との練習試合の時、得点を取られるたびにウォーターボーイをしている障がいのある生徒たちがハーフライン付近からインゴールまでの約 50m、試合に出ている部員へ水を渡しに全力疾走で来ます。100 点以上取られているので何回も何回も水を運びます。その当時のキャプテン（健常児）はその姿を見て「トライ取られたら彼らが走んなくちゃいけないから､タックル入らなくちゃと思ったやつがいるのかよ！」とチームを鼓舞していました。

## 2. 陸上部

（平成４年創部　部員数 24 名、そのうち障がいのある生徒 18 名）

最初は駅伝部として発足しました。その後、大会出場時のみの部活動から常設の部活動になり、名称も陸上部と改め好成績を修めています。また、平成 14 年度より高体連にも加入し、多くの大会に出場することで、経験の幅が広がっています。

平成 23 年度には、全国高校学校駅伝競走大会東京都予選において 107 校中 18 位、また、全国高等専修学校体育大会駅伝競走男子の部において優勝９回を記録しています。

**・活動の工夫点**

陸上のトレーニングを行うにあたって、生徒の主体性を尊重しています。練習内容は、主将、副主将が話し合って決め、顧問に確認し取り組んでいます。競技としては個々の能力によるところが大きいですが、健常児と障がいのある生徒が一緒に練習し、常にチームを意識すること、いつも周囲に気を配りながら協力して練習することで協調性が養われています。

通常の練習以外に、週に１回スキルアップデイを設けています。これは以下のことを目的として、グループワークにより、社会に出るために必要なスキルを身につける内容となり、健常児と障がいのある生徒が声をかけ合うことでお互いを高め合っています。

①協調性を身につける。

②グループリーダーを中心に活動し、責任感を持たせる。

③指示理解力をつけさせる。

④組織的に活動することを意識させる。

以上により、自己中心的な考えから周囲（チーム）を意識した行動がとれ、それぞれの自分勝手な行動が減り声を掛け合うようになり、コミュニケーション力も向上しています。

**・エピソード**

持久走の練習時、障がいのある生徒が最後まで諦めずに走っている姿を見て、健常児も頑張ろうと意識するようになりました。

スキルアップトレーニング時、障がいのある生徒が正確に 100 枚の紙を計数する姿を見て、自分（健常児）も正確に計数しようと丁寧に行うようになりました。

健常児が大会で自己ベストを出したことに感化され、その後に参加した障がいのある生徒も自己ベストを出すことができました。

## 3. 卓球部

（平成３年創部　部員数 34 名、そのうち障がいのある生徒 31 名）

卓球部では、試合に参加する生徒としない生徒がいます。活動前半は全員一緒に練習を行い技術の向上や筋力アップを図ります。過去、全国高等専修学校体育大会卓球の部においてシングルス優勝５回、団体優勝５回という結果を残しています。

**・活動の工夫点**

健常児と障がいのある生徒がそれぞれの個性を互いに理解し合い、共に向上すべく練習に取り組んでいます。そして、練習の後半は試合に出る生徒を中心に活動を行い、新たな技術の習得を目標に練習をしています。

**・エピソード**

障がいのある生徒が苦手とするサーブやレシーブを、健常児が １つひとつ丁寧に教えました。また、健常の先輩の生徒が後輩たちの苦手とするところを細かく教えていたことを受け、その更に後輩に積極的に指導を行った生徒も多くいます。

## ４. 野球部

（平成３年創部　部員数６名、そのうち障がいのある生徒４名）

毎週月火木金の４日間を原則的な活動日としています。

**・活動の工夫点**

経験者､初心者にかかわらず「野球が好き」ということで入部してくる部員が大半で、今年から室内でも練習ができるトスマシンと電動バッティングマシンを使って、雨の日でもホール内でバットを振り日々練習に励んでいます。「本校生徒としての自覚をもち、野球の基礎練習（特に最も興味関心を持つバッティングの基礎）」を通じて「協調性や他を思いやる精神（友愛精神）を養い、校訓の追求」を目指し、活動しています。

過去、全国高等専修学校体育大会では　優勝４回、準優勝６回、全経関東大会では、優勝３回、準優勝 10 回という結果を残しています。

**・エピソード**

練習中は健常児と障がいのある生徒がペアになってキャッチボールを行います。入学当初１ｍも投げることができなかった障がいのある生徒も、根気強くキャッチボールに付き合ってくれる健常児のおかげで、１年後には５m以上投げることができるようになり、３年生になる頃には部員全員が 10m以上投げることができるようになりました。

## ５. 茶道部

（昭和 62 年創部　部員数 12 名、そのうち障がいのある生徒９名）

当初は裏千家でしたが、平成元年度より担当が代わり、表千家の稽古をしています。和菓子作りも行い紫峰祭では茶会を催しています。過去、外部茶会として、神代植物公園にて野点、武蔵野文化会館にて稽古茶会に参加しました。

**・活動の工夫点**

活動は、和室でのお点前のお稽古と調理室での和菓子作りを中心に行っています。

毎年開催している紫峰祭の秋季お茶会では、２、３年生が中心となりお茶を点てます。1 年を通してお点前を健常児が班長となりお稽古し、お抹茶の量とお湯の温度等、おいしいお茶を点てるためにコツをつかんでいます。その際、障がいのある生徒のお稽古練習は､割り稽古とお点前を連続して入れる等の工夫をしています。こうすることにより、覚えたことが忘れにくくなります。また、お茶だけでなく作法（立ち居振る舞い）についても、美しくそして凛として見えるように意識しながら活動しています。

**・エピソード**

紫峰祭のお茶会では、お客様に随時お茶を出すお半東という役目がありますが、それを健常児と障がいのある生徒がペアで行うことにより、お茶を出すタイミングや座る位置等臨機応変に行うべきところを一緒に行います。それによりお互いに良い影響を与えています。

## ６. コンピュータ部

（平成元年創部　部員６名、そのうち障がいのある生徒５名）

最初はワープロ部として発足し、現在は名称も改めコンピュータ部となり活動しています。情報ビジネスコース以外の生徒でもコンピュータに親しみ検定を受けやすくしています。

**・活動の工夫点**

ある程度コンピュータに親しんできた生徒が集まっていますが、これまで知らなかった使い方を知るというところで、情報ビジネスコースの生徒が他のコースの生徒に、また、健常児が障がいのある生徒に教えるという場面が多くなります。さらに、障がいのある生徒の中には耳の不自由な生徒もいたりと、色々な場面で配慮する必要があり、それが健常児にとっても“学び”となってきました。

**・エピソード**

障がいのある生徒の中にバスが好きで、パソコンを使って色々なバスの絵を描いているファッションコースの生徒がいました。３年間描いて保存し続けてきた数々の画像を印刷し、作品集「私とバス」としてコンピュータ室前廊下の壁面に貼り出したときは本人も誇らしげで、またコンピュータ部の生徒はもちろん、他の生徒たちもその味わい深い絵に見入っている様子が窺われました。その生徒は、検定資格取得のために練習を重ね、日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定試験４級にチャレンジしました。結果は見事合格、発表の際は練習にかかわって彼にワードの操作を教えてきた生徒、他の生徒も、その場にいた全員が祝福していました。

## ７. 美術部

（平成２年創部　部員数 14 名、そのうち障がいのある生徒 10 名）

最初はまんが部として創部、その後発展し美術部となりました。まんが部の頃は、思い思いのストーリーでまんがを描き１冊にまとめて学園祭に出しました。美術部になってからは、各自好きな作品を創造し楽しんでいます。

**・活動の工夫点**

美術部において個人制作は、自分の希望する制作を１日２時間行っています。キャラクター、電車、動物、まんがを描く生徒や陶芸を行う生徒、コンピュータグラフィック制作をする生徒、プラモデルを組み立てる生徒、パズルを組み立てる生徒等様々ですが、そんな中でお互いの作品に興味を抱き積極的な会話が生まれています。会話する姿には、健常児、障がいのある生徒といった垣根は全く存在せず、自然な交流が展開されています。また、電車しか描かなかった生徒が湯呑を制作する等部員たちの趣味や関心の幅が広がっています。

紫峰祭の展示に向け、共同制作に取り組ませることで、ひとつの目標に向けて協力し合う心を育てる機会としています。コミュニケーションを深め、互いを認め切磋琢磨し合う姿勢が向上しています。また、部長・副部長・書記の選出は、障がいのある生徒も含め部員全員の中から、全員の投票によって決めることで、日常の活動の中で心のバリアフリーを意識させた環境作りを心掛けています。そのことにより、近年は出欠確認や活動計画に対して綿密な行動を有する障がいのある生徒が部長を務めています。

**・エピソード**

紫峰祭展示作品のＮゲージジオラマ制作に取り組んだ際、鉄道やＮゲージの知識に長けた障がいのある生徒が、制作活動の中心となり基本的なノウハウを部員に教える等、個性として持っている力を十分に発揮し、周囲から認められると共に自己の成長につながりました。

## 7. 特別活動

### 1. 自己開示スピーチコンテスト

本校では開校当初から、自閉症という障がいを抱えた生徒はもちろんのこと、不登校や学習面で振るわなかった生徒たちを積極的に受け入れてきたことは言うまでもありませんが、こういった生徒たちの内面をオープンにし、成長につなげていく効果的な方法はないものか、模索を繰り返してきました。そこで本校の教育の重点に「自己表現力の強化」という大きな柱となる項目が掲げられたのと時期を同じくして、「表現発表大会」という行事を新たに教育行事として加えました。

この行事は、各自自由なテーマで全校生徒の前で制限時間内に自己表現を行うもので、実施当初は各学期末、合計年３回（当時は３学期制）、各クラスから任意に選ばれた代表生徒が競い合う形をとっていました。当時は「予選会」というものがなく、それぞれの大会が独立しており、大会毎に優勝者が選ばれていました。また現在のスピーチコンテストと大きく異なり、原稿の持ち込みが許されていたことも、当時の特色として挙げることができます。その後、年３回の大会では参加できる生徒が限られてしまうため、１人でも多くの生徒にこの行事に参加できるチャンスを与えようという声が上がり、検討を重ねた結果、現在では年間７回の予選会を行い、年度末の本選で各予選会を勝ち抜いてきた生徒たちが優勝を競う、という形態に発展しました。原稿の持ち込みも不可になり、言い換えれば原稿に縛られず自由に自己表現する、いわゆる「スピーチ」をするという主旨に変わり、それに伴い、行事名も「自己開示スピーチコンテスト」と改称され、本格的な通年行事として確立されました。スピーチのテーマは生徒によって様々で、学校生活のこと、自分の悩みを吐露する内容から、自分の趣味について語ったものまで、非常に多岐にわたり、最近では歌や物真似を披露するようなものも増え、従来の静粛とした行事から、オープンな雰囲気が漂う彩り豊かな行事へと変化してきています。

またこの行事では、C組の生徒の発表も大きな見所となっています。それぞれの生徒の個性を活かしたユニークな内容や表現が披露されるだけでなく、言語面でハンディのある生徒は、舞台上でホワイトボードを使った板書で自分の伝えたい内容を表現するといったものも見られます。またバディの生徒がスピーチのアシストをするといった場面も見られ、ここでも混合教育の一端を見ることができます。

主催を友愛会役員会が行い、スピーチ台やイス等の会場設営や時間管理、司会進行、結果集計等は生徒によって行われ、自主性を育む場としても機能しています。



参加者は皆一様に精一杯自己アピールをし、成功した生徒も失敗した生徒もそれぞれ結果を正面から受け止め、自己を見つめ直す、また聴く側の生徒も、スピーチする生徒の新たな面を発見し、共感すると同時に自己と照らし合わせることができるようになってきました。この行事は「自己と対峙する」契機となる重要な行事として、今後更に発展していく可能性を秘めていると言えるでしょう。

**【過去の生徒のスピーチ（抜粋）】**

世の中には、こんな人がいます。子供の頃に、将来の夢を持っていたけど、それが叶わなかった人。子供の頃は夢を持っていなかったけど、大きくなっていくにつれてだんだんと自分の夢が見つかって、その夢を叶えた人。一見対照的に見えますが、１つだけ共通するところがあります。どちらもスタートが「夢を持っていない」というところから始まっています。同じスタート地点から、夢をつかむためには、何が重要なのでしょうか。夢をつかむために、すべきこと。信じることや努力することなど、様々なことがあると思います。「ただひたすらチャンスを待つ」という選択肢も、あるかもしれません。しかし、それらの方法を試しても、なかなか夢を叶えるチャンスが無かったり、ましてや叶えられないままその夢を諦めてしまう、ということもありえます。

その理由の多くが、「壁に突き当たった」だったり、「様々な事情であきらめざるをえなくなってしまった」という理由でしょう。特に、「壁に突き当たること」は多くの人が経験する、もしくは経験したのではないでしょうか。様々なリスクがあるから、叶えたい夢がない。今まで叶えたい夢がなかった私は、この１年を通し、本気で悩みました。

そんな時に、これまでの自分を変えてくれた出来事がありました。職場実習です。通勤や業務にだいぶ慣れてきたころ、自分の新たな課題が見つかり、少し落ち込んでいたときに、職場の方がこう声をかけてくださいました。「失敗した時にそこで終わりではなく、その次を意識すること、そうすれば、君の夢はきっと叶うよ。何事も続けることが大事だ！」

これまで失敗を長い間引きずることが多かった私は、この言葉を聴いてから、失敗したことを引きずらず、次に向かって仕事に取り組めるようになりました。（中略）

「人生はチョコレートの箱。開けてみるまで分からない」という、有名な映画「フォレスト・ガンプ」のキャッチコピーがありますが、まさしく、「最後まであきらめない人」こそが最終的に夢を叶えられるのではないでしょうか。私の夢は、誰からも尊敬される社会人になることです。自分の夢の実現に向け、これからも努力していきたいと思います。

## 2. 聞き取りコンテスト

近年、コミュニケーション能力の必要性が話題になり、コミュニケーションに自信をもてない若者が問題視されるようになっています。本校にも趣旨をおさえて話を聞き、理解することが難しい生徒が多く入学してくる現状があります。このような生徒の苦手意識を払拭させ、話を聞く習慣をつけると共に、コミュニケーション能力の一層の充実を期待し、「聞き取りコンテスト」が平成 20 年度から始まりました。その目的は、人と人とのコミュニケーションには欠かせない相手の話に耳を傾け、その内容を正しく聞き取り、理解する力を身につけ、向上させることです。

聞き取りコンテストは、問題文を校内放送で流します。生徒は聞き取った内容をメモに残し、その後読み上げられる問題に答えます。問題文は、時事問題を中心に生徒にとって関心のある事柄から題材を見つけています。その中で、生徒には話のスピードについていくこと、要点をしぼってメモに残すこと等が求められます。1回 20 点で行われ、年間5回の合計点で最も点数の高かった生徒を年度末に表彰し、生徒に意欲を持たせるようにしています。

聞き取りコンテストが始まった当初は、1回目から徐々に難易度を高くしていく形式をとっていました。1回目は 100 文字程度の短文から出題するという簡単なものを行い、最後の5回目には 800 文字程度の長文から出題するという形です。短文から始めることで、生徒がメモを取るポイントを自ら考えられるようにし、聞くことを諦めてしまわないようにすることを目的にしていました。しかし、この形式で行うと、年間5回の中で、個人の成績の動向が把握できないという欠点があり、平成 26 年度から5回を同じレベルに変更しました。そうすることで個人の聞き取り能力の成長を確かめる機会としての目的も加わりました。

またC組の生徒の聞き取りコンテストは、より実践的な内容で実施されています。例えば、職場実習の面接を想定し、学校名や担任の名、出勤経路等の質問に答えたり、多くの物の中から指示されたものを持ってきたりするといったものです。この内容を年間を通して行うことで、担任がクラスの生徒の課題をより明確に把握し、日々の指導に役立たせることで、生徒が話を正しく聞く力を養っています。

聞き取り能力は、コンテストだけで向上するものではありません。聞き取りコンテストをきっかけにし、自分の課題を把握し、日々の研鑽を積むことで改善していきます。個人が自己の課題を正面から受け止め、改善していくために、普段のホームルームでもメモを取りながら聞く生徒が増えており、必要な情報を得ようとする姿勢が見受けられます。聞き取りコンテストは日々の努力の成果を測るものさしになっています。



**【問題文　例題（平成 26 年度第2回問題より）】**

FIFA ワールドカップは、国際サッカー連盟が主催する、ナショナルチームによるサッカーの世界選手権大会です。サッカー大会の最高峰と位置付けられ、テレビの視聴者数ではオリンピックを凌ぐ世界最大のスポーツイベントのひとつです。しかし、ワールドカップに出場する条件として、国別で予選を突破しなければいけないため、毎回数多くのスター選手が出場できていないという点から、クラブチームのコンペティションである UEFA チャンピオンズリーグの方がレベルが高い大会とも言われています。2014 年ブラジル大会は6月 12 日から7月 13 日まで行われ、優勝国はドイツでした。5大会連続5回目の出場となる日本は、コロンビア、ギリシャ、コートジボワールと対戦するグループCでギリシャ戦は引き分け、コートジボワール戦とコロンビア戦は負けてしまいました。決勝リーグに進むことができず、日本代表は予選リーグ敗退に終わりました。日本代表のザッケローニ監督はベースキャンプ地で記者会見し、退任する意向を表明しました。「今回のメンバーは私が選び、戦術も私が決めた。責任は全て私にある。日本代表を離れなければならない」と、厳しい表情で語りました。現在、後任には世界の名だたる監督が上がっており、2018 年のロシア大会、2022 年のカタール大会の日本代表の活躍が楽しみです。

**【問題（解答）】**

①FIFA ワールドカップを主催しているのはどこの団体ですか。
（国際サッカー連盟）

②ワールドカップに出場するにはどのような条件が必要ですか。
（国別で予選を突破しないと出場できない）

③2014 年ワールドカップ　ブラジル大会は何日から始まりましたか。
（6月 12 日）

④グループCは日本、コロンビアとギリシャあと1つはどこですか。
（コートジボワール）

④2018 年のワールドカップはどこで開催されますか。
（ロシア）

### 3. 就職模擬試験

平成 15 年度から行っていた「一般常識対策試験」を平成 27 年度より「就職模擬試験」に変更しました。「一般常識対策試験」は、４月、５月、６月、１月と年４回実施（1 年生は平成 26 年度より５・６・１月の３回。３年生は４・５・１月の３回）していました。「就職模擬試験」は、全学年５月、６月、11 月の年３回実施しています。試験内容は、就職試験に出題されるような一般常識的な要素を含んだものです。

### 4. スキルチェック

本校は社会と直結している学校であり、多くの社会生活技術（ライフスキル）を身につけて卒業させたいと願っています。特に自閉症児についてはその都度必要とされるスキルチェックを実施しています。計数（紙・封筒）、リンゴの皮むき、雑巾の絞り方、清掃用具の使い方等実生活で、また、就労する際に必要と考えられるスキルについてクラス担任が生徒１人ひとりの力を把握するために行っており、「ライフスキルチェック表」を作成し、ホームルームの時間等に指導しています。また、基本に返り、食事の方法・着替えの方法・トイレマナー等の見直しとともに、汗をかいた後の処理や、起床・就寝・睡眠時間の指導等生活リズムの見直しも行い、健康管理へのアドバイスを行っています。また、家庭においても学校で行っている内容や家事の手伝いを日常生活に取り入れていくように促しています。

### 5. 交流授業

#### a. 美術国際交流

平成７年度、調布のアメリカンスクール・イン・ジャパンとの美術交流授業をきっかけに、インターナショナルスクール美術展「アート・スケープ」に日本校（ゲストスクール）として参加することになりました。以来 20 年間毎年インターナショナルスクール美術展に参加させていただいています。平成９年度よりその参加校の中の聖心インターナショナルスクールとの交流が始まりました。主な目的は「国際性豊かな人間を育てる」「美術を通して異文化を学ぶ」等です。毎年 12 月と１月に聖心インターナショナルスクールと本校を行き来する美術交流を行っています。交流の内容は廃材・雑誌の切り抜き等を持ち寄ったコラージュ、同時多発テロの年には世界平和をテーマにした共同作品、イラク戦争で多くの子供たちが犠牲になった年には「こどもの権利（Children’s Rights）」をテーマに、その他五大陸をイメージした物、四季をテーマにした作品・昔話をテーマにしたジオラマ制作等を行いました。「日本文化を学ぶ」という趣旨で凧作り、絞り染め等も行いました。また、昼休みには本校茶道部のお点前で、お茶会の体験をしてもらっています。聖心インターナショナルスクールへうかがったときには、陶芸や共同作品などの美術交流の他にミュージカルのリハーサルを拝観したり、ワン・ワールド・ディという世界 50 カ国以上におよぶ民族衣装を身につけたステージでのパフォーマンスを見学させていただき、とても貴重な異文化体験をさせていただいています。

美術国際交流　集合写真

美術国際交流　茶道部 お点前

#### b. 家政交流

平成 12 年度より八王子にある大竹高等専修学校と本校ファッションコースの生徒との家政交流授業を行っています。主な目的は「専門的知識と技術の向上」「作品を通して生徒の意識向上を図る」「共同制作・作業により、生徒間のコミュニケーションを図る」です。大竹学園では毎年「針供養」を行っており、この針供養にご招待いただいています。この針供養とは、折れた針を豆腐や蒟蒻に刺して紙に包んで海に流したり、土中に埋めたりして、針を供養する年中行事のひとつです。明治の中頃までは、全国的に行われた行事ですが、今は裁縫師や服飾関係の学校等の行事になっています。

針供養の様子

## 6. ボランティア活動

本校の混合教育や職業教育の生活環境に日々身をおき生活を送ることで、生徒たちには友愛や奉仕の精神はごく当たり前のこととして浸透しています。生徒たちにとってボランティアという言葉自体が特別なものではなく、大変身近なものになっています。このような環境の中、学校内外で行われるボランティア活動に積極的に参加する生徒は大変多く、その活動内容も様々です。本学園内のボランティア活動では、交流活動・連合友愛会活動に発展した幼稚園のお芋掘りや盆踊りの手伝い等もあります。また、ボランティア活動は自己開示を図る良い機会の場であるばかりでなく、実践を通して福祉や幼児教育に対する関心を深める機会にもなっています。ボランティアの経験を機に将来の職業を福祉や保育に見出す等、進路に反映されるケースもあります。ここで年間の主なボランティア活動を紹介します。

5 月：むらさき親子運動会（自閉症児の親子運動会）補助

7 月：武蔵野東幼稚園盆踊り補助

8 月：夏！体験ボランティア（武蔵野市のボランティアセンター主催）

10月：武蔵野東幼稚園お芋掘り手伝い

その他、年間を通して本校のオープンスクールや体験入学のサポートにも積極的に参加しています。

## 7. ボストン研修

本校開校の翌年、ボストン東スクール（以後 BHS と略します）の開校初年度より「ボストン短期留学」という名称で始まりました。当初の目的は BHS のスタッフの補助として働き、そして主な役割として、健常児が 1 人もいない BHS で混合教育の基盤を作り上げることでした。BHS の基盤が固まり始めると、その目的に幅を持たせるようになり、自身の生活自立を第 1 目標にする生徒や、親元から離して生活させた方が効果的な生徒も行かせるようになりました。そして平成 5 年度の第 7 期生より「ボストン短期留学に関する規定」を設け、希望者の中から職員会議で選考された生徒が行けるものになりました。更に平成 14 年度より「ボストン短期留学」から「ボストン研修」に名称を変えました。また、平成 15 年度の 2 学期制導入に基づき、第 17 期生より各期最大 2 名ずつ、年間 4 名が参加できるようになりました。そして、平成 16 年度の候補生から 1 期が 6 月～ 8 月、2 期が 10 月～ 12 月と渡米のおおよその時期が確定しました。現在では、「ボストン東の園児、児童、生徒と積極的に接し、良き手本となって互いに高め合うこと。」「米国の文化・風俗・習慣に触れ、体験をもって自己の見聞を広める。また英語の能力を高めること。」を主な目的として、BHS の職員と連携を取りながら、研修生個々の成長を促せるように研修が行われています。



### ボストン研修生一覧

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 期生 | 指田直人 | 井野光章 | 井上利貞 | 八木　豪 | 台　雅彦 |
| | 白井美津代 | 西田　綾 | 押鴨邦弘 | | |
| 2 期生 | 関谷　寿 | 宮内寛文 | 三明　寛 | 熊倉隆之 | 山本勝也 |
| 3 期生 | 安達功太郎 | 曽山祐輔 | 鈴木直之 | 今村尚平 | 竹内由安 |
| 4 期生 | 小泉高時 | 門伝直人 | 北川浩一 | 赤松正弘 | 土屋信一 |
| | 小林慎一郎 | 並木高宏 | 大島善雄 | | |
| 5 期生 | 高野次郎 | 金子広樹 | 古谷　正 | 肥田埜幸子 | 加瀬恵美 |
| | 藤井直子 | 鴫原康雄 | 磯見城次 | 浜野和江 | 森本早苗 |
| 6 期生 | 吉良由美子 | 木脇裕美 | 中村めぐみ | 渡辺智子 | 関　孝治 |
| | 高橋洋郎 | 山本敦子 | | | |
| 7 期生 | 荒井亜紀 | 榎本のどか | 加治政高 | 勢登啓之 | 植前晶子 |
| | 最上友希江 | | | | |
| 8 期生 | 菊池伸宏 | 三重野拓 | 湯沢　剛 | 小島充史 | 天野美穂 |
| 9 期生 | 阿部雅也 | 佐藤和敏 | 石間哲史 | 北村裕一郎 | 門未那子 |
| | 下山和子 | | | | |
| 10 期生 | 八並佑太 | 斉藤恵子 | 三浦　愛 | 八並紗智子 | 高橋香織 |
| | 小林舞子 | | | | |
| 11 期生 | 斉藤涼子 | 村内愛理 | 風間　香 | 末永慶子 | 片山直子 |
| | 島田安希子 | | | | |
| 12 期生 | 菊池光一 | 土井　建 | | | |
| 13 期生 | 五十嵐あゆみ | 川満祥子 | 垰田浩一 | 福永賢介 | |
| | 岩本瑞樹 | 細田美穂 | 水野麻美 | | |
| 14 期生 | 廣谷健大 | 星野英之 | 小川えみ | 大貫曜子 | |
| | 菅原沙織 | 堀江静香 | | | |
| 15 期生 | 佐藤智子 | 薫森三悦子 | 山下和美 | 長澤美智子 | |
| | ※新保　巧 | ※本多　光 | ※高柳明子 | （※米国同時多発テロの影響で中止） | |
| 16 期生 | 森田正樹 | 矢澤　豊 | 平兮裕太 | | |
| 17 期生 | 田中健一 | 藤本圭輔 | 中島徹子 | 杉村海里 | |
| 18 期生 | 垰田奈津子 | 服部いぶき | 岡村圭一郎 | 納谷正洋 | |
| 19 期生 | 佐藤恵子 | 坂本奈津季 | 家塚義之 | 水野耕太 | |
| 20 期生 | 目崎拓美 | 三上直人 | 大柴かおる | 白山美夕音 | |
| 21 期生 | 髙木宣宏 | 石井貴秀 | 杉林優子 | 荒井美貴 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 22 期生 | 坂本智子 | 竹内夏菜 | 新井和正 | 萩原裕一郎 |
| 23 期生 | 小暮明広 | 島村圭奈 | 大石祐三子 | |
| 24 期生 | 加藤秀康 | 山添有平 | | |
| 25 期生 | 遠藤千奈美 | 栗原なつ未 | 石井大地 | 小林稔典 |
| 26 期生 | 新井隆彰 | 岩井大地 | | |
| 29 期生 | 岩井華穂 | 森　真拓 | | |



## 8. 校外交流

混合教育が学校外でも実践されていることとして校外交流が挙げられます。この校外交流は主に長期休暇や休日に健常児と自閉症児が映画・カラオケ・食事・ボウリング・誕生会・動物園・遊園地等の行動を共にする活動です。「自閉症児の生徒がファストフードで友達と一緒であれば並んで待つこともできるし、思い切って注文もできるようになった。」また、「映画を観たことのない生徒が劇場で映画を楽しむことができた。」「カラオケボックスで友達と一緒に楽しみながら歌を歌った。」というように、友達同士で経験することによって学校や家庭では見せたことのない新たな一面を見ることがあります。また、そのような新鮮な経験を通して、お互いの距離感が狭まり友愛の心が深まっていきます。待ち合わせによって、交通機関の利用法や時間の逆算を意識したり、お金の使用方法や年齢相応のファッションを意識する等、様々な点に対し幅広く興味が持てるようになります。また、日常的なマナーを含め社会性の向上が図られるようになります。これらは学校教育では学ぶことが難しい点であり、そのメリットは限りないものとなっています。また、健常児においては障がい者のサポートを学ぶ良い機会でもあり、卒業後もこれらの交流が継続しているケースが多々あります。

校外交流を希望する生徒は担任に申し出て、計画書に必要事項を記入し、確認事項を明確にします。健常児にとっては友達の家庭に電話をして保護者の方と話すことも良い経験となります。

## 9.U35

平成 18 年度より 30 歳以下の教員を対象として、生徒たちに還元できる新しいアイディアの創造、また本学園の教員としての自己研修を目的として発足した会です（発足当初の名称は、U30、平成 23 年度からはU35 に改称）。実現化した主なカリキュラムとして「キャリアプランニングカリキュラム」、「聞き取りコンテスト」、「キャッチコピーコンテスト」等が挙げられます。

## 10. キャリアプランニングカリキュラム

平成 18 年度より始まったU30（平成 23 年度よりU35）で企画したカリキュラムです。後期試験以降の授業時間を利用することで、社会性を拡充し、本校の教育理念である職業観の育成を更に具現化していくことを目的としています。また各学年における学習進度等を考慮し、柔軟かつ集中的な授業を展開することで、卒業後の離職、退学を防止し、キャリアプランニングさせるというバックボーンを基に自己を探求し自主性の強化も行うカリキュラムです。当初は「選択制授業」という名称でした。毎年生徒に応じてカリキュラム内容を考えています。平成 25 年度より「キャリアプランニングカリキュラム」に変更しました。

## Ⅳ 保護者に対する啓蒙

### 1. 保護者会

教育成果を上げるための大きな鍵のひとつとして、保護者と学校との協力体制が挙げられます。学校と家庭の教育への意識統一を図ることが、生徒の可能性を最大限に引き出すと言えます。

生徒の日常において保護者の存在は必要不可欠なものです。その生徒との関係が最も深い保護者が教育に無関心であると、学校での教育効果が半減するばかりではなく、情報不足による行き違いからトラブルへと発展するケースも考えられます。そこで本校では学校の理解と共に情報の提供と共有に努めています。保護者会は保護者の方々に本校の教育方針や生徒の学校での様子を正しく把握していただくための大切な場と考えています。

本校の場合、全体の約３分の２が公立中学校から初めて私学の保護者となった方々です。この方々に、本学園の教育理念、本校の教育方針を正しく理解していただくことから始まります。また、約３分の１にあたる本学園の中学校から進学してきた自閉症児の保護者と融和していくことに対する配慮も必要です。保護者の前向きな一致団結した協力は、最大級の支援団体となるのです。

本校では、卒業後の進路を見据え、入学時から卒業時までの一貫した本校独自の保護者会のプログラムを展開しています。ここで３年間の保護者会の流れを紹介します。



ー１年次ー

| | |
|---|---|
| 年度始め | **教育方針説明会**<br>全体会…新年度の本学園の教育方針と重点の説明<br>分科会（クラス懇談会）…クラス運営の方針説明<br>入学後の生活について |
| ４月下旬 | **保護者会**<br>全体会…４月の様子　混合教育について　校則について<br>分科会（クラス懇談会）…クラスの様子　連休の過ごし方 |
| ６月 | **スポーツ大会**<br>授業参観および終了後にクラス懇談会 |
| ６月下旬 | **３者面談**<br>学校生活について　夏休みの過ごし方について |
| ９月上旬 | **保護者会**<br>夏休みの様子の把握　９月からの過ごし方について |
| 12月 | **授業参観**<br>全体会および普通教科授業参観<br>分科会…学校生活の様子　スキー教室について<br>**３者面談**<br>学校生活について　冬休みの過ごし方について |
| ２月 | **授業参観**<br>全体会および分科会（１年間を振り返って）<br>**３者面談**<br>１年間の様子　２年生に向けて |

ー２年次ー

| | |
|---|---|
| 年度始め | **教育方針説明会**<br>全体会…新年度の学園の教育方針と重点の説明<br>分科会…クラス運営の方針説明　進路について |
| ４月下旬 | **保護者会**<br>２・３年次の進路の流れについて |
| ６月 | **スポーツ大会**<br>授業参観および終了後にクラス懇談会 |
| ６月下旬 | **３者面談**<br>進路について　夏休みの過ごし方について |
| ９月上旬 | **進路説明会**<br>夏休みの様子の把握　９月からの過ごし方について |
| 12月 | **授業参観**<br>全体会および専門教科授業参観<br>分科会…学校生活の様子　進路懇談<br>**３者面談**<br>進路について　冬休みの過ごし方について |
| ２月 | **授業参観**<br>全体会および分科会（１年間を振り返って）<br>**３者面談**<br>３年生に向けて　進路決定について |

ー３年次ー

| | |
|---|---|
| 年度始め | **教育方針説明会**<br>全体会…新年度の本学園の教育方針と重点の説明<br>分科会…クラス運営の方針説明　進路に向けての準備について<br>ハワイ学習について |
| ４月中旬 | **ハワイ学習・進路説明会** |
| ６月 | **スポーツ大会**<br>授業参観および終了後にクラス懇談会 |
| ６月下旬 | **３者面談**<br>進路について　夏休みの過ごし方について |
| 12月 | **授業参観**<br>全体会およびホームルーム参観<br>分科会…学校生活の様子　進路決定後の生活について<br>**３者面談**<br>進路決定後の学校生活について　冬休みの過ごし方について |
| ２月 | **授業参観**<br>全体会（１年間を振り返って） |

以上のように、１年生は本学園、そして本校の教育をご理解いただくプログラムが中心になっています。授業参観を年３回行い、生徒の成長の様子を言葉だけではなく、実際に観ていただいています。

入学して初めての授業参観は６月に行われるスポーツ大会です。５月の連休明けより本格的な練習が始まり競技や応援合戦の練習を通し友情の和が広がり、励ましあったり助けあったりし、他人を思いやる気持ちも芽生えてきます。約１ヶ月の練習の中から自然に生まれた友達との関係や健常児と自閉症児の関わり合いを競技の合間に見ることができます。後日、提出されるプランノートの保護者コメント記入欄には、感動のコメントや学校生活への安心感が多く書かれています。２回目の授業参観となる 12 月には、普通教科の様子を、そして３回目となる２月には、１年間のまとめとしての報告会を兼ね生徒も交えたクラス懇親会を行います。このように実際に学校生活を観ていただくことにより保護者の方々に、本校の教育について理解を深めていただきます。

また、１年生の保護者は初めて経験することが多く不安も多いので、それを解消するためにも日々のプランノートを最大限に活用し、週末に「保護者からの一言」を記入していただいています。生徒だけでなく、保護者にも担任との意思疎通を図り、更なる本校への理解・協力をしていただくよう取り組んでいます。

２年生になると進路に向けての動きが始まります。年度始めに行う教育方針説明会、そして、４月下旬に行う保護者会で現在の進学・就職の状況や過去の事例、また日々生徒に対して行っている進路指導の内容を保護者にも伝え、現状を把握していただきます。このように生徒と学校と保護者が同じ情報を共有し、三位一体になって進路活動に取り組んでいます。このことからも本校が進路指導に重点を置いていることがお分かりいただけます。



## ２. 保護者研修会

### １. 保護者研修会の歴史と意義

本学園では、自閉症児の親の会をむらさき会と呼んでいます。その保護者対象の会を保護者研修会と呼びます。保護者研修会はむらさき会の保護者対象に年８回行われ、その内３回が合同保護者研修会として幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校のむらさき会の保護者が、中学校の体育館に集まり研修会を行います。残りの５回は高等専修学校独自の研修会となります。研修内容は、保護者研修会の意義、就労に向けて、外部講師を招いての講演、クラス担任からは学校での指導の様子、指導上のポイント、家庭における指導方法等、専門教科担当からも話があり、保護者との情報共有がなされます。保護者の方々には有意義な時間となるよう工夫しています。

当初、この研修会は母親研修会と呼ばれていましたが、平成７年度より保護者研修会と名称を改め、土曜日に開催し父親の積極的な参加を促すようにしました。母親研修会と呼ばれていた頃は、全体会（校長、教頭からの話）、分科会（担任、専門教科担当からの話）のみでしたが、平成６年度より講演会やパネルディスカッション等のプログラムを組み込むようになりました。

また、住居のある行政区ごとの保護者の会「地域ネットワーク」が平成 13 年度に発足され、地域ごとの保護者間での情報交換に役立っています。

卒業後の保護者の活動としてむらさき OB 会が発足し、卒業した後も研修を含めた活動を継続しています。更に、平成８年６月にはむらさき会とむらさき OB 会が結びついたむらさき連合会が発足し、幅広い活動を行っています。

## 2. 保護者研修会の主な内容

### 平成６年度

６月　専門教科体験
９月　講演　武蔵野市障害者総合センター　田部井 恒雄様
　　新宿区職業安定所雇用指導官　中道 澄子様
10 月　講演　吉野家 D&C　前田様
１月　講演　「なぜ F.I. なのか」本学園　治療教育主事（現 本校校長）　清水 信一先生

### 平成７年度

６月　専門教科体験
９月　講演　筑波大学教授（医学博士）　佐々木 日出男様「精神科医から見た自閉症児」
11 月　ビデオ研修　「卒業生の進路・職場の様子」
２月　講演　「企業側から見ての就労」藤寿苑施設長　小野様
　　「むらさき OB 会について」むらさき OB 会会長　安村様

### 平成８年度

６月　田無第二さくらの園作業所所長　山本様　「作業所設立時について」
10 月　専門教科体験
11 月　ビデオ研修　「平成７年度卒業生の進路・職場の様子」
２月　卒業生保護者の方々より　「企業、福祉就労について」

### 平成９年度

５月　講演　「職場適応」日本フィルコン株式会社　総務部　内田 勝様
６月　専門教科体験
10 月　ビデオ研修「平成８年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　OB の保護者との懇談会

### 平成 10 年度

５月　卒業生保護者による　パネルディスカッション「日常生活の様子」
６月　専門教科体験
10 月　ビデオ研修「平成９年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　OB 保護者との懇談会

### 平成 11 年度

５月　専門教科体験（この年より１学年のみ）
６月　卒業生の日常生活　卒業生からインタビュー形式で
10 月　ビデオ研修「平成 10 年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　OB 保護者との懇談会

### 平成 12 年度

５月　専門教科体験
６月　卒業生の日常生活　卒業生からインタビュー形式で
10 月　ビデオ研修「平成 11 年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　OB 保護者との懇談会

### 平成 13 年度

４月　地域ネットワーク発足
５月　専門教科体験
６月　講演　吉野家 D&C　島田様　「障害者雇用について」
９月　講演　「保護者へのメッセージ」社会福祉法人「けやきの郷」理事長　須田 初枝様
10 月　ビデオ研修「平成 12 年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演　「武蔵野市における障害者福祉について」
　　「措置費制度から支援費制度について」
　　社会福祉法人武蔵野デイセンター山びこ施設長　安藤様

### 平成 14 年度

５月　専門教科体験
６月　OB 保護者によるパネルディスカッション
９月　講演　「自閉症スペクトラムー診断と評価を巡る最近の話題」
　　発達クリニック医長・大妻女子大学助教授　内山 登紀夫先生
10 月　ビデオ研修「平成 13 年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演　社会福祉法人　武蔵野千川福祉会　常任理事・千川作業所・むさしのワークス　所長
　　桜はうす　今泉　施設長　月村 己佐夫様
　　株式会社　生活科学運営　安武 紗綾様

### 平成 15 年度

５月　専門教科体験
６月　OB 保護者によるパネルディスカッション
10 月　ビデオ研修「平成 14 年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演　「障がい者の就労状況」株式会社 スワン　常務取締役　寺本 正次様

### 平成 16 年度

４月　「進路指導におけるＱ＆Ａについて」
５月　専門教科体験
６月　OB 保護者によるパネルディスカッション
９月　講演　「今、自閉症児の教育に求められるもの」
　　帝京大学文学部教育学科教授　大南 英明先生
10 月　ビデオ研修「平成 15 年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演　「福祉サービス・支援制度について」
　　練馬区石神井総合福祉事務所　知的障害者福祉司　五藤 普様

## 平成 17 年度

5 月　専門教科体験
6 月　OB 保護者によるパネルディスカッション
9 月　講演 「発達障害者支援法をめぐって」
　　財団法人精神発達障害者指導教育協会　常務理事　湯汲 英史様
10 月　ビデオ研修「平成 16 年度卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演 「障害者の成年後見制度について」
　　社会福祉法人　東京コロニー　ケースワーカー　井上 忠幸様

## 平成 18 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるパネルディスカッション
10 月　ビデオ研修 「卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 19 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるパネルディスカッション
10 月　ビデオ研修 「卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演 「働く障がい者の生活支援」
　　世田谷区就労障害者生活支援センター　センター長　江國 泰介様
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 20 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるパネルディスカッション
10 月　ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演 「特例子会社の現状について」
　　パソナハートフル管理統括部長　　白岩 忠道様
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 21 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるパネルディスカッション
10 月　ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」
11 月　講演 「ナルミヤワンパ設立に向けて」
　　株式会社　ﾅﾙﾐﾔ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ　小山 知史様、青木 日出治様、酒井 博様、
　　関 孝治様
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 22 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるパネルディスカッション
10 月　講演①「企業で働く上での心構え」
　　ベネッセスタイルケア人事部採用セクション　常盤 正臣様
　講演②「最新の福祉の状況を踏まえて」
　　武蔵野千川福祉会　理事長　鎌倉 ゆみ子様
11 月　ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 23 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒後の再就職、再就労、卒業生の保護者によるグループディスカッション
10 月　講演 「就労移行支援の役割とそのあるべき姿」～制度を上手に活用するには～
　　社会福祉法人　全日本手をつなぐ育成会　常務理事　田中 正博様
11 月　ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」
　卒業生の保護者によるパネルディスカッション
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 24 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるグループディスカッション
10 月　講演 「障害者雇用の現状」三鷹公共職業安定所　業務部長　坂田 敦子様
11 月　ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 25 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるグループディスカッション
10 月　講演 「企業で働く上での心構え」
　　佐川急便株式会社　東日本支社　業務管理部　人事・安全推進課　早川 孝様
11 月　ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

## 平成 26 年度

5 月　1 学年：専門教科体験　2 学年：実習全般について　3 学年：就労について
6 月　卒業生の保護者によるグループディスカッション
10 月　講演 『障がいのある方の「お金」の支援を考える』
　　社会福祉法人東京緑新会　相談支援専門員、社会福祉士　江國 泰介様
11 月　ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」
1 月　むらさき OB 会の活動と入会について

**平成 27 年度**

| | |
|---|---|
| ５月 | １学年：専門教科体験　２学年：実習全般について　３学年：就労について |
| ６月 | 卒業生の保護者によるグループディスカッション |
| 10 月 | 講演「支援に限界はない」<br>特定非営利活動法人　チャレンジドステーションクジラ<br>昭島市障害者就労支援センター　クジラ　コーディネーター　市村 たづ子様 |
| 11 月 | ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」 |
| １月 | むらさき OB 会の活動と入会について |

**平成 28 年度**

| | |
|---|---|
| ５月 | １学年：専門教科体験　２学年：実習全般について　３学年：就労について |
| ６月 | 卒業生の保護者によるグループディスカッション |
| 10 月 | 講演　「18 才からの障害福祉サービス」<br>武蔵野市役所　健康福祉部　障害福祉課　課長　吉清 雅英様 |
| 11 月 | ビデオ研修「卒業生の進路・職場の様子」 |
| ２月 | むらさき OB 会の活動と入会について |



# 第４章　混合教育実践の記録

## Ⅰ 混合教育の実際

### １. バディ

バディとは、健常児と自閉症児による１対１のペアであり、このバディをひとつの単位として学校生活の様々な活動に取り組ませていきます。このバディこそが、生徒たちに混合教育を理解してもらう大きな役割を担っていると考えています。

バディを形成する上で最も重要な時期であり、教師が細心の注意を払いながら慎重に混合教育を進めていくのが、１年次の４月～７月の導入期です。混合教育は、３年間という長い時間をかけて進めていくものには違いありませんが、この４ヶ月間の取り組みが大きくその後の３年間を左右することは間違いありませんので、バディの導入（形成）期を、まず紹介します。

**バディの導入（形成）期　（１学年 ４月～７月）**

| | | |
|---|---|---|
| **４月** | 『自閉症を理解する』 | ・１年生研修<br>・部活動開始 |
| **５月** | 『お互いを知る』 | ・縦割り清掃<br>・スポーツ大会練習<br>・交流給食開始 |
| **６月** | 『協力する』 | ・スポーツ大会<br>（・バディ会議） |
| **７月** | 『お互い理解しあう』 | ・林間学習<br>・盆踊り |

バディ導入期のおおまかな流れを上の表に記載しましたが、それぞれの行事などで、どのようなことに留意し、指導を進めていくかを以下にまとめました。

## 1.1年生研修

新入生に対して校外の研修施設を使い、２泊３日で行われる研修ですが、この中で自閉症に対して初めての理解教育を行うことになります。自閉症に関する知識をほとんど持っていない生徒に対して、本校のバディを中心に放映された NHK スペシャルのビデオを観せることや、卒業生や在校生に自閉症児との交流で体験した話をしてもらったり、さらには教師からの話を通じて、自閉症についての大まかな情報をつかませます。また、実際に初めて過ごす共同生活の中で自閉症児の特異な行動を目の当たりにして驚いてしまう生徒に対しては、その場面を教師が好機ととらえ、適時話をしていきます。健常児の中には、この時期から自閉症児とのバディの基礎作りが始まる生徒もおり、教師側は、集団生活の中で、１人ひとりの健常児が自閉症児に対する接し方を把握し、自閉症児との相性を探り、今後のバディ作りの参考にしていきます。

１年生研修（第１回研修）

### １年生研修を終えて　　卒業生　Aさん

武蔵野東学園に入学をする前は、「自閉症」という障がいを甘く見ていたと反省しました。テレビ番組で多く特集され、何度も観ていたので、多少は理解していたつもりでした。けれど実際に、大声を上げている姿やビックリする行動を見ると驚きや怖いという気持ちになってしまいました。けれど担任の先生が３日目の研修で話された「驚き」から「興味」を発見し、しだいに相手を「理解」するということを聞いたとき、『変に構えなくてもいいんだ。これからは興味を持って接していこう』、そう思うことができました。

## 2.様々な学校行事

１年生にとって６月に行われるスポーツ大会は、自閉症児を知る上で大変貴重な体験となっています。競技種目、学年対抗応援合戦等全員が協力しなければならないプログラムが多く、どうやって自閉症児と向き合えばいいのか、バディとは何か考える場ともなります。この健常児が自閉症児への対応について悩む時期が教育的に見れば好機ともいえ、教師は具体的な対応法や自閉症の特徴等の情報を明確に示しながら指導を進めていきます。こうした指導を加えていくと、合唱コンクール等の行事を通じて、ひたむきに練習し本番に臨む自閉症児の様子から努力することの価値といったものを学ぶこともあるようです。

スポーツ大会 応援合戦

**生徒作文より**

**スポーツ大会を終えて　　在校生　Aさん**

スポーツ大会は楽しかったです。皆で力を合わせて頑張ることができたので応援賞を取れたのだと僕は思います。ですが、僕はそれ以上にこのスポーツ大会で応援賞を取れた理由は、先生方や中心となって皆のリードをしていった人達のおかげであり、また僕は彼らがいなければ賞は取れなかったと思うのでとても感謝しています。皆が協力し合い支え合って今回の結果につながりました。普段あまり笑顔を見せなかったB君やC君の笑顔を見たときにひとつになった気がしました。皆にとても感謝しないといけないと思いました。次のスポーツ大会は総合優勝も取りたいと思います。

### ３. 宿泊学習（林間学習、スキー教室、ハワイ学習等）

宿泊学習ではバディ会議（後に詳述）により決められたバディで同部屋になり数日間生活を共にします。林間学習やスキー教室では、日頃校内では見ることのない、荷物整理や入浴、就寝時の様子も見られ、友だちについて再発見する場ともなっています。また、健常児はこの経験を通じて自閉症児の保護者の苦労がよく分かると話しています。それだけに、健常児にとって負担を感じやすい活動といえますが、教師は頻繁に声をかけながら、１人で負担を背負わせないように配慮していきます。そうした宿泊学習の集大成ともいえる３年次に行われるハワイ学習では、まるで兄弟姉妹のようにバディのことを理解し思いやって行動する場面が多く見られ、バディの確立・熟成が感じられます。



**生徒作文より**

**林間学習を終えて　　在校生　Dさん**

今回の林間学習で責任の重さを学びました。小学校の時も中学校の時も“班長”という役割をしたことがなかったのでとても心配でした。案の定、バーベキューでは失敗し、２日目のカレーも失敗しました。１日目のバーベキューでは、私の声が小さかったせいで班員とバディのEさんをまき込んで大変な思いをさせてしまいました。ここで声が小さいことは損だと知りました。しかし、昔から人前に出ると声が小さくなってしまう所があって、２日目になっても大きな声が出せずにいました。そのせいで、担当の先生に誤解させてしまったり、心配をかけてしまいました。声が出せなくて後悔したのは初めてです。また、声が出ないだけでなく時間を守ることができませんでした。３日目は、必ず大きな声を出し、時間を守り、美味しいカレーを班員とバディの子に食べさせると決めました。そして３日目、先生に教えてもらった通りにカレーを作りました。結果は大成功でした。すごく嬉しかったです。前日に担当や時間を決めておくだけでこんなにもうまくいくものかと驚き、感動しました。野菜が柔らかくて、ご飯が白くてカレーを作って涙が出たのは初めてでした。なによりバディのEさんが喜んでくれたことが嬉しくてたまらなかったです。しかし、ずっと喜んでいる訳にはいきません。鍋や飯盒などの片付けをしなければいけません。ここで、本当はもっと指示を出さなければいけないはずなのに、また自分のことで精一杯になってしまいました。その結果、時間内に終わらなかったし、竈の掃除も誰かにやってもらうという最悪なことになってしまいました。こうなったのも、班長である私の責任だと思います。むかしから辛いことから逃げて、楽な方に行っていたことがこういうことに繋がっているのだと思います。なので、これからは辛いことにもどんどん挑戦していこうと思います。そして、常に緊張感と責任感を持って生活していけるようになりたいです。

### 4. 交流給食と縦割り清掃

状況に応じて生徒からの要望があればどのクラスでも食べて良いことになっています。バディが互いのクラスに集まって給食を食べた後は、昼休みを共に過ごす様子が見られます。毎日昼休み後に行われる縦割り清掃でも日頃のバディと一緒になり、また他学年の先輩や後輩との関係を新しく身につける時間ともなっています。

### 5. バディに関する留意点

入学して数ヶ月が経ち、バディと臨む校外学習（林間学習）を前にして、１学年では例年臨時に学年会を開き、学年担当の教師による十分な討議の上、バディの原型を決めていきます。

それではバディ選定の際に、検討する点について述べていきます。

①専門教科内でのバディの延長

各専門教科では、入学当初より仮のバディを組み授業運営をしていますが、バディによっては、そのまま行事等のバディとなるケースがあります。実際は、この形でバディが組まれるケースが１番多いようです。

②部活内でのバディの延長

専門教科同様、部活動内バディが行事のバディにつながるケースもあります。

③教育効果を予測し、バディを組む

教員が、バディによって責任感や積極性を育てたい健常児をピックアップし、協調性を身につけさせたい自閉症児と組ませることによって、双方の教育成果を予測しながら、バディを組むケースです。

④健常児や自閉症児からの強い希望により組む

４月当初からの関わりによって「ぜひ、あの生徒とバディを組みたい」という生徒からの強い希望から実現するケース。しかし、このケースの場合には、教育効果が予測されるケースに限って認める形をとっています。

⑤バディを組まない

自閉症児によっては自分でできるにも拘らず、依頼心が強くバディにやってもらうことが予測される生徒に関しては、バディを組まないこともあります。



## 2. 健常児が自閉症児から受ける影響

健常児は自閉症児から大きな影響を受け学校生活を送っています。ここでは、まず自閉症児から影響を受けたケースについて卒業文集より抜粋し、６点紹介します。

**21 期生　A君**

感謝している人はたくさんいる。その中で今１番感謝しているのは、バディのB君だ。

B君に会って一緒にいる時間が多くなっていき、今まで興味のなかった福祉に興味を持つようになった。それは、自分にとって大きなことである。高校に入ってB君に会うまでは正直、障がいのある人たちを差別していた。けれどもそんな気持ちはB君と関っていくなかでなくなり逆に好きになっていた。今までこうなるとは考えてもいなかったのだが、実際、障がいのある人たちを好きになったことによって、今までなりたい職業もなかった私に初めてなりたい職業ができた。そのおかげで進路も決めることができた。今こうして私がなりたい職業に就くため、専門学校へ進学するわけだが、もしB君に出会えなかったらどうなっていたであろうか？多分なりたい職業も決められず、とりあえず進学しようと思っていたかもしれない。そうなっていたら、今以上に親に迷惑をかけてしまうだろうし、進学したとしてもやりたいことも見つからなかったかもしれない。けれども、そうならずにすんだのはB君のおかげだと思う。この学校でB君と出会ったから、障がいのある人たちの印象が変わり福祉の道へ進もうと思えたし、B君がいたから今の自分がいる。だから今、B君とバディを組むことができたことを誇りに思う。

ほかにも家族、先生、友達、今まで自分がお世話になった人たちすべての人にも感謝している。今感謝している人たちの中で１人でも欠けてしまったら、今の自分はいない。

**21 期生　C君**

季節は巡って１年が経ち、この春私は皆よりも１年遅い高校３年生を迎えた。それは当時、高校２年生であった私は、この武蔵野東技能高等専修学校（当時）に高校１年生として、編入学をしてきたからである。

振り返ればこの２年と数ヶ月という年月は、私にとって経験したこと１つひとつが、とても貴重なものだった。それは学校で経験したことなど全てが、中学生のときよりも、前の学校にいたときよりも、積極的に参加することができたからだと思う。

忘れてはならないのがバディという存在だ。私にとっては、D君との出逢いや関係は、とても大きなことだ。彼とバディを組んだのは２年生になってからである。きっかけは、彼が卓球部に入部したことから始まった。彼とバディを組んだ当初は、とにかく私を知ってもらおうと、D君のことを私が知ろうとお互いの関係を作っていく日々であった。月日は流れて、今ではD君という存在が私にとって、なくてはならない存在にまでなった。彼の存在に、彼のユーモアのある一面に何度救われてきたことか……。いつの間にか私の中でバディがとても大きな存在になっていた。彼と出逢えたこと、バディとなれたことに感謝している。

過去、私は悲劇のヒーローを演じていた。常に自分を中心に物事を考え、自分のことばかり大事にし、相手のことを大事にしていなかった。今思えば本当に子どもだったと感じられる。このように思えるようになったのは、武蔵野東技能高等専修学校(当時）に来て出逢うことができた人たちから、大切なことを学んだからだと思う。

この学校で得た、かけがえのないもの１つひとつが、これからの私を支えくれるだろう。

**23 期生　E君**

私はこの３年間で色々なことを経験しました。１年生のときは問題をたくさん起こし、迷惑をかけました。これは何度も言ってきたことですが、私が立ち直れたのは周りの人たちのおかげです。それは先生であり、先輩であり、そして同じ学年の仲間たちです。１年生のときは自分のことで精一杯になってしまい、周りの人たちのことは考えられませんでした。しかしそれが２年生になり周りのことも意識できるようになってくると今度は同学年の仲間の大切さが分かってきました。中学のときは同学年の人たちとあまり接しなかったのでそれなりの関係さえ築ければ良いと思っていました。しかし今私はこの学校で素晴らしい仲間を持つことができています。私と同じような人はもちろん、障がいのある友達とも仲良くなることができています。

障がいのある友達といえばやはり私はバディのＦ君のことが１番気になっています。彼とは私から希望してバディになりました。最初は分からないことばかりで接し方に戸惑いました。Ｆ君にもこだわりがあって、１度自分がそれでいこうと決めたら中々考えを変えてくれなかった時期があり、１年生のときは何回もぶつかりました。でも今ではそれも笑い話で良い思い出です。３年間で彼には何回も助けられました。私が病気になり気持ちが落ち込んでいると何度も声をかけてくれましたし、また行事の練習をしているときも一生懸命練習をしているＦ君の姿を見て勇気づけられました。他にもたくさんあります。そんな風に今まで私を色々な意味で助けてくれたＦ君ですが、もう少しでお別れです。これまで３年間一緒に過ごしてきたのに４月から別々になってしまうのでやはり心細いです。だから進路先では、Ｆ君と過ごしてきた思い出を大切にしていきたいです。

**23 期生　G君**

私はこの学校に入ってからの３年間で様々なことを経験してきました。中学時代は不登校で、少ししか学校に通えていませんでした。そのため、この学校の入学式が終わった後、私はとても不安な気持ちになっていました。

学校生活が始まってすぐ私は学校を休んでしまいました。ですが、５月のスポーツ大会の応援合戦でソーラン節の選抜メンバーとして踊ることになり毎日、朝の練習に行く内に、学校に行くことが楽しくなっていきました。それからの私は本来の自分というものを出すことができるようになったと思います。そんなある日、クラスでバディを決めることになりました。バディは３年間を共に過ごすパートナー、私はH君と組むことになりました。H君とは趣味が合い、よく話をしていました。そのため、H君とバディを組めばきっと楽しい学校生活を過ごせると思いました。H君とバディを組み始めてからの私は、バディとは何なのか考えるようになりました。バディとは片方がもう片方を支えるのではなく、お互いがお互いを支え合っていく。私は考えているうちにそう思うようになりました。私はバディとして足りない所が多く、よく落ち込んでいましたが、H君との日頃からの会話や彼の性格からいつも励ましてもらっていました。励ましてもらうと同時にH君からは様々なことを教えてもらった気がします。言葉では言い表せない何か、敢えて言い表すのならそれは「元気」「勇気」です。H君とはこの３年間の間、時に笑い合い、時に泣き、共に生きていく中で最高の親友に出会うことができたと思います。親友に出会うことができてこの学校に入学して良かったと思います。この３年間の思い出はH君という私にとって最高のバディと出会ったことです。



**24 期生　I君**

この武蔵野東高等専修学校で「つながり」というのを感じた瞬間というと、やはり、「バディ」と一緒にいた時だと私は思います。私が初めてバディを組んだのは、２年の前期の縦割り清掃でした。バディを組むまで、あまりC組の人たちとの関わりが無かったので、バディを組んだ最初の頃はこれからどう関わっていこうかと悩んでいました。最初は意思の疎通もうまくいきませんでした。そして「目を見て話す」という方法を取ってみることにしました。しっかり目を見て話していると私の気持ちも徐々に分かってもらえるようになりました。

バディとして初めて行った校外学習は林間学習でした。林間学習では一緒に竹トンボ作りなどを体験し、ご飯を食べ、テントで寝て、と全ての行動を共にし、新しく知ることが多かったです。それから、朝の職員室清掃、スキー教室、紫峰祭などの行事でもバディとして行動を共にしました。その中でも、印象に残っているのはハワイ学習です。ハワイ学習で不安だったことはいくつもありました。私自身が初めての海外旅行、英語が公用語、そしてバディのことと色々とありました。飛行機に乗り、ハワイに着き、ドールのパイナップル畑やパールハーバーなどの観光名所を回り、バイキングで食事をしたり、自由行動でショッピングをしたりしました。４泊６日という長い期間でバディについても、ハワイの歴史、文化など様々なことを学ぶことができました。

バディを組んでからの約２年間は、他では体験することのできない貴重な体験をさせてもらったのだと思います。

私は、４月から歯科技工士の資格を取るために進学します。卒業してからもこの、武蔵野東高等専修学校で得たつながりを忘れず、そして、また新しいつながりを築けるようしたいです。そして、歯科技工士になり、精一杯努力していきます。

**26 期　J さん**

この３年間は、自分自身が家族と色々な意味で向き合えた３年間でした。そんな濃い３年間を与えてくれた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。そしてもうひとつ、Kちゃんに出会えたことに感謝したいです。Kちゃん、３年間こんな落ちこぼれの私と過ごしてくれて本当に『アリガトウ』。たくさん支えてもらいました。『アリガトウ』この言葉に収まりきらないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。

初めてKちゃんに出会った時、「私は彼女のバディになれるのか」と不安に思いました。そんな不安のなか迎えた一番最初の行事は１年生研修でした。夜、中々寝なくて、どうすればいいのか戸惑ってしまったことを今でも覚えています。学校生活を共に過ごしていくなかで少しずつ距離が縮まり、初めはどう接すればいいのか、先生の真似ばかりをしていました。今では自然と互いを支え合えるようになりました。

１年生、２年生の時もKちゃんには助けてもらってきましたが、３年生になって更にそう感じるようになりました。ハワイ学習、スポーツ大会などの行事で楽しそうにしているKちゃんの笑顔を見る度に「Kちゃんに出会えて、バディになれて良かった」と感じました。『アリガトウ』。Kちゃんには様々なことで支えてもらいました。私がミスをして先生に叱られているとき、Kちゃんは私に気づき、笑顔で手をつなぎに来ようとしましたが、Kちゃんは自分で考えて、私と手はつなぎませんでした。私よりKちゃんの方が状況判断できていると思いました。しっかりしないといけない、もっと手本になれるようにならなければならないと思いました。『アリガトウ』。

私のだらしない性格から３年生になってからも中々内定が決まらず、何度も先生に「Kさんのバディをやめなさい」と言われました。自分のことがしっかりできていないのにバディとしてKちゃんを見る必要はないという意味でした。そして、その度にKちゃんと過ごした日々、笑顔や様々な表情などが浮かび、涙を流すことがありました。それほどKちゃんは私にとってとても大きな存在となっていました。Kちゃんの内定が決まらないのも、私の力量不足からきたものだと感じ『ゴメンナサイ』という気持ちでいっぱいになりました。でも、そんな気持ちさえ吹き飛ばしてくれるKちゃんの存在はかけがえのないものでした。２人そろって内定が決まり、私は自分の内定が決まったときよりKちゃんの内定が決まった時の方が心の底から嬉しかったです。

３年生最後の行事、スキー教室では、突然班長をすることになり、焦りと不安で押し潰されそうになりました。班員を見ようとすると自分のことが遅くなり、班員にも迷惑をかけたりしてしまいました。『ゴメンナサイ』。そんな時、私はまたKちゃんの笑顔に支えてもらいました。そして、同じ学年の女子も皆助けてくれました。３年生最後の行事、皆にとって良い思い出が作れたかなと思いました。

最後に、私は多くの先生、友達、先輩に出会い私自身の欠点を見つめ直すことができました。Kちゃんに出会い、人と過ごすことの喜びなどを学び感じることができました。本当に３年間あっ！という間に過ぎていき、とても濃い３年間でした。『アリガトウ』、そして沢山迷惑かけて『ゴメンナサイ』。26 期生の皆、そしてKちゃんに出会えたことは、私の一生の宝物です。

以上のようにそれぞれ感じ方はまちまちですが混合教育の理解には次のような流れがあると考えることができます。そして、その理解の変化は、一般に、障がいの受容プロセスと呼ばれる流れと酷似しているといえます。

一般的な障がい受容プロセスは、以下のように考えられています。

**ショック → 否認 → 怒り・うらみ → 悲観・抑鬱 → 解決への工夫・努力 → 受容（価値の転換）**

**混乱期（パニック）**

**＜ショック期＞**

・こだわりなど自閉症の特徴に対する不快感
・パニックや奇声への恐怖や軽蔑

**＜否認期＞**

・自閉症児との関わりを最小限にすませようとする
・自閉症児を無視する
・登校しなくなる

**＜混乱期＞**

・自閉症児への攻撃的な態度
・自閉症児を軽蔑・からかう対象とした態度
・本校への進学を勧めた保護者、中学担任への怒り
・自閉症児との関わりを継続する自信を失う
・学校を続ける自信を失う

**＜努力期＞**

・自閉症という障がいへの関心を示す
・自閉症児との関わりを工夫しようとする
・自分自身の感情をコントロールしようとする

**＜受容期＞**

・自閉症児との関わりに喜びを感じる
・自閉症児のエンパワメントに気づく
・自閉症児に支えられている自分に気づく
・福祉への関心を抱く
・自閉症児を生涯の友として関わりを継続する

ただし、混合教育の理解のプロセスは、段階的というよりも行きつ戻りつの連続過程と考えておく必要があります。また、同じ時間が経過したとはいえ、異なる段階が幾重にも存在するということも、視野に入れておかなければならない大事なことだといえます。これらの理解に乏しく、ステレオタイプに教員が対応すると生徒との間に大きな温度差が生じてしまいます。

１年生研修にて

それでは、ここで改めて混合教育の理解プロセスと重複する部分もありますが、健常児が自閉症児から受ける影響について、教師の学級記録簿等に記載された内容からまとめてみます。

・何事にも真面目に取り組む姿を見て、声を出すことに抵抗のあった生徒が一緒に声を出すようになり、責任感も向上してきた。
・３年間を通し学校生活、校外学習など共に生活をする中で自分のことよりも自閉症児のことに気を配り、荷物整理や管理をするようになると同時に時間に関しても意識するようになった。
・なかなか気持ちを開いてくれない自閉症児と根気よく付き合うことにより、人との付き合い方や、思いやりの心が窺えるようになり、向上心もついてきた。
・自閉症児のことをよく知ろうとすることで、他の生徒に対して幅広い大きな視野で接する意識が芽生え、他者を思いやる素直な気持ちが育った。
・障がいという先入観が解消され、良き理解者となることを自ら進んで行うようになった。
・自閉症児の学習に対する真面目な姿勢に影響され、学習意欲が向上し、自己を見直す姿勢がついてきた。
・他者を思いやる気持ちが増幅され、福祉の道に将来の夢を抱き、ボランティア活動に積極的に参加するなど福祉の進路を決めた。
・荒削りな性格の生徒が自閉症児に対し思いやりの気持ちを持って接することができるようになり、困っているときに率先して対応できるようになった。
・自閉症児から頼りにされることにより、自信がつき自分の隠れた力を引き出そうと自己の可能性にチャレンジするようになった。
・すぐに諦めていた生徒に努力する姿勢が身についてきた。

## 3. 自閉症児が健常児から受ける影響

健常児が自閉症児に及ぼす影響というものは自閉症児が健常児に与える影響と同じように多大なものがあります。そして様々なタイプの自閉症児に様々なタイプの健常児が接し、それが今後の実社会へと繋がっています。同世代の者がそれぞれの姿を見てお互いの良いところを真似し、悪いところを指摘し、お互いに刺激を受けています。自閉症児は３年間という学校生活の中で健常児と生活をし、実社会に向け大いに刺激を受けます。同世代、血気盛んな年頃、時には喧嘩もしますし、兄弟のようにすんなりと仲直りもします。そして、同世代の考え方や、流行を知り学び、同年齢としての生活や、考え方が身についていきます。最近では、スマートフォンや携帯電話等の使用も健常児から受けた大きなものとなっており、メールの交換や SNS を行っている自閉症児もいます。

ここでは、自閉症児が健常児からどのような影響を受けるのかについて、本校教員の視点から捉えた自閉症児が健常児から受ける影響について述べてみます。

・休日の過ごし方に幅が出てきて、余暇活動の幅が広がった。（カラオケ、ボウリング、映画等）
・健常児の真似をすることにより欲求の幅が出てきた。
・自分の世界だけに引きこもらず、人を好きになるという気持ちが芽生えてきた。
・身だしなみを健常児に注意されることにより、自分の相違点を気にするようになり人前で着替える際の意識や、周囲に対するマナーを知るようになった。
・健常児との校外活動を通し、視野が広がり、金銭面に意識が出てきた。
・健常児との日々のコミュニケーションにおいてボキャブラリーの幅も広がり表情に柔らかさが出て冗談を発するようになった。
・健常児との関わりから信頼関係が生まれ、特に好意を持った健常児には心を大きく開き、指示や言うことを的確に聞くようになった。
・食事のマナーを注意され、意識して食事をとるようになった。
・健常児との会話から、同じ趣味を持つようになり、特に女子においては女性としての身だしなみ、清潔感などが育ち、異性に対する憧れを持つようになった。
・周囲に合わせようとする自制心が身につき、奇声やパニックを自己抑制する気持ちが育った。
・スポーツを通じてお互いに競争心が生まれ努力する姿勢が更に高まった。
・健常児の行動を見て憧れや、真似をするという行為が出てきて将来の自己の夢に対する憧れや、目標を健常児同様に持つようになった。



また、課題として以下のような事象も見受けられますが、教師のタイムリーな指導や言葉掛けにより、お互いを尊重する姿勢に導くように努めています。

・同世代が使うような、乱雑な言葉遣いを覚え、友達にだけでなく家庭や教師に対し使うようになった。
・友達同士の物やお金の貸借を覚え、返却しない、されないといったことがおきた。

それでは、自閉症児から見た混合教育について、自閉症児の作文を卒業文集より抜粋し、４点紹介します。

**27 期生　A君**

学校生活では、バディのＢ君に支えられました。３年間調理コースで一緒に色々な料理を作ったり、紫峰祭を一緒に盛り上げたりしました。修学旅行のハワイの時も一緒の班で、ワイキキビーチ、バイキング、パールハーバーの見学を共に楽しむことができました。時にケンカもしましたが、仲良くさせてもらいました。入学当初はあまり意識していなかったのですが、１年生の秋頃にバディになり、２年生になった時から打ち解けてよく話すようになりました。スポーツ大会やスキー教室の時も一緒でした。僕が困った時、Ｂ君は助けてくれました。Ｂ君は調理の時も僕を支えてくれました。Ｂ君には本当にお世話になり、感謝しています。これから僕はＢ君から離れ社会に出ますが、Ｂ君との思い出を忘れずにはばたきたいと思います。３年間、Ｂ君には色々な面で助けられました。聞き忘れたことを教えてくれたり、色々と気を遣ってもらいました。卒業後、僕は社会に出ますが、もうバディはいません。でも、僕はバディがいなくてもきちんとできるように一生懸命頑張りたいと思います。今後はバティとしてではなく友達としてＢ君に会いたいです。

**25 期生　C 君**

僕は、この３年間でたくさんの思い出ができました。バディの D 君とのことです。緊張すると声がでてしまう僕に、いつもやさしく声をかけてくれて、とても嬉しかったです。ハワイやスキーも楽しかったけれど、皆で電車に乗って行った初詣はとても楽しかったです。

**26 期生　E 君**

「バディ」という言葉。これを初めて聞いたときは何のことかさっぱりわからなかった。

C組で、学生生活をスタートした僕には、A組のＦ君やＢ組のＧ君がバディとしてついてくれた。その後、授業や学校行事の時、文化祭での販売の時など、よくわからないことがあると「こうだよ」と横から教えてくれた。また、口下手な僕にもよく話かけてくれた。彼らのおかげで誰とも口をきかない生活ではない１年間を過ごせたのだとつくづく思う。

２年になると、僕は、B組に入った。B組でも、わからない時は、教えてくれる仲間はいた。でもある時、他の仲間が、ささいなことで彼らに聞くと「少しは自分で考えたら」と、いわれたことがある。初めは少しムッとしたが、なんでも助けてもらえばいい、と考えているところが僕にはあったのかなと思い直した。このことを家族に話した時、バディのすることは何でもしてもらえればいいのではなくて、１人でできるようになるためのきっかけにしか過ぎない、と教えてくれた。彼らも入学してから自分のことでも大変だったはずなのに、それでもていねいに僕のサポートについてくれていたのだと今は強く感じる。



**26 期生　H 君**

I 君は、この３年間、ずっとバディさんとして僕を助けてくれました。学校で熱を出した時も、すぐに気づいて、先生に報告してくれたし、爪を噛んで血を流した時も、そっと絆創膏を貼ってくれました。僕にとっては、優しいお兄さんのような人です。きっと将来は、素晴らしい保育士さんになるでしょう！

校外学習でも、いつも一緒に過ごせて嬉しかったです。特にハワイ学習では、サーフボードに乗ったり、寝そべったりして、最高に楽しい思い出となりました。

いつも自分のことを気にかけてくれた I 君のことは、生涯忘れません。I 君、本当にありがとう！

## ４. 不登校生が自閉症児から受ける影響

本校に入学する健常児の大半は、何らかの心理的な問題を抱えて入学してきます。中学校時代、ほとんど学校に行っていなかった生徒、些細なことで学校に足が向かなくなった生徒、情緒的に成熟しておらず周囲に同調できず引っ込み思案だった生徒、言葉や肉体的によるいじめを受けてきた生徒、集団の中で協調して生活ができずに孤立していた生徒、昼夜逆転した生活を送っていた生徒等、様々です。世間では、不登校生というレッテルを貼られて本校に入学してきます。そんな中、今まで自分を認めて貰えなかった不登校生が、自閉症児の姿を通じ、自分は弱い存在であったという概念を捨て始めます。自分より社会的な不利を受けやすい自閉症児と出会い、彼らと生活を共にする中で、自分自身のエンパワメントに気づき始めるのです。また、中学時代に友人と交友関係を形成することができず、時には相手にされることのなかった生徒が、自閉症児の分け隔てのない対応に当初は戸惑いますが、友人との関わりの楽しさ、大切さ、さらには困難さも感じるようになってきます。そして、その困難さの中から対人関係を形成するスキルを身につけ、自分自身の振るまいが他者に及ぼす影響等も考え始めるようになっていきます。

毎年、本校教員が、入学してきた生徒の学校を訪問し、入学後の様子を話すと驚きの答えが返ってきます。それは、中学校時代にほとんど学校に行っていなかった生徒が、本校に入学し、自閉症児の毎日の姿、真面目な姿勢の影響を受け大きく変貌するからです。「１日も休まず皆勤で登校をしている」、「学習の遅れを取り戻そうと必死に頑張っている」、「学校行事に意欲的に取り組み人前で立派なパフォーマンスができている」等の様子を伝えると、信じられないという答えが返ってきます。これは、繊細でかつ時には過敏とさえいえる自閉症児と出会い、その自閉症児が社会的な不利を受けながらも努力している様子を体感する中で、自分自身の能力に気づき、自分自身を振り返りながら行動の調節が可能となり、時にはボランティア活動への参加や福祉、教育への夢等将来のビジョンが描けるようになった証といえます。



不登校生は自閉症児から大きな影響を受けています。自閉症児から影響を受けたケースについて作文より抜粋し、６点紹介します。

### ２月授業参観報告会　資料「理想を求めて」から抜粋

**26 期生　A君**

１年前の自分は不登校で学校に行かず、家でも親の手伝いをしなくて迷惑をかけていました。本校に入学してもそれは変わらず、最初は学校を休みたいとばかり思っていました。けれど学校に行かないと先生が迎えに来るという話を聞いていたので、やはり先生には来てほしくないし、怒られたくないので学校は休まず行こうと思いました。前期は行事が多く、自分は人の前に出てなにかをやるのがいやだったので、他の人に任せてばかりでした。しかし１年前の自分を変えるために武蔵野東高等専修学校に入学したので、自分も前に出てなにかしようと思いました。最初勉強はほとんどせず、結果一般常識で追試になってしまいました。追試になると学校の休みの日に学校に行かないといけないので面倒くさいと思い、テスト１ヶ月前には勉強をするようになりました。

後期も紫峰祭やスキー教室等の行事が多くありました。思い出に残っているのはスキー教室で、行事中はバディのB君と一緒に行動したことです。B君はいつも笑顔で自分が学校をやめたいと思っていたときも、B君の笑顔をみると学校をやめたいと思っていた自分がバカバカしく感じられました。４月からは新しい１年生が入学してきて私たちは２年生になります。そのときに１年生に誇れることがないと恥ずかしいので残り１ヶ月で後輩たちに誇れることを作っていきたいです。

**26 期生　C君**

１年前と今の自分を比べてみると、変わったことばかりです。まず、学校で人と喋るということです。１年前まで、私は学校で人と喋ることができませんでした。家族とはよく喋っていました。ですが、それが学校となると喋ることができませんでした。私が、学校で喋ることをやめてしまったのは小学校２年生の後半頃からです。そのときの原因はよく覚えていません。喋りたいという想いはその頃から持っていました。しかし、喋ろう、喋ろうと思えば思うほど息苦しくなり、胸が締め付けられるような気分になりました。喋ることはその頃は叶いませんでした。中学校に入ってから、学校も休みがちになり、勉強もついていけなくなりました。このようなことは続けたくありませんでした。喋るということそのものは家でしているのに、それが学校でできなかったからです。同じクラスの人に話しかけられない、勉強で分からないところがあっても自分から聞けない。これを続ければ、この先、生きていけなくなると思いました。そんな中、入学したのが武蔵野東高等専修学校です。入学して喋ることができるようになった理由として、１番大きかったのが混合教育だったと思います。むらさき会の人はそれぞれ個性を持っていますが、部活、お手伝いなどに挑戦し続けています。それを見て私は自分が悩んでいたものは小さいものだったのかもしれないと思いました。そう思ってからは喋ることへの抵抗はなくなっていきました。また勇気づけられました。もうすぐ２年生になります。私は１年前まで、人から色々なことを与えられてばかりでした。優しさや思いやりです。それを今度は自分が人にできるようにしていきたいです。



## 27 期生の卒業文集より抜粋

**出逢い　D君**

仲間、今思うと自分の周りには多くの仲間がいる。入学当初はこんなにみんなと信頼しあえる仲になれるとは思っていなかった。学校生活・部活動を通じて少しずつ、皆のことも理解をしつつ自分自身を出していった。

勿論、３年間の全てがうまくいった訳ではない。ムカついて喧嘩したこともある、楽しいことも多くあった。楽しすぎて怒られることもあったね（笑）。こういうことが３年間あったからこそ信頼しあえる仲になれたと思う。

特に自分を大きく変えてくれたのが、１人の友達だ。バディのＥ君だ。Ｅ君とは1年からバディを組んでいる。初めは名前を覚えてくれなかった。だからバディを組んだ当初は適当な関係だった。でも、Ｅ君と一緒に過ごしてきて多くの事を学んだ。難しいことに対してもＥ君は最後まで努力していた。言葉を覚えるのも難しいのに自分の名前を覚えてくれた。こんな姿を見て自分自身まだまだ努力が足りなく、常に楽な方に逃げているだけだと気づいた。高校を卒業してからも逃げないからね!!　Ｅ君とは交流で遊園地に行ったり、家でご飯をいただいたり多くのことがあった。

まさかこんな関係が築けるとは思ってなかった。他にもここに書ききれないほどＥ君との思い出がたくさんある。Ｅ君との３年間はすごく楽しかったよ、ありがとう!!

４月からは進学する人、就職する人、お互い進む道は違うけれど頑張っていこう!!　３年間本当にありがとう!!

**本当の仲間　F君**

私にとってこの３年間で出会った仲間は宝物だ。振り返るとたくさんの思い出が流れ落ちる滝のように溢れ出てくる。全てが笑える思い出になっているのも仲間がいたからだ。

入学当初の私はただ優しい人、いつも一緒にいる人が友達だと思っていた。なぜなら中学時代がそうだったからだ。不登校同士で何となく一緒に遊んでいた。そして１日が終わっていく日々を繰り返していた。つまらなくはなかったが何かが物足りなかった。そんな中、仲間が助けてくれた思い出が山程ある。私の３年間は仲間に支えられてきた濃密な時間だった。そしていつの間にか中学時代に感じていた物足りない何かが埋まっていた。それはきっと本当の仲間ができたからだと思う。バディのＧ君がいなかったらここまで成長することもなかった。これからも一生、仲間を大切にしていきたい。来年度からは新しい場所へ行く。どんな環境でもこの学校で学んだ「本当の仲間」を作り続けていこうと思う。みんな、卒業してもまた会おうね。あと３年間バディを組んでくれてありがとうね、Ｇ君!!　卒業しても遊ぶぞー!!

**出会った仲間　Hさん**

私は小学生の時、特定の人としか話したり遊ぶことがありませんでした。それは中学に上がってさらにひどくなり、最初に行っていた中学では新しく友達を作ることもしませんでした。小学校からの持ち上がりの子だけと喋り、話しかけられれば話す、話しかけられなかったらこっちからも話しかけない。自分から１人になろうとする、そんな中学１年生でした。２年になり学校が変わり、新しい友達が増えても特定の人だけ、３年になって通ってた所では、友達を作ることさえしませんでした。３年後半から「このままじゃダメになる」と思い、話せる人を増やす努力をしました。でも、何でも話せる友達にはなれずに上辺だけで話す人が増えていきました。一緒にいても楽しいと思えず、また１人で居ることが多くなりました。高校に上がっても同じように何でも話せる人はできないと思っていました。ですが、武蔵野東高等専修学校には今までの友達とは違う人がいて最初はとてもではないけど馴染めるとは思っていませんでした。でも、最初のお泊り行事である１年生研修で、色々な話を先生から聞き、本人からも色々な相談をしてきてくれることに私はとても驚きました。赤裸々に色々話してきてくれるのがとても嬉しくて、自分も相談すれば真剣に考えてくれる友達以上の「仲間」ができたことがこの学校に入って良かったと思えることです。そして、その仲間との思い出が多くできたことが１番良かったです。スポーツ大会・林間学習・合唱コンクール。特に紫峰祭では１、２年は物を売る楽しさや苦労を、３年では模擬店の中心メンバーになり、自分たちで作れるものは何だろう？値段はどうしようか？内装はどんなのにする？どうやったらうまく回る？など色々なことを話し合い、どうしたら動きやすいかを皆で考える時間がとても楽しかったです。本番になって色々な失敗があり、まだまだ準備しておけば良かったと思うことはいっぱいありましたが、C組の仲間やほかの仲間が紫峰祭を楽しんでくれて、とても嬉しかった。人との関わりが好きになって、人の笑顔が好きになったのはこの学校に来たからだと思います。そのおかげで就職も決まりとても感謝しています。ありがとうございました。

**仲間　Ｉ君**

私はこの３年間でたくさんの仲間ができた。入学したての頃は友達ができるのかといった不安があったが、ラグビー部に入部し、あっという間に友達ができた。友達から仲間に変わるのはそう時間がかからなかった。ラグビー部では辛いこと、苦しいことがたくさんある。時には逃げたくなることもある。そういった時、隣を見てみると必死で頑張っている仲間の姿があった。その姿に刺激され、気がついたら私も必死で頑張っていた。これが仲間の力だと思う。１人では決して乗り越えられないことも一緒にやってくれる仲間がいれば乗り越えられる。私はこの３年間で最高の仲間に出会うことができたと思う。

ですが、プラスのことばかりというわけではなかった。くだらないことで喧嘩したり、素直に謝っておけば良いものを素直に謝れなかったことなど後悔していることもたくさんある。でも今思えばそういった失敗から色々なことも同時に学ぶことができたし、絆もより深くなることができた。

そんな中、私のバディのＪ君の存在はとても大きかった。Ｊ君に出会い、私の人生が 180 度変わった。大げさに聞こえるかもしれないが、私にはそれぐらい大きかった。Ｊ君とは１年生の後期からバディとなった。皆の知っている通りＪ君は一度スイッチが入ると手のつけようがなく騒ぎ出す。前は日頃から甘やかしていたせいもあり、怒るときも正面で当たらずうわべだけで怒っていた。それではＪ君にも伝わるはずもなく私の力だけではＪ君を止めることができなかった。Ｊ君との付き合いも徐々に長くなり、ちょっとずつだが理解し始めた。

とある日またＪ君が騒ぎ出した。私なりのやり方で本気で怒ってみるとその瞬間、Ｊ君も真剣な顔をして、私の話を聞いてくれた。少し経つとまた騒ぎ出したが、Ｊ君も本気で向き合えば聞いてくれるんだなぁと思った。それからは楽しくやるときは楽しく、やる時はやるといったメリハリのある生活を過ごすことができるようになった。私の隣にはいつも「Ｉ君」と言ってくれるＪ君がいた。私が頑張ることができたのもＪ君のお陰だと思う。本当にありがとう。Ｊ君の力に 100% なれたか分からないが、10 年、20 年その先も付き合っていきたいと心から思っている。



## ５. 混合教育を実施していく際の留意点

入学したての４月頃は、健常児が自閉症児に対しての理解が及んでいない状況があるため、１年生研修などで「障がいとは」「友達との関わり方」という話をします。

「障がいとは個性である」という考え方を軸にして下記に述べる、教え過ぎないということや甘えさせすぎないということについて話をし、真剣な眼差しで話を聞く姿は友達のことを一生懸命に理解しようという気持ちの芽生えであるともいえます。

**・健常児が自閉症児に教えすぎない、甘えさせすぎない**

１年生の頃は、健常児は優しさから自閉症児が自分でやらなければいけないことを、気を回しやってしまう傾向にあります。これは、自閉症児の秘めた能力に健常児が気づかない面ともいえ、自閉症児の能力に気づかせながら、健常児に自閉症児との関わり方を具体的に促していきます。また、自閉症児は甘えから何でも頼ってしまったり、スキンシップを図ろうと身体的に近づき過ぎてしまったりすることも多いため、年齢相応の同級生という自覚を双方に持たせるようにします。

**・バディが健常児の重荷になりすぎないように**

１年生の初めは健常児自身も学校生活に慣れるのが精一杯の状態であり、この段階で行動に問題の多い自閉症児と健常児のバディを組ませることは、健常児にとってバディが重荷に感じられ、生徒によっては学校から足を遠ざけさせてしまう要因となってしまうこともあります。そのため、健常児の学校生活の状況を的確に把握しながら、バディを組ませていく必要があります。

また、いつでも教員が相談にのり、力を貸してくれるという学校全体の雰囲気作りも欠かせません。

**・バディが自閉症児のストレスの要因になりすぎないように**

世話好きで面倒見のよい健常児が、細かいことにまで指示をすることで、自閉症児が情緒不安定になってしまうことがあります。こうした問題が起きないように小さな先生になるのではなく、同級生としての対等な関わりを意識づけさせるようにしています。

また、必要に応じて、健常児に自閉症の情報を提供し、障がい特性や配慮すべき点などを明確に伝えていきます。

また、いつでも教員が相談にのり、力を貸してくれるという学校全体の雰囲気作りも欠かせません。

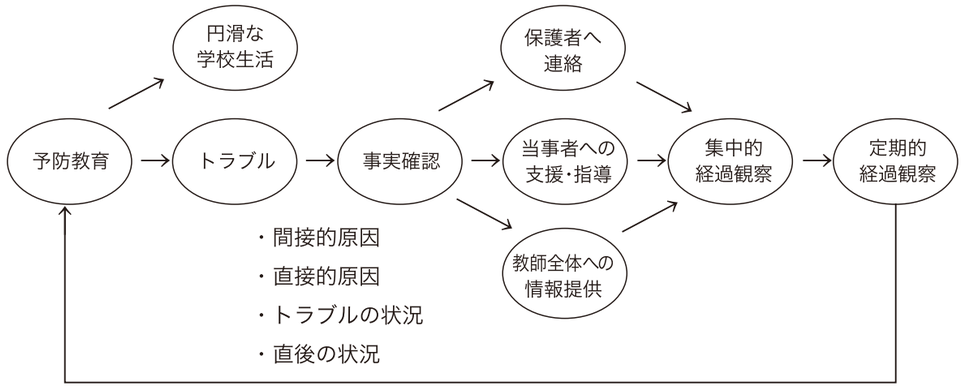
**・教員がバディに頼りすぎないように**

バディが上手く機能していると、教員はほとんど手を掛けずに行動できるバディも生まれてきます。大変好ましい状況である一方で、バディを組んでいる双方の生徒の精神面の把握を行っていく必要があります。また、特定の生徒のみの交友関係を築かせるのでなく多くの生徒との交流に拡大していくように検討していく必要があります。



## 6. 混合教育におけるトラブルと解決

混合教育を実施する上で、細心の注意を払ったとしてもトラブルが起きることは致し方のないところです。ここでは、トラブル発生時の対応と解決策について述べてみたいと思います。




自閉症児と健常児との混合教育において、最も重要なことは健常児に対して自閉症への理解をナチュラルに促していくことです。健常児の大半は武蔵野東高等専修学校入学時には自閉症という障がいを抱えた仲間と同じ時間を過ごしていくということは頭の中で理解できていても、実際に学校生活を過ごしていくと驚くべき行動や発言に当惑することが少なくありません。混合教育は、机上の論理ではなく共に過ごす実生活の中でこそ培われていくものであるといっても過言ではないのです。

我々教師側は、混合教育を実践していく中でトラブルが生じてからの対処的な教育を行っていくのではなく、日々、トラブルを未然に防ぐことができるよう予防教育を徹底しています。しかしながら小社会ともいうべき学校生活は、障がいがあろうとなかろうと人間対人間の関係が常にあるわけですから、必ずトラブルは起こります。そして、小さなものから大きなものまで、トラブルが起こる度にその都度解決に向けて最善を尽くしていくのです。

それでは、実際に起きたトラブルについて記しておきます。

## ケース１　携帯電話

**①予防期**

携帯電話の普及に伴う犯罪（不当請求・ストーカー行為等）を具体的に話し、犯罪に関与することがないよう日常的に啓蒙しています。

**②トラブル・事実確認期**

担任が健常児Ａ君から、自閉症児Ｂ君よりおよそ１ヶ月にわたって深夜まで頻繁に電話やメールを受けていたことを相談され、トラブルが発覚しました。その相談にいたるまでの過程の中で、Ａ君はＢ君の行動について当初はたしなめるような言い方をしていたものの、次第に感情的にＢ君に対して怒りをぶつけていたことも判明しました。

またＢ君は、家庭内での交流が少なく、自室にひきこもったまま、手持ちぶさたになると電話やメールをしていたことがわかりました。

**③対処・指導・支援期**

Ａ君に対しては、担任に相談することが遅れたこと、Ｂ君に対して単に感情をぶつけただけでは根本的な解決には繋がらないことを話し合いました。また、Ｂ君のコミュニケーションの取り方が特有であり、悪意のなかったことを確認しました。

Ａ君は、担任に相談が遅れたことを素直に反省し、Ｂ君に感情的になったことについては、自分の中に差別意識があったのではないかと振り返っていました。また、Ｂ君のコミュニケーションの取り方の特有さや悪意のなさについては、日常生活から窺えることであり、スムーズに受け入れることができていました。

一方、Ｂ君に対しては、今後このような行為が続いていくと法律上どのような罪となるのかを、より具体的にわかりやすく説明していくと同時に、適切なコミュニケーションの取り方を教えていきました。また、家庭内での余暇の過ごし方については、保護者と連携し改善していくように話し合いました。

**④解決・経過観察期**

１ヶ月間程度の集中観察期に、Ａ君も含めてクラスメイトにＢ君からの電話やメールがないことを確認しました。その上で、日常生活においてＡ君とＢ君の関わる機会を意図的に増やし、トラブルによって２人の関係が疎遠になることを防止しました。

また、定期的な観察期にも、Ｂ君の電話やメールの乱用は見られず、家庭内の手伝いや家族でテレビを見るなど家族の交流が増えていることもわかりました。



## ケース２　他害行為

**①予防期**

どういう状況に於いても他の人に対して暴力で物事の解決や自己表現を行ってはいけないこと、そしてその行為に及んでしまった場合にはどのような対処をしていくべきか話しています。

**②トラブル・事実確認期**

健常児Ｃ君が冗談のつもりで、自閉症児Ｄ君が大切にしているバスの路線図を取り上げたところ、 Ｄ君がＣ君に対して怒りだし、顔を殴ってしまうことが起こりました。

まず、トラブルのきっかけとなったＣ君がＤ君のバスの路線図を奪う行為について、なぜそのようなことをしたのかを確認しました。ここでＣ君が友人の健常児Ｅ君からＤ君を怒らせると面白い反応が見られるということを聞き、面白半分でＤ君の大切にしている路線図を奪ったという動機が判明しました。

Ｄ君については、暴力行為がどのくらいの頻度であるのか、以前から暴力行為があったのかについて、中学時代の担任と連絡を取りながら、事実確認をしました。その結果、中学時代にも母親や兄弟に対し、暴力行為があったことがわかりました。

**③対処・指導・支援期**

Ｃ君、Ｅ君の両名に対して自閉症児のパニックを見て面白がる行為自体が幼稚な考えであることを話し、自分よりも立場が弱い存在だと理解していて、そうした行為に及んだのであれば、いわゆる「弱い者いじめ」であり、社会的に許される行為ではないことを確認させました。そして、相手の立場に立って物事を考えることの大切さを話し合いました。

Ｄ君に対しては、状況から見て、彼自身が怒ってしまったことは仕方のないものであったことに理解を示す一方で、興奮した際に暴力行為に及んでしまったことに対しては、暴力行為がいけないことを、もしも社会人になったらということを想像させた上で、暴力行為をすれば会社を辞めなければならない状況に追い込まれることなどを具体的に話しました。

そして、暴力行為が家庭内で継続していることについて保護者と話し合い、興奮する前に、言葉で意思を伝えることを促すことや興奮した場合に一定の距離を保ち、暴力行為自体を起こさせない対応について検討し合いました。

**④解決・経過観察期**

職員会でトラブルの状況を話し、トラブルによってC君、E君のD君への態度がどのように変化するのかを十分に観察して欲しい旨を全職員に伝えました。また、教師のいない場でトラブルが再発しないようにクラス全体に話をし、生徒間でも再発を防止するように促しました。

## ケース３　物の貸し借り

**①予防期**

教科書やプリント等の貸し借りは、基本的には禁止していることを話しています。特に自閉症児から物を借りる場合には、言葉の有無等の関係から貸し借りの事実が時間の経過と共に希薄化していく可能性が非常に高い為、その旨を特に健常児に対し話しています。また紛失を防ぐために本校では各自の持ち物には必ず記名する習慣をつけさせています。

**②トラブル・事実確認期**

健常児F君が教科書を忘れ、自閉症児G君から教科書を借りて授業に臨んだにもかかわらず、借りた教科書を返さず数日が経ち、G君の保護者より貸した教科書が見つからない旨の連絡が教員に入り、トラブルが発覚しました。G君の保護者は、G君から教科書はF君に貸した事実を聞き出しており、事実を明確にしてほしい旨を担任に希望しました。

まずF君に対してG君の保護者から連絡が入った内容が事実であるかを確認しました。そして、G君以外にもF君が自閉症児から教科書などを借りていたことが分かりました。

**③対処・指導・支援期**

まず、F君自身からG君及びG君の保護者に謝罪をさせ、軽はずみな行為であっても、大きなトラブルのもとになることや、トラブルを起こしてしまった際には自分自身で責任を取らなければならないことなどの自覚を促しました。また、G君に対しても貸したことの報告を早めに担任や教科担当の教員にするよう促しました。また、このトラブルは、全校生徒にも話し、啓蒙の機会としました。

**④解決・経過観察期**

貸し借りをすることが今回のトラブルのような状況を生みだしてしまったことを双方に対して再度話をし、お互いに忘れ物に対しての意識を更に高めていくように継続的に促しています。



## ケース４　言葉による暴力

**①予防期**

過去の卒業生の中に、中学時代「ハエ」「シンタイ」「ゴキブリ」「ウザイ」「クライ」と中傷され、心に大きな傷を受けた事例を話し、本校では言葉による暴力も大きな暴力として捉えていることを伝え、注意を促していました。

また、体に受けた傷は、時間が経過すると共に「痛かった」という記憶は残るものの、痛みそのものは感じないが、心の傷は、何年経過しても、その時の感情がわき上がってくるため、痛みが残ってしまうことも同時に話しました。

**②トラブル・事実確認期**

健常児H君が自閉症児I君の少々生意気な発言や行動に腹を立て、「うるせえんだよ、ジヘイ」と中傷し、その言動がきっかけとなり、I君が興奮し、H君を殴ってしまいました。

H君については、言葉による暴力に至った経緯を、I君には暴力をふるってしまった際の状況を確認し、更に周囲の生徒から状況を細部にわたり聞き出して、すべての事実を両者の保護者に話すと同時にすべての指導を担任に委ねてもらえるよう要請し、了承を得ました。

**③対処・指導・支援期**

H君に対して「君の発言したジヘイという言葉は本校の教育すべてを否定するものであり、大きな暴力にほかならない。その姿勢を直さない限り、ここで教育を受ける資格がない」、I君に対しては「理由の如何に関わらず、暴力行為にいたってしまうと社会的な制裁を受けることになるため、言葉による暴力を受けた際には信頼のおける人に話をして、対応する時間的余裕を作る必要がある」ことを毅然とした形で伝えました。教師の毅然とした対応に双方とも泣き出してしまいましたが、言葉による暴力も含め、暴力を許さないという本校の姿勢は十分に伝わった印象でした。

**④解決・経過観察期**

言葉による暴力というテーマで話し合いの機会を作り、クラス内の意思統一を再度、図りました。その後、H君は言葉の暴力が許される行為ではないことに納得できた様子で、自閉症児も含めて人との接し方を改めることができました。I君は、暴力を振るわないように自制心を持つことができ、気にかかることがあった際には、その場をはずして職員室にきて相談するようになりました。

ここまでは、自閉症児と健常児のトラブル事例をとりあげてきましたが、ここからは、自閉症児がおこしたトラブルを健常児がサポートするケースや、自閉症児同士のトラブルについて示しておきます。

**・行方不明**

自閉症児の登下校は、その生徒が登下校路を覚えているか、交通機関を利用できるかなどについて担任と保護者が面談等で判断し、１人通学、部分１人通学（登下校路途中まで保護者の送迎がある）、保護者同伴通学の３パターンで行っています。将来に向けて１人通学を目標としているため、その練習段階や１人通学の登下校途中に行方不明になってしまうこともあります。その際、学校は、独自の行方不明マニュアルに則り、自閉症児の最近の興味関心や行動パターンからその生徒の捜索を開始します。それと同時に「Ｊ君がいなくなったので、もし見つけたらその場に一緒にいて、学校に電話してくれないか」といった様に健常児の生徒にも依頼をします。もし、自閉症児と日頃の交流がなければ、自閉症児の顔や名前が分からないことも仕方がありませんが、本校の場合、他学年の生徒であっても日常的に交流していることから、他学年の生徒にも依頼することが可能なのです。実際に行方不明の生徒の発見につながったケースもあります。

また、保護者から行方不明の連絡を受ける前に、「Ｊ君、今Ｋ駅（Ｌ線の車内）にいますが、ここにいていいのでしょうか」というように、連絡を入れてくれる生徒もいます。これは、ひとえに、日頃から自閉症児と交流しているからこそできる行動だと言えます。

**・公共の場での問題行動**

自閉症児の中には電車やバスの車内、また駅のホーム、登下校途中で特異な行動をする生徒がいます。一般社会の人々であれば、遠目で無関心を装うこともありますが、本校の健常児の中には勇気を出しそのような場に近寄り、直接注意をすることもあります。そして、その健常児が学校に状況を伝えることで、今後の指導に役立つことがあります。

また、特異な行動が見られた際、一般社会の人々は奇異な目で見ることも多く、残念ながら心無い言葉をかける方もいます。そのような視線や言葉に耐え切れない健常児も多く、周囲の方に説明をし、理解してもらおうとする健常児もいます。

**・金銭問題**

自閉症児同士で起きた事例ですが、数人で交流をした際、飲食店などでお金を支払う時に割勘で支払いを済ませたのですが、自宅に帰ると交流で支払った金額と残っている金額が合わない自閉症児がでてきました。学校でその日に所持していた金額、レシートの確認をしたところ、お金の勘定ができていない事がわかり問題が解決しました。



以上の様なトラブルは、社会に出るための金銭感覚を養うための職業教育とも言えます。

社会に出てから問題が起きてしまうと解決せずにうやむやになってしまうケースもありますが、この様に問題がわかれば学校でお金に関するトレーニングを行うことができます。

そのため、本校では休みの日に交流を行う場合は必ず担任へ報告してから交流を行います。「誰と、何処で、何を」という点を把握しておくことで、万が一トラブルが起きても早急に対応することができます。

また、お金の管理ノート等を作成し、お金を使用した際は「何を、いくら」ということを常に記録することで金銭トラブルを事前に防ぐこともできます。

## 7. 指導上の教師の工夫

近年の社会の変化に伴って生徒指導も大きく様変わりしなければなりません。生徒が起こした問題行動に対する指導は、対症療法的な生徒指導でした。しかし、生徒が社会人になったときのことを考えると、今までのような生徒指導ではなく、人間としての在り方や生き方までも含めた指導でなければなりません。さらには問題行動を未然に防ぐ生徒指導、いわゆる予防教育が重要だと考えています。私たち教職員は、15歳からという大切な時期の子どもの１日の大半を家庭より預かっているのですから、生徒を常に同等に見る目、理解できる目を備えることが大切です。また、先のトラブルを予測し未然に防ぐことのできる予防の目も大切であると考えています。これらの目を全職員がもつように、努力しています。この努力の中で予防する目を広げる上で様々なシステムも考え出しています。

**・生徒に投げかける教師の言葉**

生徒は常に教師との関係を１対１で見ており、教師からの言葉を敏感に受け止めます。ですから、向上心を育てその子の可能性を引き出すような言葉を用意し、意識して投げかけなければならないと考えています。

**・生徒に投げかける言葉**

○「できないこと」と「やらないこと」をはっきり区別しなさい。
○「楽」と「楽しい」を一緒にしてはいけない。
○「聞く耳」と「聞く心」を持ちなさい。
○人の欠点ではなく良いところを見つけなさい。
○今やらなくてはならないことは何かを常に考えて行動しなさい。
○同じことを何回も注意されないようにしなさい。
○計画的に取り組むようにしなさい。
○時間を守りなさい。
○約束を実行しなさい。
○努力を惜しんではいけない。
○自己への厳しさを持ちなさい。
○童話の「アリとキリギリス」
○分度器の１度

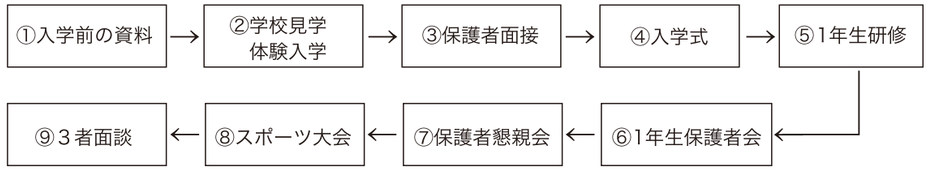


## 8. 保護者に対する教師の工夫

ここまでは、混合教育を実施していく上での生徒に対する本校の取り組みを記載してきました。この項では、混合教育の成否に関わる大きな側面である保護者への取り組みについて述べていきます。

混合教育を実施していく上で、保護者の方々にもしっかりと混合教育を理解していただくことが重要となってきます。そのような中で本校では、保護者にそれぞれ混合教育を理解していただくように段階的なプロセスにしたがって情報提供していきます。

次の図は、保護者に混合教育を理解していただくプロセスです。




本校では上の図のような流れで約４ヶ月の間に混合教育に対する保護者の理解を段階的に進めていきます。

①～⑨までの流れを説明すると次のようなものになります。

**①入学前の混合教育理解の資料**

学校紹介ビデオや NHK で放映された「こども・輝けいのち　こころの二人三脚～自閉症児と級友たち～」、学校案内、学校ホームページ、また清水校長の著書「ダメ人間はいない　学校で生徒は変わる」、本校教員の天宮一大の著書「ラグビーボールを抱きしめて」等により本校の混合教育に関する情報を得ていただきます。

**②学校見学及び１日体験入学**

混合教育を実施する上で本校を受験する生徒および保護者には、本校の教育システムおよび学習している生徒の様子を見学することを義務づけており、実際に本校の様子を見ていただき、混合教育を具体的に感じていただいています。

また、１日体験入学に関しては、入学前に９回実施しているもので７月下旬から１月中旬にかけて行っています。

**③入試における保護者面接**

入試の際、保護者面接を設けており、混合教育を理解した上での入学希望であるかをお話しし、混合教育に対する理解を確認させていただいています。

**④入学式**

本校の全校生徒と初めて同席するという場になり、厳粛な式典の中、奇声を発したり席を立ったりする自閉症児が少々見受けられる中、本校の在校生や職員の動じない様子を肌で感じる機会となり、混合教育という認識が改めて感じられる機会ともなります。

入学式の様子

**⑤１年生研修**

入学後に行われる２泊３日の研修であり我が子がどのように自閉症児を感じ、どのように接点を持ったかを認識し混合教育というシステムに対するメリットを感じていただける保護者が多くなります。生徒たちの混合教育に対する感想が親に発信され始めます。

**・保護者Ａさんより**

中学の頃から、ほとんど会話がなくなってしまったわが子の口からあふれるように、友だちのことや自閉症といった障がいがありながらも明るく元気ですてきな同級生のお子さんの様子が語られました。このような研修からスタートさせていただき大変感謝いたしております。

**⑥１年生保護者会**

４月の１年生研修終了後に１年生の保護者を対象に、入学してからの生徒たちの様子を報告すると共に５月の連休の過ごし方に関する留意点を確認しています。

**・保護者Ｂさんより**

この会が、他の保護者の方々と握手をして自己紹介することからのスタートというのがとても新鮮で良かったです。中学までのんびりしていたので、本当に自閉症児の親ということを忘れることがありました。武蔵野東高等専修学校に入り緊張感が生まれました。「自閉症児なので大変です」とあいさつすると、向こうの方も大概「いや、うちも大変なんです。」と返されました。皆さん、不登校や様々な面で、御苦労なさってきたということがよく分かり、一気に親しみが持てました。



**⑦１年生保護者懇親会**

５月になると生徒同士が友好を深め各家庭で様々な生徒名が聞かれるようになります。そんな中で保護者同士にも仲良くなっていただきたいという趣旨から保護者主催の懇親会が設けられています。保護者同士仲良くなっていただくことにより学校内での小さなトラブルに対する理解も増します。

**・保護者Ｃさんより**

懇親会では、何人ものお母様方から「自閉症の子どもたちからもたくさんの刺激をもらっています」とのお話をいただきとても嬉しく思いました。

**・保護者Ｄさんより**

中学までご苦労された方が多く、どのように先生方に導かれて生徒さんが変わったか、この学校に入学できてどんなに良かったかとても詳しく話してくださる方が殆どでした。お母様方が前向きな気持ちでご自分も変わろうと努力されている様子が窺われ共感を覚えました。同じテーブルの方とも和やかに楽しくお話しでき心温まる懇親会でした。

保護者懇親会の様子

**⑧スポーツ大会**

この行事からは、移動におけるバディや競技におけるバディ、昼食時のバディなど、様々な形で健常児と自閉症児の混合教育の様子が理解していただけます。練習時から一緒に行動していくバディであるため、健常児と自閉症児の絆も強まっていきます。

**・保護者Ｅさんより**

中学までのスポーツ大会とは異なり、この学校のスポーツ大会は、不登校であった生徒１人ひとりが、そんなことを感じさせないくらい明るく、真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。また、自閉症児に対するさりげない気配り等、特に上級生を見ていて感じました。今まで歩んできた道はそれぞれ違っていて、不登校と自閉症では悩みの種類は異なっていると思いますが、親の子に対する思いは一緒なのだと思いました。

**・保護者Ｆさんより**

スポーツ大会、感動しました。皆が助け合って、最後までやり遂げている姿に涙しました。特に、中学の運動会では笑顔を見せなかった我が子が、笑顔で友だちと接している姿を見て、この学校を選んで良かったと改めて思った１日でした。

**⑨３者面談**

７月に生徒・保護者・担任の３者で学校での様子や学習面、そしてバディの様子を話し合います。この時点で混合教育に対する保護者や生徒の理解度、実践度が明確になり、混合教育理解のプロセスの完成となります。

混合教育を理解していただく上での情報は、「多すぎず、少なすぎず、時宜に応じて」が基本方針となります。混合教育の理解を進めたいからといって膨大な情報を与えても円滑に理解が促されるわけではありませんし、健常児、自閉症児の保護者共に誤解を生んでしまうきっかけとなってしまうこともあります。

続いて、本校の混合教育に関して卒業生の保護者よりコメントをいただきましたので２点紹介します。



**・Ｇさんの父親より**

武蔵野東高等専修学校の卒業生である娘のＧは、７年前、中学校３年生の後半に校内で色々な出来事にあい、学校不信に陥り、登校ができない状態でした。不安と共に武蔵野東高等専修学校に入学し、そして、１人前の誇りと夢を持った人間となり、卒業できました。

武蔵野東高等専修学校では様々な個性ある人間と出会い、仲間として衝突し考え、話し合い、助け合い、みんなの個性を認め、共に体育祭・学園祭・卒業式を創り上げ、楽しく、たくましく、思いやりのある人間へと成長させていただきました。また自分の弱みを強みに変化させ、強みを仲間の力として役立てるチームワークを毎日の学校生活で学ぶことができたように思います。

校長先生や担任の先生をはじめ、先生方が明確な目標と夢を持ち進めてきた混合教育の良い面の中で自然と吸収した結果だと思います。

Ｇは今、小学校の先生になるべく勉強中です。武蔵野東高等専修学校での経験を生かし、一歩一歩着実に歩んでいます。

卒業式　卒業証書授与

**・Hさんの母親より**

中１の２学期から不登校だった娘に、武蔵野東高等専修学校を紹介してくださる方がいて、訪ねてみることにしました。学園祭でのファッションショーを目の当たりにした時の衝撃は言葉にならないものでした。健常児が自閉症児の生徒たちをサポートしながら、自作の洋服やウェディングドレスを披露していたのです。また、バザー会場で保護者の方々の柔らかな笑顔に接した時、私は確信しました。娘はこの優しい空気の中で安心して自信を取り戻してくれるに違いないと。娘にも私の確信した気持ちが通じたようで、受験を決めました。

入学当初は、自閉症児の生徒たちとどう接していいか分からず戸惑っていた様ですが、日に日に、皆の優しく愛くるしい笑顔や行動に惹かれていった様です。学園内での生活を積み重ねる毎に、娘自身がその優しさに包まれているのを見て取ることができました。学校行事での自閉症児の生徒たちへのサポートは娘にとっては本当に楽しいものであり、楽しみとしていたものでした。一緒に行動するには色々気を配ることも必要ですし、必然的に責任感も養われた様に思います。また、娘が突然気力を低下させ登校するのがやっとだった時、C組のサポートに入れて頂き、娘は気力を少しずつ取り戻すことができました。それまでは自閉症児の生徒たちをサポートしてあげていたと思っていたら、実は娘の心をサポートしてもらっていることに暫くしてから気づきました。私たち親子を支えてくださったすべての方々に感謝いたします。

こういう優しい空間が社会へ広がっていくことを心から祈ります。また、娘がその一助となることができればと願っております。

学園祭ステージショーより

**・保護者に投げかける教師の言葉**

混合教育で大切なことは、生徒の指導だけでなく保護者に対しての働き掛けも大きな要因となることは前述したとおりです。そのために本校では、前述した段階的な混合教育の理解プロセスを導入していますが、日常的な教師から保護者に対する投げかけも大切な要因となっています。特に、不登校の保護者の中には、教師に不信感を抱いていたり、自分の子育てに自信が持てず、子どもと正対することができなくなっている保護者もいます。その中で保護者にどのような言葉を投げかけるかについて、以下に実例を示してみます。

教育方針説明会
クラス懇談会にて

・お子さんは自分の分身ではありません。できないことや知らないことがあっても当然です。できないことや知らないことに気づいてくれた我が子をほめてあげてください。

・お子さんの中には「がんばりなさい」や「普通」、「早くしなさい」、「成長」という言葉を嫌う傾向があります。そんな時新しい言葉を探す努力をしてみてください。

・成績がお子さんの価値を決めるわけではありません。疲れて帰ってきた両親に「お疲れ様」と心のこもった水を１杯出せるお子さんを育てたいのです。

・継続は力です。ですが社会に出たら立ち止まってちょっと休むという決断が自分でできる力をつけておきたいのです。

・時には、「お前が大切だ」や、「お前から毎日、力をもらっている」という言葉を口に出してください。言わなくてもそんなことわかっているはずと考えないでください。

・お子さんの前で父親や母親を否定するような話をしないでください。子どもを育てていく上でマイナスに働くことが多いのです。我々はお子さんの前で保護者を悪く言うことはありません。できればお子さんの前で学校や教師を否定する会話はせず、直接我々にご連絡ください。

・子どもたちには怒りのスイッチというものがあり、保護者の何気ない言葉によってスイッチが入ってしまうことがあります。その際はお互いが冷静になる時間を作ってすぐ私に連絡してください。マイナスの言葉の応酬からは建設的な結論は生まれません。私たち教員は、電話口からお子さんを冷静にさせる言葉を常に用意しています。

・生徒は教師を選べません。ですから我々教師は皆さんのお子さんから選ばれてこの場にいるわけではありません。ですが 1 年後この先生で良かったと言ってもらえるよう全力を尽くします。もちろん保護者の方々も同様です。

教師が保護者に投げかける言葉の中には、励ましの言葉もあれば奮い立たせる言葉も混在しますが、1番大切なのは「教育者として生徒を捉えるのでなく我が子として共に歩んでいく」とういう教育の原点を忘れずに保護者に言葉をかけていくということかもしれません。



## II 高等専修学校を取り巻く環境

混合教育を進めていく上で、その教育内容が大切なことに違いはありませんが、その教育内容の成果を問い、今後の混合教育を円滑に進めるための大切な活動に生徒募集があります。少子化が進む現在、高等専修学校では、健常児を募集することが年々難しくなってきています。

そのため、近年の高等専修学校では多くの学校が何らかの障がいのある生徒を受け入れています。そんな中で本学園は 50 年前、そして本校は 30 年前の開校と同時に混合教育を実践し、人間の心と心のぶつかり合いの中から優しさや社会性を学ぶといった人間教育及び職業観の育成を展開してきました。

そして、専修学校の下部的存在である高等専修学校は社会的認知度の低さから高等学校との格差と戦いつつ現在に至っています。

そこで高等専修学校の中で生きる本校の生徒の心を次の作文３点から掴み取ることができると思いますので紹介します。

**25 期生　A君**

自分は今、学校生活が楽しいです。でも最初から学校生活が楽しかった訳ではありませんでした。入学時は学校に来ることがとても嫌で、最初は中学の時と同じ気持ちでした。ですが、バディを組むようになってからは１日１日の生活が変わっていきました。中学校の時不登校だったので、生活が 180 度変わったことは自分が１番良く分かります。バディと生活していく中での「コミュニケーション」、みんなと生活していく中での「１人ひとりの責任」、このような大切なことが学校生活で学べました。

特に、学校の行事では１日をバディや１学年全体で過ごすので仲良くなれます。それに行事では担当者を決めるので個人の責任は大きくなります。それゆえ、「責任」というものをとても感じることができます。

入学時から思い出してみると、本当に色々なことがありました。もちろん良いことだけではなく叱られたこともたくさんあります。その反省を活かして次の１年間も頑張っていきたいと思います。

**26 期生　B さん**

去年の入学式の日から今日まで、やっぱりあっという間だった。入試はともかく入学式の日ですら行きたくなかったことを思うと、だいぶ気持ちも変わった気がする。今も面倒になることはたまにあるけど、学校に行くのが楽しみな日もない訳ではない。学校というものが嫌いで、近寄ることもしたくなかった中学時代と比べるとすごい違いだと思う。少し懐かしくもあるけれど、何もしていなかった中学時代、もう味わえないだろうと思っていた高校生というもの。プランノートの感想にも書いたことがあるけれど、中学の頃の自分と話してみたい。今の毎日を教えたらどう思っただろう。きっと想像もつかないだろう。今でもどこか現実じゃない部分があるのではないかと少し思う。思い出してみれば色々あった１年だけど、１番の影響は部活だと思う。家族以外と話すことが全くなかった状況から、大勢の人と会話せざるを得ない状況へとなり、少しは話すことができるようになった。難しいのは考えている時で、やってみれば案外簡単なものなのかもしれない。私にとって「話すこと」はこの先ずっと課題となってくる気がする。周りの人を見ていてどうやったら知らない人と淀みなく、スラスラと話せるのか疑問に思うことがたまにある。知らない人と話せる様になれるか不安だけど、それはやってみるしかないのだろう。“行動”は大事だと思う。考える前にやる。やってから考える。入試から入学、入学してから今日。１年間がこんなに早いのなら、あとの２年間もきっと早いのだろう。２年生になったら、もっと大変なことが増えるだろうし、考えなければいけない、やらなければいけないことも増えるだろう。１年生の時、上級生から教えてもらった何かを、これから入ってくる新入生に継げるよう、２年生として恥ずかしくないよう、そして進路決定に向けて行動できる２年目にしたい。

**26 期生　C 君**

この１年、色々とあったような気がする。１年生研修、林間学習、スキー教室、そしてラグビー部では、夏合宿や花園ツアー、ゴールデンウィーク合宿等色々な行事があった。そして、協力しあい、たくさんのことを成功させてきた。やがてC組の友だちとバディを組んだ。それはD君だ。D君とは同じ専門コース、同じ部活ということで、結構仲が良く一緒にいると楽しい。だから、バディになった時は、とても嬉しかった。これからD君とはバディとしてではなく一生付き合える友だちになりたい。４月からの大きな目標のひとつにしたい。



## Ⅲ 混合教育における生徒の出席状況

ここでは、混合教育の観点から、生徒の出席状況について考察したいと思います。現在、本校に在籍している健常児のうち約３割の生徒は中学生の時期に不登校を経験しています。

不登校経験者については、本校では職業教育の観点も含めて、登校してこそ社会に出る準備に値するという方針に基づき指導、支援を行っています。

平成 15 年度入学生から 24 年度入学生にかけての１学年の年間皆勤率は次のようになっています。（年間皆勤率の算出は、年間皆勤達成者数 ÷ 生徒総数）

| １学年 | 健常児 | 自閉症児 | 差 |
|---|---|---|---|
| 平成 15 年度入学生 | 78.9% | 67.6% | ※11.3% |
| 16 | 51.2% | 82.4% | 31.2% |
| 17 | 46.7% | 83.3% | 36.6% |
| 18 | 69.0% | 85.7% | 16.7% |
| 19 | 46.4% | 62.8% | 16.4% |
| 20 | 56.7% | 54.5% | ※2.2% |
| 21 | 66.7% | 63.2% | ※3.5% |
| 22 | 46.2% | 76.2% | 30.0% |
| 23 | 80.0% | 97.8% | 17.8% |
| 24 | 92.0% | 81.8% | ※10.2% |

※は健常児が自閉症児を上回った数値

上記の表からわかる点として、１年生においては、ほとんど、自閉症児が健常児の出席率を上回る形となっています。そして２学年になると次のように皆勤率が変化しています。

| ２学年 | 健常児 | 自閉症児 | 差 |
|---|---|---|---|
| 平成 15 年度入学生 | 84.2% | 73.5% | ※10.7% |
| 16 | 73.2% | 61.8% | ※11.4% |
| 17 | 55.6% | 77.8% | 22.2% |
| 18 | 82.8% | 69.4% | ※13.4% |
| 19 | 61.5% | 76.7% | 15.2% |
| 20 | 83.3% | 77.3% | ※6.0% |
| 21 | 83.3% | 78.7% | ※4.6% |
| 22 | 76.9% | 69.0% | ※7.9% |
| 23 | 100.0% | 100.0% | 0.0% |
| 24 | 86.4% | 84.0% | ※2.4% |

前記の表のように２年生になると健常児の出席率が、いずれの年度も１年次の出席率を上回り、出席率が改善していることが窺われます。これは自閉症児とのバディによって責任感が芽生えたことや、自閉症児の多少体調を崩しても登校する姿に刺激を受けたことそして、２年間の積極的な登校指導の教育的効果が表れたものと推察されます。特に、平成23 年度入学生については、健常児、自閉症児共に、出席率が 100％という結果です。職業教育の模範となる結果であるといえるでしょう。



| ３学年 | 健常児 | 自閉症児 | 差 |
|---|---|---|---|
| 平成 15 年度入学生 | 84.2% | 73.5% | ※10.7% |
| 16 | 68.3% | 64.7% | ※3.6% |
| 17 | 80.0% | 92.9% | 12.9% |
| 18 | 72.4% | 83.7% | 11.4% |
| 19 | 73.1% | 67.4% | ※5.7% |
| 20 | 93.3% | 86.4% | ※6.9% |
| 21 | 95.8% | 87.2% | ※8.6% |
| 22 | 80.8% | 78.6% | ※2.2% |
| 23 | 95.6% | 80.0% | ※15.6% |
| 24 | 88.0% | 93.5% | 5.5% |

３年生では、80％超えという結果も珍しくありません。年を重ねるごとに皆勤率は高まり、３年次には約 70％以上が皆勤を達成します。この皆勤率の向上は、登校することの意義を繰り返し生徒に伝える教師の姿勢や、本人たちの社会へ出ることへの意欲の向上等様々な要素が含まれますが、卒業生及び在校生の作文や話から自閉症児との関わりやバディの影響によって登校する姿勢が育まれていくことが分かります。もちろん、混合教育の意義に加え、本校の職業生活を念頭においた職業教育も一定の成果を収めているといえるでしょう。

## Ⅳ 退学者を出さない教育

文部科学省ホームページによれば、平成 27 年度の公・私立高等学校における中途退学者数（中退者数）は合計 49,001 人〔前年度 53,391 人〕、年度当初の在籍者数に占める割合（中退率）は、1.4%〔前年度 1.5%〕でした。

中退事由については、「学校生活・学業不適応」が 34.1%で最も多く、次いで「進路変更」が 34.5%、「学業不振」が 7.7%の順となっています。「学校生活・学業不適応」の内訳は、「もともと高校生活に熱意がない」の割合が高いです。「進路変更」の内訳は、「別の高校への入学を希望」や「就職を希望」の割合が高いという結果になっています。中退率を学年別に見ると、第１学年での中退率が 1.6%で最も高く、以下、第２学年 1.1%、第３学年 0.4%と続いています。また、中退者数全体のうち、１年生が占める割合は 33.8%であり、以下、２年生 21.3%、３年生 7.7%です。

振り返って本校における退学者の数字（平成 17 年度～ 26 年度）を概観すると、下図のようになります。

| | 健常児 | | | | 自閉症児 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | １年 | ２年 | ３年 | 合計 | １年 | ２年 | ３年 | 合計 |
| 平成 17 年度 | 5 | 0 | 1 | **6** | 0 | 0 | 0 | **0** |
| 平成 18 年度 | 0 | 3 | 0 | **3** | 1 | 2 | 0 | **3** |
| 平成 19 年度 | 2 | 1 | 0 | **3** | 1 | 1 | 0 | **2** |
| 平成 20 年度 | 3 | 0 | 0 | **3** | 1 | 0 | 0 | **1** |
| 平成 21 年度 | 3 | 4 | 1 | **8** | 1 | 0 | 1 | **2** |
| 平成 22 年度 | 1 | 2 | 0 | **3** | 0 | 1 | 0 | **1** |
| 平成 23 年度 | 1 | 0 | 1 | **2** | 2 | 1 | 0 | **3** |
| 平成 24 年度 | 1 | 0 | 0 | **1** | 3 | 1 | 0 | **4** |
| 平成 25 年度 | 0 | 0 | 0 | **0** | 2 | 1 | 1 | **4** |
| 平成 26 年度 | 2 | 1 | 1 | **4** | 0 | 0 | 0 | **0** |



自閉症児の退学理由は、ほとんどが家庭・保護者の都合によるもので、生徒本人の意思による「進路変更」や「学校生活への不適応」はないと言えます。教員の指導とは別の次元の問題と言えましょう。実際、自閉症児の友だちが学校をやめるというときに多くの健常児の友だちが別れを惜しみ、また離れてしまった後も手紙のやりとりなど交流を持っているケースが見られます。

これに対して健常児はほとんどが「進路変更」「学校生活への不適応」を上げています。また、年度によって違いが見られますが、多くの場合１年次で退学するケースが多いことも特徴として挙げられます。これは文部科学省発表のデータと類似する点ですが、最初の１年間を乗り越えた生徒に関してはその後の定着率が高くなると言えます。しかし、本校として毎年退学者０を目指して取り組んでいかなければなりません。

また、本校の特色の１つとして、不登校生を広く受け入れているという点が挙げられます。平成 28 年度も各学年に多くの不登校生が在籍しています。中学時代いわゆる不登校だった生徒で、本校を途中退学することなく卒業していった生徒の数は下図の通りです。

| 入学年度 | 不登校生入学者数 | 卒業者数 | 途中退学者数 |
|---|---|---|---|
| 平成 17 年度 | 18 | 18 | 0 |
| 平成 18 年度 | 11 | 10 | 1 |
| 平成 19 年度 | 13 | 13 | 0 |
| 平成 20 年度 | 17 | 15 | 2 |
| 平成 21 年度 | 8 | 8 | 0 |
| 平成 22 年度 | 18 | 17 | 1 |
| 平成 23 年度 | 8 | 6 | 2 |
| 平成 24 年度 | 14 | 14 | 0 |
| 平成 25 年度 | 7 | 7 | 0 |
| 平成 26 年度 | 6 | 5 | 1 |
| 平成 27 年度 | 6 | 6 | 0 |

各年度の卒業生中、中学時代不登校だった生徒の人数（表内左側）および同学年に在籍していた不登校生で卒業まで至らずに途中退学した生徒の人数（右側）となっています。

また平成 25 ～ 27 年度は卒業予定者、および現段階で退学してしまっている生徒の人数です。

平成８～16年度の卒業者101名、退学者23名となります。中学時代不登校生であって本校に入学した生徒のうち、94.4％が卒業しているということになります。

上記の数字をいかに 100％にしていくかが我々の課題であると考えています。そして退学者数を減らす上で以下のような点に力を入れています。

・小さな目標、大きな目標を常に掲げさせる
・学校生活の中に楽しみを見つけさせる 部活動、専門教科、友だち（バディも含めて）
・自分の居場所の発見
・教員と生徒のコミュニケーション、生徒の今の心理状況を事細かにつかむ
・退学した後のことを考えさせる
・保護者との緊密な連絡
・「一人の生徒の担任はすべての教員である」という教員の自覚



## V 混合教育の今後の展望

### 1. 武蔵野東学園の混合教育

今日わが国の教育界では「インクルーシブ教育」の推進が声高に叫ばれていますが、インクルーシブ教育は国際連合において採択された宣言の一つ「ノーマライゼーション」と深いかかわりを持っています。

昭和 34 年、国際連合は児童権利宣言を採択し児童の社会保障享受の原則、障がい児が必要とする治療、教育、保護提供の原則を明らかにしました。続いて昭和 46 年には「知的障害者の権利宣言」を採択し、「ノーマライゼーション」をうたいました。

「ノーマライゼーション」とは、障がいを抱える人々がその障がいゆえに不利益をこうむることがないように、教育訓練施設の充実、健常者と同等の権利を享受できる法的保護措置などにより、障がい者が他者と同質の社会生活を送ることができる枠組み（共生社会）を指します。

この「ノーマライゼーション」の考え方は、平成 18 年になって国連総会で「障がい者の権利に関する条約」として採択され、翌年わが国はこれを批准しました。それと相前後して平成 18 年に障害者自立支援法を制定、最近では「インクルーシブ教育」の推進を障がい児教育の基本方針と定めて教育現場の改革に乗り出しています。

「インクルーシブ教育」とは、障がい児と健常児を分け隔てなく共に学校生活を送ることができる教育環境を整えるものです。こうした環境が障がい児に対する適度な刺激となってその発達を促すとともに、健常児の障がい者理解を深めることにもなり、「ノーマライゼーション」の実現に大きく近づくと期待されます。

本学園は 50 年前の学園創立以来、障がい児、特に自閉症児を積極的に受け入れ、健常児との日常的交流を通じて双方に教育効果をもたらす「混合教育」を行ってまいりました。本学園の「混合教育」はその本質において「インクルーシブ教育」そのものであり、本学園はわが国における「インクルーシブ教育」のパイオニアなのです。

今日、本学園には幼、少、中、高、合計 1,700 名ほどの児童生徒が在籍していますが、そのうちの 460 名ほどが自閉症を中心とした発達障がい児です。このように障がい児と健常児を同じ学園で教育する教育を、本学園では「混合教育」と呼んでいますが、これは「インクルーシブ教育」そのものです。

学園の「インクルーシブ教育」の歴史は学園創立時、つまり50年前にさかのぼります。本学園が幼稚園を開園したとき、どの幼稚園からもわが子の受け入れを拒否された 5 名の保護者が、本幼稚園の門を叩きました。そのとき創立者の 1 人であり初代園長の

北原キヨは、その幼児たち（実はみな自閉症児でした）の入園を許可しました。これが学園の「混合教育」の始まりでした。

当時自閉症児はもっとも教育が困難な障がい児と考えられていて、北原キヨ自身も初めて自閉症児と対し、これをどう教育するか大いに戸惑いました。試行錯誤の中から北原キヨが思いついたことは、他人とのコミュニケーション障がいを持つ彼らの社会自立実現のためには、幼児のうちから積極的に健常児と関わりを持たせ、時間をかけてコミュニケーション能力を養うのが良いのではないかということでした。

そして北原キヨは音楽や体操では両者を同じ教室で学ばせました。これは、自閉症児には教育訓練よりも刺激の強すぎる社会から隔離し、温かく見守るのがよいと考えていた、当時の自閉症研究者の常識と正反対の試みでした。しかしこの「混合教育」の成果が次第に多くの自閉症児の保護者に知られるところとなり、全国から入園希望者が殺到するようになりました。

学園はその後小学校、中学校、高等専修学校を次々に開校しましたが、どの学校でも障がい児と健常児の交流を促進する仕組みを充実させてきました。運動会や学芸会では両者混合のプログラムを種々取り入れる等、日常的学園活動以外でも両者が深く関わりあう機会を作り出しているのです。

ちなみに中学校の吹奏楽部には十数名の部員の半数にあたる自閉症児がメンバーとして参加していますが、彼らは健常児との役割分担を巧みにこなし、見事なアンサンブルを奏でて聞き手を驚かせます。

自閉症児と深いかかわりを持ちながら学園生活を送る健常児たちは、年齢相応に自然に自閉症児たちをリードしまた手助けをします。そして自閉症児たちは健常児の温かい支えと彼らから受ける適度な刺激により、社会自立の道を着実に歩みます。また自閉症児の多くに見られる几帳面で何事に対しても粘り強く集中して取り組むという特徴が、健常児の生活態度、学習態度に大きな影響を与えています。

こうした環境で学園生活を送る健常児たちは、学外においても障がいのある人々に対し、偏見を持つこともなくごく自然に接し、またボランティア活動に強い関心を示す等、「生きた福祉の心」が自然に育まれます。学園を巣立った後、教育、医療、福祉の道に進む生徒が多いのも特徴です。つまり本学園の生徒たちは「ノーマライゼーション」の推進者の１人として成長してゆくのです。ちなみに現在学園卒業生 27 名が本学園に奉職していますが、その多くは 20 代です。児童や生徒として混合教育の魅力を体感した彼らが、これからの学園、「混合教育」の深化の担い手となっていきます。



## ２. 本校における混合教育の今後の展望

自閉症児への教育的対応を主な目的として、わが国では昭和 44 年に情緒障がい児学級の設置が始まり、その教育的な対応が本格的にスタートしました。そして、この 40 数年間に、自閉症の症状形成に関する考え方や治療的・教育的対応の方法に関して何度も大きな転換点があり、自閉症専門の養護学校や特殊学級の設置を望む声がある一方、通常の学級での教育的対応の改善も切望されています。

そして、平成 12 年５月に当時の文部省が設置した「21 世紀の特殊教育の在り方に関する調査研究協力者会議」（座長：河合隼雄）では、自閉症児教育の改善の必要性を含め、特殊教育の在り方を見直す必要性について数多くの提言があり、大きな変革が始まっていきます。

この調査研究協力者会議の最終報告書は，平成 13 年１月 15 日に文部科学省に提出されましたが、この報告書の標題は「21 世紀の特殊教育の在り方について ～ １人ひとりのニーズに応じた特別な支援の在り方について ～ 」となっています。この会議では、特殊教育の枠組みを大きく変えようという意見が強く表明され、敢えて副題（１人ひとりのニーズに応じた特別な支援の在り方について）が付けられたという経緯があります。このように、個人のニーズに対応していく必要性が、最近では特に強調されるようになってきました。それは、周囲が何を望むかよりも、障がいのある本人が何を必要としているかという「本人のニーズ」を最優先するということを示します。

これまでのわが国の医学や教育の世界では、ハンセン病への対応の実例からもわかるように社会防衛的な立場からの対応、つまり「多数者の幸福」といった側面からの対応を重視する傾向が強かったといえます。しかし、特別支援教育では、周囲の子どもや保護者が何を望むかよりも、本人が何を望むかを重視することが大前提となっています。

このことは、視覚障がいや聴覚障がいの世界では、すでに概ね実現されているところですが、自閉症の場合、「この子が普通学級にいると、授業が進まないので困る」とか、周囲の親が「（自閉症児の）問題行動を何とか押さえて欲しい」と圧力をかける等、教師や保護者の希望を優先させてしまうという面が強く残っていました。そのため、小学校、中学校の通常の学級での自閉症児の受け入れはもちろん、高等学校では、統合教育の実践がほとんど実現しないまま今日にいたっているのが実状です。

しかしながら、特殊教育から特別支援教育への大きな変革によって、わが国全体で、急速に統合教育が実施されています。このことは、「混合教育」の教育的価値を実感する本校にとって喜ばしいことですが、公立を含め、他校の統合教育は継続的に実践された経験を持たないため、教育技法の集積がなされていないことや統合教育そのものについて、依然としてイデオロギーの対立が続いており、学校全体のコンセンサスが得

られにくいこと等、問題が山積している現状といえます。

平成 25 年 6 月に「障害者差別解消法」が公布され、障がい者に対する差別的取り扱いおよび合理的配慮の不提供の禁止が平成 28 年 4 月より施行されました。バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点を踏まえた障がいの状態に応じた環境調整・配慮が不可欠になります。

そこで、本校 30 年の混合教育の実践が、わが国の統合教育の真の実現に向けて果たす役割は大きいと言えます。つまり、本校の実践から得た知見を他校に参考にしていただくことで、わが国の統合教育は、その歩みを確実にすることができるように思うのです。

それは、本校のみの自負ではなく、他校の教育関係者にとっても同じ思いのようであり、本校（学園）には、以下のように、数多くの教育関係者が来校しています。

**・見学してくださった教育機関の方々**

文部科学省
発達協会
呉市議会　谷本議員
群馬県保健主事会
新宿区立教育センター
国立精神・神経センター
秋田県立養護学校
国立特殊教育総合研究所
町田市教育センター相談員
日本自閉症協会山梨県支部
カリフォルニア大学日本人学校
オーストラリア大学教授
オイスカブラジル総局会長
キム・ヨン・ファン （韓国特殊教育学校会会長）
リタ・ジョーダン（イギリスバーミンガム大学教授）
ミカエル・プロップ（ドイツソーシャルワーカー）
ブンダン・チャイルド・ケアセンター（韓国）
ギブンセン特殊児童早期教育院（韓国）
タソム早期教育院（韓国）
バレンティ・アレキサンダー （フランスバレンシアネス大学教授）
韓国育英学校教員
心路文教基金会（台湾）
ルス・マリア・リベロ（ウルグアイ希望自閉症児教育財団）
都内ハローワーク雇用指導官
札幌・麦の子会
茨城大学教育学部
青山学院女子短期大学
尼崎はすの会
大妻女子大学
ノートルダム学院
小金井市小中教頭会
駐日ウルグアイ大使館 1 等書記官
久里浜養護学校
日本知的障害者福祉連盟
東京都教育庁
東京学芸大学
植草学園短期大学
横浜国立大学
横浜国立大学より言語教員
柴田崇徳博士
栃木県落合小学校
国際協力機構委託研修生 （エジプト、サウジアラビア等）
新潟県長岡市立東北中学校
いずみ心理相談室
中野区桃園第三小学校こえと言葉の教室
東京福祉専門学校
仙台めるへんの森幼稚園
大田区こども発達センターわかばの家多摩療育園
岐阜県大垣養護学校
山梨県都留市保育園
目黒区養護教諭の会
北海道新篠津養護・札幌市立琴似小学校
江東区立園長会
東一之江幼稚園
米子養護学校
秋田県立栗田養護学校・岐阜市立梅林小学校
広島愛育園
二葉栄養専門学校
大阪ＹＭＣＡ国際専門学校
　文化学習共同ネットワーク
駿河台大学
長野県立安曇養護学校
中国北京市孤独症几童康復協会
韓国プーチョン
韓国認知科学研究所
大宮北養護学校
呉市立広中央中学校
岡山県立鳥城高校
小平二中
王子クリニック
筑波大学
多摩美術大学
九州大学
東放学園高等専修学校
大竹高等専修学校
日本芸術高等学園
調布七中
北海道北見市教育委員会
田無一中特別支援学級
横浜市立日野中央特別支援学校
松山福祉専門学校
奈良県橿原市立真菅北小学校
高千穂大学
練馬区教育委員会
大阪教育大学国立特別支援教育総合研究所
明星大学
淑徳大学
熊本県甲佐高校
新潟地区高等学校生徒指導連絡協議会
浜松市発達医療総合福祉センター
城西大学
武庫川女子大学
東京シューレ葛飾中
武蔵野市青少年問題協議会
宮崎総合学院
法政大学
日本福祉大学
山口大学
仙台工業高校
新宿区立中学校進路指導担当
東京朝鮮中高級学校
東京未来大学
大岡学園
杉並区立済美教育センター
福岡県　私立　立花高等学校
フィリピン　デラサル大学
高知県大方高等学校
兵庫　三木学園
愛農学園農業高校
佐賀県うれしの特別支援学校
名城大学
北海道立夕張高校
山口大学教育学部付属特別支援学校

## Ⅵ 生徒の視点（生徒の作文より）

本章では、混合教育をめぐる本校の実践について述べてきましたが、最後に、本校の活動記録である「理想を求めて」や、武蔵野東学園むらさき会会報、本校の卒業文集を抜粋・掲載し、混合教育が如何に生徒及び保護者に浸透しているのかを理解していただこうと思います。注目すべきは、３年生の全てを振り返った思いだけでなく、１年次の彼らの思いであります。この混合教育を通じて、彼らは 1 年生の時からすでに、自閉症の友人との関係を構築しはじめるのです。

### 1.「理想を求めて」より

#### 1. 平成 24 年度

**１年生　A君**

自分は今、学校生活が楽しいです。でも最初から学校生活が楽しかった訳ではありませんでした。入学時は学校に来ることがとても嫌で、最初は中学の時と同じ気持ちでした。ですが、バディを組むようになってからは１日１日の生活が変わっていきました。中学校の時不登校だったので、生活が 180 度変わったことは自分が１番良く分かります。バディと生活していく中での「コミュニケーション」、みんなと生活していく中での「１人ひとりの責任」、このような大切なことが学校生活で学べました。

特に、学校の行事では１日をバディや１学年全体で過ごすので仲良くなれます。それに行事では担当者を決めるので個人の責任は大きくなります。それゆえ、「責任」というものをとても感じることができます。

入学時から思い出してみると、本当に色々なことがありました。もちろん良いことだけではなく叱られたこともたくさんあります。その反省を活かして次の１年間も頑張っていきたいと思います。

**１年生　B君**

僕がこの１年間を振り返ってみて比と番印象に残っているのは、ラグビー部に入ったことです。入部当初は「やったことのないスポーツなんかできるわけがない」と、常にマイナス思考なことばかり考えていました。けれども先輩や卒業生から自信を持つことを教わり、初めて自分でトライをとったときは中学の時に決して味わうことのできなかった喜びと達成感に浸ることができました。そのとき、中学のころの自分とは違うと思えました。今ではラグビーというスポーツにめぐり合えて本当に良かったと思っています。

学校生活においては、C組の友達との出会いで自閉症の人への思いが変わりました。小中学校ではそういった人たちと触れ合ったことがなかった僕は、最初どう接していいか分からず先輩に頼ってばかりでした。今ではとても仲良くなって、特にC君とは１番の仲良しです。この学校に入学し、素晴らしい友達に出会えて良かったです。

**１年生　Ｄさん**

１年間を振り返って思うことは、この１年で私はたくさんの経験をし、入学当初とは比べものにならないくらい大きく変わったことです。小学校や中学校はほとんど登校していなかったのにも関わらず、今は１日も休まず学校に通うことができています。毎日学校に行くなんて考えてもいなかったことなので、とても驚いています。

林間学習や合唱コンクール等の行事では、皆をまとめ、引っ張っていく立場になり、その大変さ、難しさに悩みました。今まで私はこのような苦労を経験したことがありませんでした。しかし、その苦労を経験し、乗り越えることは、自分自身を成長させるために必要なことだったのではないかと考え、今では良い経験をしたと思っています。

苦労したことだけでなく、友達やバディの生徒との楽しい思い出や達成感を味わうこともできました。行事では様々な経験をしました。そして、私に大きな影響を与えてくれたのは、Ｃ組の友達との関わりです。最初はどのように接したら良いかわからず困りました。しかし、毎日一緒に生活していく中で、徐々に会話が増え、いつの間にか私にとって欠かせない存在となっていました。彼らの優しいところや良いところに気づくこともでき、元気をもらい、勇気づけられました。Ｃ組の友達との出会いは、私にとってとても大切なことでした。

人との関わりや行事など、この１年間で数えきれない経験をし、充実した時間を過ごすことができました。



## ２. 平成 25 年度

**１年生　Ｅ君**

この１年、色々とあったような気がします。１年生研修、林間教室、スキー教室、そしてラグビー部では、夏合宿や花園ツアー、ゴールデンウィーク合宿など色々な行事がありました。そして、協力しあい、たくさんのことを成功させてきました。やがてＣ組の友だちとバディを組みました。それはＦ君です。Ｆ君とは同じ専門コース、同じ部活ということで、結構仲が良く一緒にいると楽しいです。だから、バディになった時は、とても嬉しかったです。これからＦ君とはバディとしてではなく一生付き合える友だちになりたいです。４月からの大きな目標のひとつにしたいと思います。

**１年生　Ｇさん**

去年の４月の私は、今とは全然違います。あの頃は、外に出て人に会うことや視線を感じることさえも嫌で、毎日が億劫で１日がとても長く感じました。勉強も嫌いでした。でも今は、学校にいます。学校にいると、辛いこともあります。面倒なことも、無理だと思うこともあります。でも、この「武蔵野東技能高等専修学校」では色々ありましたが、仲間はずれ等の差別はありませんでした。皆と同じように過ごせていることが嬉しいです。バディの「Ｈちゃん」もいつも声をかけてくれます。私が元気づけられています。スキー教室で班長を担当した経験を活かし、これまで学んだことも含め、これからも一歩一歩前進していきたいと思います。将来、立派な社会人になるために、１つひとつをクリアしていき、以前よりできることが増えて良かったと自分を見直せるように頑張っていきたいと思います。

### 3. 平成 26 年度

**1年生　I君**

僕が1年間、武蔵野東高等専修学校に通ってできるようになったことは、同じ中学校からの友達だけでなく新しい友達と普通に話せるようになったことです。中学校では、むらさき（自閉症児）の人たちばかりのクラスで、時々、隣のクラスの人たちと話はしましたが、なぜか緊張してしまい、上手く話せませんでした。武蔵野東高等専修学校では、色々な友達とクラスが一緒でしたし、ラグビー部に入って先輩たちと毎日少しずつ話しているうちに緊張しないで話せるようになりました。初めはなかなか自分から話しかけられませんでしたが、今では同級生や先輩達に話しかけられるようになりました。

頑張ったことは校内実習です。初めての実習でしたので緊張と不安がありましたが、やり始めるとだんだん慣れてきて落ち着いてやることができました。今回、注意された点を次回の実習では気をつけていこうと思います。

時間が経つのがとても早いと身に染みた1年間でした。残り2年間もアッという間だと思うので時間を大切に過ごそうと思います。

### 4. 平成 27 年度

**1年生　Jさん**

私は、この一年で大きく変わったと思います。入学当初の私は人と話すことが好きではなく、誰かに話しかけられるのを待つだけであったり、話題を見つけるのが下手で会話が続かないことが多くありました。でも1年生研修やスポーツ大会、紫峰祭等の様々な行事を経験していく中で、少しずつ、会話をすることが楽しくなっていきました。その多くの行事の中で一番、色々な意味で大きく変わったのはスキー教室でした。林間学習の時は班長という経験したことのない役割を任され、自分の事だけでも一杯一杯でバディや班員のことをあまり考えることができなかったけれど、スキー教室では班長にはならず、ただの班員になりました。スキー教室は林間に比べてすることや覚えることがあまりなかったので、少し自分に余裕ができて、他の班員と話そうとしました。話そうという気持ちになったことも、この1年で大きく成長したことだと思いました。また、このスキー教室は、私にとっては、とても大きな課題でもありました。なぜなら、私の日々の行いが悪く先生方からの信頼を失い、バディと班を離されたからです。実際バディと離されてみると、不安だったり、心配になったりしました。それは、今まで離れることがなかった為に感じることができなかったことばかりでした。だから私は、これからずっと、Kちゃんがバディである限り、Kちゃんのことを考え、今回みたいなことがないようにしていきます。そして、先生方からの信頼も取り戻せるように、思うだけでなく、それを行動に変えていこうと思います。

夏休みには、夏体験ボランティアに参加し、感謝することの大切さを知りました。何をするにも、誰かの力を借りています。例えば、この学校に通えているのは親のおかげだし、ボランティアをできたのも、どこかの施設があってこそだし、それを建てた人もいるというように、様々な人の力を借りているからこそ今の生活ができています。感謝することについては、スピーチコンテストでも話しました。人前で話すことは、人と話すことよりも嫌いなことです。今でも嫌いです。でも、こういうもので、人前で話すことが増えていけば、そのうち話せるようになると思います。なので、これから変わるべきことは、人前で話せるようになることです。来年度は、今年度以上に変わることができれば良いなと思います。

**１年生　L君**

１年間を振り返ると色々なことがありました。例えば、中学校にはなかった専門理論や実技との出会い。私には新しいことの連続でした。中華鍋や北京鍋などを使ったことがなく、思っていた使い方と違うものもありました。けれど、新しいことを知るのは、とても楽しかったです。他には部活動です。最初は楽そうと言った理由で決めたのですが、やってみると大変なことも多かったです。特に大変だったことは、紫峰祭です。私は裏でお茶をたてていましたが、２時間ぐらいずっとたてていた気がします。茶道部は人こそ少ないですが、とても楽しく入って良かったと思っています。あと思い出に残っているのは、林間学習です。まず環境が違いました。テレビもインターネットもなく、それに自分たちで火をつけなければご飯が食べられないといったように、いつもと全然違っていました。それに大変だったのはM君のことです。最初にカレーを作った時はあまり食べてくれませんでしたが、２回目に作った時は上手にでき、たくさん食べてくれて嬉しかったです。夜に部屋から逃げ出したり、好き嫌いをしていましたが、なんだかかわいくて一緒にいて楽しかったです。私はこの学校にくるまで自閉症という障がいのことをあまり知らず関わったこともありませんでした。最初こそ抵抗はありましたが、１年間の様々な行事を通して関わっていくうちに、お互いにわかりあえるようになり、今では大切な仲間になりました。私は、最初から偏見を持たずに歩みよっていくのが大切だと学びました。最初からわからなくていい、時間をかけ理解しあうことでかけがえのない仲間になる。この１年で学ぶことはたくさんありましたが、このことは、この学校でしか学ぶことができないことなので、あと２年間は、自分のことだけでなくC組の友だちとの思い出を作っていきたいと思いました。

## 2. 武蔵野東学園むらさき会会報より

**28 期生　A君**

１年生の時からバディを組んでいると、友達のしたいことや考えていることが自然と分かってきます。けれどそれはお互いがとても大切な存在になり、刺激し合っているからこそ築けるものだと思います。

バディがいなければ今の私はいないと思います。また１人のバディとだけでなく、多くの友達と関わることができるのは、「混合教育」の良いところだと私は思います。バディと学校生活を共に過ごせ、本当に良かったと思います。

卒業まで残り僅かとなりますが、良い思い出がひとつでも多くなるよう、これからも一緒に過ごしていきたいと思います。

**28 期生　B君**

「混合教育」という言葉を初めて聞いたのは学校見学のときでした。自閉症と言われる人と接したことは中学時代まではあまり無く、テレビや本の中での言葉でしかありませんでした。

バディと呼ばれる友達ができたのは１学年の夏。初めのうちは変に気負ってしまい、どう接すれば良いか分からないままでいました。

しかし、学校生活の中で交流していくうちに、とても良い友達になることができました。友達が私のことをどのように思ってくれているかは分かりませんが、私にとって「混合教育」は、新しい友達と出会うことができる、お互いにとって大切なものだと思います。

**28 期生　C君**

初めてバディを組んだときは、不安だらけでした。最初の頃は言葉の掛け方も分からず、彼は何が好きで、何が嫌いなのか、それすらも分からない自分がいました。しかし一緒に過ごしていくうちに少しずつ彼のことが分かるようになり、いつからか一緒に楽しく過ごしている２人になっていました。

彼にとって私はどのような存在なのだろうかを今でも考え、不安になってしまうときがあります。卒業までに彼からも大切な友達だと思ってもらえるように、一緒に過ごしながら更に絆を深めていきたいと思います。



## 3. 卒業文集より

28 期生　A 君

自分がこの武蔵野東高等専修学校に入学して３年間生活してきて３年間で変わらない考えと変わる考えがあります。

まず自分の変わらない考えは、将来日本食の店を経営したいので、そのために調理の専門学校に行き調理師免許を取りたいというのは、１年の時から変わらずでした。

自分の３年間で変わってきた考えは、まず１年生の時の考えは誰にも関わらず仲良くしなくても問題なく卒業できるだろうと思っていて、自分は変わろうとせず、先生方に色々迷惑を掛けてしまいました。

２年生の時は、この学校で１年間生活したので、１年の時の考えは変わり、人に関わり同級生と仲良くするようになりました。そのため他のことを考え自分の学校生活、勉強面、自分の性格などが１年の時よりは変わっているといえ自分の中でこれまでは、まだまだだと思っていました。

３年生の時は、自分は専門学校の受験のために２年生の時に考えていたことを、できる限り直しました。受験が終わってから考えたことは、進学先で自分は本当にやっていけるのか、もしやっていけたとしたらどう自分は動いていくべきか考えていました。この考えを思って今自分ができることはとにかく頑張ることです。そして進学先でも何をできるかわからないけど頑張ることしか思いつきませんでした。

そしてこの学校のおかげで特定の人とだけではなく色々な人に話しかけられるようになりました。そのきっかけは、この学校にあるバディです。自分は１年生の時、人と関わりを持ちたくなかったのですが、B君とバディになりました。自分は、話すことが苦手だったのでB君とほとんど話さずに１年生が終わりました。そして２年生でバディがC君に変わり自分はC君に話しかけようとしないのに、C君はたくさん話しかけてくれて、それを見て自分が変わらなければいけないと感じました。C君とバディを組んで２年しかたっていないけれど、自分は色々なものをもらってばかりなので、少しでも何かをしてあげられたらいいなと思っています。

**27 期生　D 君**

この学校に入って「バディ」について初めて知った。C組の友達と、最初はどのように接していけばいいか、分からなかった。入学したころは、あまり人と話すのも得意ではなく、クラスの皆やC組の友達とも、どう接していけば良いのか分からず不安であった。やはり、コミュニケーションが取れていないと社会でも影響が出ることを学び、自分も少しずつではあるが様々な人と会話をしたり、話す機会を増やしていった。この学校での、林間学習や紫峰祭、合唱コンクールやスキー教室等、学校全体での行事でも、お互いの親睦を深めたりすることができた。初めて、C組の生徒と長く会話が出来た時は、とても嬉しかった。自分の存在を認めてくれたのかと思った時もあった。他にも、日常で様々な会話をすることができるようになってきた。また、部活の合宿でも、お互いに頑張ってきた。試合では水を運んでくれたり、応援をしてくれたり、自分にも自信が少し出てきた。今では、昼休みに交流したり、色々と会話をしている。自分が２学年になってからは就職に向けて、C組の生徒とも、校内での作業実習等を一緒に行ってきた。作業では、実習と同じことをしている。ミスをしてしまうと、大変なことになってしまう。その時に、A・B組の生徒とC組の生徒が、ペアを組んで共同で作業をしたり、仕事ごとに分担を決めて、別々の作業を行ったりする。自分とC組の生徒でペアを組んだ時、C組の生徒が、作業工程を間違えそうになってしまった。その時に自分は、間違えを指摘して実際に自分が手本を見せてあげた。それを見て、C組の生徒は正しくやってくれた。それが少し嬉しいと思った。逆に、その後でも間違えそうになってしまったりすると、自分の説明が少し、悪かったのではないかと思ってしまう時があった。しかし、その時もC組の生徒に伝わるよう、丁寧に教えた。僕も、C組の仲間たちも、この学び舎を巣立ち、社会へ向けて羽ばたいていく。その時に、「立派な社会人になる」という気持ちを強く持つこと、そして、「学校での楽しかった思い出」を決して忘れず、私も羽ばたいていきたい。学校での経験や仲間を忘れず、「社会で役立つ人間」として輝いていきたい。



**27 期生　E さん**

君が大人になってくその時間が
降り積もる間に僕も変わってく
たとえばそこにこんな歌があれば
ふたりはいつもどんな時もつながっていける

合唱コンクールで３学年が歌った「奏」の一部分です。私はこの「奏」の歌詞がとても好きです。『君が大人になってくその時間が』の部分は、バディやC組の友達が作業や実習、学校生活等を通して成長している点と重なり、『降り積もる間に僕も変わってく』は、彼女たちのまっすぐな一生懸命さ、純粋さ、成長する姿を見て私たちも成長し、変わったという点と重なりました。それにみんなで歌った「奏」という曲を思い出すと「どんな時も仲間がいる」「つながりを感じられる」とそんな風に私は思いました。

私は合唱コンクールで責任者をしていたのですが、練習がうまくいかないことが殆どで、自分の言い方が悪いのか、自分の計画性のなさが悪いのか、と自責の念に駆られ練習の途中に泣いてしまったことがありました。その時、Fさんが私の傍にきて、「大丈夫？」と、声をかけて手を握ってくれたのです。その行動が言葉にならないほど嬉しかったです。私が合唱コンクールを最後まで投げ出さずに向き合えたのは、彼女たちの将来、忘れられないような良い思い出にしたいという一心からです。

当日、舞台上で学年曲を歌っている時、色々な方向から大きな声で一生懸命に歌う声が聞こえました。その時、今まで優勝にこだわっていた部分もあったのですが、優勝することよりも彼女たちのその大きな声が、とても嬉しく感じました。そして、学年優勝が発表された時、彼女たちは跳びあがって拍手をして、笑顔で「おめでとう」と何度も言っていたその姿を見て、優勝したこと以上の喜びを感じました。

３年間を振り返って、私はここで、この学年と過ごせて本当に良かったと心の底から思います。これから先も、彼女たちとのつながりを大切にしたいと思います。

３年間ありがとう。これからもよろしくね。

**27 期生　G 君**

私には、入学したばかりのころ、不安がありました。それは、仲間がしっかりできるかです。中学校の頃は、１人、仲間ができるとたくさんの友達と仲間になりました。中学校の頃みたいに仲間ができるのか心配でした。そして、入学して学校生活も本格的に始まって私は、少しずつ声をかけて仲間を増やしていこうと思いました。私は、１人の生徒に話しかけました。近くにいた生徒にも話しかけて仲間になりました。私は、体育コースに入りました。１年生の頃、私の周りにいる先輩と私以外の１年生は全員ラグビー部で私は卓球部に所属していました。最初は、正直辛かったです。しかし、キャンプ実習でたくさんの仲間ができました。卓球部には、A チーム、B チームがあります。１年生の頃、テストで悪い点数を取ってしまって先生方や先輩にたくさん迷惑をかけてしまったのは今でも覚えています。A チームから B チームになったこともあります。A チームの仲間は、練習の時、筋トレや走った時、辛いけど皆と声をかけることによって辛い練習を乗り越えてきました。１年生からずっと私はＢ組でした。C 組には、私のバディである H 君がいます。H君とは卓球部で一緒で１年生の頃からずっとＨ君と行動を共にしてきました。H君は私にとって大切な仲間です。私の思う３年Ｂ組は、みんな明るくてとてもにぎやかなクラスだと思います。学校行事で３年Ｂ組は、優勝をする経験がなかったけど３年生最後の合唱コンクールで３学年が優勝することができました。クラスにも賞状を飾ることができました。３年生全員が喜びましたが特に C 組のみんながすごく喜んでいて私も H 君が喜んでいる姿が見れてとても嬉しかったです。私にとっての仲間は体育コースの仲間、卓球部の仲間、バディのＨ君、そして３年Ｂ組のみんなが仲間だと思います。私にとって仲間、それは今もこれからもずっと忘れない存在だと思います。

**27 期生　I 君**

僕の中学の３年間は、通えていても友達の数は少なかったです。この学校に入っても最初は不安ばかりで、本当に自分はこの学校でやっていけるかと心配でした。でも学校に毎日行くにつれて、クラスの友達や学年の友達など、１人ひとりの性格がわかってきました。そして中学とはちがってすごく楽しいと自分の中で感じました。J 君とバディになって一緒に学校行事をやってきました。１年生のときは J 君とバディになったばかりで、どんなことを話せばいいかわかりませんでした。でも性格や得意なことなど少しずつわかってきて、徐々に話が盛り上がるようになってきました。また、B組の中でもたくさんの友達ができました。学年の中でも友達が増え、ますます学校が好きになりました。

２年生になってのスポーツ大会や合唱コンクール等ではクラスや学年の団結力、助け合い等今まで経験したことのない心の愛情みたいなものがわかりました。助け合うことを知った上でバディの J 君のがんばっているところをたくさん伝えました。すごく喜んでいたので僕も嬉しい気持ちになりました。

３年生になって１番楽しかったことは、ハワイ学習です。海外は初めての自分にとって、すごく楽しみでした。もちろん不安でした。班のみんなもドルの使い方など知っている人がいたので安心して買い物もできて良かったです。自分１人で買うこともでき、バディの J 君も１人で買い物ができました。本当に嬉しかったです。

３年間、不安なことがたくさんあったけれど全てクラスの仲間や先生方のおかげで克服することができました。今まで自分ができなかったことや苦手なこと等に自分で気づけていきたいです。３年間、J 君とバディでいい思い出がたくさん作れました。本当に良かったです。

**27 期生　K 君**

辞書でクラスメートを引くと〈同じ学級の友達〉、友達は〈一緒に何かをしたり、遊んだりして気持ちの通い合っている人。友人〉とあります。「仲間」とは〈一緒に何かをする間柄〉とありました。

僕は、板橋区立の小学校に通っていました。先生の話していることがすぐわからなかったり、しゃべるのが遅かったりしたので、周りの女子がお世話をしてくれて理科室や音楽室に一緒にいってくれたり、ノートを見せてくれたりしました。僕はとても嬉しかったし、今でも感謝しています。毎日、ニコニコしていれば皆も優しくしてくれていましたが、たまに困ったなと思うことがありました。給食では残ったものはおかわりをしないといけなかったし、理科室での実験では危ないからといって触らせてくれません。運動会の徒競走でも歩いても誰も何も言ってくれません。それでも先生は優しかったしいつも話しかけてくれました。

武蔵野東中学に入ってからは毎日びっくりすることばかりでした。なんでも自分でしなければならなかったし、先生にも色々と注意される、マラソンも走らないといけないし、セリフのある劇も毎年ありました。でも、僕は毎日学校に行くのが楽しかったです。クラスの皆が話しかけてくれたり、わからないことを聞いてきてくれたり、体育祭や劇の練習等も声援してくれました。それも、あだ名で応援してくれます。毎日の声がけにも「○○○○」とか「K ちゃん」とか、小学校ではなかったことでした。L 先生に、友達がたくさんできてきたねと言われたことがあります。小学校の時の僕は、クラスメートはたくさんいましたが友達はいません。中学校から初めて友達ができたと思います。

高等専修学校に入学しても武蔵野東中学の友達と仲良くしていましたが、秋から B 組の M 君がバディとして掃除や給食とか色々と一緒にいてくれました。僕は何をしゃべっていいかわからないので、ついていくばかりでした。スキー教室からは N 君のバディだった O 君に代わりました。N 君が O 君に話しているのを聞いて僕もマネをして話しかけていくことができました。O 君には、たくさん友達がいます。先生とも仲が良いです。体育は苦手ですが、体育コースでは O 君がいつもそばにいてくれます。O 君は体育でもすごく上手でなんでもできます。ラグビー部の※天宮部にいる僕に、いつも声をかけてくれます。O 君といると、いままで話さなかった同級生と話ができるようになりました。女子とも話せるようになりました。その中で一番よくしてくれるのは P さんです。P さんの出席番号は僕の前です。P さんは僕の話をよく聞いてくれて色々教えてくれます。とても絵が上手です。僕の似顔絵を描いてくれました。僕の宝物です。合唱コンクールの指揮者をしたときはすごく頑張っていました。このまえは、僕が誘って初めて映画館に一緒に行ってくれました。O 君も一緒に行ってくれました。O 君は学校の時よりすごく大人っぽくてかっこよくてびっくり。P さんはかわいくて、２人が僕にたくさん話をしてくれたり、お昼を食べたり、本当に本当に楽しい１日を過ごせました。友達と行くってこんなに楽しいのだと初めて知りました。他の友達と行っても同じように楽しい時間になると思いました。

クラスの友達がお休みだったりすると心配になります。寂しそうな顔や辛そうな顔をしていると声をかけたくなります。嬉しそうな顔をしたり、笑ったりしていると嬉しくなります。僕がそう思うのは、みんな仲間だからだと思います。３年間ありがとう、これからもよろしくお願いします。

※天宮部：障がいのある生徒で構成され、ラグビー部員ではあり、練習は一緒にするが試合には出ない。ウォーターボーイやボールボーイ等

**26 期生　Q 君**

この学校に入学し、様々なことがありました。その様々なことがある中の根っこの部分でバディという存在がなくてはならないものだったと思います。一言でバディを表すなら今、私が組んでいるＣ組のＲ君とのようにお互いに真剣になって手と手を取り合っていく関係だと思います。相手に対してどこまで真剣になれるか、私はそれをＣ組以外のお友達以外でもそれを感じました。先生と生徒の関係もバディのような関係なのだと思います。先生は私がミスをした時に叱ってくれます。今まで、私は自分自身が立てた目標を達成できない、会社の新年会に行くにあたっての報告、連絡、相談ができていませんでした。そんな私に先生は真剣になって叱ってくれました。先生と生徒の関係は私が思い描くバディとしての理想だと思います。ですが、そう思っても理想と現実でのギャップがありました。バディとしてＲ君と一緒に行動していくことになり、彼は私のことをどう思っているのか、彼にとって私は本当に必要なのかと最初の頃はそんなことをずっと考えているばかりでした。そんな時、私がＲ君とバディとなる以前のバディであった友人に様々なことを聞きました。Ｒ君の好きな物、そして専門コースでどんなことをしているのか等たくさん聞きました。私はとにかく何でもいいからＲ君のことを知り、真剣にバディという関係ではなく彼の友達としてもっと色々なことを知りたいと思いました。その中でＲ君と本当のバディとしての関係になっていたと思います。

このバディという関係を通してのつながりという大きな絆は私の中でとても豊かな財産となりました。最後に私が失敗した時、迷惑を掛けた時に真剣に叱ってくださった先生方、そして苦楽を共にして力となってくれた３学年の仲間達に本当に感謝で胸がいっぱいです。本当にありがとうございました。私は４月から社会人となります。次のステージへと進む中でこの学校で培ってきたものを武器に全力で戦っていきたいと思います。

**25 期生　S 君**

自分はこの学校に感謝しています。中学時代の自分はどうしようもない人間で学校に行っても、ただ居るだけという存在でした。ですが、この学校に入り変わることができました。陶芸コースに在籍し、物を作り出す喜びや楽しさ、難しさ等を学び、Ｃ組の友達と接することでコミュニケーションの大切さを知ることができました。多分この学校ではなく他の学校に行っていたら１年生の時に辞めてしまっていたと思います。Ｃ組の友達と仲良くなれるかとても不安でしたが、１年生研修の時に一緒に過ごし、不安が期待へと変わりました。それからＣ組の友達との時間が増えてＣ組の友達といるのが楽しくなりました。そして３年生になった時、陶芸の授業でいつも一緒だった Ｔ 君の誕生日会に行きました。Ｕ 君についていったような感じがしたが、Ｃ組の友達の家に招かれたのはすごく嬉しかったです。学校では見ることのできないＴ君の表情を見ることができました。そうやって楽しくすごしていると、陶芸コースに Ｖ 君や Ｗ 君が入ってきて、もっと賑やかになり楽しくなりました。この３年間で学んだ陶芸の技術を Ｖ 君や Ｗ 君に教えることができたので、陶芸を３年間続けてきて良かったと思っています。

中学の頃、人見知りで友達もいなかった時は、こんなにすばらしい学校生活を送ることができるなんて思っていませんでした。この３年間はとてもすばらしい日々でした。この３年間共に過ごした友に感謝します。この３年間はまさにキセキでした。

**24 期生　X 君**

この３年間私は様々な人と出会い色々な体験をすることができました。

特に一番心に残ることは、友達についてです。私は中学のころ話す人は多くいてもこの人が一番の友達と呼べる人はいませんでした。しかし、私はこの３年間で一生付き合っていけるような友達を得ることができました。趣味だけでなく自分の悩みや不満を打ち明けることができる、そんな友達です。話し始めたのはいつだったか覚えていませんし、いつ仲良くなったかも分りません、ですが本当の友達はそういったいつの間にか仲良くなっていた人のことを言うのではないかと私は思います。

また、他人に対しての価値観も変えることができました。特に変わったのは障がいのある生徒たちに対してです。

今でもあまりに言いづらいことなのですが、私はこの学校に入学した当初、そういった人たちとは関わらないでこの３年間過ごしていこうと思っていました。ですが彼らと一緒に過ごしたり話したりしているうちに、彼らは私たちと根本はなにも変わらない、それどころか私たち以上にすごいところを持っており私よりも純粋で努力家それに何事にもあきらめずにやっていこうという姿勢で物事に取り組んでいるというのを知ることができました。私はそんな彼らのおかげで、人を思いやる大切さや人とのかかわりの大切さ、人は外見だけではないことを本当の意味で理解することができました。

ほかにも、クラスの人たちには様々なことを教えてもらったり、色々なことを学ばせてもらいました。今思えば先生だけでなくクラスの人たちからも多くのことを学ぶことができました。

私はこの３年間で友人たちやクラスメート、そして先生方等様々な人との関わりを持つことができました。この先社会に出ても関わりを持つことが重要なことだと思います。

これから先関わっていく人も含め、今のつながりも大切にしていきたいと思います。



## Ⅶ 卒業生として本校の教員として

本項では、21 期卒業生であり本校の教員でもある清水貴秀、杉林優子、中澤友哉の視点から見る武蔵野東高等専修学校、本校の混合教育について述べていきます。

### １. 21期卒業　２年Ａ組担任　清水貴秀

**１. 混合教育**

期待や不安、様々な思いが交錯する中、11 年前１年Ｂ組の教室で周りの様子を静かに窺っていた私がいました。武蔵野東高等専修学校に入学してから生活が一変、環境の変化に初めは戸惑いました。しかしこの場所で大きく変われたことは事実で、思い入れのある場所に教員として戻れたことこそが、私自身の受けた教育に間違いはなかったという証だと思います。混合教育で学んだこと、それは人を思いやる気持ちや、正直で素直な心を持つことです。また在学中のたくさんの出会いにも感謝しています。バディと過ごした日々、楽しい思い出だけでなく互いに学びあうことができました。それぞれの個性を受け入れることで自己中心的な考えしかできなかった私もいつの間にか人を思いやる大切な気持ちに気づくことができるようになったと思います。互いの理解を深め、必死になって仲間と過ごした武蔵野東高等専修学校での３年間は、私にとっての生きる意味を知った原点です。今は在学中、知ることがなかった先生方の壮絶な舞台裏も知ることができました。先生方への感謝こそ、私の原動力です。皆が叶えたいと思う夢を全力で応援していきたいと思います。

## 2. 一生懸命の大切さ

武蔵野東高等専修学校の３年間は生徒１人ひとりにとっての「挑戦」です。今まで経験したことがなかった喜びや悲しみ、様々な思いが交錯する３年間です。学校生活の中でまずできることは何か考えます。それぞれに個性があるように１人ひとりの頑張りがあります。ある人は学力、またある人は生活スキルであったり身につけるものは人によって異なります。教員として生徒の個性をいち早く理解することから始まり、そこから最善のアプローチをかけます。生徒もそれを真剣に受け止めることでようやく本当の成長の過程が始まるのです。教員は越えられるか、越えられないかのギリギリのラインにそのハードルを設けます。あくまでも基準は学校内ではなく、学校外にあります。当時の担任の先生から何度も基準の話を聞かされたことを覚えています。ポイントは目標達成に向けた努力をする姿勢です。目標達成に向けた努力の仕方もそれぞれですが何事も経験が必要になってきます。私には思うことがあります。多感な時期に何か１つでも一生懸命に取り組めることが見つかればそれが自信につながります。私の場合には部活動でした。部活動によって何事にも負けない気持ちが養われたと思います。また各行事を通してクラス、学年の皆とひとつになって取り組めたことも忘れません。最初から最後まで作り上げた３年最後のスポーツ大会は一生の思い出です。ひとつの物事に一生懸命になれる気持ちこそが人を成長させます。

## 3. 人から好かれる

人々に必要とされる社会人になるためには、人から好かれなくてはいけません。本校に通う生徒の大半が対人のコミュニケーションが苦手な生徒です。私もその１人で、中学生の頃は極力目立たないように過ごしていました。入学した後に変わり始めたのは１年生の半ばを過ぎたあたりからです。障がいに対する理解、また中学校時代にいじめや不登校を経験した生徒との交流を通して人間関係を学びました。人の成長は生活力や学力の向上だけではなく、表情の変化や言葉遣いにも表れます。学校という環境の中で「学ぶ姿勢」を身につける指導を受けます。例えば林間学習では初めて行う活動ばかりで右も左も分からない中で３泊４日を過ごします。その中で火起こし体験、屋外炊事を行うわけですが、その中から生きる術を学ぶことになります。「分からなければ人に聞く」当たり前のことですが、当たり前のことができない生徒がいます。ここで自然とコミュニケーションが生まれます。夜の学習会、班長会議では「教えてもらえる人はどういう人なのか」という話があります。恥じらいがあったり、自分のやることに自信が持てないと自然と下を向き、会話が成り立たない人がほとんどです。「教えてください !! 」「ありがとうございました !! 」と元気良く発声できると相手に対しても好印象ですし、結果として人から気にしてもらえる要素になります。これは健常児、自閉症児にとっても必要なことで混合教育を通して互いに刺激を受けていきます。

## 2. 21期卒業　1年A組副担任　杉林優子

### 1. 感情表現

15 歳の春、武蔵野東高等専修学校へ入学した当時の自分を振り返ると、小学校５年生～中学校３年生まで不登校を続け、ひきこもりがちな生活を行っていた名残か、肌が生白く表情も乏しい仮面のようであったと当時の先生方によく言われます。心の内はというと、入学して間もないというのに自分の人生に対して諦めを含んだ気持ちがあり、新しい環境である学校に対して居心地の悪さを感じていました。そんな折、気がつくといつも一緒に行動をしていた１年Ｃ組の、ある女の子とバディを組むことになりました。その女の子は表情が乏しく、自分の気持ちや想いを言葉にして表現をすることが苦手な、あまり他人に興味を示さない女の子でした。仮にＡさんとしましょう。

そんなＡさんとバディになって、Ａさんの気持ちも何となく酌むことができるようになった６月、入学して初めての大きなイベントがやってきました。スポーツ大会では、学年別で競技と自由演目の応援合戦という種目で分かれており、私は流されるままに応援合戦のプロジェクトリーダーを務めることになりました。人との精神的なぶつかりを極力避けてきた私にとっては、その荷は重く、幾度となく気持ちが折れかけましたが、なんとか当日を迎えることができました。自由演目である応援合戦、当時の１年生の演目は「ソーラン節」でした。緊張感を携え、踊りきった後は清々しい気持ちと、終わってしまったという喪失感が、頭から指の先までを巡りました。そして、結果発表の時が来て１年生が応援合戦で優勝をしたと聞いた瞬間、「嬉しい」「驚き」「喪失感」「信じられない」様々な想いが混在し、自分の気持ちをどう表現していいのか分からずに呆然と立ち尽くしてしまいました。その時、Ａさんが誰に促されるわけでもなく、私の元へと駆け寄り満面の笑みで「よかったね、よかったね」と手を握り、声をかけてくれたのです。

自ら言葉を発することができなかったＡさんが、他人に興味を示さないＡさんが…その奇跡を目の当たりにし、堰を切ったように涙が溢れてきました。私はその時、Ａさんに感情表現の仕方を教えてもらったのだと思います。

Ａさんとの出会いをきっかけに、障がいのある個性豊かな友達のことを深く知りたいとごく自然に思うようになり、やがて彼ら彼女らとコミュニケーションをとる方法を模索し始めました。たとえば、１日の流れの中で“手を洗う”という行為ひとつとっても言葉で説明するだけでなく、実際にやって見せてから模倣をさせるという教え方や、待つこと・時には急ぐことの緩急の必要性を在学中の３年間で学ぶことができました。

その細かなコミュニケーション方法が教員として働く今、着実に糧になっているとふとした折に感じることがあります。「可愛いから」という曖昧で抽象的な理由から、できることでもやってあげてしまうことは、生きていく能力を奪うという行為なのだと肌で感じ、気づかされました。また、過度なスキンシップも年齢を重ねれば許されないことであり、彼ら彼女らの「今」ではなく「将来」を大切に考えていく、という教員としての基礎を育むことができたのだと思います。

## ３. 21期卒業　進路指導部　中澤友哉

### １. 信頼関係　～ハワイ学習での一例～

本校の修学旅行は３年次の５月に４泊６日で実施されるハワイ学習です。ハワイ学習で実際に見られたバディとの様子を紹介します。

健常児Ｂ君と自閉症児Ｃ君は２年生からバディを組むこととなりました。バディは基本的に１年次で組み合わせが決まるのですが、元々Ｃ君のバディであった健常児Ｄ君がボストン研修に行くためバディの変更があり、Ｂ君がＣ君のバディとなりました。

Ｃ君は周囲とのコミュニケーションが上手くとれず、言葉も一定の単語を発することがほとんどです。また、フラストレーションが溜まってしまうと自分の頭を叩く等の自傷行為をしてしまいます。そして、１番心配していたことは、Ｃ君は気になるものを見つけるとその場所に触らなければ気が済まない性格でした。個性のあるＣ君に対してＢ君はどのように接すればいいのか困惑していましたが、Ｂ君はＣ君のことを知るために普段の学校生活の中で、給食の時間や休み時間等でＣ君とコミュニケーションを取り、次第にＣ君が何を伝えたいのかがわかるようになってきました。

そして３年生となりハワイ学習に行くこととなり、Ｂ君は常にＣ君と共に行動していました。ハワイの街中を集団で移動している際、Ｃ君が急に走り出しました。近くにいた教員が慌ててＣ君を止めようとした時に、Ｂ君が教員に向けて「大丈夫ですよ、あそこにある葉っぱを触ったらすぐに戻ってきますから。」と十数メートル離れた位置を指しながら言いました。するとＣ君はＢ君が言ったように一枚の葉を触り、すぐにＢ君の隣へと戻ってきました。この時、Ｂ君はＣ君の行動に対して「触る場所は何となくわかりました。ずっと我慢していたらＣ君もストレスが溜まってしまうし、あそこなら触りに行っても問題はないと思いました。」と微笑みながら教員に話していました。

バディを組んだ時は不安がたくさんあったＢ君も、１年間でＣ君の思っていることや伝えたいことがわかるようになっていました。また、相手の気持ちを理解するためには、その人を知ろうとしなければ理解などできません。Ｂ君はＣ君に真剣に向き合い、接してきたからこそ、Ｃ君のことがわかるようになり、Ｃ君もＢ君のことを頼るようになったのだと思います。

### ２. 仕事の厳しさ

武蔵野東高等専修学校を卒業後は健常児・自閉症児共に進学もしくは就職の道に進むこととなります。大半の生徒が高等専修学校入学時は夢や目標がなく、自分のやりたいことをできる能力が乏しい生徒です。そんな生徒たちが３年間の混合教育を通して、健常児は人間性を、自閉症児は社会性を互いに刺激し合いながら日々の生活を送っています。

本校に入学してくる健常児は、それまで歩んできた人生で誰かに支えてもらうことが多くあり、人をサポートする経験がほとんどありません。しかし、障がいのある友達と同じ環境で生活をすることで、彼ら彼ら等の特性を理解できるからこそ、支えられる立場から支える立場へと変わることができるため、健常児の人間性が鍛えられているのだと思います。

自閉症児に関しても、真剣に向き合ってくれる健常児が居るからこそ、我々教員の見ていない所でも健常児が自閉症児に対して的確な声掛けをすることができ、日々の成長に繋がっています。

社会に出るということは同じ年代の人達と比べられてしまうのが現実であり、何も準備をしていなければ剣に対して素手で戦っているようなものです。武蔵野東高等専修学校を卒業してからの周囲とのコミュニケーションの問題、勉強や仕事についていけずに、入学前の姿へと戻ってしまう可能性は十分にあります。自閉症児でも仕事の作業能率や態度が悪ければ仕事を離れなければいけない状況となってしまいます。だからこそ我々教員は武器を持たない生徒に武器を与える指導を行い、生徒同士でも互いが成長できる環境づくりをしています。

# Ⅷ 卒業生と保護者の声

## 1. 卒業生の声

**5期生　花澤厚江**

私は、武蔵野東高等専修学校を卒業して 23 年が経ちます。在学していた頃の先生が定年を迎えられたりと月日を感じますが、先生方の顔を見たり話をしたりすると、生徒のときにふと戻れるのが不思議です。

今回このような機会をいただいて振り返ってみると、私にとっての思い出は『先生方との出会い』です。色々な個性、性格の生徒がいる中、1人ひとりに合わせたかかわり方で、対応してくれたことが私にとってはありがたかったです。

先生方が、マイペースで楽に過ごせればという気持ちでいる私を受け入れて、温かく見守っていて下さったお陰で今の私があると思っています。そんな私が、武蔵野東幼稚園で教員として勤務しています。“保育者になりたいな”と、夢を持ったときにも温かく見守っていて下さった先生方がいました。

今、私が保育者になって大切にしていることは、子どもたち1人ひとりの個性や頑張りたい！と思ったときに合わせて、見守りまたは声をかけたりして、子どもたちが伸び伸び過ごせるようにしていることです。これが先生方の優しさから私が学んだことだと思っています。ありがとうございました。

**11期生　高橋（旧姓 斉藤）涼子**

「斉藤涼子さんですね」と登校した初日に担任に声をかけられたことからここでの生活がスタートしました。そもそも、自分のことを初日から名札もつけていないのに知っていることにとても驚きました。友達との思い出は、数え切れないほどありますが、（自閉症スペクトラムの友達のことも含めて）私は、ここの先生方に出会えたことに今でも感謝をしています。担任の先生をはじめ、ここの先生方は生徒1人ひとりのことを知ろうという思いが生徒側からも感じるくらい強かったと思っています。はじめは、面倒だなと思うこともしばしばあり、ほっといてほしいと思うこともありました。それでも、毎日生活をしていく中で、気づくと、担任の先生だけでなく、毎日ほとんどの先生方と必ず一言は話していたなと感じるようになり、いつしかそれが当たり前のことになっていたことに気がつきました。正直、この頃は人と深く接することがあまり好きではなかった私にとって、人と関わることって楽しい、ここに自分の居場所があるなと思い毎日を過ごしていたんだなと気づかされた瞬間でもありました。だからこそ、卒業を迎えるときには本当に寂しく感じたことを今でも覚えています。また、家であまり感情を表に出さない私が卒業式で涙を見せた時、母親が「あなたにもそういう一面があるのね」と、泣いていたのを見てビックリしていました。先生方にとっては教師として当たり前のこととして私たち生徒と向き合ってくださったのだと思いますが、卒業後も学校に遊びに行くと変わらずに私たちを受け入れてくださる先生方のおかげで自分の居場所が今でもここにあると感じられる喜びは大きな支えとなっています。

そして、この支えがあるからこそ、今の自分が社会人として頑張っていけていると思っています。先生方のようにとまでにはいきませんが、私自身が誰かのための支えとなる人間になれていたらいいなと思います。当たり前が実は一番難しい課題だったりもするのかなと思い、それができている先生方はやっぱり凄いなと感じています。

**19 期生　H.S**

武蔵野東高等専修学校が 30 周年を迎えるにあたり、私が貴校で３年間を過ごせたことを今、原稿用紙を前に大変誇りに感じつつ筆をとっています。私の近況は、貴校の卒業と同時に入社した会社で８年目を迎えており、忙しいながらも充実した日々を送っています。今、この様に社会人として８年目を迎えられたのは、まさに武蔵野東で過ごせた ３年間のおかげであると確信しています。また、会社から６年目にハワイ旅行をプレゼントされ、働き続ける素晴らしさを強く感じる体験もできました。

振り返れば、通信教育で高等学校の資格を持ちながら 20 歳という年齢で貴校に入学したことが、昨日の事のように思い出されます。不登校生であった私が、学校生活での様々な体験や出会い、更には、心のぶつかり合いを求め、勇気を振り絞って貴校に入学したのです。短大や専門学校ではなく貴校を選択したのは、高校の体験プラス、専門学校の体験もでき、更には、たくさんの不登校生を立ち直らせてきた数十年の教育実績を信じたからです。また、入学前に１週間の体験入学もさせていただきました。当然のことながら武蔵野東に入学したのは、私の人生最大のチャレンジでした。

入学当初、居心地の良い自分の家から出て、学校というプレッシャーのかかるステージに舞い戻ったことを大変後悔しました。けれど、自閉症児のMさんのバディをさせていただき、誰かの役に立てる喜びや純粋で努力家のMさんのことを知れば知るほど、自分の弱さを知ると共に自分自身の自信を少しずつ高め、成長していくことができました。また、私と同じように不登校を経験した仲間たちが、私の背中を押してくれました。在学中の私にとって武蔵野東の混合教育、そして不登校経験者に対するやればできるといった教育は、人生最高の教科書となっていきました。また、スピーチコンテスト、合唱コンクール、紫峰祭、スポーツ大会、臨海学習、スキー教室、ハワイ学習といった様々な行事の中で、気付かないうちに社会性や人間力が培われて行ったのだと感じています。また、貴校の素晴らしいもののひとつとして「1 人の生徒の担任は、全教員である」といったスローガンのようなものがあります。30 人を越える全ての先生が私の名前を覚えてくれていて、毎日毎日、「S ちゃん、元気」、「S、凄いじゃないか」「S さんは、やればできるんだから」といった言葉をかけていただいたことも感謝に堪えません。更に、素敵な友に囲まれ水族館に行ったり、映画を見に行ったりと校外での楽しい思い出もたくさんできました。また、３年生の時、約１年間家庭から離れて友愛寮で過ごさせていただき、自立という意識と、離れてこそわかる家族の大切さや温かさを再認識させていただきました。

当然のことながら、在学中、「身体がきつい、のんびりしたい、心が苦しい」といった場面もありましたが、それこそが、学校生活であり、それを体験させていただいたからこそ、今、社会人となった私にとって大きな財産となっているわけです。今、武蔵野東での思い出は、私の最高の道標になっています。

今後の武蔵野東高等専修学校の発展を心よりお祈り申し上げます。

**19 期生　家塚義之**

私は、貴校を卒業後、保育士の資格を取り、現在民間の児童館で仕事をしています。子どもたちと交流する仕事に就いたのは、貴校の混合教育で３年間過ごさせていただいたおかげであると強く感じています。

今から 11 年前を振り返ると、私は、体験入学の際の陶芸コースが、大変気に入り貴校に入学させていただきました。思い出は、数あれど、その中でも特に色濃く残っているのは、やはり３年間ともに生活をしてきたパートナーのＡ君の存在でした。

Ａ君は会話をすることができませんでした。また、穏やかな性格ですが、突然怒りが爆発してしまうところがありましたし、彼が何をしたいのか、何が辛いのか入学当初は、全くわかりませんでした。そんなＡ君との出会いは１年生のころ、同じ陶芸コースに所属していたので面識はありましたが、正式にバディとしてペアを組んだのは、もう少し後になってからのことでした。

「Ａ君とバディを組んでみないか？」という当時の担任の先生からの一声から始まり、それ以来、学校行事や課外授業だけでなく、専門コースの授業や給食、清掃の時間までも、とにかく卒業するまで、学校がある日は、ほぼ毎日顔を合わせていました。また、臨海学習、スキー教室、ハワイ学習と常に彼と同じ部屋で過ごさせていただきました。

バディを組んだ当初は、彼の補助をしてあげるといった意識でしたが、彼と共に過ごすうちに、彼の心の美しさや純粋さ、そして真面目さを知り、真の友へと変化していきました。彼の笑顔は、私の幸せであり彼の悲しみは私の悲しみへと同化していきました。もちろん私の悲しみは彼の悲しみとなり、私の心が沈んだときは、彼も暗くなっていたように思います。今、振り返ると、彼の笑顔から力をもらい、彼の声から幸せをもらい続けていたのだと思います。

当時、先生方が『バディを組むことで得られるものがたくさんある』という話をされていました。正に彼との出会いは、私自身のかけがえのない宝物になりました。卒業時には、彼と意思の疎通がほぼできるようになるほど、彼と向き合う時間をたくさんいただくことができたことを今でも大変感謝しています。

もちろん彼と過ごした３年間は楽しいことばかりというわけではなく、時にはハプニングもありました。でもそれも含めて良い思い出になっています。卒業してもうじき９年が経とうとしていますが、今でも当時の彼と過ごした日々を鮮明に思い出せるほど、濃厚な学生生活を送ることができていたのだと思います。また、今、社会に出てうまくいかないことや辛いことがあった時等は、Ａ君の笑顔を思い出して前に進んでいます。

**20 期生　織井 翔**

武蔵野東高等専修学校創立 30 周年おめでとうございます。

私は、平成17年４月に入学しました。武蔵野東中学でも陸上部だったので、迷わず、高等専修学校でも陸上部に入り走って、走っての３年間でした。

夏の全国高等専修学校体育大会は好きでした。他の部活のみんなも一緒に泊まった河口湖は良い思い出です。4×100mリレーは３年間連続で出て、優勝、準優勝、優勝でした。記念の盾がもらえて、嬉しかったです。高体連の荒川駅伝では、上位50位以内になったら、顧問の先生が、カラオケに行っていいと言ってくれて50位ぴったりで、私は、その時は１年で補欠でしたが、先輩達と皆でカラオケに行くことができました。

それから、私は３年生の１年間、給食の時に生徒みんなのお茶を用意する係でした。この仕事はわりと面白かったです。卒業して８年、陸上部の皆とは、今でも交流をしています。

**24 期生　髙田泰志**

武蔵野東高等専修学校　創立 30 周年おめでとうございます。

私は、卒業後保育園の仕事について４年になります。社会に出て、学校で学んだ色々なことに感謝する場面がたくさんあります。私の学校での３年間を振り返ってみたいと思います。

部活は陸上部です。一番の思い出は駅伝です。選手の手から手へタスキが繋がれていく時、指導いただいた先生、応援してくれた方、部員全員で頑張った思いがパワーアップして不思議な力となり、ゴールを目指しました。全国高等専修学校体育大会での連続優勝も果たしました。今も仲間と陸上を続けています。

専門コースは体育コースを選びました。陸上以外のスポーツを経験することは、陸上や卒業後の人生にも活かせると考えたからです。しかし思った以上に苦手な種目がありました。また、キャンプ実習での薪割りや開墾作業等、臨機応変な対応が不得意な私は苦戦し続けました。しかし、他では学べない貴重な経験になりました。また、スポーツ選手の栄養についても勉強し、ランナーに必要な鉄分や栄養の摂り方も学習して今でも実践しています。

友愛会は体育部でした。スポーツ大会で大道具運び等をしたことは、職場の保育園での運動会でも役に立つことばかりです。私は１年生の頃提出物を忘れたり、対処が悪いことが多く、学校に宿泊して指導していただきました。へこみました。でも、忘れ物をしない等、大事なことに意識を持つことがどれだけ重要なのかを痛感。学年を重ねる程に意識をしっかりできるようになりました。

３年生で現在の職場の保育園で実習。それまでに幼稚園でも何度か実習させていただいたおかげで、子供の安全を最優先に考えて取り組めたと感謝しています。

武蔵野東高等専修学校での３年間の経験は、今思うと無駄なことはなく、やってきて良かったと思うことばかりなので、後輩にも伝えたいです。ありがとうございました。

**25 期生　森數矩生**

私の武蔵野東高等専修学校での３年間は美術部と情報コース一筋で、絵を中心とした作品制作、ワードやエクセル等の資格取得に向けた勉強やスキルアップにひたすら取り組んだ日々でした。思い返すと、資格取得に向けた勉強や毎日の授業、部活動は勿論、プランノートでの先生からのメッセージ、友愛会での活動、行事、親しい友人や先輩、後輩との関わり等、色々な出来事や思い出があります。

そんな日々の中で私が特に印象に残っているのは、美術部での制作活動です。自分が理想とする絵を描いたり作品を作ったりする楽しさもあって、日々の学校生活の中では、専門の授業でのワード・エクセルのスキルの取得に次いで充実した時間でした。その反面で思い通りの作品、アイデアを上手く生み出せず、壁にぶつかることも何度かあって、その時に先生や友人、先輩からアドバイスをもらうこともよくありました。その経験の中で今でもかなり印象に残っている言葉は、

「自分はこういうモノを作りたい、という信念を持って作品作りに打ち込むこと」。

「まずはとにかくたくさんの線を描いて、最後に自分が『これだ』と思う線だけを選ぶ」。

言い換えれば、自分はこういう理想を絶対に実現する、という信念を持つ、とにかく試行錯誤を積み重ねて、自分自身にとって最善の方法を見つける。

入学式での校長先生のお話の中にも「やらされている」ではなく「自分からやる」ということがありましたが、私も日々の学校生活は勿論、自分自身のやりたい分野でもこのことの大切さを学ぶ機会は山ほどあったと思っています。当時あまり実感は沸かなくても、卒業して社会に出て何年か経った今、こうして振り返ってみると、日頃の学校生活や行事での活動、資格取得やより良い作品作りといった目標に向けて努力したことを通して、「受け身にならずに自分から進んでやることの大切さ」を最も学んだと思っており、その経験は今の仕事や私生活の場面でも活きています。

**25 期生　及川加奈**

私は武蔵野東高等専修学校を卒業してから今年で約３年間が経ちました。毎日のように仕事をしていると辛いこともあり悩んだり１人で抱え込んでしまうことがあります。そんな時に武蔵野東で過ごしていた昔の自分を思い返します。

入学当初、私は人と話すことを避け、他人に興味を持つということができずに常に１人でいる自分が嫌いでした。心のどこかで人と関わって傷つくのが怖かったのかもしれません。ですが周りにいるクラスの仲間はいつも笑顔で私に話しかけてくれます。どんなに私が酷い態度をとっても、時に彼らを傷つけてしまうような対応をしても、彼らは毎日笑顔でした。どんな時でも笑顔で前向きで一生懸命で全力です。「どうして彼らはこんなにも前向きなのだろうか？」ふとそんなことを考えた時、はじめて人に興味を持ったのかもしれません。皆このこと知れば知るほどもっと知りたくなる。何をしていても皆といると楽しくてスポーツ大会、紫峰祭、スキー教室、修学旅行とすべてのイベントがとても思い出に残っています。そんな仲間と毎日過ごしているうちに笑顔でいることが増え、皆と話している時間が何よりも楽しく武蔵野東の仲間が本当に大好きなのだと感じた時、はじめて私は自分を好きになれました。

現在、私は接客・販売の仕事をしています。３年前の自分だったら決して選ばなかった道だったと思います。人と関わる仕事がしたい。誰かの笑顔を引き出せるような人間になりたい。そう思えるような人間になれたのは彼らのお陰です。私をこんなにも大きく成長させてくれた武蔵野東での日々や、彼らと過ごした１日１日が決して忘れられない大切な思い出です。

**27 期生　小野亮祐**

４年前、僕は武蔵野東高等専修学校に初めて来た。ハッキリ言って学園のことも混合教育のことも何ひとつ知らなかった。ただ母の勧めで体験入学をし、受験した。結果は不合格だった。そのまま帰ろうとしたらある先生が呼び止めてくれた。「僕の教師生命を掛けてもいいからもう１度頑張ってみないか」と。それから毎月１回与えられた課題をこなして学校へ行った。

次の年に合格した。しかし入学してからも教室に居られない、友達ができないと順調では無かった。そんな僕に先生達はその時々に必要なことを伝えてくれた。きつく叱られたこともあれば、優しい言葉を掛けてくれたり、自分で考えろと突き放されたこともあった。そのことが自分自身で何とかするという力をつけてくれたのだと思う。

部活では仲間とコミュニケーションが取れるようになり、それだけではなく真剣に相手と競い合う力や悔しいという感情を作ってくれた。自分に足りなかった力や考えを少しずつだが身につけて行くことができた。

そして２年の終わり頃にバディを組むことになった。相手は僕より体が大きくて言葉がうまく伝わらないし、放っておくと何処かへ行ってしまう。よく走るし怒る大変な友達だったが一緒に過ごすうちに何がしたいのか分かるようになり、行動や言動の一つひとつがちゃんと意味があるものだと理解できるようになった。

最初はバディだからというだけで一緒に居たのかも知れないが、いつの間にか真剣に彼と向き合うようになっていた。真剣に人に関わると色々な想いや感情が出てくる、それは良い感情だけではなく「面倒臭い」や「手間が掛かる」という悪い思いも一緒に出てきた。それが原因でとても悩んだり落ち込むこともあった。

しかしながら体験をしないと分からないことがたくさんあり、それはどんな人に対しても変わらないと思う。ここに入学したからこそ分かったことだと思う。

これからも色々な人と出会うだろう、その時にこの３年間の経験を役立てていきたいと思う。

**27 期生　鹿島茉莉**

３年前、私は武蔵野東高等専修学校へ入学した。とは言っても、小学校、中学校と不登校を経験した私にとって、学校という場所は恐怖でしかなかった。「逃げ場がない」、「楽しくない」、「行きたくない」と「〜ない」が三拍子揃ってしまうほどだった。

しかし、自分を変えたいという強い思いで、私は不安を数多く抱えながらも３年前の４月から武蔵野東の生徒になった。

私の大切な思い出は大きく分けると３つある。

１つ目は１年生の林間学習。飯盒炊爨の時に火を起こすことができずに、失敗続きでどん底にいたときの話だ。最終日前日の班長会議の後に先生が私にある話をしてくれた。

「エジソンって、知ってるか？」という問いから始まった話。

「エジソンは、すごい発明をしてきた人物だけど、その裏で多くの失敗があった。成功した時なんてほとんどなくて、失敗続きの彼に対して周りの人々は次第に“次も失敗だろう”と思っていた。しかし、エジソンはそんな人々に対してこう言った…」

「“Next one”…“次の私を見てくれ”、と」ハッとする気分だった。失敗を繰り返していた私にとって、心へ直接刺さる言葉だったからである。

この話のおかげで、諦めることなく最後のカレーライス作りをし、最後には涙が止まらないほどおいしいカレーを食べることができた。この林間学習でされたエジソンの話は、今でも私の心の支えになっている。

２つ目は部活動だ。初めは入部しない !! と言っていた私も、最終的には３年間やり通した部活。春、GW、夏と多くの合宿を乗り越え、心を強く鍛えられた。３年生の時には、マネージャーリーダーを務めた。１、２年の時より一層責任は重くなったが、その頃にはもう家族同然の仲間がそばにいた。100人の部員がいれば、当然いろんな問題が出てくる。毎日怒っていた日もあるくらいだった。しかし、全て私１人だったら解決できずに、押しつぶされていただろう。だが、私のそばには多くの大切な仲間がいた。支えてくれた人がいたから、私は最後まで折れることなくやり通すことができた。ラグビー部の３年間は辛かったこともあったが、今ではそれすら最高の思い出のひとつだ。

最後の３つ目は、３年間の学校生活。入学式から始まり月ごとにある多くの学校行事。そして、３年最後の行事の卒業式。他にも生徒会長をして上へ立つ者の責任の重さ、運営の難しさを学んだことや、専門の情報コースで級をたくさん取得したこと。障がいがある友達との関わり。ここには書ききれないほどの学校生活が、私の最高の思い出になっている。辛くて何度も泣いた日もあるし、感情をむき出して怒った日もある。しかし、３年間の中で一番多かったのは、笑っていた日だ。高校の思い出をいくらでも語ってくれと言われたら、何日かかるかわからない。それほど、３年間の時間は１日１日が輝いていた最高の時間だったからだ。

本当に、武蔵野東高等専修学校に出会って良かった。これからもこの思い出を忘れることなく、毎日を過ごしていく。そして、私の母校がこの学校だったことを誇りに思う。



## ２. 卒業生の保護者の声

**20 期生　熱田論威（母　由美子）**

武蔵野東高等専修学校での３年間はまさにチャレンジの毎日でした。

息子は、愛の手帳２度、言語なし、他害行動ありの重度障がいです。東幼稚園、東小学校の時は、体育祭、発表会と前日までいつも補習を受け入れなければならないお残り組でした。

武蔵野東高等専修学校に入学して、担任の大久保先生から最初に言われた目標は、１人通学、それと陸上部への入部でした。信号の意味が分からなくいつも私の後ろをついて歩いている息子にできるのだろうか？内心無理ではないかと思っていました。学校では模型の信号機、手作りの信号カード、実体験と様々な方法で指導を受けて、信号を認識することができる様になりました。初めて１人で信号を渡る姿を隠れて見ていた時のドキドキは、今でも鮮明に覚えています。そして次は、最大の難関であるバスに乗ることでした。乗り間違えると行き先が変わってしまうので、きちんとバスの表示を見て判断しないといけません。そこで、文字・数字のマッチングカードを作っていただき、毎日確認してからの乗車、降車の時のボタン押し、私がまだまだ無理だと思っていても先生は、休むことなく進めていってくださいました。練習中違うバスに乗ってしまった時も、自転車で追いかけ見守っていただきました。そして、私が想像もできなかった１人通学を２年生の秋に実現することができました。「陸上部」中学生まではマラソン大会が苦手で、泣き顔で嫌々走っていた息子に走る部活は大丈夫かな？と思っていました。毎日の練習、指導のおかげで、走ることが好きになり、ハロウィンマラソン、青梅マラソンにも参加させていただき、無事に完走することができました。先生方の指導、バディに支えられ充実した日々を過ごすことができました。

「１人通学」「陸上部」は、後に息子に大きな影響を与えるチャレンジでした。ただ信号を渡れば良い、バスに乗れば良い、走れば良いではなく、歩行中、バス停、バスの中でのマナー、走る時、仲間と一緒に何かをすること等、全てが今に繋がっています。言語もなく、勉強もできないけれど、大事なことを教えていただき、私も息子も頑張ることができました。武蔵野東学園だからできた経験です。今もその事を支えに日々頑張って過ごしています。

**20 期生　高橋晋平（母　小百合）**

入学時にはすでに学校以外の楽しい生活を謳歌していた息子は、問題行動を連発しておりました。学校に登校しない、家に帰ってこない。普通ならだいたい大人があきらめてしまうパターンです。

親や大人が理解できない行動を子供が取るとき、共に考えたり、共に苦しんだりしてもらえる人を持つことはとても難しいと思います。先生方は、あきらめずに声をかけ、たまには実力行使で、圧力をかけたり工夫を凝らしてくださいました。そんな中、息子は口には出しませんでしたが、「そこまで言われるなら、そこまでやられるなら仕方がない、」という思いが芽生え始めたようで、少しずつ前向きに生活するようになりました。もちろん親と先生方は、２人３脚。打合せをし、愚痴をこぼし、思いを共有していただきました。苦しい毎日で、今一番感謝していることです。１人ではとても抱えきれなかった苦しい気持ちを共有してくださった先生方になんとお礼を申し上げてよいかわかりません。

また、役員として子供が登校していない時に、励ましてくださった役員会の方々、クラスメイトの保護者の方々にも深く感謝しております。

障がいを持つ子供たちと、そうでない子供たちが共に学ぶ少し風変わりな学校でした。親も子も、少し色々な思いを通常より多く抱えているように思いました。多くの困難を乗り越える力をたくさん学ぶことができる学校のような気がしました。そして、互いを思いやる気持ちや、勇気ある行動を身につけることのできる学校であったと思います。

息子は、クラスメイトと結婚し子どもを授かり、しっかりとお父さんをしています。彼女もとても素敵なお母さんです。もちろん２人とも素晴らしい社会人です。

あきらめない。親はあきらめてはいけないと思います。今も強く思います。

今は、学校に呼び出された日々を懐かしく思い出します。良い思い出です。今苦しいお心を抱えておられる保護者の皆さんには「頑張れー」と声をかけたい気持ちでいっぱいです。最後に学校の今後の尚一層のご発展をお祈りいたします。

**21 期生　岸野友洋（母　弘子）**

「勉強は苦手だけど、学校は毎日通いたい。」「もの作りをしたい。」「将来、人に喜んでもらえるものを作りたい。」という願いを実現させてくれる学校はないかと必死でした。貴校に出会い、入学できた時は本当にほっとしました。

でも、頭では理解していたものの実際に入学式から様々な障がいを持つお子さんとの混合教育を目の当たりにして、我が息子がどう感じ、どうこれから過ごしていくのだろうかと新たな不安も正直ありました。でもそれは、授業参観・保護者会・行事等、学校に行くたびに薄れ、先生方のきめ細やかな配慮と熱意あるご指導に感心し、頭の下がる思いと感謝でいっぱいになりました。

バディと組んで始めはとまどい、愚痴も出ましたが、人との接し方、相手への思いやり等学んだことは大きかったと思います。３者面談で息子がなかなか話し出さないので、つい私が本人の代わりに話そうとするのを「お母さん、もう少し黙って待ってあげてください。」と注意されましたが、先生方は本当に根気強く本人の考えを聞き、そこから指導していくことを大事にしていただいたのだと思います。ある時、お友達の服にいたずら書きをしてしまった息子を学校に１泊させて１対１で向き合い、「人としての大切な心」を諭していただいたこともありました。見落としがちなこともその都度丁寧にご指導いただいたお陰で、苦手な面を自分なりに克服する力もつけていきました。

日常生活だけでなく、合唱コンクール等の行事や部活動（野球部での練習･合宿・試合・賛助出演として参加した吹奏楽部でのサックス演奏等）と様々な場面で役割を果たし、活躍することもできました。３年間で自立への礎と最後まで責任を持ってやり通すことも学びました。卒業後、京都で寮生活とはいえ、自炊しお弁当を作ったり、自治会の副会長を引き受けたりと、４年間の学校生活を無事終え、念願の陶芸士になることができました。私も先生方やほかのお母さん方のお話を聞いてパワーをいっぱいいただき、学校へ行くことが楽しみでした。親子共々本当にあらゆる面で支えられ、救われ、成長できた３年間でした。ありがとうございました。

**23 期生　鈴木淳平（母　葉子）**

創立 30 周年おめでとうございます。東日本大震災の前日に卒業した 23 期ですが、早いもので卒業してもう５年目になります。

入学当初は息子をはじめ生徒の多くが様々な不安を抱えていましたが、先生方はその一筋縄ではいかない生徒のみならず保護者の気持ちにも寄り添い、粘り強く親身に指導してくださいました。私もまるで自分が学校に通っているような緊張感でいっぱいの毎日でしたが、今振り返ると、指導があれだけ濃くて深かったのは武蔵野東高等専修学校が社会への出口となるステップだったからなのだと思います。そして、発達の偏りのある生徒たちはキリッとした社会人の顔になり、自信を失いかけていた生徒たちは目標を見つけ胸を張って卒業することができました。

もし息子がお世話にならなければ知る機会のなかったであろう“高等専修学校”という学種ですが、寺田理事長の著書『武蔵野東学園物語』には学園の創立者の北原キヨ先生の高専設立時の思いやご苦労が書かれています。また、清水校長先生のブログ『校長の独り言』を拝見すると、補助金など様々な点で“高等専修学校”の制約がどれほど厳しいものであるかわかりますし、より良い教育環境を探って今なお関係機関へ働きかけを続けておられる姿勢に頭が下がります。

息子は今でも機会を見つけては、いそいそと武蔵野東高等専修学校に出かけています。優しく声をかけて下さる先生方がいらっしゃる武蔵野東高等専修学校は、息子にとって“故郷”のような安心できる場所なのだと思います。本当にありがたいことと感謝しております。

世の中にたくさん学校はありますが、卒業生の“終の棲家”の心配までしてくださる学校は武蔵野東高等専修学校だけではないでしょうか。北原キヨ先生は空の上から、志を継ぐ先生方によって、友愛寮やチロル学園ができ、更に拡大を続ける様子をどんなにか嬉しく見ておられることと思います。

末筆になりましたが、武蔵野東高等専修学校の今後益々のご発展と理事長先生、校長先生はじめ諸先生方のご健康とご多幸を祈念しております。



**23 期生　山田友祈（母　雅子）**

「おめでとうございます。山田友祈さん、B 合格です。」そう言われて思わず友祈と顔を見合わせましたが、６回も体験入学に通い、どうしても武蔵野東に入りたいと願っていた友祈は、胸を張って中学校へ報告に行きました。「健常児」として公立の小・中学校で学んでいた間、息苦しさと難しさを経験してきた友祈にとって「安心して、学園生活を充分に満喫できる学校」を捜し求め、武蔵野東高等専修学校に出会ったのでした。

入学式での清水校長先生の「君たちをずっと待っていました。」という言葉に不安がすーっと消え、この時から友祈の歩みは大きく変わりました。中学校までは毎日勉強に追われ部活もあきらめましたが、「武蔵野東に入ったら絶対に卓球部に入る！」と宣言し、弱視で視野も限られているのに、弱音を吐かずに部活に励みました。また生活療法とはまったく無縁の生活をしていましたが、自立と家族の一員としての自覚を持つことを目指し、学校から示される「課題」に家族全員で取り組みました。これはなかなか辛いものでした。でも、武蔵野東の先生方は全員で友祈をみていてくださると感じ、プランノートのコメントや先生方の何気ない一言にいつも励まされました。特に２年生に進級する前に担任の松丸先生と野口先生と面談し、友祈の考えと決断を尊重しつつ、情報コースから調理コースへ変更したことは大きなことでした。先生方が友祈のことをしっかりみていてくださっているという信頼が、すべての基盤でした。

スポーツ大会、マラソン大会（２年生の時は SARS で残念ながら中止となりました）、紫峰祭、合唱コンクール、河口湖での全国大会、土肥での臨海学習、白樺湖でのスキー教室、そして３年生でのハワイ学習がハイライトでしたが、友祈はすべての行事を心から楽しみ、出かけたところへ「また行きたいなぁ」と言い、今でも DVD を繰り返し見ているほどです。スピーチコンテストは、口下手な友祈が何度も練習し、自分の弱点に挑戦できた貴重な機会でした。友祈は武蔵野東で、信頼できる先生方と励まし合える仲間と自分の進む道を与えられました。

卒業式の後、「もし自分に子どもが生まれたら、武蔵野東に入れる」と笑顔で言った友祈の言葉が、すべての答えだと受け止めています。

**24 期生　黒澤沙織（父　隆志）**

武蔵野東高等専修学校設立 30 周年おめでとうございます。

娘の沙織は武蔵野東学園で 11 年お世話になりました。その中で武蔵野東高等専修学校での事を振り返ってみたいと思います。

まずは 1 人通学。

女の子ということでアクシデントをおそれなかなか踏み出せずにいましたが、1 人で歩く距離を伸ばす、携帯電話で帰るコールをする等、スモールステップのご指導で母親の不安を解消していただき、半年ほどで 1 人通学ができるようになりました。

そんなある日、少し帰りが遅いので迎えに出てみると、人とコミュニケーションをほとんどとれない沙織が通りがかりの方と話をしているではありませんか！　あわてて声をお掛けすると、「娘さんがカバンに付いているストラップを落とされたみたいで、どこにあるのか聞かれたのですが分からなくて･･･」ということでした。いつも、何かあった時この子はどうなるのだろうと思っていましたので、誰かに助けを求めることが出来るということが分かり、娘の成長に驚き、また 1 人通学というのは 1 人で生きていく力を身につけることなのだとあらためて気づかされました。

そしてマラソンです。

沙織は幼少の頃から超多動児で、ひとつのことに集中して取り組むことができませんでした。そこで集中力をつけるためにウォーキングをしていましたが、武蔵野東学園に入るまで走ることはさせていませんでした。ところが武蔵野東高等専修学校ではマラソン大会があり健常児さんも一緒ということでビリを覚悟していたのですが、そこそこ早くゴールしました。それではと、３年生のマラソン大会で入賞を目指そうと家で私とマラソンを始めました。そして大会では３位になりました!! そのこともちろん嬉しかったのですが、それよりももっと嬉しかったのは、後日中学校の先生にバッタリお会いした時、「武蔵野東高等専修学校のマラソン大会の結果が職員室で発表され、沙織さんの３位の報告に職員室がドッとわいたんですよ !!」と教えてくださったことです。今思い出しても心がポカポカ温かくなります。たくさんの先生方に支えられている幸せを実感しました。

武蔵野東高等専修学校での経験が今では自信となり、沙織は一生懸命頑張って生きています。

本当にありがとうございました。

**24 期生　山口真生（父　俊典）**

私の息子・山口真生は、貴校に平成 21 年 4 月から 24 年 3 月までお世話になりました。真生は中学 3 年生になりいよいよ高校受験に臨むにあたって受験先が決まりませんでした。都立高校を受験するならば定時制高校しか進学先がありませんでした。しかし両親ともに都立高校の教員であり昼間に 1 人家にいて夜に通学させるには、胸の痛む事柄でした。中学 3 年生の 11 月になり真生の友人のＫ君が貴校を受けることを知りホームページで貴校の学校方針と教育内容を知りました。それは本人に最も合うカリキュラムでありました。早速、12 月の学校説明会に出席し受験することを決めました。清水校長の著書「ダメ人間はいない　学校で生徒はかわる」と創立者の「北原キヨの混合教育・生活療法への道」の本を読み、創立者の哲学と実践に基づき、貴校は「インクルーシブ教育」の日本の草分け的存在であることを知りました。真生は、貴校入学前「自信のある子」ではありませんでした。しかし、３年間の貴校の教育により「自信のある子」へと変えられました。それは、清水校長が著書で語った「ダメ人間はいない　学校で生徒はかわる」という言葉が、そのまま真生の「血となり肉」となった結果でした。都立高校の教員から見て貴校の優れた点はいくつもありますが、特に指摘しておきたいのは、若い先生が自分の力を伸ばすことができる教員集団であることです。担任の志村先生は、学年で 1 番若い先生でしたが、「学年主任」をしていました。それは、上意下達の教育システムを退け、生徒に対して 1 人ひとりの教師が責任を持ち、周囲がそれを支える体制の現れであると思います。真生は、卒業後、東京 YMCA 医療福祉専門学校で「介護福祉士」の資格をとり、今、三鷹の有料老人ホームで働いています。今でも武蔵野東の同窓生と連絡をとり交友関係を温めています。ありがとうございました。

**25 期生　沖元太一（母　加代子）**

このたびは創立 30 周年誠におめでとうございます。

キヨ先生方の並々ならぬご尽力で創立されて以来、着実に研鑽を積み重ねられ、皆様のご精励の賜物と拝察申し上げます。

25 期生の息子は現在 21 歳。学校で社会に出るためのトレーニングから進路決定までをしっかりご指導いただき、おかげさまで社会人３年目を過ごしております。

「武蔵野東高等専修学校は社会に出る前の仕上げの３年間です。時間はありません。しっかり育てなくてはなりません」と、入学式では先生方の熱い思いを感じました。当初はわが子の社会人としての姿は思い描けず、今までとは違った環境に戸惑うところもありましたが、日々先生方が緻密に導いてくださいました。社会に出ていくためのスキルを学び、できないところは後回しにせず、徹底的にご指導くださいました。

そして１日の大半が健常児と一緒のクラス。同年代の健常生徒との生活は大変刺激となり、会話の幅も広がりました。

３年間の陸上部でも大きく成長できました。皆でトレーニングに励み、高校２年次の全国高校駅伝東京都予選会では 107校中18 位になることができました。３区８キロを走り、皆と喜びを分かち合う息子の姿は幼少期にはとても想像ができないものでした。先生方には試合や合宿の引率、就労に向けてのトレーニングもしていただき、大変ありがたい思いです。

武蔵野東高等専修学校でのすべての経験が今の息子の力となっています。仲間がいる楽しさを感じながら、社会に巣立つ前の大切なひと時を幸せに過ごすことができ、感謝で一杯でございます。

いつまでも卒業生・保護者を迎え入れてくださる拠り所として、一層のご発展をお祈り申し上げます。

**26 期生　藤本昴也（父　宇一郎）**

私は、平成 25 年度卒業生の父親であり、3 年在学中の生徒の父親でもあります。兄弟で合計６年間お世話になり、父子家庭で子どもに目が届かない点も理解いただき、丁寧にご指導をいただいています。今回は、卒業生である長男の思い出を振り返ります。

３年間を皆勤で通すことができましたが、１年前期に１日だけ遅刻をしました。３者面談で、取組意識や目標感について厳しく（激しく？）注意されたことが原因でした。私も「そこまで」と思う部分もありましたが、すぐに担任と副担任の先生から電話をいただき、「学校に来ないと言うかもしれませんがあえて厳しく言いました。まかせてください。」と言われました。案の定、翌朝登校を拒絶しましたが、何とか遅刻で登校させ、じっくり話していただき、翌日から気持ちあらたに登校しました。この時、ストレスやプレッシャーを伴う課題を与えることも必要だと感じ、この学校で親子で頑張りたいと思いました。

部活は軟式野球部に所属しました。上の学年の部員がいなかったため、２年間部長を務めました。部をまとめることに悩み、「俺にキャプテンは無理」と弱音を吐いたことも複数回ありましたが、先生の厳しく愛情あふれる指導と他の部員の協力に支えられました。２年次には全国大会で準優勝し、かけがえのない思い出と経験をいただいたと思います。

学校行事の中では、合唱コンクールが印象深いです。小中学の時は、「嫌いな行事」の代表格で練習もさぼりがちでしたが、３年次にリーダーとして試行錯誤しながら取り組む姿に成長を見ました。結果は学年・クラスとも優勝し、充実感と感動を得たようです。

混合教育という点では、バディの友だちとのコミュニケーションを通じ、相手を気遣う心を育ててもらいました。特に３年次にバディを組んだ友だちとの触れ合いは微笑ましく、心温まるものを感じました。

次男も兄の背中を見て、自分の目で見て武蔵野東への入学を決めたとのことで、また３年間、一緒に頑張ろうと思いました。そういう意味では現在進行形になりますが、親子ともどもご指導いただいた武蔵野東の先生方・関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

**27 期生　山荘成輝（母 陽子）**

平成 27 年春、武蔵野東高等専修学校を卒業してまだ１年目ですが、お陰様で息子は毎日元気に作業所に通っています。

武蔵野東学園での 15 年間の学校生活を終え社会人となった今、制服を着て通っていた頃がすでに懐かしく感じられます。先生方や友達、先輩後輩、保護者の皆様と過ごした日々の思い出は親子共々何物にも代え難い宝物となっています。中でも武蔵野東高等専修学校の３年間を通して息子のバディだった友人とは“一生の友達”と言える程の絆ができました。口下手な彼と、会話はできない息子。コミュニケーションとは言葉だけではなく心通わせるものなのだと感じた３年間でした。学校行事や部活動などのアルバムを見返すといつも自然な笑顔で写っている２人がいます。

彼は最初「バディなんていらない。」と思っていたそうですが、入学後の初めての行事であるスポーツ大会で常に一緒に行動し励まし合うことで「お世話する存在」から「共に支え合う存在」に変わっていったように思います。

休日には、何度か一緒に遊園地やボウリングなどに出掛けて行きました。帰りに我が家へ来て夕食を一緒にすることもありました。最初は「友達の家でご飯？」と思ったかも知れませんが回を重ねるうちに私達家族にも少しずつ打ち解けてくれるようになりました。彼は今、地元を離れ遠方の大学で寮生活をしています。帰省の際にはお土産を持って訪ねて来てくれました。この先もずっとこの関係が続いて欲しいと思っています。

これからも様々な事情を抱えて入学してくる生徒さん達が、この学校で有意義な生活を送りバディを超えた絆が生まれることを願っています。もちろん先生方のご尽力あってのことと感謝いたしております。

最後になりますが、創立 30 周年おめでとうございます。今後益々のご発展をお祈り致します。

**27 期生　矢野圭将（母　恵子）**

この度は創立 30 周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

息子は今年３月に卒業いたしましたが、今も時間を見つけては母校に足を運ばせていただいております。懐かしい、のではなく、自分のもうひとつの居場所でもあり、いつも温かく迎えて下さる先生方や仲間がいます。そんな息子を見て、幸せを日々感じます。今でこそそうですが、通っていた時は親子共々緊張してドキドキしたものでした。

久しぶりに会った中学時代の先生に、「人はこんなにも変わるものなのか」と驚かれたと嬉しそうに言っておりました。本人も私との会話の中で、「この学校と出会えたから自分は今がある」と自信を持って言える部分ができたということは想像もできなかったことです。精神的にも肉体的にも大きく逞しくなった息子に、何よりの褒め言葉だったことでしょう。

小学校までは先生方が色々手を差し伸べてくださり、なんとかやってきました。ただ毎日をのほほんと過ごし、働きかけがなければ行動しようとしない、嫌なことからは逃げる、そんな息子にしたのは、私の育て方なのだろうと自分を責めながら「超のび太症候群」という本を見つけて、ドラえもんがいないと生きていけない子にしてしまったかもしれない、と他人事ではありませんでした。

息子の人生に於いて本校との出会いは、私たちにとってかけがえのないものとなりました。私はどこを探してもこんなにも先生方が情熱を持って「本気」で向き合ってくださる学校は他にはないと思います。親である私にもいつでもどんな時でも相談にのってくださり、話を聞いてくださいました。どれだけ支えていただいたことでしょう。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

先日、テレビで、極限状態になった子が、「辛い」「苦しい」と叫んでいました。「こういう時はつらくても気持ちが下がることを言ったら、脳がそう思ってしまうから、できる、やれる、をイメージしてセルフコントロールしなければうまくいかなくなると先生から教わった。だからいつもそうするようにしている。」と言っておりました。その場面、その時、でないと本人の心に響かないような、絶妙のタイミングでご指導いただいた言葉の１つひとつが、今も鮮明に息子の心の中に生きており、これからも生涯にかけてその時々で思い起こされることでしょう。その貴重な教訓は、息子を介して私にも生きていく上で忘れてはならない言葉として伝わってきます。己と向き合い、自分に

打ち勝つなどということに無縁だったため、断崖絶壁でなければそんなに変わることはできなかったと思います。

息子はこの学校で心にもたくさんの栄養をもらって育ちました。社会に出て、だれかの役に立てる人となるために、机の上で学ぶことだけでなく、様々な経験を通して心豊かな人になれるよう、たくさんの細やかな働きかけをしていただきました。私自身も子どもに教わること、先生方に気づかせていただいたことがたくさんありました。先生方は１人ひとりの課題について、先を見据えて厳しい中にも愛情ある指導をしてくださり、１日が本当に濃く、自分の中に取り込むべきスキルが詰まったものでした。にも拘わらず息子はなかなか行動で示すことができず、親としましては歯がゆく、また、先生方のご苦労にはいつも頭が下がる思いでした。

そして、バディを組んでの毎日の学生生活は息子の生き方、考え方を大きく変えることになったに違いありません。いつもまっすぐでありのままである仲間と、互いに支え合い、絆を深めた日々。今も連絡を取り合い、遊びにでかけたり、変わりなく気持ちを寄り添わせています。頼り、頼られ、必要とされることの喜び、相手の気持ちになって考えることや、いつも誠実であることの大切さを改めて感じたことでしょう。

また、命の尊さや自分は生かされているという気づきも学校での様々な体験を通し、肌で感じることができました。毎日過ごしている生活が当たり前、ではなく、色々な人の支えがあることに気づき、まわりのあらゆるものに“感謝”する気持ちは、武蔵野東高等専修学校との出会いなくしては体得できなかったでしょう。自分でごはんを作り、洗濯をする、食べ物を粗末にしない、少なからず家での気配りもできるようになりました。

私も息子と共にたくさん泣き、たくさん感動し、たくさん反省し、たくさん笑った３年間、人間としての五感をフルに使って、振り返れば一緒に学校に通い、第２の青春を過ごした気持ちです。武蔵野東高等専修学校のような学校がたくさんあったら、悩み苦しみ不登校になる子どもたちはなくなるのではないかと思います。そして、思いやりがある子がきっと増えるはずです。いつも愛情深く、熱意あるご指導を本当にありがとうございました。

どうか、この先もこの素晴らしい伝統が続いていきますように。そして更に喜ばしい節目を重ねていくことを願い、武蔵野東高等専修学校の益々のご発展と諸先生方の更なるご活躍を心より祈念いたします。



# 第５章　教育環境の変遷

## I　総合キャリア学科の導入

平成20年度の１年生から文化教養高等課程、総合キャリア学科となり、平成22年度に全学年が総合キャリア学科に移行しました。

これは、従来の家政高等課程（調理・被服）、技能高等課程（情報処理）、文化教養高等課程（絵画・陶芸・体育）の３課程６コースからの移行です。総合キャリア学科導入に伴い、入学時に選考したコースを半年ごとに履修変更できるシステムになりました。また、大学入学希望者の対応として、２年生の後期より履修できる「大学受験コース」も追加しました。

これにより、３年間の在学中に最大６コースが履修できるようになりました。また、平成26年11月に学園創立50周年を迎えた際に武蔵野東高等専修学校に校名を改名しました。その際に専門教科の被服コースをファッションコース、調理コースを調理・製菓コース、情報コースを情報ビジネスコースに名称を変更しました。

総合キャリア学科導入により向上した点を明記すると以下の点が挙げられます。

**a.** 生徒の進路に沿ったコース選択が可能になった。

**b.** 生徒に状況変化が生じた際の対応がスムーズになった。

**c.** 生徒の職業適性が把握しやすくなった。

**d.** インターンシップ後のコース変更がしやすくなった。

## II クラス編成と教員の指導体制

### 1. クラス編成

本校では、開校当初より習熟度別、少人数制クラス編成を採用しています。高等専修学校としての特色に加え、本学園の特色でもある自閉症児と健常児の混合教育、社会自立に直結した自閉症児の就職の前段階指導という側面をもっていますから、健常児と自閉症児のそれぞれの可能性を引き出し伸ばしていくためには、クラス編成においても多くの配慮が必要となってきます。

開校から現在までのクラス編成の変遷と、年度による教育的配慮についてまとめると以下のようになります。

１学年だけでスタートを切った昭和 61 年度は、全校で健常児は４名（入学当初は12 名いたがその後退学）で、自閉症児は 53 名と圧倒的に多く、学習面と生活面共に様々な配慮を必要としました。各クラスには、担任、副担任の２名を配置すると共に、A ～ E 組の５クラスという少人数制で、学習の指導だけでなく、生活面の指導など行き届いた指導ができるよう配慮しました。

昭和62年度は２学年となり、入学した２期生はA～D組の４クラスで始まりました。しかし、人数比はまだ自閉症児の方が多く、学習面、生活面の両方の習熟度からクラス編成を行いました。

昭和 63 年度には３期生が入学し、ようやく３学年（4・3・3 の 10クラス）が揃い、健常児の割合も増えてきましたが、素行面で粗暴な傾向の生徒が多くなり、自閉症児との交流面で更に配慮する必要性が出てきました。

平成元年度では、前年度の実践と反省を生かし、１学年では密度の濃い指導ができるように A ～ D 組の４クラスとすると共に、２学年に進級する時に、学習面や生活面の習熟度を考慮してクラス替えを行い、A ～ C 組の３クラスになります。そして３学年にはそのまま持ち上がります（進路決定の時期に、一時的に A 組は進学、B 組は就職に分かれるということがありました）このような編成では、1年A～C組、2年A･B組、３年 A・B 組は健常児の割合が多く、その中に学習、生活ともに混合教育が可能と判断された自閉症児が７～８名いるといった構成になりました。1年 D 組、2年 C 組、３年 C 組は自閉症児中心の少人数のクラスで、よりきめ細かい指導を行っていきました。

自閉症児は健常児との交流の中で刺激を受け、社会性やその他多くのことを学びます。重度の自閉症児は、生活面を中心とした学習をし、それを基盤に社会自立の前段階指導を受けます。

平成５年度から、３学年は７月頃に進路別クラスに分かれていましたが、平成８年度より３年に進級する際に進路別でのクラス編成をすることになり、早い時期から進学指導と就職活動が展開できるようになりました。

平成 11 年度から３学年共に３クラス制（A ～ C 組）になりました。全学年３クラス制にすることにより、特に今までのクラス編成の方針と大きく変わる点はありませんが、健常児と自閉症児の枠をはずし、全学年１年 A・B 組、２年 A・B 組、３年 A・B 組は１クラス 35 人前後で健常児の割合が多く、習熟度別の編成により、きめ細やかな生徒指導、教科指導を行うことを目的とし、１年 C 組、２年 C 組、３年 C 組は自閉症児中心の少人数のクラスで、今までの自閉症児中心のクラスと同様に生活スキル及び社会性の向上を第１の目的として、きめ細かい指導を行っていきました。

進路指導に関しても、全学年３クラス制になってからも１人ひとりの個性・適性を見ながらきめ細やかな指導を行い、１年次から進路指導を展開しています。専門教科のみの学習にとどまらず、普通教科（国語、数学、社会、英語、体育）についても広く深く学習できるようにカリキュラムを設定し、混合教育の成果として、年々福祉・教育系の上級学校に進学する生徒が多く出てきました。

平成 24 年度より１学年のクラス編成を A・B・C1・C2 の４クラスにしました。これは、生徒の個性の多様化に伴い、１学年を更なる少人数制にすることにより、生徒１人ひとりに手厚い指導が展開できるといった利点を考えたものでした。しかしながら、平成28年度は、入学者数の減少の影響を受け１年生を３クラスにしてのスタートとなりました。

このように、年を追うごとにクラス編成に工夫、改善を加え、いくつかの変遷を経て現在に至っています。

## 2．担任・副担任制

本校では、開校初年度より担任・副担任制を導入し、より円滑な学級経営を目指してきました。

開校当初、昭和 61 年度からの３年間は、前述したように、健常児に比べて自閉症児の割合が大変多く、それに関わる指導や事務処理に多くの時間を費やしていました。例えば、自閉症児の中には発作やパニックをおこす生徒も多く、学校生活の中で常にその為の注意や対応が必要でした。クラス内に２人の教員がいれば、校内だけでなく校外学習においても、そのような事態が生じた場合に、一方がその個人を、もう一方がクラス全体を見るというように、いち早く対処することができます。

また当時、職員数も現在の１/３程度で時間割の上で事務時間が確保できず、教員の負担は相当なものでした。こうした状況から、日頃より多くの配慮を必要とするクラス経営と、生徒下校後に行う多くの事務処理を担任と副担任の連携によって進めていくこのシステムの導入は、当時の状況から見ても当然で必要なことでした。

昭和 63 年度になって３期生が入学してから、健常児が多くなったので、自閉症児と健常児の交流の面で問題が生じてきました。クラスに担任と副担任がいることで、色々な問題が生じても対応しやすくなりました。また、休憩時間にどちらかが教室にいれば、問題を未然に防いだり、教室の様子だけでなく生徒の個性を多角的に知り、交流についての的確な指導をその場で行うことができました。また、予防教育といった点で大きな効果が得られました。

担任・副担任制が定着してきた平成４年度頃より、それぞれの仕事の役割分担が見直され、副担任についても分担の明確化が図られました。その中で重要なことは「担任と副担任の情報交換を密に」ということと、「仕事の重複、取りこぼしが出やすい部分について明確化すること」で、より円滑なクラス運営が図られました。

このような変遷を経て、担任・副担任制がいろいろな面で教育効果をもたらし、現在に至っています。



# Ⅲ 連合後援会と同窓会のバックアップ

## 1. 後援会と連合後援会組織

創立者北原勝平・キヨの教育を支持する保護者たちの惜しみない協力と熱烈な学校建設運動は、あらゆる困難を克服して今日の学園を築いてきました。保護者のこの気持ちをそのままに組織し、各園校を支援する「後援会」が生まれました。

この後援会は、他校にみる PTA やあるいは自治会的発想による親の会ではなく、教員は生徒の教育に専念し、保護者はそれを側面よりバックアップするという文字通りの後援する組織です。

また、後援会と一部オーバーラップする形で、治療教育をバックアップする自閉症児の親の組織である「むらさき会」があり、共に会則により運営されています。

昭和 59 年度には、創立の頃よりも強力な後援会活動ができるようにとの趣旨で、連合後援会が組織されました。また、卒業後も希望する保護者によるOB会が組織されていて、連合後援会と連携を保ちながら活動を続けてくださっています。

## 2. 後援会の事業計画

本校の後援会は、昭和 61年開校と同時に発足しました。当時は生徒数も少なく本学園側の協力を必要とすることが多々ありましたが、昭和 63 年には、１学年から３学年まで揃い、後援会活動も充実してきました。昭和 63年度は、いよいよ第１期の卒業生を送り出す年でした。後援会の事業目標にもそのことがよく表れていて、卒業後の進路のバックアップとして「訓練センター開設への協力」と「武蔵野東技能高等専修学校の備品協力」が挙げられています。この事業目標から、卒業生に自閉症児が多くいて、学校と保護者で卒業後のことに取り組んでいたことがよくわかります。

平成元年度には、後援会も拡大し、「職場実習の充実・強化への協力」・「武蔵野東技能高等専修学校の備品充実への協力」・「学校行事への父母の参加」という３つの事業目標を打ち出しました。職場実習の充実・強化への協力に関しては、自閉症児の卒業後の進路について保護者の知人などの企業を紹介していただくなどの協力を得ました。

平成２年度には、公立中学校から入学した生徒が多くなり、本中学校から進学してきた生徒の数を上回りました。本学園独自の後援会に慣れていない保護者も多く、学校行事への父母の参加が少ないということで、昨年度に続き「学校行事への父母の参加」という目標が掲げられました。この目標は平成３年度まで続きました。

平成４年度は、本校が開校して７年目。後援会の事業目標の第一に連合後援会の事業目標への協力ということを掲げました。

平成５年度には、週５日制導入ということもあり、後援会組織のむらさき会より、土曜日の休みに伴い「家庭での指導の充実と地域交流の推進」が目標として掲げられました。本校もオープンスクールを開講し、保護者と協力する体制ができました。また、休日の地域活動にも積極的に参加するようにと地域のネットワークづくりという活動も展開されました。むらさき会のOBも、卒業生の将来を親と本学園が協力して考えていこうとOB会を発足させました。更に本校では、オープンスクールの中に卒業生講座を組み込み、卒業生の余暇活動の一役を担う態勢を作りました。

平成７年度には「高等専修学校創立 10 周年記念事業への協力」ということで、同窓会設置と公開授業の開催に関して、資金面で援助をしていただきました。

平成 11 年度から 27年度までの後援会事業目標としては、「連合後援会事業目標への協力」、「学校行事への保護者の積極的な参加と教育への協力」、「家庭での親と子の対話の充実」を掲げています。平成 28年度の事業目標には、「高等専修学校創立 30 周年記念事業のバックアップ」を加えていただき、創立 30 周年記念事業を側面から支えていただくことになりました。

このほかにも、創立時より学園祭（紫峰祭）では、各クラスの役員が中心となって、バザー用品や手作り品などの販売を行い、利益を本校に寄贈していただいています。本校では、それを生徒のための教材や教具などの購入に当てています。

また、本学園が平成 26 年 11 月 11 日に創立 50 周年を迎えるにあたり連合後援会より４つの記念事業を開催していただきました。１つ目は、臼井会長の発案で「襷リレー」が行われ各園校の様々な行事に襷が手渡され、更に海を越えてボストン東スクールに渡り、平成 26 年５月24日（土）のむらさき親子運動会にて感動のフィナーレを迎えました。保護者の皆様からは、「今後も未来に向けて、武蔵野東学園の襷は、受け継がれていく、というメッセージが伝わってきた」との評価をいただきました。２つ目は、「武蔵野東学園 50 周年記念文集」が、連合後援会の保護者の皆様のお力をいただき 36 名の保護者の寄稿文にて発刊されました。３つ目は、50 周年記念グッズと称して、ポロシャツ、Tシャツ、トートバッグを作成、販売していただきご寄付を賜りました。更には、南アルプスチロル学園設立にも多大なご寄付をいただきました。

４つ目は、平成 27 年１月 17 日に連合後援会のバックアップにより 50 周年記念講演会が、開催され 50 周年記念事業の締めくくりとなりました。

また、平成 26 年 11 月８日に立川のパレスホテルにて「創立 50 周年記念祝賀会」が開催され約 400 名の方々のご列席を賜りました。その際、後援会からも歴代後援会会長やたくさんの保護者 OB が参加されました。そこで、当時の連合後援会代表幹事の大槻様が登壇され感謝状が本学園より贈られました。後援会と本校、本学園の協力体制は今後も様々な形で強固になると共に、それが生徒たちの教育に反映されていくと確信しています。

| 歴代後援会会長 | | 歴代むらさき会会長 | |
|---|---|---|---|
| ＜武蔵野東高等専修学校後援会 会長名＞ | | ＜むらさき会 会長名＞ | |
| ・台　徳次郎氏 | 昭和 61 ～ 63 年 | ・安藤　政弘氏 | 昭和 61 年～平成元年 |
| ・小室　　昶氏 | 平成元年 | ・安村　俊子氏 | 平成２～３年 |
| ・渡辺　一郎氏 | 平成２～３年 | ・松井　好彦氏 | 平成４～７年 |
| ・山口　一夫氏 | 平成４年 | ・木下　　博氏 | 平成８～ 10 年 |
| ・松井　好彦氏 | 平成５～７年 | ・内堀　　徹氏 | 平成 11 ～ 13 年 |
| ・木下　　博氏 | 平成８～ 10 年 | ・阿部　　登氏 | 平成 14 ～ 16 年 |
| ・田中　法臣氏 | 平成 11 ～ 13 年 | ・佐野　恭一氏 | 平成 17 ～ 19 年 |
| ・穴井　秀喜氏 | 平成 14 ～ 16 年 | ・臼井　周平氏 | 平成 20 ～ 25 年 |
| ・石津　雄美氏 | 平成 17 年 | ・有田　　誠氏 | 平成 26 ～ 28 年 |
| ・佐野　恭一氏 | 平成 18 ～ 20 年 | | |
| ・佐竹　秀克氏 | 平成 21 ～ 22 年 | | |
| ・臼井　周平氏 | 平成 23 ～ 25 年 | | |
| ・大槻　　敬氏 | 平成 26 年 | | |
| ・近澤　　学氏 | 平成 27 ～ 28 年 | | |

## 3．同窓会

創立者である北原勝平と北原キヨは、本学園の子どもたちが本学園を卒業しても「心の故郷」であるこの学校に戻ってきてほしい、遊びにきてほしいとの願いが常にあり、それを教員たちに熱く語っていたものでした。その願いが具体的な形になる前に他界されましたが、私たちは、その遺志を継ぐべく同窓会設立を考えていました。

本校開校 10 周年記念事業として、また創立者の願いの実現と卒業生たちの連帯を強化する組織をと考えて同窓会が設立されることになりました。設立が決まった後、入会金や年会費、同窓会会則、今後の予定など骨組みとなる部分についての話し合いが行われ設立準備が始まりました。本校は、10 年間で 467 名の卒業生を出しています。卒業生もそれぞれの職場、学校で活躍し、多忙な為なかなか集まることができませんでした。そこで、1 期生から 7 期生までの歴代の友愛会会長、友愛会役員に呼びかけて、平成 6 年 9 月 30 日夜 7 時、本校の役員常備室にて同窓会準備委員会が開かれました。参加者は下記のとおりです。

1 期生　栗原政己、2 期生　坂元克滋、橘川利美、3 期生　石川勝治、今井理恵、4 期生　吉野康之、5 期生　田中秀樹、露崎美穂、6 期生　深井勇一、田中麻美、7 期生　庭野嘉照、　村田水奈子の 12 名、教員側は、清水信一、　高田一男、小林恒雄、泉秀夫、橘川直人、大友健二の 6 名で開校当時を知っている者が参加をしました。

同窓会設立についての説明や準備に関する今後の予定、趣意書、同窓会の会則、卒業生に配布するプリントなどについての説明をしました。

名誉会長には、当時の野田彰校長、顧問には、小林恒雄教諭、同窓会の会長には、1 期生の栗原政己君、副会長には、2 期生の坂元克滋君、理事に 3 期生の石川勝治君と 4 期生の吉野康之君、監事に 5 期生の田中秀樹君と 6 期生の深井勇一君、クラス監事には、各期の友愛会役員がなることに決まり、同窓会において承認していただくことになりました。



**●平成 7 年 2 月 1 日**

同窓会の趣意書、入会金、年会費納入のお知らせを送付。

**●同年 3 月 15 日**

第 1 回同窓会のご案内を郵送。

**●同年 4 月 30 日**

第 1 回の同窓会総会を本校の地下講堂で開催。

第 1 回同窓会総会には、1 期生から 7 期生までの同窓生 100 名、及び教員 32 名が集まりました。会議というものをまだ経験したことのない卒業生が多く、簡単なマニュアルを作成し、それに基づいて同窓会が進行していきました。

**●平成 8 年 2 月 29 日**

「同窓会だより」第 1 号が完成し、3 月 1 日に会員に送付。

**●同年 3 月 23 日**

午後 6 時より第 2 回同窓会総会を開くための準備委員会が役員常備室にて行われ、同窓生 7 名、職員 9 名と新たに 8 期生の菊池伸宏氏が新役員として加わりました。

第 2 回の総会は、4 月 20 日午後 3 時より地下講堂にて行うことに決定、また 2 年目ということで、平成 8 年度の事業目標を何にするかということが大きな議題となり、色々な話し合いが行われた結果、卒業生に記念品として「印鑑」を贈呈する事が決まりました。

**●同年 4 月 18 日**

待望の同窓会名簿が完成、19 日に会員へ郵送。

**●同年 4 月 20 日**

第 2 回同窓会総会を本校の地下講堂で開催。

第 1 期生から第 8 期生までの同窓生約 110 名、及び教員 29 名が参加して行われました。前回の総会同様、大変な盛り上がりを見せました。

**●平成 10 年**

本中学校の同窓会が設立され、本校の同窓会と合併し、「武蔵野東学園同窓会」と名称を改めました。

**●平成 11 年**

4 年目ということもあり若い同窓会組織として、柔軟でアクティブな活動をと期待をふくらませ、「卒業生・在校生の気持ちが一つになれる会」と「東学園の発展のために力になれる組織」という 2 つの目標に向かって発展させることを掲げていました。この年の事業としては、同窓会総会の実施、同窓会会員名簿作成・発送、卒業記念品の贈呈、会報の発行（年 1 回）を行いました。

発足から 5 年経った平成 12 年には、本学園から完全に「独り立ち」できていない面もあり、本学園内の教員に支えられながら同窓会総会を開催しました。同窓会の目的である「卒業生･在校生の気持ちが一つになれる会」を実行すべく情報交換の場として、インターネットを用いた同窓会関係の情報提供の環境を整えていく計画が出てきました。

**●平成 13 年**

将来同窓会会員の情報交換の場としてインターネットの活用を見据え、本学園ホームページの開設を行いました。また、この年に本小学校の同窓会が設立され、「武蔵野東学園同窓会」に加わりました。

同年、本校で教鞭を執る木田賢一教諭が同窓会会長に就任し、学園創立 40 周年に向けて記念事業への協力や組織作り、新事業の発案に協力する体制を整えました。

**●平成 16 年**

本学園創立 40 周年を迎え、本幼稚園も同窓会に組み込まれ、念願の「武蔵野東学園同窓会」が、めでたく完成することとなりました。

同年、同窓会としても 40 周年記念事業への協力、新事業への発案・計画とその成功のために支援を行いました。

**●平成 19 年**

同窓会懇親会が新たに完成した北原記念館のスカラーホールで行われることになりました。天井が高くとても清潔的で、大きなガラス戸を開けて外に出ると、その中央には本学園のシンボル「えんじゅ」がそびえ立っています。

**●平成 20 年**

昨今の情報化社会の進展に伴い、ネットワークのさらなる拡充を目指し、同窓会のホームページ作成に力を入れた取り組みが進められました。

**●平成 22 年**

これまで同窓会会長をされておられました、安江清治氏に代わり、安江氏と同じく本幼稚園出身の豊島照博氏が同窓会会長に就任され、同窓会の結束を呼びかけて力強いスタートが切られました。

**●平成 24 年 10 月**

寺田欣司理事長著の「武蔵野東学園物語ー学園 50 周年の軌跡ー」が出版されました。本学園創立以来 48 年間の歩みを物語風に記述したものです。多くの同窓生の支えがあって、これまで本学園の大きな発展につながってきたことが著書の中でも述べられています。



**●平成 25 年**

本学園創立 50 周年記念事業の一環として「奨学金事業」の実施に向けて取り組みがなされ、この奨学金制度の創設により、本小学校児童 1 名、本校生徒 1 名がその対象として選ばれ、スタートしました。

またこの機に校名が変更され、平成 26 年 4 月 1 日より「武蔵野東高等専修学校」となりました。

**●同年 11 月**

50 周年記念式典において、各園校に「タイムカプセル」が設置され、園児、児童、生徒がそれぞれの思いを込めてメッセージを入れ、10 年後の学園創立 60 周年の同窓会総会で開封される予定となっています。

このように同窓会では毎年、総会及び懇親会を開催して親睦を深めるほか、各園校の卒園式･卒業式の記念品贈呈、同窓会ホームページの運営･管理、同窓生の住所の維持・管理、全国高等専修学校体育大会の広告協賛やホームカミングデーの助成、そして学園盆踊りに出店するなど、様々な行事や活動を担ってきました。本校発足から 30 周年目を迎える今年、会員数は 1,878 名となりました。次なる目標に向かって、今後も本学園の発展のため、同窓会の皆様は、一致団結して同窓会活動を展開していってくださると思います。

**歴代同窓会会長**

| | | |
|---|---|---|
| ・初代 | 栗原 政己氏（高等専修学校 1 期生） | 平成 7 年度～ 9 年度 |
| ・2 代 | 中西 康典氏（中学校 2 期生） | 平成 10 年度～ 12 年度 |
| ・3 代 | 木田 賢一氏（小学校 1 期生） | 平成 13 年度～ 15 年度 |
| ・4 代 | 安江 政治氏（幼稚園 14 期生） | 平成 16 年度～ 21 年度 |
| ・5 代 | 豊島 照博氏（幼稚園 8 期生） | 平成 22 年度～現在に至る |

# Ⅳ 友愛寮とチャレンジショップ

## 1．友愛寮

平成 18 年４月に北原記念館４階に本学園独自の施設として友愛寮が開設されました。

同年 10 月、NPO 高等専修支援協会との業務委託契約のもと、友愛寮１・友愛寮２の２ユニットとして東京都よりグループホーム・ケアホームの指定をいただきました。

平成 19 年４月には、本学園が直接運営するグループホーム・ケアホームとなりました。そして、平成 26 年 10 月に練馬区立野町友愛寮 3 の運営を、平成 28 年３月には武蔵野市に友愛寮４の運営をスタートしました。

この友愛寮は、通勤寮として、本学園を卒業した自閉症者に対して、日常生活における指導・援助などを行い、地域における自立生活に円満に移行できるよう支援しています。普通、通勤寮は企業就労の方のみと限定していますが、友愛寮は、福祉就労の方も入寮でき、食事の提供、健康管理、日常生活の支援を行い、家庭や企業、作業所等と連携し、円滑な職業生活のバックアップ等を目的としています。

なお、友愛寮は本学園に在籍する園児・児童・生徒、卒業生を対象にしたショートステイも行っています。ショートステイは、ご家族の緊急時への対応等、様々な目的で利用されています。

## 2．チャレンジショップ「ゆう＆あい」

平成 18 年３月 18 日、北原記念館の１階に、チャレンジショップ「ゆう＆あい」がオープンしました。このチャレンジショップは、地域の皆さんがホッとできる空間を目指し、喫茶と軽食、委託販売、展示、インターンシップ等を行います。喫茶コーナーは、客席数 32 席でコーヒー・紅茶・ココア等のソフトドリンク、ビュッフェスタイルのランチ等を中心にゆったりくつろげるコミュニケーションの場としてご活用いただいております。特に、自閉症児の保護者の皆様が、子育てについての悩みやアドバイス等育児談義のできるスペースとしても活用されています。過去６回、女児対象の勉強会も実施しており、ここでしかできない女子特有の子育ての悩みの解消に一役を担っています。委託販売コーナーは、レンタルボックスを使って、作業所や障がい者団体の自主製品や個人作品、卒業生がお世話になっている事業所等の製品を中心に委託販売しています。また、単品展示販売ブースを設け、陶芸・さおり織り・手芸・絵画・焼き菓子等の販売も継続して参りました。ショップ内のガラス面にはピクチャーレールがあり、個展気分で絵画やポスター等の作品を展示しています。

なお、このチャレンジショップは、本校の生徒が、販売・接客・洗浄業務等を行う社会体験の場としてインターンシップにも活用されています。また、本小学校 C・D・E 組の児童の買い物実習や、e- パル（学内学童施設）のお出かけおやつが月に最大４回あります。本校では、２年生の健常児と自閉症児が共に連携するインターンシップ、３大行事（盆踊り・体育祭・紫峰祭）時の店頭販売、ハワイ学習前にテーブルマナーのおさらいをする研修、調理・製菓コースとのコラボレーション等、幅広く活用されています。

また、近隣施設に通われる高齢者の方々の憩いの場としても、喜んでいただけています。この 10 年間で、確実に地域に根差してきています。平成 28 年度は 11 年目に突入していきますので、更なる活用の場の開拓として、より多くの方々に安心していただける空間を提供していきます。

## V 本校の文部科学省委託事業の歴史

この 30 年間、専修学校としての職業教育、キャリア教育に加え、健常な生徒と発達障がい等のある生徒との混合教育（インクルーシブ教育）を展開し、教育成果をあげてきました。その成果を形として残すべく以下のような文部科学省委託事業を展開して参りました。

**●平成 27 年度**

①『発達障がいのある生徒等、特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラム等の開発 ～職業教育と混合教育（インクルーシブ教育）の成果～』

②『発達障がいのある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着・フォロー支援の確立』

**●平成 21 年度**

『キャリアコンソーシアムの展開 ～ニートに対する就労支援事業 Ⅳ～ 』

**●平成 20 年度**

『専修学校と NPO 団体と公共職業安定所の連携によるニートに対する職業教育支援事業 Ⅲ』

**●平成 19 年度**

『専修学校と若者自立塾と公共職業安定所の連携によるニートに対する職業教育支援事業 Ⅱ』

**●平成 18 年度**

①『専修学校と若者自立塾と公共職業安定所の連携によるニートに対する職業教育支援事業』

②『義務教育までのスキルを活用した職業観育成カリキュラムの構築』

**●平成 17 年度**

『武蔵野東技能高等専修学校の混合教育の普及』

**●平成 16 年度**

『個性を活かし職業観育成を促す研究開発』

## VI 校内環境の変遷

生徒たちにより良い環境で学んでもらう為、以下のように校内環境の整備を展開して参りました。

| | |
|---|---|
| 昭和61年 ５月 | 武蔵野東技能高等専修学校開校。 |
| 平成 ４ 年 ４月 | 制服・通学鞄改定。 |
| ５月 | 全教室に冷暖房設備完備。 |
| 平成 ５ 年 ４月 | 学校５日制開始。 |
| ５月 | ワープロからコンピュータに移行。 |
| ８月 | 園庭のコート改装。 |
| 平成 ８ 年 ４月 | タイプ科を情報処理科に名称変更。 |
| 平成12年 ４月 | 芸術科音楽コース募集停止。 |
| ９月 | ラグビー部創部。 |
| 平成14年 ４月 | 調理室に調理台３台増設。<br>地下にシャワーコーナー設置。 |
| 平成15年 ４月 | 体育科開設。<br>３学期制から２学期制に移行。 |
| ９月 | 陶芸科宿泊体験学習スタート。 |
| 平成16年 ３月 | 職員室増設。<br>地下にラグビー部倉庫を設置。 |
| ７月 | 校舎外改修工事（外壁、駐輪場等）。<br>校舎内改修工事（ロビーに車いす専用スロープ、応接室設置、園庭にクッションラバーシートの設置他）。 |
| 平成17年 ８月 | セコムによる新セキュリティーシステム導入。 |
| 10月 | コンピュータ室のコンピュータ 30 台をノートパソコンに入れ替える。 |

平成18年 1月　北原記念館完成に伴い本部機能移転。本校の大規模改修工事実施。
３Ａ、３Ｃ 教室、保健室を２階に設置。第２職員室を１階に設置。
2月　第２コンピュータ室（コンピュータ 30 台）を１階に増設。
インターンシップの場所としてチャレンジショップ「ゆう＆あい」開店。
4月　園庭に人工芝の設置、講堂に防球ネットの設置。

平成19年 4月　3 階教室の床の張り替え、講堂円柱にクッションカバー取り付け。

平成20年 4月　講堂にプロジェクター設置。
5月　昇降口ドアを電気錠に改修。

平成21年 3月　講堂にプロジェクターを追加設置。
6月　農業従事研修「おやてっと隊」山梨県にて開始。

平成22年 4月　総合キャリア学科完成年度。
6月　ラグビー部創部 10 年記念イベント開催。
8月　全てのトイレを洋式に改修、小便器に自動水洗センサーを取り付け。
第 1 コンピュータ室のパソコンを新機種に入れ替え。
11月　園庭フェンスの改修。
12月　全ての教室に 40 型液晶デジタルテレビを設置。

平成23年 3月　東京西北ロータリークラブよりウォータークーラー 1 台寄贈。
4月　制服をフルモデルチェンジ。
8月　第 2 コンピュータ室のパソコンを新機種に入れ替え。
東京西北ロータリークラブよりウォータークーラー 2 台寄贈。

平成24年 4月　被服室の改修工事。
7月　火災報知設備を新機種に改修。
9月　東京西北ロータリークラブよりウォータークーラー 1 台寄贈。

平成25年 8月　調理室リニューアル、園庭人工芝リニューアル。
9月　農業従事研修の宿泊先をチロル学園に移行。

平成26年 4月　校名を「武蔵野東高等専修学校」に変更。
「調理」は「調理・製菓」「被服」は「ファッション」、「情報」は「情報ビジネス」にコース名を変更。
11月　本学園創立 50 周年事業の一環としてロビーにタイムカプセルを設置。

平成27年 4月　陶芸ガス窯改修。
7月　トレーニングルーム器材の改修。
8月　トイレの改修工事及び温水洗浄便座の設置。

平成28年 7月　空調関連の改修工事。
8月　コンピュータ室のパソコンを最新機種に 60 台入れ替え。

# 第６章　メディア、書籍

## Ⅰ　本校が取り上げられたメディア

### １. こころの二人三脚

**こころの二人三脚**

**～東京・武蔵野東学園　自閉症児と級友たち～**

**NHK スペシャル「こども・輝けいのち」**
**（６回シリーズ）**

平成 15 年７月 13 日（日）総合テレビ・
午後９時～９時 50 分放送
ディレクター　高倉 基也氏
カメラマン　廣田 昌也氏
音　　声　石井 和友氏

平成 15 年７月、本校の教育が NHK テレビ放送 50 年企画のスペシャル番組で放送されました。平成 14 年の２月にこの企画の話があり、平成 14 年度の卒業式を皮切りにカメラを回し、１年間撮り続けたドキュメントです。

NHK スペシャル「こども･輝けいのち」は、明日に向かって生きる子どもたちの姿、成長していく姿を通して“いのち”の尊さを見つめなおしてみたいというシリーズです。本校は、第６集 こころの二人三脚　～東京・武蔵野東学園　自閉症児と級友たち～というテーマで、自閉症の子どもたちのひたむきさや優しさに、健常児の多くが見失っていた大切なものを発見し、また自分が必要とされる存在であることを再認識する一方、自閉症の子どもたちも、同世代の仲間たちの興味や関心事に常に接することで、次第に苦手な感情表現が豊かになっていくといった内容でした。また、混合教育といった環境の中で境遇の異なる者同士が出会い、お互いに支え合いながら成長していく姿を、学校生活の１年間の中でクローズアップされていきました。

この放送への反響は大きく、「人間教育を推進している専門学校が参考にしたい」「大阪に混合教育の専修学校をつくろうと模索している」「高等学校改革推進計画を策定し、具体的な取り組みを進めており専門教育のあり方を視察したい」「不登校を卒論のテーマにしているので勉強したい」など実際の現場を見てみたいと教育関係の方や教師を目指している学生の見学依頼が相次ぎました。

シリーズ全体の放送は次の通りです。



**NHK スペシャル　「こども・輝けいのち」**

平成 15 年２月～７月／毎月１回／日曜
総合テレビ・午後９時～９時 50 分（第１集は午後９時～ 10 時 00 分）

・第１集：２月 ９日　「父ちゃん母ちゃん、生きるんや」
～大阪・西成こどもの里～
・第２集：３月 ９日　「15 歳・（拓）の旅立ち」
～長野・義足のエースと仲間たち～
・第３集：４月13日　「情熱のホームルーム」
～金沢・４年１組　命の授業～
・第４集：５月11日　「小さな勇士たち」
～東京・小児病棟ふれあい日記～
・第５集：６月 ８日　「裸で育て　君らしく」
～大阪・アトム共同保育所～
・第６集：７月13日　「こころの二人三脚」
～東京・武蔵野東学園　自閉症児と級友たち～

※再放送を含め、計４回放送されました。
７ 月 13日　　総合テレビ午前９時から９時 49 分放送
７ 月 16日　　総合テレビで再放送
８月　１日　　総合テレビで再放送
11月　６日　　総合テレビで再放送

## 2. 専門学校新聞

### 1. 全国高等専修学校体育大会

平成３年 11 月に、埼玉県で第１回全国高等専修学校体育大会が実施されました。これは、高等専修学校の生徒が、高体連への加盟ができないことから、何とかして全国規模の大会を作りたいという思いから大会が始まりました。初年度は、バレーボール・軟式野球・ソフトボールという小規模での大会でしたが、第２回大会の平成４年からは、冬季大会として、駅伝競走大会が加わりました。

本校は、第２回大会から参加しており、各クラブ活動の日頃の練習の成果が社会的に評価され、生徒たちのモチベーションの向上につながりました。

また、大会のシンボルマークが平成８年にデザインされ、本校９期生の北村裕一郎君の作品が起用されました。

**＜本校の大会の成績＞**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第 ８回大会（東京都） | 平成 10 年 | 軟式野球 | 準優勝 |
| 第 ９回大会（埼玉県） | 平成 11 年 | 軟式野球 | 優勝 |
| | | ソフトボール | 準優勝 |
| 第 10 回大会（神奈川県） | 平成 12 年 | 軟式野球 | 準優勝 |
| | | ソフトボール | 準優勝 |
| 第 11 回大会（東京都） | 平成 13 年 | ソフトボール | 準優勝 |
| 第 12 回大会（東京都） | 平成 14 年 | ソフトボール | 準優勝 |
| | | サッカー | 準優勝 |
| 第 13 回大会（山梨県） | 平成 15 年 | 卓球男子団体 | 優勝 |
| | | バドミントン男子団体 | 優勝 |
| | | バドミントン女子団体 | 準優勝 |
| 第 14 回大会（山梨県） | 平成 16 年 | 卓球男子団体 | 優勝 |
| | | 自転車競技男子団体 | 第３位 |
| 第 15 回大会（山梨県） | 平成 17 年 | 軟式野球 | 準優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 準優勝 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 優勝 |
| 第 16 回大会（山梨県） | 平成 18 年 | 軟式野球 | 優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 優勝 |
| | | 自転車競技女子団体 | 準優勝 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 準優勝 |
| | | 駅伝競走男子 | 優勝 |
| | | 駅伝競走女子 | 準優勝 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第 17 回大会（山梨県） | 平成 19 年 | 軟式野球 | 優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 準優勝 |
| | | 自転車競技女子団体 | 準優勝 |
| | | 駅伝競走男子 | 優勝 |
| | | 駅伝競走女子 | 第３位 |
| 第 18 回大会（山梨県） | 平成 20 年 | 軟式野球 | 優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 準優勝 |
| | | 自転車競技男子団体 | 第３位 |
| | | 自転車競技女子団体 | 準優勝 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 準優勝 |
| | | 駅伝競走男子 | 優勝 |
| | | 駅伝競走女子 | 第３位 |

専門学校新聞

スポーツ版

富士北麓でスポーツの祭典

第17回全国高等専修学校体育大会

武蔵野車技能、大竹高等専修が優勝

700人がさわやかな汗

10競技36種目で熱戦展開

競技別成績結果

専門学校新聞

富士北麓でスポーツの祭典

第18回全国高等専修学校体育大会

自転車など10競技で熱戦展開

競技別成績結果

大会出場校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第 19 回大会（山梨県） | 平成 21 年 | 軟式野球 | 準優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 準優勝 |
| | | 自転車競技女子団体 | 準優勝 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 準優勝 |
| | | 駅伝競走男子 | 準優勝 |
| | | 駅伝競走女子 | 準優勝 |
| 第 20 回大会（山梨県） | 平成 22 年 | 卓球男子団体 | 準優勝 |
| | | 自転車競技女子団体 | 第３位 |
| | | 駅伝競走男子 | 優勝 |
| | | 駅伝競走女子 | 準優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 準優勝 |

専門学校新聞

スポーツ版

富士北麓でスポーツの祭典

第19回全国高等専修学校体育大会

自転車など10競技で熱戦展開

競技別成績結果

専門学校新聞

スポーツ版

自転車など10競技で熱戦展開

大竹高等専修が5種目制す

競技別成績結果

大会出場校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第 21 回大会（山梨県） | 平成 23 年 | 卓球女子団体 | 優勝 |
| | | 自転車競技男子団体 | 準優勝 |
| | | 自転車競技女子団体 | 第３位 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 第３位 |
| | | 駅伝競走男子 A | 優勝 |
| | | 駅伝競走男子 B | 準優勝 |
| | | 軟式野球 | 準優勝 |
| 第 22 回大会（山梨県） | 平成 24 年 | 卓球男子団体 | 優勝 |
| | | 卓球女子団体 | 優勝 |
| | | 自転車競技女子団体 | 準優勝 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 優勝 |
| | | 駅伝競走男子 | 優勝 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 第３位 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第 23 回大会（山梨県） | 平成 25 年 | 駅伝競走男子 | 優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 優勝 |
| 第 24 回大会（山梨県） | 平成 26 年 | 自転車競技男子団体 | 第３位 |
| | | スポーツ吹矢団体 | 準優勝 |
| | | 駅伝競走男子 | 準優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 優勝 |
| 第 25 回大会（山梨県） | 平成 27 年 | スポーツ吹矢団体 | 優勝 |
| | | 駅伝競走男子 | 第３位 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第 26 回大会（山梨県） | 平成 28 年 | 駅伝競走男子 | 優勝 |
| | | 卓球男子団体 | 優勝 |

専門学校新聞

高等専修の"夢舞台"800人集う

第26回全国高等専修学校体育大会

富士北麓公園でスポーツの祭典

～優勝校一覧～

競技別成績結果

全国の仲間とさわやかな汗

10競技で熱戦展開

## 2．「私のしごと」作文コンクール

**専修学校法制化 30 周年／「職業教育の日」制定記念**
**全国高校生・高等専修学校生「私のしごと」作文コンクール**

平成 17 年 10 月 15 日の専門学校新聞に、「私のしごと」作文コンクールで入賞した本校生徒の作文と表彰式の様子が掲載されました。この作文コンクールは、職業教育をキーワードとする専修学校の関係団体、そして全国高等学校進路指導協議会の後援のもと、若者たちに将来の職業や仕事について考える機会と発表の場を与えることを目的に創設されました。北は北海道から南は沖縄までの応募があり、本校は毎年、優秀団体賞を受賞しています。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 平成 17 年 | ・job 大賞（最優秀賞） | 2 年 | 宮本　成敦 |
| | ・全国高等専修学校協会会長賞 | 3 年 | 井上　信吾 |
| 平成 19 年 | ・専門学校新聞社賞 | 3 年 | 渡部　麻衣子 |
| | ・NPO 高等専修教育支援協会理事長賞 | 2 年 | 菅原　耀 |
| 平成 21 年 | ・特定非営利活動法人　日本語検定委員会賞 | 3 年 | 竹内　夏菜 |
| 平成 24 年 | ・NPO 高等専修教育支援協会理事長賞 | 3 年 | 森数　矩生 |
| 平成 25 年 | ・NPO 高等専修教育支援協会理事長賞 | 3 年 | 松浦　貴志 |
| 平成 26 年 | ・全国専修学校各種学校総連合会会長賞 | 3 年 | 坂東　明樹 |
| 平成 27 年 | ・東京都知事賞 | 2 年 | 朝比奈　更紗 |
| 平成 28 年 | ・東京都知事賞 | 3 年 | 朝比奈　更紗 |

専門学校新聞

全国高校生・高等専修学校生

「私のしごと」作文コンクール表彰式

記念展特設ステージで盛大に

応募者3007人の努力称える

入賞者に賞状、盾、奨学金など贈呈

朗読に会場から大きな拍手

広域圏版

job大賞（最優秀賞）

## 「好きな仕事で、夢をかなえる！」

武蔵野東技能高等専修学校２年　宮本　成敦

「ありがとう」。何度言われてもうれしい言葉です。この言葉を聞くだけでどんな高価な栄養ドリンクを飲むよりも元気が出ます。そんな「ありがとう」の言葉を介して人から元気をもらい、なおかつ元気を与えられる仕事を私は見つけました。介護福祉士です。

昨年の秋、私は祖父をガンで亡くしました。祖父は他界する前の半年間、ホスピスで生活しました。そのホスピスには、いつも献身的に介護にあたるヘルパーがおり、その介護に従事する姿は今でも鮮明に思い出すことができるほど印象深いものでした。当時、死を目前にした祖父は言葉を発することができなくなっており、以前には張りのある声で呼んでいてくれた私の名前さえも口にすることはできなくなっていました。

そんな状態の祖父を最後に見舞いに行った時、病室の扉を開けると、うれしそうな表情で口を精一杯動かし、何とかヘルパーに話しかけようとしている姿が見えました。頑張って生きよう、この人と会話をしたい、そんな祖父の気持ちが手に取るように分かってきました。

そしてヘルパーの手を握りながら、何度も何度も首を縦に振っている祖父の姿から「ありがとう」という言葉が聞こえてきた気がしたのです。私はその声にならない「ありがとう」の言葉が聞こえてきた時、思わず涙を流していました。

この印象的な光景から私は急速に介護福祉士の仕事にひかれていきました。「ありがとう」の言葉に満たされた介護の仕事こそが、将来の目標にふさわしい仕事として明確に意識するようになったのです。

その後、自分なりに介護という仕事について調べてみましたが、介護の実情を知れば知るほど、その仕事が楽しく充実した仕事ばかりではないことも分かってきました。知人のヘルパーからも、とても割に合わない仕事だということも聞かされました。まとまった休みがとれない、不規則な労働時間、汚物の処理や精神的な苦痛など過酷な側面もあり、身が削られていくような感覚に陥っていくのだそうです。

確かに、祖父の過ごしたホスピスでも汚物の処理や入れ歯の洗浄などをしている姿を何度も見かけましたし、その仕事は傍目から見ても過酷に見えるものでした。しかし、ヘルパーの方はそんな過酷な仕事を的確にこなしながらも、「痛いですか」、「すぐに終わりますからね」などと笑顔を絶やさずやさしく声をかけていました。

その相手の気持ちを最大限に思いやる姿からは、その仕事が身が削られるほどの過酷な労働であるとは、感じることはできませんでした。さらに言うならば、今になって思い出してみても、ヘルパーの仕事ぶりには過酷な労働以上の充足感があるはずだと確信せざるを得ないのです。

そんな介護の仕事への夢を抱くようになった今年の夏に、私の在籍する学校でホームヘルパー２級のセミナーが開かれると聞き、私は迷わず申し込みました。このセミナーを通じ、介護の仕事を実体験し、身を削られるほどの過酷さとそれを超える充足感も感じてみたいと考えたからです。また、こうしたヘルパー講座が開かれるように、現代は少子高齢化社会であり、介護職の需要は急速に増しているに違いありません。

そのため、一時的には介護職の質よりも量が求められる可能性も否定できません。だからこそ、セミナーなどの研修を通じて自己を研鑽し、常に質の高い介護の実践を希求していく習慣をこの夏から意識して身につけていこうと考えています。

介護の根源にあるのは、「ありがとう」の言葉を介した人と人とのつながりであり、他者の尊厳に満ちた人生に寄り添う身を削るような過酷さを、そのかけがえのない言葉で乗り越える充足感だと思います。

祖父の部屋を出る時に、いつも「おじいちゃん、ありがとう」と声をかけるヘルパーの姿に、それを感じ、私も「ありがとう」の言葉に充ち満ちた介護の仕事を、自分のライフワークとして追求していきたいと考えています。

全国高等専修学校協会会長賞

# 「私の理想とする職業人」

武蔵野東技能高等専修学校３年　井上　信吾

職業と簡単に言っても、当時の私には将来の夢や理想の職業などは明確にありませんでした。私は一体これから何を目指すべきなのか？そのような難しいことを考えるたび、今の私は他の人に比べて遅れているのではないか？という不安感に襲われ、自分と向き合うのにためらいを覚え、夢などからは逃げていました。

そんな中で迎えた高校入学。私は、友達をたくさん作り新たに私自身の夢と向き合っていこうと決意しました。しかし、現実は思ったとおりにいかず、私は同級生を中心にいじめをうけるようになり、それは日々エスカレートしていきました。高校へ行ったら私の夢を見つけられるのではないかと思っていましたが、日々ひどくなるいじめに耐え切れず、私は学校へ行かなくなりました。

「学校へ行って思い切り勉強したい！友達を作ってお互いに将来の夢をつかめるように支え合っていきたい！」。

しかし、重くのしかかる現実。私は、家へ引きこもるようになっていました。夢や希望など持たずに、ただ毎日のように窓から外の景色ばかり眺めていました。「人のことは信じたくない。将来の夢や希望を持つなんて無理に決まっている」と自分自身のことをずっと否定しがちでした。

そんな私をいつも支えてくれたのは、両親でした。私は学校に行けない、ということに対してコンプレックスを抱き、負け犬と思い自分自身を責めてばかりいました。そんな私に母はいつも「今が勝負じゃない時だってあるのよ、最後に勝てばいいの。今苦しんだ分だけ絶対に幸せになれるんだから！」と、毎日のように私の味方になってくれました。また父は私のためにと、新たに学校を探し始めてくれました。

専門学校新聞

7.11

「私のしごと」作文コンクール

入賞者の努力たたえ盛大に表彰式

式の様子伝える臨増11月に発行も

そしてそんな中、ある学校への編入が決まりました。武蔵野東技能高等専修学校。今、私が在学している学校です。いじめや不登校で苦しむ人達や自閉症などの障害のある人達が共に学び、助け合い、お互いを尊重し合う混合教育を実践している学校です。初めて、私は父にその話を聞かされたとき、内心行きたくありませんでした。以前のようなつらい出来事は二度と味わいたくはない！そんな感情のなか、母に背中を押されながらその新たな学校へ足を運びました。

教室へ入ると、ある自閉症の生徒に「おはよう！」と大きな声であいさつをされ、それに続くように色々な生徒があいさつしてくれました。

「あいさつなんて久しぶりにされた。当たり前のことだけど嬉しい」。しかし、私は恥ずかしさからか、あまりあいさつなどせずにここまで来ました。私にも出来るだろうか？

自閉症の友達の澄みきった目、嘘、偽りのない笑顔や、私と同じような体験をしてきた人の話を聞くたびにあれほど嫌いだった学校が楽しく感じられ、私のなかで忘れたいという過去が浄化されていくようでした。１人なんかじゃない！

それから私は、自分を変えたい、強くなりたいという一心で、積極的にボランティアに参加しました。しかし、前へ前へと前進していく分、つまずく時もしょっちゅうでした。そんな時に、両親の他に相談に乗ってくれる人がいました。それは、私の担任の先生です。間違った方向へ行きそうになったら、正しい方向へ導いてくれたり、時には「自分の力で試してみなさい」とあえて口出しをせずに、見守ってくれたりしました。

私は今まで、これほどしてくれる教師に出会った事がありませんでした。そんな時にふと思いました。「教師になりたい。今、いじめで苦しんでいる人達に私の体験を聞かせて、少しでも支えになってあげたい！」。

夢や希望の無かった私に、夢ができました。ずっと暗やみだった私の心に、光が見えたような気がしました。私の好きな言葉に、このような言葉があります。

「永遠に続く冬などないように苦しみもいつか希望へ変わり、春がやってくる。私も私自身の夢を見つけることができた」。

教師…私がこの夢を見つけられたのは、両親、先生、友人…みんなのおかげだと思っています。不登校だった私の一番の味方をしてくれた両親がいなければ、今の私はないと思います。そして、私はつまずいて困っている時に、先生から支えてもらわなければ挫折していたかもしれません。また、共に笑い合える友人、自閉症の友達のいつも純真な眼差しが私を変えてくれました。

みんなの存在が私をここまで成長させてくれました。みんなが私に教えてくれた事を成し得る教師になるのが私の目標です。

教師。それは私が今、とても理想としている職業です。

東京都知事賞 「こえのない会話」

武蔵野東高等専修学校３年　朝比奈　更紗

昨年の「私のしごと」作文コンクールの表彰式の時、隣の席の女子生徒に私の目は釘付けになりました。

周りの人よりも少し遅めに席に着いたその女子生徒は、来てすぐ主催者と手話通訳の３人で話を始めたのです。話と言っても主催者以外の声は聞くことが出来ませんでした。

私は手話のこと自体は知っていましたし、小学生の時の道徳の授業で自分の名前を表現する仕方などは習ったことがありました。ですが目の前で手話の会話を見るのはこれが初めてでした。声のない会話。彼女はじっと通訳の方の手を見て何度も頷き常に笑っていました。彼女が席に着く前に文部科学大臣賞、job 大賞の受賞生徒とそれぞれ自己紹介をしたり、自分の作文のことを話したりしていました。彼女にも声をかけたい、仲良くなりたいと思いましたが、３人とも手話はできません。どうしたらいいのか分からず、行動に移せないでいるうちに表彰式が始まってしまいました。表彰式の間も、演台の横に通訳の方がいて彼女はじっとその手を見つめて、何度も何度も頷いていました。

そして私たち４人は作文の朗読があったのですが、ずっと私の中で、彼女はどうやって朗読をするのだろうと気になっていました。文部科学大臣賞の朗読、私の朗読、job 大賞の朗読も終わり、ついに彼女の番でした。彼女は笑顔のまま演台に立ち、そして、声がない表現を始めました。それに通訳の方が声をあてるというのが、彼女の朗読だったのです。彼女の作文には、声を使えない人の辛い経験等が入っていました。それにもかかわらず彼女はずっと笑顔で手を動かしていて、気づいた時に私の目から涙が流れ出ていました。

昨年の私の作文は、道を尋ねてきたイタリア人女性との出会いで、世界が広がり言語の壁について考えさせられたというものでした。だからこそ、私は恥ずかしくて仕方がありませんでした。私は作文で 2020 年の東京オリンピックに向けて多くの外国人が日本を訪れるだろうから、その時に英語以外の言語にも対応できるようにしたいと言いました。しかし、彼女の作文を聞いている間、言語とは言葉以外にもあるのではないかと言われているような気がしました。どうして気がつけなかったのだろうと、ずっと自分に問いかけていました。



表彰式も終わり、記念撮影が始まってから、私たちは彼女に声をかけてみることにしました。もちろん声をかけても彼女と仲良くなることはできないと分かっていたのですが、文部科学大臣賞、job 大賞の生徒も、そして私も手話はできません。でも、だからと言って声をかけずに終わるのは嫌だったので、考え抜いた結果、スマートフォンを使って会話をすることにしました。きっとその場面を見ていた人からすれば、ニコニコ笑顔の彼女に伝えようと必死になる３人という姿に、笑ってしまいそうになったでしょう。

昨年のイタリア人女性との出会いが言語の壁について考え直すきっかけとなり、進路も外国語を学ぶことのできる大学も見てみようと世界が広がりました。そして、彼女との出会いで、外国語だけではいつになっても彼女とコミュニケーションをとることができないと強く感じ、外国語と手話を学べる場所がないのかと考えるようになりました。昨年のこの２つの出来事は私にとってとても大きな分岐点となりました。

きっと４年後のオリンピックに向けて身につけておいて損をしないスキルはまだまだあると思います。そのスキルひとつひとつを見つけてクリアしていこうと思います。それは４年後だけにとどまらず、これから先の私の人生に確実にプラスになるでしょう。そして、彼女と声のない会話をできる日を目指して。

（3）　2012年（平成24年）10月15日　専門学校新聞

東北復興支援&若者応援メッセージ
「職業教育の日」制定記念／第8回全国高校生・高等専修学校生「私のしごと」作文コンクール

NPO法人職業教育支援協会理事長賞

「テーマ＝私の理想とする職業人」
武蔵野東技能高等専修学校3年　森数　矩生

仕事とハンディキャップ

専門学校新聞　（第3種郵

東北復興支援&若者応援メッセージ
「職業教育の日」制定記念　第8回全国高校生・高等専修学校生「私のしごと」作文コンクール

NPO法人職業教育支援協会理事長賞

「テーマ＝好きな仕事で、夢をかなえる！」
武蔵野東技能高等専修学校3年　松浦　貴志

仕事とやりがい

007年（平成19年）10月25日　専門学校新聞

「職業教育の日」制定記念　第3回全国高校生・高等専修学校生「私のしごと」作文

特定非営利活動法人NPO職業教育支援協会理事長賞

「テーマ＝「フリーター・ニート」「私はこう思う」」
武蔵野東技能高等専修学校2年　菅原　耀

「1人じゃいられない症候群」

専門学校新聞社賞

「テーマ＝私の理想とする職業人」
武蔵野東技能高等専修学校2年　渡部麻衣子

「母が教えてくれたこと」

受賞作品

※作文の題は生徒本人が付けたものです。

（9）　2009年（平成21年）10月20日　専門学校新聞

「職業教育の日」制定記念　第5回全国高校生・高等専修学校生「私のしごと」作文コンクール

7.11 職業教育の日

「職業教育の日」制定記念　第5回全国高校生・高等専修学校生

「私のしごと」作文コンクール

job大賞

「私のしごと」作文コンクール　表彰式

特定非営利活動法人日本職業教育協会賞

「テーマ＝私の理想とする職業人」
武蔵野東技能高等専修学校2年　竹内　夏菜

「笑顔」

専門学校新聞

●学校法人武蔵野東学園●
武蔵野東技能高等専修学校

「私のしごと」作文コンクール
応募校を訪ねて

混合教育で「友愛」の心はぐくむ
教育の成果　作文にも大きく反映

2014年（平成26年）10月15日　（2）　専門学校新聞

東北復興支援&若者応援メッセージ
「職業教育の日」制定記念　第10回全国高校生・高等専修学校生「私のしごと」作文コンクール

※作文の題は生徒本人が付けたものです。
※総選の発表は「高校」「大学」に分けるほか、11月下旬頃の予定の「私のしごと」作文コンクール専門学校の部とともに発表します。

文部科学大臣賞

「テーマ＝私の理想とする職業人」
武蔵野東技能高等専修学校3年　坂東　明樹

仕事

優秀団体賞

| | |
|---|---|
| 東京都 | 国際理容美容専門学校高等課程 |
| 〃 | 東京都立墨田川高等学校 |
| 〃 | 武蔵野東高等専修学校 |
| 富山県 | 富山県立上市高等学校 |
| 〃 | 富山県立高岡商業高等学校 |
| 愛知県 | 愛知県立岡崎商業高等学校 |
| 〃 | 安城生活福祉高等専修学校 |
| 〃 | 菊武ビジネス専門学校高等課程 |
| 滋賀県 | 滋賀県立草津高等学校 |
| 大阪府 | 藍野高等学校 |
| 和歌山県 | 和歌山県立部賀高等学校 |
| 島根県 | 島根県立松江商業高等学校 |
| 岡山県 | 山陽女子高等学校 |
| 愛媛県 | 済美高等学校 |
| 熊本県 | 熊本県立玉名高等学校 |

| 賞 | 氏名 | 学校名 | 学年 | テーマ |
|---|---|---|---|---|
| 文部科学大臣賞 | 辻井　優菜奈 | 富山県立富山中部高等学校 | 2年 | 私の理想とする職業人 |
| job大賞（NPO法人仕事への架け橋賞） | 竹之内　史哲 | 群馬県立利根実業高等学校 | 3年 | 好きな仕事で、夢をかなえる！ |
| 専門学校新聞社賞 | 上延　千咲 | 東京都立町田総合高等学校 | 3年 | 私の理想とする職業人 |
| 特定非営利活動法人日本語検定委員会賞 | 福渕　莉帆 | 近畿大学附属新宮高等学校 | 3年 | あれから3年、私は3・11を忘れない！ |
| 全国高等学校長協会会長賞 | 村上　馨帝 | 宮城県農業高等学校 | 2年 | あれから3年、私は3・11を忘れない！ |
| 全国高等学校進路指導協議会会長賞 | 山中　栞実 | 山梨県立上野原高等学校 | 3年 | 好きな仕事で、夢をかなえる！ |
| 全国高等専修学校協会会長賞 | 永吉　香純 | ヨコスカ調理師専門学校高等課程 | 2年 | 私の理想とする職業人 |
| NPO高等専修教育支援協会理事長賞 | 信久　白佳 | 横浜デザイン学院高等課程 | 3年 | 好きな仕事で、夢をかなえる！ |
| 全国専修学校各種学校総連合会会長賞 | 坂東　明樹 | 武蔵野東高等専修学校 | 3年 | 私の理想とする職業人 |
| 〃　優秀賞 | 藤宮　円 | 安城生活福祉高等専修学校 | 3年 | 好きな仕事で、夢をかなえる！ |
| 〃 | 木田　夕葉 | 鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校 | 3年 | 私の理想とする職業人 |
| 〃 | 手塚　千晴 | 栃木県立宇都宮白楊高等学校 | 2年 | 好きな仕事で、夢をかなえる！ |
| テーマ賞 | 牧山　知生 | 熊本県立玉名高等学校 | 1年 | 私の理想とする職業人 |
| 〃 | 濱口　絵梨奈 | 三重県立宇治山田高等学校 | | |
| 〃 | 佐藤　咲希 | 山形女子専門学校高等課程 | | |
| 入選 | 土方　友梨菜 | 国際理容美容専門学校高等 | | |
| 〃 | 井筒　志津久 | 国際パティシエ調理師専門学 | | |
| 〃 | 本橋　慎 | 横浜市立ろう特別支援学校 | | |
| 〃 | 我妻　沙耶奈 | 拓殖大学第一高等学校 | | |
| 〃 | 平良　匠 | 沖縄県立那覇国際高等学校 | | |

（2）　専門学校新聞　（第3種郵便物認可）　2015年（平成27年）12月5日　第440号

《東日本復興支援&若者応援メッセージ》
「職業教育の日」制定記念　第11回全国高校生・高等専修学校生

7.11 職業教育の日

「私のしごと」作文コンクール
臨時増刊号

job大賞

特定非営利活動法人仕事への架け橋

「職業教育の日」制定記念　第11回全国高校生・高等専修学校生

文科大臣賞、都知事賞、job大賞など入賞24人を表彰

東京都知事賞

「テーマ＝私の特技」
東京五輪ボランティア
武蔵野東技能高等専修学校2年　朝比奈　更紗

一度の出会いで知ったこと

受賞の喜び

東京都知事賞
武蔵野東技能高等専修学校2年
朝比奈　更紗さん

彰式で「都知事賞」の重みを実感

## 3. 公開授業

公開授業は、本校の教育内容や教員の資質向上を目的に平成７年から隔年で開催してきました。毎回、行政をはじめ、高等専修学校関係者や中学校関係者らが多数参加しています。平成 19 年の公開授業は、総合キャリア学科になる前の最後の公開授業でした。

また、平成 26 年に行われた第９回公開授業では、本学園創立 50 周年を機に、混合教育、生活療法の見直しを行い、教育のブラッシュアップを図っていこうという趣旨で行われました。そして、平成28 年に実施された第10 回公開授業は、本校創立 30 周年に行われたもので、来賓に本学園のアドバイザリーボードの大南英明先生にご講演をいただき、午後は 30 年のインクルーシブ教育の実践報告を行いました。

2007年（平成19年）8月15

専門学校新聞

「混合教育」の実際を披露

武蔵野東技能が公開授業

海苔の授業で日常使う器を作る生徒（上）と検定に向けて表計算を学ぶ情報処理の授業

2016年（平成28年）11月15日 （6）

専門学校新聞

武蔵野東高等専修学校／第10回公開授業

混合教育の実践を報告

卒業生のパネルディスカッションも

授業のテーマは「混合教育」の実践報告〜卒業生の目で見る学校〜。会場の教育関係者ら約200人が参加した。

パネルディスカッションでは、卒業生の目で見た学校の魅力や、教育の成果などについて、卒業生の生徒が発表した。

修学校が高等学校に先んじて、総合キャリア学科・被服・調理・情報・体育の6コースによる学期ごとの自由選択制カリキュラム（2年次後期から大学受験コースも）を導入する北。

## 4. 全国高等専修学校協会

本校の清水信一校長は、平成 24 年度から全国高等専修学校協会の会長を３期務めています。会長として常に「後期中等教育では、数の論理で圧倒的に高等学校が注目を浴びているが、これからも力強く高等専修学校をアピールしていくことにより、振興を図っていきたい」と力強く語っています。

専門学校新聞 （7） 2014年（平成26年）7月15日

広域圏版

全国高等専修学校協会／定例総会

清水信一会長を再選

〝高専〟の存在意義力強く

定期購読のお願い

## 3. その他 新聞・メディア等

### 1. 学校創立 30 周年記念行事　ギネスに挑戦 !!

平成 28 年 6 月 4 日(土) に行われたスポーツ大会において、本校創立 30 周年記念イベントとして「ギネス」に挑戦しました。これまで、創立 20 周年記念の際には、「巨大あみだくじ」にチャレンジし、長さ 43 メートル、626 名にも及ぶ関係の方々にご協力いただいて実施しましたが、残念ながら記録として樹立することはできませんでした。

今回は、平成 25 年 11月にオーストラリアのクイーンズランド州のコリンダ高校において 381 名で実施した折り紙教室が世界最大人数であるという情報を受けて、本校でも同じように「世界最大折り紙教室」を実施しました。最終的には、574 人という予想をはるかに上回る人数で実施することができました。認定については申請中です。

2016年(平成28年)6月4日(土曜日)　読売新聞

500人参加

武蔵野東高等専修学校

# 最大の折り紙教室へ

## きょうギネス挑戦

私立武蔵野東高等専修学校（武蔵野市西久保、清水会長）の生徒の保護者ら4日、武蔵野市内で、「世界一」参加者数を多い折り紙教室の開催に挑戦する。成功すればギネス記録として申請する予定で、生徒や教職員らは「学校が一つにまとまる、心に残るイベントとして成功させたい」と意気込んでいる。

同校によると、挑戦する記録は、大勢が一つの場所に集まり、最低30分の講義を受けながら折り紙で3作品を完成させるというもの。参加者全体の5%が途中退室したり、講師の話に聞く耳を持たなかったりすると無効になるという。

記録への挑戦は、武蔵野総合体育館で行われ、生徒や保護者、卒業生ら500人以上が参加し、「日本折紙協会」の講師から指導を受けながら、舟と鳥、熱行機の3作品を作る予定。現在はオーストラリアの高校が2013年11月に記録した381人が最多という。

同校は1988年に開校し、健常児と自閉症児が分け隔てなく学校生活を送る「混合教育」に力を入れている。都内で同様の試みを行っている学校は2006年、「世界一」参加者数が多いあみだくじに挑戦。ギネス記録として申請したが、世界的にあまりなじみの認知度が低く、認められなかった。今年は開校30年の節目になるため、再挑戦を決定。前回の反省を踏まえ、事前の記録の更新を目指すことにした。

生徒会長で3年生の朝比奈聖矢さんは、「ギネスに挑戦するという大きなイベントができることはうれしい。先生の先輩、保護者が一体になって作品を作りたい」としている。

前回は同校の1年生で、今回は教諭として準備を進めている杉林優子さん(25)は、「10年間はかなわなかった記録達成に向けて頑張りたい」と意気込んでいる。

ギネス記録の更新に向け、折り紙を練習する生徒ら（武蔵野東高等専修学校で）

## 2. ラグビー部

### ①テレビ放映

**平成 13 年**

・BS 日テレ　スーパースポーツマガジン＃20
「僕らの学校にラグビー部ができた①」

・NTV　ズームイン！ SUPER
「武蔵野東技能高等専修学校ラグビー部」熱血ラグビー部ひきこもりの子供たち
～汗と涙の 365 日～
本校ラグビー部の密着レポート

・BS 日テレ　スーパースポーツマガジン＃36
「僕らの学校にラグビー部ができた②」武蔵野東技能高等専修学校ラグビー部
「絆・トライへ」
本校ラグビー部の密着レポート

**平成 14 年**

・BS 日テレ　スーパースポーツマガジン＃60
「僕らの学校にラグビー部ができた③」
武蔵野東技能高等専修学校ラグビー部「勝利へのスクラム」
本校ラグビー部の密着レポート

・NTV　ズームイン！ SUPER
「武蔵野東技能高等専修学校ラグビー部」
熱血ラグビー部ひきこもりの子供たち
念願の初勝利に向かって　～涙と友情の物語～

・NTV　ニュースプラス 1
「武蔵野東技能高等専修学校ラグビー部」
「負けてたまるか！ 武蔵野東ラグビー部の挑戦」

**平成 15 年**

・三鷹・武蔵野ケーブル TV　Parkcity News
「やればできる！ラグビー熱血指導」

・BS 日テレ　スーパースポーツマガジン「LOOKBACK」SUPECIAL
アスリートのトーク番組に本校教員であり、ラグビー部顧問・監督の天宮が出演。

**平成 16 年**

・日野ケーブル TV　NEWS&INFORMATION「ウィークリー日野」<vol.408>
社会人、高校合わせて 17 チームでトーナメントを行い、本校ラグビー部が試合への意気込みを語りました。

**平成 17 年**

・三陸ブロードネット「第 19 回釜石よいさ」
ラグビー部が夏合宿中に岩手での釜石よいさ祭りに参加。
8 月 13 日中継で放送されました。

地方紙の新聞記事にもなりました。

**平成 21 年**

・三鷹武蔵野ケーブルテレビ
武蔵野東ラグビー部　ドキュメンタリー本出版
２月 11 日に行われた「一緒に見上げた空」出版記念パーティーの様子を放映

・BS 日テレ　アスリート Live TV「LOOKBACK」＃42
武蔵野東技能高等専修学校ラグビー部

・関西テレビ　スーパーニュースアンカー

・フジテレビ　スーパーニュース

**平成 22 年**

・フジテレビ　金曜プレステージ　熱血教師 SP 第一夜

「居場所をください～愛と涙の密着 1000 日～」本校ラグビー部が試合への意気込みを語りました。

**平成 28 年**

・テレビ東京　Crossroad

17泊18日のラグビー部の夏合宿に密着取材し、本校教員を務める天宮の熱血指導を通し、生徒が成長していく様子が、放映されました。

## ②新聞記事

平成 14 年 1 月 8 日　読売新聞

**「街の詩～逆風を越えて」**

「激しい肉弾戦からこぼれた楕円形のボールが、胸の中に飛び込んできた。砂混じりの寒風を背に受け、紺、黄、水色の真新しいジャージに身を包む堀勝伍君(17) が相手選手をなぎ倒し、20 メートル近くを独走。ついに敵陣のゴールラインを突破した…」
過去を振り切る初勝利…という見出しで、不登校などの過去を背負う生徒たちがつらい練習を乗り越え、念願の初勝利を手にするまでを取材した記事。

読売新聞

街の詩

過去を振り切る初勝利

不登校児ら ラグビーに挑戦

平成 14 年 10 月 7 日　月刊新聞 MORGEN

**「生きる素晴らしさ感じて！」**

毎年８月に行われていた長野県菅平でのラグビー部の合宿の取材。本校のバラエティに富んだ専門科目や混合教育について、次のように書かれています。
「技能や資格を取得するだけでは人間としては未完成。同校の最大の目標は、人間としての心の成長と社会人として自立できることにある。」
「自閉症児と健常児の枠をはずし、この共存から生まれる人間としてお互いを認め合い、思いやり、尊重し合うことこそが、教育の原点とも言われ、高い評価を得ている。」
また、本校の清水信一校長の著書である「ダメ人間はいない　学校で生徒はかわる」も同記事で紹介されています。



平成 14 年 11 月 5 日　東海新聞

**「大切なもの釜石から学んだ～東京の高校ラグビー部員らシーウェイブスに声援」**

合宿で初めて訪れたラグビーのまち釜石にて、地元で有名な釜石シーウェイブスの試合を観戦、声援を送った際の記事。
釜石南高や釜石工高との練習試合や、全国高校選手権の東京都大会への出場など細かいコメントも掲載されています。

大切なもの釜石から学んだ

東京の高校ラグビー部員らシーウェイブスに声援

釜石で合宿 ファンに

大漁旗 重かった

自閉症、不登校の克服へ

ラグビーに挑戦して2年目

平成 15 年 2 月 12 日　読売新聞

**「本で伝える熱い思い」**

本で伝える熱い思い

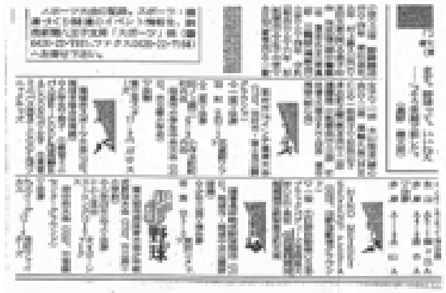
ラグビー部奮闘記を出版

楕円のボール、人生に例え

本校教員である天宮が、教師生活や顧問を務めるラグビー部の奮闘をつづった体験記。
『ラグビーボールを抱きしめて』を出版しました。本には教師になるまでの経過や、生徒に根気よく接する教師生活、ラグビー部創部のいきさつなどがつづられていて、記事ではその経験や挫折について触れています。

平成 15 年 6 月 23 日　読売新聞（多摩版）

## HINO MEISEISEVEN'S FESTAの出場校表



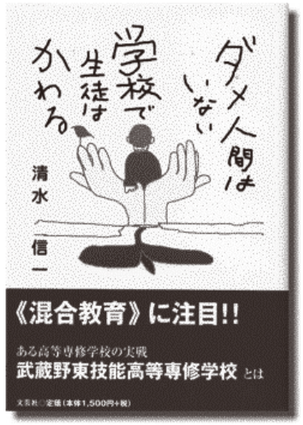
平成 17 年 6 月 2 日

## アサヒタウンズ

武蔵野市のラグビーの祭典「ラグビーフェスティバル in むさしのⅣ」（同市ラグビー協会など主催）が 5 月 22 日、武蔵野陸上競技場で開かれました。市内の 16 チームが、高校セブンス、チャレンジマッチ・セブンス（一般）、フレンドリーマッチ・セブンス（30 歳以上）の 3 部門に分かれて優勝を目指しました。試合の合間には、武蔵野ラグビースクールの小中学生が紅白戦やタグラグビーを体験。選手、観客合わせて 500 人が楽しみました。



# Ⅱ 発刊書籍




## 1.「ダメ人間はいない　学校で生徒はかわる」

平成 14 年 9 月 1 日　初版第 1 刷発行
著者　清水　信一（本校校長）
発行者　瓜谷　綱延
発行所　株式会社　文芸社
印刷所　図書印刷株式会社

「ナンバーワンよりオンリーワン」、この言葉はある中小企業の皆さんが集まっている協会のキャッチフレーズである。……（中略）……高等専修学校という知名度の少ない学種であること、小さな学校であること、15 歳で入学ができる後期中等教育機関ではあるが東京都内には都立・私立高校など約 900 校があること。このような状況の中で決して消極的な考え方ではなく、「ナンバーワン」を目指すことよりも、本校でしかできない教育を展開することで「オンリーワン」になることができると信じ日々頑張っている。
「ダメ人間はいない　学校で生徒はかわる」より一部抜粋

## 2.「ラグビーボールを抱きしめて」

平成 15 年 2 月 15 日　初版第 1 刷発行
著者　天宮　一大（本校教員）
発行者　瓜谷　綱延
発行所　株式会社　文芸社
印刷所　東洋経済印刷株式会社

このグラウンドには、自分たちを変えようと必死に自分と闘っている生徒がいるのだ。そして、障がいを持とうと、中学時代がどうであろうと、頑張れる権利を主張してラグビーで変わっている生徒がいるのだった。
秋の戦績はわからない。しかし、僕の中には確信があった。
そして、忘れてはいけない原点ができたのだ。
「頑張れる権利」
「人は、思い、行動すれば変われる」
これからも、生徒と私の戦いが続く。
今、キックオフの笛が鳴ったばかりなのだ。
「ラグビーボールを抱きしめて」より一部抜粋

## 3.「ぐるぐる回る短気な地球」

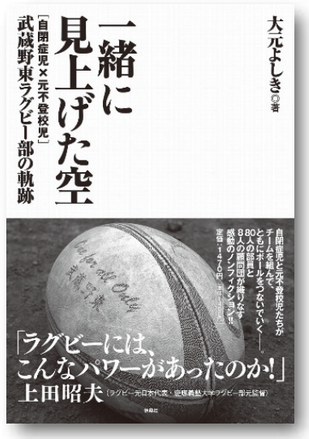
著　者　　入江　菜（本校 17 期生）
発行人　　松崎　義行
発行所　　新風舎
編　集　　川口恵子／三浦千裕
装　幀　　永田基子
装　画　　宮崎展実（本校 17 期生）

誤作動した地球　止まらず
ぐるぐる回る度に壊れてく
直しても　治しても
次の修理に間に合わない　追いつかない
「ぐるぐる回る短気な地球」より一部抜粋

## 4.「NHK スペシャル　こども・輝けいのち　こころの二人三脚〜自閉症児と級友たち〜」

平成 16 年 1 月 25 日　初版第 1 刷発行
編　者　　NHK「こども」プロジェクト
発行者　　松尾　武
発行所　　日本放送出版協会
印　刷　　三秀舎／大熊整美堂

「自閉症という障がいのある子と、中学時代に不登校だった子が、ともに学びながらお互いを成長させていく学校がある」そんな話を聞き、私が学校を訪れたのは、卒業式の 1 ヶ月前だった。。……（中略）。……どうして障害のある子とない子があれほど自然に接しているんだろう？なんでみんなが柔らかく、生き生きとした表情をしているんだろう？私は、出会ってすぐ、この場のとりこになってしまった。
「こころの二人三脚〜自閉症児と級友たち〜」より一部抜粋




## 5.「一緒に見上げた空」

平成 21 年 1 月 30 日　初版第 1 刷発行
著　者　　大元　よしき
発行者　　片桐松樹
発行所　　株式会社　扶桑社
印刷所　　共同印刷株式会社

本校の教師・天宮一大氏が、自身が社会からドロップアウトしそうになったところをラグビーによって救われた経験から、勤務先である同校にラグビー部を創設し、その指導が生徒の人間教育の効果をあげている姿を、スポーツライター大元よしき氏が克明に追うノンフィクション！

## 6.「命のバトン」

平成 23 年 2 月 28 日　初版第 1 刷発行
著　者　　大元　よしき
発行者　　布施知章
発行所　　ウェッジ
印刷所　　図書印刷株式会社

自閉症、不登校、引きこもり、非行…自閉症児と健常児の混合教育を実践する本学園で、生徒に「仲間と命の尊さ」を伝える、教師・ライフセーバー北矢宗志の奮戦記。

# 第７章　資料等

## Ⅰ　学事報告にみる 30 年の変遷

### 昭和 63 年度（第１回卒業式　平成元年３月 19 日）

本校は、多種多様な職業に対応できる社会人を育成するために、また、本学園の「生活療法」の最終教育現場として生徒たちが世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となるよう、創立者の理想をこめて、昭和 61 年に創立されました。

初年度は生徒数 67 名で出発し、２年目には 127 名、３年目の本年度は３学年の完成を見、現状 190 名にいたっております。

本日、第１回卒業生男子 48 名、女子９名、合計 57 名に卒業証書が授与されます。

第１期生の生徒たちは、この３年間本学園創立事業の一端を担い、日々努力する価値観を体得しながら社会人としての資質を養い、就職に、進学にと各自の方向を決定し、今日のよき日を迎えました。とくに、３年次には企業等の職場実習においてまじめにこつこつと実習を重ね、そうした仕事ぶりが評価されて就職へとつながりました。

北原キヨからとくに社会自立の夢をかけられた第１期生であるだけに、このように社会自立の目標が達成されたことは大変喜ばしい限りであります。

また、学校生活においては内部進学者と外部進学者との間にお互いの友情が深まり、先のグアム修学学習においても友愛精神が随所に見られ、ほほえましさと共に大変深い感動を覚えました。この友愛の心は卒業後においても必ずや役立ち、進学先、就職先での４月からの新たな生活に反映されることを教職員一同期待しております。

さて、昭和 63 年度は本学園にとってかつてない大きな試練の年度となりました。平成と改元されて１週間後の1月 14 日、偉大なる学園創立の母・北原キヨが急逝されました。私共教職員も生徒もご父兄の皆様も思いはみな同じで、かけがえのない先生を失った驚きと悲しみの深さは筆舌に尽くしがたいものがあります。しかしながら、私共教職員は生徒と共に悲しみをのりこえ、発表会を無事にこなして、今日に至りました。これも、ご父兄の皆様の温かい励ましと偉大なるご協力があったればこそであります。北原キヨの偉大さは年と共に広く日本の内外から高く評価されるに至り、昨年 10月にはエイボン女性大賞を受賞され、今年１月には天皇陛下より勲五等宝冠章を授与されました。これは、北原キヨ個人の名誉であるばかりでなく、本学園全体の名誉であり、誇りであります。私共教職員はこの名誉と誇りを傷つけることのないよう、先生の遺志を受け継いでひたすら教育に邁進していく覚悟であります。

卒業生においても、今後それぞれの職場や学校において努力し、活躍することが、先生への何よりのご恩返しになることを思い、頑張ってくれるよう期待しています。

### 平成元年度（第２回卒業式　平成２年３月 17 日）

平成元年４月、生徒数 230 名、教職員 26 名でスタートいたしました。本日は第２回卒業生の男子 42 名、女子 12 名、合計 54 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度は、本学園創立 25 周年に当たり、それを記念して学園歌を制定したり、また学校案内や学園案内、学園絵ハガキ等を発行したりしました。これはただ単に記念事業としてではなく、本学園の創立の精神が、故北原キヨの教育への願いが、すべての子どもたちに、また保護者や教職員に深く刻み込まれ、益々発展することを願ったものです。

この１年、私共教職員は、北原キヨの遺志を受け継ぎひたすら教育に邁進して参りました。生徒たち１人ひとりの懸命の努力により開校４年目にして、確かな校風ができ上がりつつあります。また、本校もいよいよ充実期にさしかかってきていることは喜ばしいことです。

本日卒業式を迎えた第２期生は、第１期生の築いた土台の上に、良きリーダーとして活躍し、確かな校風を作り出してくれました。そして、混合教育の中で、思いやりの心を身につけ、友愛の心を育んで人間的にも大きな成長をみせ、後輩に対し良き手本を示してくれました。この３年の間いくつもの壁にぶつかりつつ、色々と考え、悩み、そして努力することの大切さを体得しました。また、ペン字やワープロ・レタリング・英語と数々の検定資格を取得し自信を獲得しました。その実りとしての卒業後の進路は、各自が希望する会社へ、学校へと決定しています。これは生徒の努力だけでなく、生徒を取り巻く両親や、教職員の協力があったからです。これからの職場や学校で、いままで身につけた友愛の心や努力する価値観・自信などを発揮して大いに活躍することを期待しています。

## 平成２年度（第３回卒業式　平成３年３月17日）

平成２年４月、生徒数237名、教職員30名でスタートいたしました。本日は第３回卒業生の男子51名、女子20名、合計71名に対して卒業証書が授与されます。

本年度、本校においては、「意欲と積極性の強化」を重点に掲げ、日々の生活のあらゆる場面場面で指導し、友愛会活動・諸行事などの運営に関しては、生徒の自主運営による活動を促してきました。本日卒業する生徒たちは、実によく活動し、後輩をリードして自主活動の基盤を作り上げてくれました。

また、ボストン短期留学をカリキュラムの中に位置づけ、実践に移したのも本年度でした。本日の卒業生の中にも、６名の生徒がその短期留学に参加し、異文化の中に身を置き、英語に触れ、親元を離れて数々の経験をする等して、大きな成長を見せてくれました。

教科の面においては、本年度より全国経理学校協会の正会員となり、校内で受験可能な検定が10種類以上になりました。生徒は、自分の専門分野以外の検定にも積極的に挑戦し、合格証を勝ち取るなど、自分の将来像を描き、目標に向けて着実に努力を重ねました。

このように、開校５年目にして確かな校風ができ上がりました。そして、生徒たちは、人間として正直に生きることや、努力する価値観を学び取ってくれたものと確信しております。卒業後の就職先、進学先においても、本校で学んだ人間教育の成果を、大いに発揮してくれることと教職員一同期待しております。

さて、平成２年度、本学園において特記すべきことは、４月24日を学園創立の母である北原キヨの誕生祭として行事化されたことです。このことによって、先生の教育に対する考え方や、目指す生徒像を再認識し、前進への決意を新たにしました。また、11月10日の学園祭の式典でSI（SCHOOL・IDENTITY）を明確にするシンボルマークが公表されたことも特記すべきことです。これは内部的には、創立の理念・思想を明確化してその意識の高揚の徹底を図り、外部的には学園イメージの浸潤定着を目指したものでありました。誕生祭と共に、本学園発展のためには不可欠なものであって、生徒１人ひとりの心に深く刻み込まれました。

最後に、今年から、年２回卒業生の集いを開催することにしました。これは、混合教育の仕上げの３年間の中で十分に育った友愛の心を、卒業と共に終止符を打つのではなく、30歳、40歳、50歳……となっても育んでほしいとの願いから企画されたものです。本学園で共に過ごした友との交流の場として、卒業後も積極的に参加してほしいと願っています。



## 平成３年度（第４回卒業式　平成４年３月15日）

平成３年４月、生徒数236名、教職員30名でスタートいたしました。本日は第４回卒業生の男子50名、女子29名、合計79名に対して卒業証書が授与されます。

本年度は、国内外とも激動の年でした。湾岸戦争が起こり、全世界がその渦中に巻き込まれました。日本においては湾岸戦争を機に、国際協力についての議論がはじまったり、バブル経済の破たんなど、目まぐるしい動きがありました。そうした中で、本日卒業する生徒たちは、ハワイ学習の実施等に関して出発間際まで心配をしました。また、ソ連の政変・崩壊などもあり、世界情勢の大きな変化を身近に感じながら、教育に当たってきた１年間でした。

本校においては、「進路指導の充実」・「言語指導」（敬語指導）と「進路指導にかかわる問題」を重点に掲げ、進路の方向から逆算した指導を展開してきました。その結果や、生徒各自の努力により、全員が希望どおりに進路が確定し、進路指導も終了しました。

その指導の過程で行った大学・短大・専門学校への進学状況や就職状況の発表掲示は、下級生に対して、大きな希望を与えたと確信しています。

また、本日の卒業生で特記すべきことは、混合教育の３年間で育った友愛の心の大きさであります。ハワイ学習において、全員の生徒が兄弟のように交わり、家族のように行動して旅行を楽しんでいる姿には、学校長はじめ同行した教員総てが感動しました。大きく育った友愛の輪は、卒業後も互いに育み合い、更に大きく広がっていくことでしょう。昨年から実施している卒業生の集いにも積極的に参加して、友愛の情を一層深めることを願っています。

去る11月９日の学園祭記念式典において、学園創立者の北原勝平、北原キヨのブロンズ胸像が後援会の皆様より贈呈されましたが、この胸像のもとで学ぶ生徒たちは、胸像にこめられた願いや心を感じとり、校訓の「理　想」を目指して日々励んできました。その実りが本日の卒業生や今後の進路でありまして、学園に対する感謝は言い尽くせるものではありません。

## 平成４年度（第５回卒業式　平成５年３月 10 日）

平成４年４月、生徒数 216 名、教職員 32 名でスタートいたしました。本日は第５回卒業生の男子 44 名、女子 30 名、合計 74 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度は、一昨年のバブル経済崩壊による景気の後退が益々深まり、本校の進路指導もその影響を受けました。全体の求人数が減る中で、なかなか例年通りに進路指導が進まず、このような現状の中で悩んだ生徒も多かったのではないかと思います。そうした状況下で、上級校進学者も含め本日の卒業生 74 名の進路を決定できましたことは、昨年度以上に教職員一同安堵の気持ちでいっぱいです。この厳しい時代の中で、獲得した進路先での卒業生の新たな活躍を期待してやみません。

本年度はまた、学校五日制の問題やエイズ予防教育など、高等専修学校を取り巻く問題も提起されました。それらに対しては本校としての考えをまとめ、新年度からはカリキュラム化されることになっています。このように、社会情勢や教育の大きな変化に対応しながら、本校の教育の新たなる方向性を考え、模索した１年でありました。

それから、今年度のクラブ活動では、女子バレー部・男子駅伝部が高等専修学校協会の全国大会に出場ということがありました。なかでも駅伝では、健常児４名と自閉症児３名の７名で 42.195 ㎞を襷リレーし、第７位で完走できたことは特記すべきことでした。本校でしかできない、混合教育の大きな成果ではなかったかと思います。学校内で育まれた友愛の心が、対外的な大会で花を咲かせたことは、本学園にとっても大きな収穫でありました。

学園的な出来事として、11月 21日のゆうあいピックに小・中・高の児童、生徒 1,100 人のマスゲームを東京都から依頼されたことが挙げられます。しかし、前日からの悪天候が当日の朝も回復せず、残念ながら中止となってしまいました。本学園としても、混合教育、集団教育の成果を披露するよい機会であっただけに無念の思いでいっぱいでした。しかし、生徒たちは、練習過程で数多くの事を学ぶことができたと確信しています。これらの経験は、これからの新しい生活の中で、生かされることと思っています。

## 平成５年度（第６回卒業式　平成６年３月 10 日）

平成５年度は、生徒数 209 名、教職員 31 名でスタートいたしました。本日は第６回卒業式を迎え、男子 38 名、女子 28 名、合計 66 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度の大きなことのひとつとして、本学園全体の週休制の実施が挙げられます。この制度は、各園校とそれぞれの事情に応じると共に、本学園内の調和を考慮して定められました。本校においては、毎週土曜日を原則として休校とし、オープンスクールとして各種の講座を開講しました。今年度は年間 28 回のオープンスクールを実施し、述べ 132 の講座を開講しました。その年間の平均出席率は約 60％近くに達し、導入初年度としての成果がこの数字にも表れていると思います。また、各講座への積極的な参加は、生徒１人ひとりに自主性が芽生え始めた証でもあると思います。導入初年度の反省を生かし、次年度には新たな工夫を加え実施したいと考えています。

本年度はまた、エイズ教育を含んだ性教育への取り組みを始めた年でもあります。「自分を大切にし、他を思いやる心」を第一に考えた性教育も、必ずや生徒１人ひとりの心に根づいていると確信しています。

本年度、なによりも喜ばしい出来事は、平成６年度より、高校総体の地域予選に高等専修学校が参加できるようになったことです。３年前から全国高等専修学校協会主催の高等専修学校のみの全国大会が実施されるようになり、本校からは、野球、駅伝、バレーボールに参加していましたが、６年度からは待望の高校総体の地域予選に参加し、体育的な交流ができるようになりました。同年齢の高校生との格差があった部分が修正されましたので、高等専修学校に入学する時に生徒が抱いていた「高校ではないのでは？」という気持ちも、このことで取り除かれた訳で、卒業生にとってはやっと間に合った朗報として受け止めてくれたと思います。

卒業生は、４月からの新しい生活が始まりますが、高校卒としてのプライドを持ち、胸を張り、努力することを忘れずに精進に精進を重ねてほしいと、教職員一同願っております。

## 平６年度（第７回卒業式　平成７年３月 10 日）

平成６年度は、生徒数 216 名、教職員 33 名でスタートいたしました。本日は第７回卒業式を迎え、男子 49 名、女子 15 名、合計 64 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度は本学園創立 30 周年という記念すべき年でありました。11 月 11 日の創立記念日には、学校関係者や後援会の皆さんにご臨席いただき、記念式典や祝賀会が盛大に挙行され、学園内外に本学園の教育実績と 30 年の歩みを理解していただくことができました。また、後援会の皆さまには 30 周年の記念事業として、同窓会名簿作成に関する膨大かつ困難な仕事に取り組んでいただきました。この事業は、50 年、100 年先の本学園の発展をバックアップする卒業生の力を組織するものとして、また、学校や友だちの相互のつながりを求めている卒業生の気持ちを満たすものとして、その意義はまことに大きく、高等専修学校の将来につきましてもその展望が益々明るくなりました。高等専修学校としましては、この後援会の皆さまのお気持ちを大切にし、早速この４月に同窓会を設立いたします。そして、卒業生との接点をいついつまでも、もち続けていきたいと思っております。本日、新しく卒業生の仲間に入る 64 人の生徒たちも、同窓会の会員として、友だちや学校とのつながりが続くことを期待しているのではないかと思います。

景気の低迷が続いている本年度は、本校にとっても、進路指導の困難さを痛感した年でありました。特に、就職に関しては、経済状況悪化のあおりで求人数も少なく、業種も限られていて、なかなか第１希望の会社から内定をもらえず、悩む生徒も数多くいました。幸いこのような状況下であったにも拘わらず、進学者を含め全員が進路を決定することができ安堵の気持ちでいっぱいです。



## 平成７年度（第８回卒業式　平成８年３月 10 日）

平成７年度は、生徒数 209 名、教職員 33 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 45 名、女子 22 名、合計 67名に対して卒業証書が授与されます。

本年度４月、学園創立の父である理事長・学園長北原勝平が逝去され、本学園全体が深い悲しみに包まれましたが、この悲しみを生徒・教職員共に乗り越え、本日、ここに卒業式を迎えることができました。そしてまた、創立者の願っていた本校 10 年目を充実した年度とすることができました。中でも４月に発足した同窓会は、北原キヨの長年の願いであり、本校のこれからの発展に欠かせないものであります。また、公開授業をはじめ記念行事すべてを成功裡に終えることができたことを、この場をお借りして北原勝平にご報告申したいと思います。これからも創立者の願っていた教育を守り、本学園の発展のために、教職員一同全力を注いで参ります。また、卒業生も明日から同窓会の会員として、本校のこれからの発展を応援していただきたいと思っています。

本日ここに、卒業証書を授与される 67 名は、この３年間に校風の基礎を作り上げてくれました。即ち学校生活を積極的に楽しむという気風で、日々の生活や行事・校外学習などの多くの場面で、学校生活を積極的に楽しむ姿がよく見られました。今後、この姿勢に更に自主性が加わり、そして後輩に確実に受け継がれていくことによって、ひとつの校風ができ上がっていくものと期待しております。

## 平成８年度（第９回卒業式　平成９年３月 10 日）

平成８年度は、生徒数 207 名、教職員 33 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 52 名、女子 19 名、合計 71 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度特記すべきことは、7月 29 日から３日間、江東区の夢の島で開催された第６回全国高等専修学校体育大会に参加したことだと思います。開会式において力強く選手宣誓を行った佐藤和敏君。大会シンボルマークの公募で見事グランプリに輝き、大会のシンボルマークの作者となった北村裕一郎君、同じく入賞した中川武君。野球、バスケットボール、卓球の各競技に参加した選手の生徒たち、そして、観客席から熱い声援を送った全校生徒もふくめて、この３日間は全国的な視野から学校を思い自分を見つめたことと思います。この大会の参加は、本校のように小規模で、なかなか他の学校と交流の機会が少ない高等専修学校にとっては、まことに良い機会となりました。生徒は、学校の中だけでは学ぶことのできない数多くのことを学ぶことができたと確信しています。競技の面では良い結果を残すことができませんでしたが、確実に、来年こそはと生徒の気持ちも盛り上がっています。緊張と感動が連続する実に実りの多い３日間でありました。

本校は今年度開校 10 周年を迎えました。それを記念して、この 10 年間の教育の記録を「理想のいしずえ」と題し、教師全員で１冊の本にまとめました。内容は、教育の理念・目標から、カリキュラム、指導の記録、年表などの資料という項目で整理されています。これで、昨年度の同窓会の設立、公開授業の開催、今年度の教育史の編纂と、学校側の記念事業をすべて終えることができました。また、後援会の方も、昨年 11 月２日に後援会設立 10 周年の記念事業を終えました。この節目の諸行事がこれからの学校発展につながることと信じております。



## 平成９年度（第 10 回卒業式　平成 10 年３月 10 日）

平成９年度は、生徒数 212 名、教職員 33 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 42 名、女子 18 名、合計 60 名に対して卒業証書が授与されます。

今年度、４月７日の入学式に 81 名の１年生を迎え、入学式直後の１年生研修では欠席者も無く全日程を終え順調な年度のスタートを切ることができました。その後の学校生活におきましても、行事と日々の授業の緩急の中で、常に各自が目標を定め学校生活を送るよう心がけ指導して参りました。特に、紫峰祭におきましての生徒の頑張りを見て、まさにひとつの校風が、でき上がったと確信いたしました。また、６月 27 日に開催した第２回公開授業においては、前回以上の多くの収穫を得ることができました。なかでも、来校された他校の先生方より、本校生徒の前向きな取り組みに対して、多くのお誉めの言葉をいただけたことは、生徒に取りましても、我々教師に取りましても、これからの生活に大きい励みになりました。

今年度の重点に関してですが、「進路指導の充実」として指導のポイントを就職後の離職問題に置き展開して参りました。やはり、このような経済状況下での進路決定には多くのハードルがあります。このハードルを越える為の参考にと導入した「レディネステスト」、「就職模擬試験」、「公開模擬面接試験」の実施は、生徒自身が自分の進路を考える上で非常に役立ったと確信しております。しかし、進路に関して、残念ながら自分自身の問題としてとらえることのできない生徒がまだいることも事実です。次年度は生徒１人ひとりの自己教育力強化を図っていく考えでおります。

また、「自己開示と表現力の強化」に関しましては、今年度は発表の機会を年間３回設定しましたので、人前で自分の意見を発表することに対する緊張感はいくらか薄らいだように思われます。更に、諸行事における司会やアナウンスだけでなく学校生活の中でも多くの生徒に機会を与えるよう心がけました。実は、全国高等専修学校協会の第８回体育大会を今年の７月 28 日より３日間、武蔵野市で開催することになっており、本校は当番校として大会運営に携わりますので、この開会式には本校生徒の司会とアナウンスで式を進行したいと考えております。ご期待いただきたいと思います。

## 平成 10 年度（第 11 回卒業式　平成 11 年３月 10 日）

平成 10 年度は、野田彰校長から清水信一校長へと代わり、４月８日の入学式には 69 名の１年生を迎え、生徒数 217 名、教職員 34 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 44 名、女子 25 名、合計 69 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度、特筆すべき点は、先ず、７月 28 日から３日間にわたり、地元、武蔵野の地で熱戦が繰り広げられた、「第８回全国高等専修学校体育大会」が挙げられます。本大会は、本校が当番校となり、事前の準備から当日の大会運営、そして後片付けに至るまでを全て行い、過去最高の出場校数を数えた盛大な全国大会となりました。入賞者に授与するメダルの製作は陶芸科の生徒が担当し、味わい深い陶製のメダルは好評を博し、朝日新聞に大きく取り上げられました。また、文部省や東京都からのご来賓、武蔵野市長、そして、IOC 会長、古橋広之進先生らそうそうたる方々にご列席いただいた開会式の総合司会を２年 A 組の新名君が行い、重責を果たしました。実際の試合では地元校ということもあり、急遽女子ソフトボール部を結成して出場。銅メダルを獲得しました。第１回目から全国大会に出場している軟式野球部は、強化練習のための合宿を行い、メンバーの気持ちをひとつにし、練習試合も数多く組んで大会に臨みました。そして、２年生中心の我がチームは、地元の意地を見せて初戦突破、優勝候補との評判の高かった学校をも破り、勢いに乗って、気がついてみると決勝戦に駒を進めていました。選手、監督、コーチ、そして、応援団が一丸となって戦い、優勢のうちに試合を進め、優勝の２文字を誰もが確信した最終回、まさかのサヨナラ負けとなってしまいました。選手の目からは、厳しい練習の成果を全て出しきって最後まで戦った感動の涙があふれていました。しかし、準優勝。主力選手が残る次年度はこの悔しさをバネに、逃げることなく、突き進んでくれると信じています。

本年度は「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。「進路指導の充実」につきましては、生徒の自己教育力の強化を具体的な目標として、生徒自身が進路の方向を定め、決断する力を自己の努力によってつけていくというものですが、これについては生徒の皆さんが自分自身で評価してみてください。「自己開示と表現力の強化」では、紫峰祭などの多くの行事や全ての学校生活の中で育まれ、１人ひとりが大きな成果を上げたと確信しております。スピーチコンテストでの舞台上の堂々たる態度は実に立派で今でも目に焼きついています。

念願のゆーあいセンター、ゆーあい第一作業所の開所や本校の同窓会に本校の卒業生が加わり、武蔵野東学園同窓会となって友愛の輪がまたひとつ大きくなったことも挙げられます。また、同窓会名簿も発刊されました。



## 平成 11 年度（第 12 回卒業式　平成 12 年３月 10 日）

平成 11 年度は、４月８日の入学式に 69 名の１年生を迎え、生徒数 211 名、教職員 31 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 53 名、女子 21 名、合計 74 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度、特筆すべき点は、１学期に行われた第３回公開授業が挙げられます。今回は「魅力ある学校づくり・授業づくり（教育の質の向上のために）」をテーマに全国の高等専修学校の先生方や都内の中学校の先生方合わせて 90 名という過去最高の参加者数となりました。このような公開授業を実施している高等専修学校は全国でも例はなく、今後の指導の参考にしようと、メモを片手に真剣に参観なさっていた先生方が数多くいらっしゃいました。本校生徒の気持ちいい明るい挨拶・授業に臨む態度・話を聞く姿勢・言葉遣い、そしてお客様に対する心配り等、多くの先生方からお褒めの言葉をいただき、あらためて本校生徒の素晴らしさを知ると同時に生徒１人ひとりの可能性を再確認することができました。

夏の全国高等専修学校体育大会では、昨年惜しくも涙を飲んだ軟式野球部が延長戦の末、6 対 0 の完封で悲願の優勝旗を手中に収めることができました。1 年前の今日、この学事報告の中で、逆転サヨナラ負けで準優勝となってしまった野球部員に対して「次年度は、この悔しさをバネに、逃げることなく、突き進んでくれると信じています。」と言った言葉にみごと応えてくれました。真夏の炎天下の中、卓球部も、女子ソフトボール部も、陸上部も、また開会式で演奏したウインドアンサンブルも、みんなが精一杯力を出し切った大会となりました。この経験と思い出は、青春の 1 ページに深く刻み込まれ、一生の宝物になることと思います。

さて、昨年度に引き続き、本年度も「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。「進路指導の充実」につきましては、生徒の自己教育力の強化を具体的な目標として、生徒自身が進路の方向を定め、決断する力を自己の努力によってつけていくというものですが、これについては生徒の皆さんが自分自身で評価してみてください。また、「自己開示と表現力の強化」では、紫峰祭やスピーチコンテストなど、大小様々な学校行事を通して、より多くの生徒にその機会を与え、昨年以上の成果があったと確信しております。また、平成 12 年度の友愛会会長、副会長、書記を全校生徒による選挙制に変えることができたのも継続して行った重点「自己開示」の結果です。選挙管理委員会を設け、選挙運動期間を定め、ポスターの掲示、立ち会い演説会も行い、授業参観の折に就任演説をしたとおり新３役がすでに決定しております。

本年度、悲しい出来事もありました。９月２日に起きた菅原勝太君の死亡事故です。前日の始業式の日には「卒業後は上の専門学校に行って、将来は情報処理の仕事がしたいんです。」と嬉しそうに担任に語った翌日のまさかの出来事でした。あまりにも

突然の痛ましい出来事でした。子どもに先立たれる親の悲しみ、命の尊さと大切さ。菅原君の死を無駄にすることなく、皆さん菅原君の分まで強く生きてください。

## 平成 12 年度（第 13 回卒業式　平成 13 年３月 10 日）

平成 12 年度は、４月８日の入学式に 82 名の1年生を迎え、生徒数 218 名、教職員 30 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 42 名、女子 28 名、合計 70 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度は、ミレニアムそして世紀末、20 世紀最後の年となり、そのことで世界中が大きくにぎわいました。本学園でも様々な出来事がありました。創立の母、北原キヨが自閉症児と健常児の教育に捧げた生涯を綴った「混合教育・生活療法への道」の出版、「中南米自閉症者のために・世界に広がる生活療法」と題して行われた世界規模のセミナー、そして自閉症児のための「AGE（アセスメント・ゴールズ アンド オブジェクティブス・エバリュエイション）システム」の実施等が挙げられます。

本校では心電図や２年生の上級学校訪問、合唱コンクールを三鷹市芸術文化センターで行うなど新たな試みがありました。聖心インターナショナルスクールとの国際美術交流や家政科の針供養を含めた大竹高等家政学校との交流も充実した中身の濃いものとなりました。また、卒業生がお世話になっている株式会社吉野家ディーアンドシーの労務担当の方が障がい者雇用の研修に来たことがきっかけとなり、社長の安部修仁氏が来校し、この講堂で全校生と教職員がそろっておみやげの牛丼をいただいたことも記憶に新しいところです。

本年度特筆すべきは、運動部の活躍です。神奈川県で行われた夏の全国高等専修学校体育大会では、男子軟式野球部と女子ソフトボール部がそろって準優勝、卓球部が男子個人で３位、そして、陸上部男子が、800m決勝で１位と３位、1,500m決勝１位、女子が、200m決勝１位と３位、400m決勝１位、3,000m決勝１位などと素晴らしい活躍で過去最高のメダル獲得数となりました。また、埼玉県の森林公園で行われた冬の全国高等専修学校駅伝競走大会では、男子が昨年の覇者、豊岡商業を抑えて見事念願の初優勝を飾り、優勝旗を手にすることができました。昨年の秋に発足したラグビー部には後援会もでき本格的に活動を開始し、ラグビー専門誌「ラグビーワールド」に特集で掲載されるなど注目を集めました。すでに高等学校春季大会への出場も決定し、今後の活躍が期待されています。

さて、昨年度に引き続き、本年度も「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。「進路指導の充実」につきましては、生徒の自己教育力の強化を具体的な目標として、生徒自身が進路の方向を定め、決断する力を自己の努力によってつけていくというものですが、これについては生徒の皆さんが自分自身で評価してみてください。また、「自己開示と表現力の強化」では、紫峰祭やスピーチコンテストなど、大小様々な学校行事を通して、より多くの生徒にその機会を与え、昨年以上の成果があったと確信しております。また、友愛会会長、副会長、書記の３役が柱となった役員会の活躍により「生徒の生徒による生徒のため」の友愛会に成長しました。生徒自身が筋道を立てて、きちんとしたルールを作り実現した携帯電話許可制もその証のひとつでした。

## 平成 13 年度（第 14 回卒業式　平成 14 年３月 10 日）

平成 13 年度は４月８日の入学式に 61 名の１年生を迎え、生徒数 205 名、教職員 30 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 43 名、女子 20 名、合計 63 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度は、21 世紀の始めの年であり、世界中の誰もが明るく輝かしい未来の訪れを期待しましたが、アメリカで起きた同時多発テロや国内での景気低迷、狂牛病等の事件により、期待はずれのスタートとなりました。本校でも、テロ事件によりボストン短期留学第３期が中止となり、それ以降は保留延期となる等の影響を受けてしまいました。そのような暗いニュースの中で愛子様のご誕生は国民に明るさを取り戻してくれました。

本学園では、武蔵野東学園同窓会が本小学校まで広がり、40 周年の年である 16 年度に本幼稚園が加わるのを待つばかりとなりました。その 40 周年記念事業のための募金活動により、既に園舎・校舎の修繕などを行い、園児・児童・生徒がより一層快適に学校生活が送れる環境となりました。また、アドバイザリーボードの創設や、首相官邸で開かれたウルグアイ大統領ご夫妻を歓迎する夕食会で本学園が詳しく紹介されたり、御所にも招かれて紀宮様に学園の説明をするなど本学園にとっては誠に充実した年度となりました。

本校において特筆すべきは、本校の教育がマスコミから大きく注目を集め、報道されたことが挙げられます。昨年の３月に放映された TBS の「ニュースの森」を皮切りに、８月には週刊誌「サンデー毎日」に不登校生に対する教育の取り組みが掲載されました。また、5 月と 10 月には BS 日テレ「スーパースポーツマガジン」でラグビー部の活躍が放映され、10 月４日には日本テレビの「ズームイン SUPER」で混合教育の環境の中でラグビーを通して中学校時代の不登校を克服した生徒の様子などが全国ネットで放映されました。また、本年１月８日には読売新聞にも大きく取り上げられ、先日行われた聖心インターナショナルスクールとの交流授業の様子がジャパンタイムスで紹介され

ました。このように本校の教育がマスコミから注目を集めているのは、本校の教育が、今、教育界で叫ばれている「個性を伸ばす教育」「心の教育」つまり今の時代に一番必要な「人間教育」が実践され、そして、その成果を十分に出している証だと確信しております。

今年度は、全国高等専修学校体育大会での各部の活躍。全国から大勢の先生方が来校した第４回公開授業。聖心インターナショナルスクール・大竹学園・そして新たに加わった神奈川総合高校との交流授業。液晶ディスプレイになった最新機器のコンピュータ。

そして、夏には、IT 講習会やホームヘルパー２級講座なども行われました。大阪の小学校で起きた痛ましい事件がきっかけとなった、生徒の安全管理の見直し等、数え上げたら切りがありません。

さて、昨年度に引き続き、本年度も「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ日々の学校生活を通して指導して参りました。特に「自己開示と表現力の強化」については、今後も強く意識して生活し、自己教育力の強化を目標としてください。



## 平成 14 年度（第 15 回卒業式　平成 15 年３月 10 日）

平成 14 年度は、４月８日の入学式に 89 名の１年生を迎え、生徒数 229 名、教職員 31 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 60 名、女子 19 名、合計 79 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度は、サッカーワールドカップ日韓共同開催。北朝鮮からの拉致被害者の帰国。

科学技術分野でノーベル賞のダブル受賞。松井秀喜選手の大リーグ入り等が大きなニュースとなりました。また、全国的にインフルエンザが猛威をふるい、本校でも４日間の学校閉鎖を余儀なくされました。

本学園では、創立 40 周年記念事業のひとつとして、校舎の再生拡充事業が行われておりますが、本校においては、講堂の補修工事、調理台の増設、シャワーコーナーの設置、職員室内の LAN 設置がすでに完了しております。

本校において特筆すべきは、昨年に引き続き本校の教育がマスコミから大きく注目を集め、報道されたことが挙げられます。４月 25 日には日本テレビの「ズームイン SUPER」でラグビー部が、花園常連校である名門四日市農芸高校に招かれて行われた合宿の様子や両校の友情、東京都高校総体春季大会での活躍、そして、本校の最大の特色である混合教育が全国ネットで放映されました。また、５月４日、BS 日テレ「スーパースポーツマガジン」で、念願の公式戦初勝利をあげるまでの様子等が紹介されました。また、昨年４月より取材を続けている NHK スペシャルは本年７月に放映される予定になっております。このように本校の教育がマスコミから注目を集めているのは、本校の教育が、今、教育界で叫ばれている「個性を伸ばす教育」「心の教育」つまり今の時代に一番必要な「人間教育」が実践され、その成果を十分に出している証だと確信しております。そして、その実践記録として９月に清水校長が「ダメ人間はいない学校で生徒はかわる」を、天宮一大１学年主任が今年２月に「ラグビーボールを抱きしめて」を文芸社から出版し、大きな反響を呼びました。

部活動では、ラグビー部同様、陸上部と卓球部が高体連の大会に出場し、試合経験を積むごとに実力をつけており、今後が楽しみです。特に、陸上部は、全国高等専修学校体育大会駅伝競走大会において男子が優勝、女子は準優勝という快挙を成し遂げました。

さて、昨年度に引き続き、本年度も「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ日々の学校生活を通して指導して参りました。特に「自己開示と表現力の強化」については、今後も強く意識して生活し、自己教育力の強化を図ってください。

## 平成 15 年度（第 16 回卒業式　平成 16 年3月 10 日）

平成 15 年度は、4 月 7 日の入学式に 78 名の 1 年生を迎え、生徒数 228 名、教職員 31 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 49 名、女子 12 名、合計 61 名に対して卒業証書が授与されます。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。北朝鮮との問題、狂牛病、イラク戦争と自衛隊の派遣、SARS、鯉ヘルペスや鳥インフルエンザ、松井秀喜選手の大リーグでの活躍、阪神タイガース18年ぶりのリーグ優勝等。数え上げたらきりがありません。本校でもイラク戦争や SARS の影響を受け、5 月に予定していたハワイ学習が延期となり、明後日の出発となりました。

本学園では、学園長制が廃止となり、6 月 1 日付で安部歳夫前理事長に代わり寺田欣司前監事が理事長に就任いたしました。また、昨年に引き続き、創立 40 周年記念事業のひとつとして、校舎の再生拡充事業が行われておりますが、本校においては、トレーニングルームの充実、映像放送設備設置、施設の補修工事等が行われました。

本校において特筆すべきは、まず２学期制の導入が挙げられます。２学期制に変更したことで学校行事の円滑な運営とさらなるゆとりの確保ができ、より充実した学校生活となりました。また、新たに体育科が設置されました。移行期間はありましたが、室内着のデザインをより機能的なものに変更したのも今年度です。昨年度猛威をふるったインフルエンザの予防接種も実施し、まん延に備えました。４科大会から一般常識対策試験へと名称を変更し、内容のより一層の充実を図りました。また、陶芸科の宿泊体験学習も行いました。

1 年余りにわたる取材でつくられた NHK スペシャルこども輝けいのち「こころの二人三脚〜自閉症児と級友たち〜」は 7 月 13 日に放送され、放送直後から大きな反響を呼び、是非実際の現場を見てみたいと教育関係者をはじめ多くの方々が来校されました。このように本校の教育が NHKのスペシャル番組に取り上げられたのは、本校の教育が、「個性を伸ばす教育」「心の教育」つまり今の時代に一番必要な「人間教育」が実践され、その成果を十分に出している証だと確信しております。

部活動においては、全国高等専修学校夏季体育大会でバドミントン部と卓球部が団体優勝、陸上部は過去最多のメダルを獲得しました。また、昨年暮れに行われた全国高等専修学校体育大会駅伝競走大会においては、昨年度の男子優勝に続き、女子が大会新記録で優勝するという快挙を成し遂げました。

さて、昨年度に引き続き、本年度も「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。特に「自己開示と表現力の強化」については、スピーチコンテストの予選会を２回から８回に増やす等しましたが、今後も実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図ってください。



## 平成 16 年度（第 17 回卒業式　平成 17 年 3 月 10 日）

平成 16 年度は、4 月 8 日の入学式に 79 名の 1 年生を迎え、生徒数 244 名、教職員 33 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 62 名、女子 23 名、合計 85 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,164 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。プロ野球の再編問題、2004 年の漢字「災」が強調するように大型台風の上陸、新潟中越地震、記録的な猛暑、幼児虐待やイラクでの残虐殺人、そして、スマトラ沖地震での大惨事。数え上げたらきりがありません。そんな中で、アテネオリンピックでの日本人選手の活躍や紀宮様のご婚約などの明るいニュースもあり、流行語大賞となった水泳・北島選手の「チョー気持ちいい」という言葉は記憶に新しいところです。

本学園では、創立 40 周年を迎え、記念 DVD が製作され、記念式典・祝賀会が盛大裡に行われました。また、新校舎・北原記念館の建設工事も始まりました。本校においては、校舎・外壁の化粧直しを行い、新築当時の綺麗な校舎がよみがえり、自転車ラック付きの駐輪場も新たに設置されました。また、園庭のクッションラバーの補修や 4 階陶芸室側の屋上に屋根を付けて雨天時の作業も可能となりました。さらに、ラグビー部の部室や部活の倉庫なども増築され、ますます、教育環境の充実が図られました。

本校において特筆すべきは、まず家政科(調理)の食物調理技術検定の実施が挙げられます。これは、財団法人全国高等学校家庭科教育振興会が主催して行われるもので調理師を目指す者にとって大きな目標となりました。これにより、本校で取得できる検定資格は 17 種類となりました。また、7 月に九段会館大ホールで行われた「職業教育の日」シンポジウムに本校友愛会会長の杉村海里さんが全国の高等専修学校の生徒代表として堂々と将来の夢について語りました。また、11月には発達障害者支援法に関わる教育現場視察とのことで浜四津敏子公明党党代表代行他計 6 名の国会議員の先生方が来校されました。

部活動においては、全国高等専修学校夏季体育大会で卓球部が団体優勝、陸上部は過去最多のメダルを獲得しました。また、昨年暮れに行われた全国高等専修学校体育大会駅伝競走大会においては、男子が準優勝、女子が昨年に続き２度目の優勝を果たしました。ラグビー部は花園予選で３回戦まで進出し、チャレンジマッチで勝利を収め東京都ベスト16 に、また、三鷹ラグビー選手権ジュニアの部では準優勝を果たしました。野球部は、全経関東大会で準優勝を収めるなど、各部とも躍進の年となりました。

さて、昨年度に引き続き、本年度も「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果として、3 年生全員が卒業後の進路を決定することができましたが、今後も実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図ってください。

## 平成 17 年度（第 18 回卒業式　平成 18 年３月 10 日）

平成 17 年度は、４月８日の入学式に 88 名の１年生を迎え、生徒数 239 名、職員 34 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 57 名、女子 15 名、合計 72 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,236 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。鉄道の脱線事故、マンション等の耐震強度偽装事件、パキスタンでの大地震やアメリカ南部のハリケーンによる被害、イタリア・トリノで行われた冬季オリンピックは記憶に新しいところです。

本学園では、北原記念館や北原記念体育館の建設が行われました。北原記念館には、念願の友愛寮、インターンシップにも活用できるチャレンジショップや工房なども造られました。本校においては、車椅子用スロープやトイレの設置、第２コンピュータ室の新設、２階に２教室増設、職員室や講堂の改修工事を行い、教育環境の充実が図られました。

本校において特筆すべきは、まず、校外学習の変更と見直しが挙げられます。「府中青年の家」閉鎖に伴い１年生研修を「高尾の森わくわくビレッジ」に変え、１月のスキー教室を奥日光湯元スキー場から長野県白樺湖リゾート池の平ホテルに移しました。７月には第６回目となる「公開授業」を開催しました。また、今年度は本校開校 20 年という節目の年にあたり、昨年に続き、文部科学省からの委託を受けて、教育重点支援プラン事業「武蔵野東技能高等専修学校の混合教育の普及」を行うべく「混合教育 20 年間の教育実践記録」の作成と教育内容を映像にまとめた DVD を製作し、日本全国の高等専修学校や教育機関に頒布しました。また、専修学校法制化 30 周年、「職業教育の日」制定記念『私のしごと』作文コンクールでは、全国 179 校、総数 3,007点の応募の中から、見事 job 大賞（最優秀賞）に２年宮本成敦君が、全国高等専修学校協会会長賞には３年井上信吾君が選ばれ、学校としても優秀団体賞を受賞しました。

部活動においては、全国高等専修学校夏季体育大会で新たに加わったスポーツ吹矢で団体優勝、陸上部は多くの種目で男女とも好成績を収め、昨年暮れに行われた全国高等専修学校体育大会駅伝競走大会においては、男子が優勝、女子が準優勝を果たしました。

さて、昨年度に引き続き、本年度も「進路指導の充実」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は３年生にも顕著に表れていますが、今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。



## 平成 18 年度（第 19 回卒業式　平成 19 年３月 10 日）

平成 18 年度は、４月８日の入学式に 77 名の１年生を迎え、生徒数 238 名、職員 39 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 56 名、女子 19 名、合計 75 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,311 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。安倍内閣の発足。秋篠宮妃紀子様の男子ご出産。日本ハムファイターズ 44 年ぶりの日本シリーズ優勝。フィギュアスケート浅田真央さんの活躍。また、殺人事件やいじめによる自殺等、痛ましい事件も記憶に新しいところです。

本学園では、常務理事の横山芳夫の逝去という悲しい出来事もありましたが、北原記念館、北原記念体育館が完成し、念願の友愛寮とチャレンジショップもこの１年で大きく、そして着実に歩みを進めることができました。

今年度は、リニューアルされた校舎で４月をスタートしましたが、本校において特筆すべきは、20 周年という節目の年にあたり、数多くの記念行事を開催したことが挙げられます。６月のスポーツ大会で行ったギネスに挑戦「600人のあみだくじ」、「障がいのある生徒の進路指導を考える」をテーマに７月に行った「公開セミナー」、本校を広く一般の方にも理解していただこうと 11 月に吉祥寺ロンロンで開催した「学校展」等。２つ目は教育の質の向上を目指して行った「部長制」の導入です。生徒指導の多様化に伴う対応の強化のために、また、本部機能移転による職員室の２分割化に伴っての、この新たな組織変更により、一層充実した学校運営が図られたと確信しております。

３つ目は卒業進級判定試験後のカリキュラムの改変です。進路指導の充実と職業観の育成を目的として選択制授業を導入しました。自己を見つめ直し、必要なスキルを身につけるために、自己を探求していく過程から自主性の強化を図りました。

また、委託事業として、東京しごと財団心身障害者職能開発センター障害者委託訓練「ITの基礎」と「専修学校と若者自立塾と公共職業安定所の連携によるニートに対する職業教育支援事業」、「義務教育までのスキルを活用した職業観育成カリキュラムの構築」も行いました。

部活動においては、全国高等専修学校夏季体育大会において駅伝競走で男子優勝女子準優勝、軟式野球優勝、卓球男子団体優勝他昨年同様の好成績を収めることができました。また、ラグビー部は多摩地域交流大会において中心となって大会の運営に携わりました。

昨年度に引き続き、本年度も「進路指導《職業観の育成》」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、慶應義塾等の大学や専門学校への合格、そして、就職率 100% というように、３年生にも顕著に表れていますが、今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

## 平成 19 年度（第 20 回卒業式　平成 20 年３月 10 日）

平成 19 年度は、４月８日の入学式に 73 名の１年生を迎え、生徒数 233 名、職員 39 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 62 名、女子 19 名、合計 81 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,392 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。安倍首相の突然の退陣。各地で食品偽装発覚。民営郵政スタート。松坂・岡島 R ソックス W シリーズ制覇に貢献。そして、はしかの大流行。また、相変わらずの殺人事件や自殺等、痛ましい事件も記憶に新しいところです。

本学園では、友愛寮が晴れて、本学園が直接運営するグループホーム・ケアホームとして４月よりスタートし、定員も 20 名に拡大され、共同生活援助・介護を順調に展開しております。

本校において特筆すべきは、７回目を迎えた公開授業の開催が挙げられます。「高等専修学校における職業観育成を考える（本校の新たな取り組み：チャレンジショップ）」を公開テーマに、全国から大勢の方をお招きし盛大裡に行われました。また、昨年度に引き続き、委託事業として、東京しごと財団心身障害者職能開発センター障害者委託訓練「IT の基礎」と「専修学校と若者自立塾と公共職業安定所の連携によるニートに対する職業教育支援事業」を行い、この取り組みを複数の会場で発表する機会を得ました。今後、フリーターやニートという言葉が本学園の子どもたちには縁のない言葉になるようこの事業の成果を本学園の子どもたちに還元していきたいと思っております。

「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと」作文コンクールでは、３年生渡部さんが「私の理想とする職業人」で専門学校新聞社賞を、２年生菅原君が「『フリーター・ニート』私はこう思う」で NPO 高等専修教育支援協会理事長賞を、そして、学校として３年連続で優秀団体賞をいただくことができました。

部活動においては、全国高等専修学校夏季体育大会において駅伝競走で男子優勝、軟式野球優勝、卓球男子団体優勝など昨年同様の好成績を収めることができました。また、スポーツ大会・臨海学習・紫峰祭・合唱コンクール・スキー教室、そして、３年生のハワイ学習など、学校行事に主体的に携わり、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も１人ひとりが大きく成長できたと確信しております。

昨年度に引き続き、本年度も「進路指導《職業観の育成》」と「自己開示と表現力の強化」を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学や専門学校への合格、そして、就職率 100% というように、３年生にも顕著に表れていますが、今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。



## 平成 20 年度（第 21 回卒業式　平成 21 年３月 10 日）

平成 20 年度は、４月８日の入学式に 77 名の１年生を迎え、生徒数 226 名、職員 40 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 59 名、女子 19 名、合計 78 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,470 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。麻生内閣の誕生。米国証券大手リーマンの経営破綻。中国四川大地震や北京五輪。秋葉原での通り魔事件。米国史上初の黒人大統領オバマ氏が就任。ノーベル賞に日本人が４名。ゴルフ石川遼の活躍等。

本学園では、多摩グリーン賞受賞、オリジナルエコバッグの製作。クールビズとウォームビズの推進。そして、ビルゲイツ氏から直筆のメッセージ入り写真が送られました。

本校において特筆すべきは、 総合キャリア学科の新設が挙げられます。生徒１人ひとりの個性と適性を尊重し、様々な分野を学びたいという生徒、ひとつの分野を専門的にきわめたいという生徒等、様々なニーズに対応した総合的なキャリア教育を目指します。次に、「第1回こころの作文コンクール」の開催が挙げられます。応募総数 496 編。都内や近県の中学校のみならず、遠くは秋田、和歌山県からも応募があり、中学生に障がいのある人のことを真剣に考えてもらう機会となりました。このコンクールを継続して行うことで広く特別支援教育のお役に立てればと思っております。また、「聞き取りコンテスト」を新たに加え、他者の話に耳を傾け、内容を正しく聞き取り理解する力を目指しました。昨年に引き続き、東京しごと財団心身障害者職能開発センター障害者委託訓練「IT の基礎」と「専修学校と NPO 団体と公共職業安定所の連携によるニートに対する職業教育支援事業」も行いました。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、初年度から４年連続で優秀団体賞をいただくことができました。施設関係では夏休みに、床の張り替え工事と内壁の塗り替え工事なども行い、校舎内が一段と明るくなりました。

部活動においては、ラグビー部が花園東京都予選で準々決勝進出。そして、スポーツライターの大元氏によって１冊の本「一緒に見上げた空」にまとめられました。全国高等専修学校夏季体育大会においては、駅伝競走で男子優勝、軟式野球優勝など昨年同様の好成績を収めることができました。また、スポーツ大会・臨海学習・紫峰祭・合唱コンクール・スキー教室、そして、３年生のハワイ学習など、学校行事に主体的に携わり、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も１人ひとりが大きく成長できたと確信しております。

本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』と『自己開示と表現力の強化』を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学や専門学校への合格、そして、就職内定というように、３年生にも顕著に表れていますが、今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

## 平成 21 年度（第 22 回卒業式　平成 22 年３月 10 日）

平成 21 年度は、４月８日の入学式に 75 名の１年生を迎え、生徒数 222 名、職員 40 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 53 名、女子 16 名、合計 69 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,539 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。政権交代鳩山内閣の誕生。新型インフルエンザの流行。マイケルジャクソンさんの突然の死去。裁判員制度のスタート。WBC 侍ジャパン連覇達成。そして、有名人の薬物事件の報道が茶の間をにぎわせました。また、石川遼君の活躍やバンクーバー冬季オリンピックも記憶に新しいところです。

本学園では、MOTTAINAI 運動の推進。暗号化ソフトの導入等 IT 化の推進。そして、本学園創立 50 周年に向けた記念事業の準備が始まり、キャッチフレーズも「半世紀　そして未来へ」に決定されました。

本校において特筆すべきは、緊急連絡用のメルポコ導入。職域を広げるための農業従事研修の実施。「職業教育と人間教育の実り―社会で羽ばたく卒業生たち―」をテーマに第８回目となる公開授業が行われました。また、「こころの作文コンクール」は２回目を数え、紫峰祭当日こちらの会場で表彰式が行われ、中学生に障がいのある人のことを真剣に考えてもらう機会となりました。このコンクールを継続して行うことで広く特別支援教育のお役に立てればと思っております。また、昨年に引き続き、東京しごと財団心身障害者職能開発センター障害者委託訓練「IT の基礎」と文部科学省委託事業「専修学校と NPO 団体と公共職業安定所の連携によるニートに対する職業教育支援事業」も行いました。しかしながら、文部科学省委託事業については事業仕分けにより次年度の中止が決定しております。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、３年竹内夏菜さんが日本語検定委員会賞をいただき、学校としては初年度から５年連続で優秀団体賞をいただくことができました。施設関係では、洗面所の蛇口の交換工事と、談話室や職員室等に薄型液晶テレビが設置されました。

部活動においては、全国高等専修学校夏季体育大会において、昨年同様、好成績を収めることができました。

また、学校行事では新型インフルエンザによりハワイ学習の延期とマラソン大会の中止を余儀なくされました。延期されたハワイ学習は、明後日より実施されますが、卒業生は存分に南国の海を満喫して、学園最後の、そして最高の思い出を作ってきて欲しいと思います。スポーツ大会・臨海学習・紫峰祭・合唱コンクール・スキー教室にも主体的に携わり、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も１人ひとりが大きく成長できたと確信しております。



本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』と『自己開示と表現力の強化』を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学や専門学校への合格、そして、厳しい経済状況の中ではありましたが、就職内定をいただくなど、３年生にも顕著に表れていますが、今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

## 平成 22 年度（第 23 回卒業式　平成 23 年３月 10 日）

平成 22 年度は、４月８日の入学式に 68 名の１年生を迎え、生徒数 215 名、職員 40 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 64 名、女子 10 名、合計 74 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,613 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。鳩山首相辞任菅内閣発足。尖閣諸島問題ビデオ流出。チリ落盤事故全員救出。小惑星探査機「はやぶさ」帰還。ノーベル化学賞日本人２人受賞。宮崎県で家畜の伝染病と新燃岳噴火。そして、朝青龍引退や角界の不祥事等茶の間をにぎわせました。

本学園では、MOTTAINAI 運動の推進２年目。IT 化の推進。そして、「半世紀　そして未来へ」を合い言葉に、本学園創立 50 周年に向けた記念事業の準備も本格的に始まりました。

本校において特筆すべきは、臨海学習を林間学習に変更したことが挙げられます。この林間学習では自然と共存することを学び、不便を経験することで日々の生活に感謝する心を育てることができました。また、新たに漢字コンテストと英単語コンテストも行いました。「こころの作文コンクール」は、３回目を数え、紫峰祭当日こちらの会場で表彰式が行われ、中学生に障がいのある人のことを真剣に考えてもらう機会となりました。このコンクールを継続して行うことで広く特別支援教育のお役に立てればと思っております。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、初年度から６年連続で優秀団体賞をいただくことができました。施設関係では、第１コンピュータ室のパソコンをハイスペックのものに入れ替え、各教室には地上デジタル放送対応 40 インチ薄型液晶テレビを設置。また、全ての和式トイレを洋式に変え、男子トイレに自動水洗センサーを取りつけました。

部活動においては、陸上部が高校駅伝東京都予選で 106 校中 27 位。ラグビー部は創部 10 年目を迎えオーストラリア遠征などの記念イベントを実施しました。また、全国高等専修学校体育大会において、各部とも昨年同様、好成績を収めることができました。

学校行事では、昨年インフルエンザで延期になったハワイ学習や中止になったマラソン

大会も予定通り実施することができ、スポーツ大会・林間学習・紫峰祭・合唱コンクール・スキー教室にも主体的に携わり、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も１人ひとりがまた大きく成長できたと確信しております。

本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』、『自己開示と表現力の強化』を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学や専門学校への合格、そして、厳しい経済状況の中ではありましたが、就職内定をいただく等、３年生にも顕著に表れていますが、今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

## 平成 23 年度（第 24 回卒業式　平成 24 年３月 10 日）

平成 23 年度は、４月８日の入学式に 63 名の１年生を迎え、生徒数 203 名、職員 41 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 65 名、女子６名、合計 71 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,684 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。忘れてはならない昨年３月 11日に起きた東日本大震災。多くの方々が命を落とされ、被災されました。また、福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染により、愛すべき故郷を後にしなければならないことにもなりました。このような出来事が起こった後、新年度を迎えたわけですが、私たちは命の尊さ、生きる力の重要性、助け合うこころ、そして当たり前の生活が幸せであることを認識し、節電対策や今できることを精一杯取り組んで参りました。また、台風、大雨、洪水、大雪による自然災害は国内外共に大きなニュースとなりました。その他には菅首相辞任野田内閣発足。橋本大阪市長当選で地方政治への注目度が高まりを見せています。更に何と言ってもサッカー女子「なでしこジャパン」ワールドカップ初優勝は、日本人を元気にさせてくれる源となりました。

本学園では、MOTTAINAI 運動の展開最終年度。IT 化の推進およびその定着。生活療法のブラッシュアップ。そして、「半世紀　そして未来へ」を合い言葉に、本学園創立 50 周年に向けた記念事業の準備を推進して参りました。

本校において特筆すべきは、本年度の１年生から制服をフルモデルチェンジしたことが挙げられます。生地はウォッシャブル素材で家庭でのクリーニングが可能、またワイシャツ・ブラウスの色の選択が可能となり、学内外問わず好評を得ています。４回目を迎えた「こころの作文コンクール」は、紫峰祭当日こちらの会場で表彰式が行われ、中学生に障がいのある人のことを真剣に考えてもらう機会となりました。特別支援教育の一助となるよう、来年度以降も継続して参ります。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、初年度から７年連続で優秀団体賞をいただくことができました。また、委託事業として東京しごと財団障害者委託訓練（知識・技能習得訓練コース）「ワード・エクセルの基礎」を実施しました。施設関係では、第二コンピュータ室のパソコンをハイスペックのものに入れ替えを行い、さらに防災対策として施設設備の点検、災害に備える物品等についても見直しを図りました。

部活動においては、陸上部が高校駅伝東京都予選で 107 校中 18 位。ラグビー部は夏合宿において有志を募っての釜石市におけるボランティア活動を展開しました。また、全国高等専修学校体育大会では、陸上部男子駅伝で２チームが出場し優勝・準優勝、卓球部女子団体で初優勝する等、好成績を収めることができました。

学校行事では、スポーツ大会が平成 25 年多摩国体開催に向けての改修工事の影響により、武蔵野総合体育館から本校に場所を移して行われました。雨の心配がありましたが、当日好天に恵まれ盛会に終えることができました。また、林間学習・紫峰祭・合唱コンクール・スキー教室にも主体的に携わり、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も１人ひとりがまた大きく成長できたと確信しております。

本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』、『自己開示と表現力の強化』を重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学や専門学校への合格、そして、厳しい経済状況に東日本大震災の影響を受けた中ではありましたが、就職内定をいただくなど、進路決定に顕著に表れています。今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

## 平成 24 年度（第 25 回卒業式　平成 25 年３月 10 日）

平成 24 年度は、４月８日の入学式に 73 名の１年生を迎え、生徒数 202 名、職員 41 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 55 名、女子 14 名、合計 69 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,753 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。東京スカイツリーの開業、夏のロンドンオリンピックでの日本人選手の活躍。代表選手からは、メダル獲得以上に人と人とのつながり、絆の大切さを伝えてくれたように思います。更に京都大学の山中伸弥教授が iPS 細胞を作り、ノーベル生理学・医学賞に輝きました。また、政治においても、アメリカではオバマ大統領再選、中国では習近平氏が国家主席に、韓国では朴槿恵氏が女性初の大統領になり、新たな変化が生まれています。また、日本においても 12 月に衆議院総選挙が行われ、自民党が大勝し、安部晋三内閣が日本経済再生を目指し「アベノミクス」をかかげて発足しました。

本学園では、「半世紀　そして未来へ」を合い言葉に、本学園創立 50 周年に向けた各種記念事業プランの具体化に向けて準備をして参りました。その一環として寺田欣司理事長執筆の「武蔵野東学園物語〜学園 50 年の軌跡〜」が、昨年 10 月 1 日出版されました。早速、本学園在園在校生のご家庭に配布をさせていただきました。また、生活療法のブラッシュアップを図るべく、年間を通して本学園教職員で研修を重ねて参りました。

本校において特筆すべきは、１年次のクラス編成を４クラス編成にしたことが挙げられます。生徒の個性の多様化に伴い、入学年度を更に少人数制のクラスにしたことにより、生徒１人ひとりを多角的に注視し、指導・援助することができました。その成果は、1 年生１人ひとりの現在の姿に表れているのではないかと思います。また、5 回目を迎えた「中学生こころの作文コンクール」は、597 編の過去最高の応募数を数え、これまで以上に中学生に障がいのある人のことを真剣に考えてもらう機会となりました。特別支援教育の理解推進の一助となるよう、更に応募者の拡大を図り、来年度以降も継続して参ります。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、応募総数 4,674 編の中から３年 A 組の森數矩生君が「NPO 高等専修教育支援協会理事長賞」に輝き、初年度から８年連続で優秀団体賞もいただくことができました。施設関係では、東日本大震災以降の防災対策として、全校生徒が３日間、帰宅できず、学校で寝泊まりしても大丈夫なように、新たに缶入りパンや保存水、クイックシュラフや簡易トイレを購入しました。その他にも発電機、投光器、手巻き式ランタン等の新たな備品もそろえました。また、生徒の安全を第一に考え、防災マニュアルの見直し等も行い、万一に備えています。

学校行事では、1、2 年生対象の林間学習を３泊４日に変更し、1 泊延泊することによって、様々な体験学習にゆとりが生まれ、更に自然と共存することを学び、不便を経験することで日々の生活に感謝する心、生きる力を育てる機会となりました。また、スポーツ大会・紫峰祭・合唱コンクール・スキー教室にも主体的に取り組み、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も１人ひとりがまた大きく成長できたと確信しております。

部活動においては、夏の全国高等専修学校体育大会において、陸上部男子駅伝優勝、卓球部団体男女アベック優勝、スポーツ吹き矢団体の部優勝、野球部準優勝など、過去最高の成績を収めることができました。また、ラグビー部、陸上部、卓球部は、高等学校体育連盟の大会に出場し、常に高みを目指して取り組んで参りました。

本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』、『自己開示と表現力の強化』を教育重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学への合格９名、専門学校等への合格 16 名、そして、厳しい経済状況に影響を受けながらも、就職内定を 44 名がいただき、3 年生 69 名全員が進路決定したところに顕著に表れています。今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。



## 平成 25 年度（第 26 回卒業式　平成 26 年 3 月 10 日）

平成 25 年度は、4 月 4 日の入学式に 70 名の 1 年生を迎え、生徒数 198 名、職員 41 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 46 名、女子 10 名、合計 56 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,809 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度も国内外において様々な出来事がありました。2020 年夏季オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定。富士山が世界文化遺産に登録。プロ野球では東北楽天イーグルスが初の日本一に。最近では、ソチ冬季オリンピックにおける日本人選手の活躍。特に 10 代の選手、41 歳の葛西選手の活躍は、私たちに勇気と感動を与えてくれました。また、豪雨、台風、竜巻、大雪による被害が多い 1 年でもありました。政治においては、7 月に参議院選挙が行われ、自民、公明が過半数を獲得し、ねじれ国会が解消。2 月には、舛添要一氏が新しい東京都知事となりました。また、中国や韓国との関係においては、今もなお難しい状況が続いています。

本学園では、「半世紀　そして未来へ」を合い言葉に、学園創立 50 周年に向けた各種記念事業プランの具体化に向けて準備をして参りました。特に本校としては、障がいある人とその家族のユートピアの実現に向けての第一歩として仮称武蔵野東チロル学園の設立に向けて山梨県、南アルプス市、地元 NPO 法人との交渉・連絡を重ねて参りました。更に、来年度 4 月より「武蔵野東高等専修学校」に校名を変更する諸準備も行って参りました。また、年間を通して生活療法のブラッシュアップを図るべく、学園教職員で研修を重ねて参りました。

本校においては、教育施設設備の充実を図るべく、夏に、調理室の改修工事と園庭の人工芝の張り替え工事を行いました。調理室は、調理台や食器棚をオールステンレスに、さらに各調理台にはフード式の換気扇を追加し、壁、天井や床も一新され、とても清潔感のあふれる雰囲気に生まれ変わりました。園庭の人工芝は、日々の学習活動や部活動によって消耗が激しかったのですが、7 年ぶりに一新。最新の技術を駆使し、耐久性がアップした人工芝になりました。様々な競技、トレーニングに取り組めるようにとラインも多くし、より充実した環境となりました。共に生徒にとって、学習活動や諸活動への意欲の向上につながっています。また、「ここコン」の愛称で知られる本校の「中学生こころの作文コンクール」も今年度で 6 回目となりました。過去最多となる 35 校の公私立中学校から、453 編のご応募をいただきました。特別支援教育の推進が叫ばれている現在にあって、本校が実践している混合教育、こころの教育をより多くの方に知っていただくこと、さらには障がいある方への理解、共生をも考えていただくことを目的にした作文コンクールも回を重ねるごとに定着してきているように思います。引き続き、特別支援教育の

理解推進の一助となるよう、更に応募者の拡大を図り、取り組んで参ります。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、応募総数 4,096 編の中から 3 年 A 組の松浦貴志君が「NPO 高等専修教育支援協会理事長賞」に輝きました。本校としては、初年度から 9 年連続で優秀団体賞もいただくことができました。

学校行事では、合唱コンクールが記念すべき 30 回を迎え、教職員から心ばかりのプレゼントを用意させていただき好評を得、さらに積み重ねの重要性を 3 年生が示してくれました。また、スポーツ大会・林間学習・紫峰祭・スキー教室においても主体的に取り組み、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も 1 人ひとりがまた大きく成長できたと確信しております。

部活動においては、夏の全国高等専修学校体育大会において、陸上部男子駅伝が 4 年連続優勝を収めました。ラグビー部は、54 年ぶりに開催されたスポーツ東京 2 －13 国民体育大会において、ラグビー競技の運営の手伝い要員としてサポートしました。また、ラグビー部、陸上部、卓球部は、高等学校体育連盟の大会に出場し、常に高みを目指して取り組んで参りました。

本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』、『自己開示と表現力の強化』を教育重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学・専門学校への合格 6 名、そして、厳しい経済状況に影響を受けながらも、就職内定を 50 名がいただき、卒業生 56 名全員が進路決定したところに顕著に表れています。今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

## 平成 26 年度（第 27 回卒業式　平成 27 年 3 月 10 日）

平成 26 年度は、4 月 8 日の入学式に 71 名の 1 年生を迎え、生徒数 210 名、職員 40 名でスタートいたしました。本日の卒業式では、男子 53 名、女子 16 名、合計 69 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,878 名の卒業生を送り出すことになります。

本年度は、学園として「半世紀　そして未来へ」を合い言葉に、本学園創立 50 周年を迎えた記念すべき年度でありました。昨年 11 月 8 日には、記念祝賀会が開催され、本学園にとって大恩人である元文部大臣の奥野誠亮先生から熱く心温まるメッセージをいただき、盛会裏に終えることができました。また、記念事業として、幼稚園の園庭改修工事、小、中学校の校舎、教室等の改修工事、本校においては、南アルプスチロル学園を拠点として、障がいある人とその家族のユートピアの実現に向けての第一歩を踏み出すことができました。その他に、各園校公開授業、保育の開催、本学園としての記念美術展が開催されました。更に連合後援会として、記念グッズの販売、記念誌の発行、記念講演会が開催されました。多くの皆様のご理解、ご支援をいただき、滞りなく記念事業を終えられましたことを、改めて感謝申し上げる次第です。また、年間を通して本学園の教育の柱でもある生活療法のブラッシュアップを図るべく、学園教職員で研修を重ねて参りました。

本校では、50 周年記念事業の一環として、4 月より「武蔵野東高等専修学校」と名称を改め、次の新たなステップへと歩み出しました。併せて総合キャリア学科専門 6 コースの内、「調理」を「調理・製菓」、「被服」を「ファッション」、「情報」を「情報ビジネス」と名称も改めました。この 1 年間で新たな名称がしっかり定着しました。また、5 年ぶりに開催した第 9 回公開授業では、「発達障害のある生徒への職業教育の実際―混合教育の成果―」をテーマに、北海道から沖縄まで総勢 140 名を超える参加者の方々に対して、本校で行っている教育や事例に関して情報発信をさせていただき、意見交換を行い、有意義なものとなりました。また、「自然に親しみながら規律正しい集団生活を送ると共に、農業従事体験を重ねることにより、本学園卒業生の農業分野での就労の可能性を追求する」ことを目的として実施している農業従事研修は、山梨県南アルプス市が所有していた南アルプスチロル学園を本学園として借用し、そこを拠点とした研修となりました。改修された施設を使用するにあたり、施設内及び周辺の清掃や備品の整理等もこの研修で行い、使い勝手の良い環境となり、以前にも増して充実した研修が行えるようになりました。来年度からは、本校の生徒だけではなく小学校児童、中学校生徒の研修施設として、更に部活動の合宿等でも活用していく予定です。「ここコン」の愛称で知られる本校の「中学生こころの作文コンクール」は、今年度で 7 回目となりました。過去最多となる 40 校の公私立中学校から、638 編のご応募をいただきました。特別支援教育の推進が叫ばれている現在にあって、本校が実践している混合教育、こころの教育をより多くの方に知っていただくこと、更には障がいのある方への理解、共生を考えていただくことを目的にした作文コンクールも回を重ねるごとに参加校、応募者数が増えてきています。引き続き、特別支援教育の理解推進の一助となるよう、更に応募者の拡大を図り、充実したものにしていけるよう取り組んで参ります。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、応募総数 4016 編の中から 3 年 A 組の坂東明樹くんが「全国専修学校各種学校総連合会会長賞」に輝きました。本校としては、初年度から 10 年連続で優秀団体賞を受賞し、第 10 回大会記念特別表彰としての「感謝状」も併せていただくことができました。

学校行事では、50 周年を記念した紫峰祭。前夜祭の一部としてタイムカプセルセレモニーを行い、10 年後の自分へのメッセージカードのほか、クラス全員で T シャツに書いた寄せ書きや、たくさんの思い出が詰まった記念写真などをカプセルに入れました。生徒 1 人ひとりにとって、忘れられない思い出になることでしょう。このカプセルを開ける日は、10 年後になります。また、紫峰祭当日のステージショーでは、初めての試みとして、体育コースとファッションコースがコラボレーションしたステージショーとなりました。集団行動あり、ダンスあり、ファッションショーありとひとつのステージの中に生徒たちによる様々なパフォーマンスが盛り込まれ、当日のお客様から大好評を得ました。

また、スポーツ大会・林間学習・紫峰祭・スキー教室においても生徒たちが主体的に取り組み、机上の学習では決して得ることのできない素晴らしい経験を積み重ね、今年度も１人ひとりがまた大きく成長できたと確信しております。

部活動においては、夏の全国高等専修学校体育大会において、卓球部男子団体で優勝、陸上部男子駅伝で準優勝を収めました。また、ラグビー部、陸上部、卓球部は、高等学校体育連盟の大会に参加し、常に高みを目指して取り組んで参りました。

本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』、『自己開示と表現力の強化』を教育重点に掲げ、日々の学校生活を通して指導して参りました。その結果は、大学・専門学校への合格、そして、就職内定をいただき、卒業生全員が進路を決定したところに顕著に表れています。今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

## 平成 27 年度（第 28 回卒業式　平成 28 年３月 10 日）

本日、本校第 28 回卒業式にあたり、学事の概要を報告いたします。

第 28 期生は、平成 25 年度の入学生で、本校の３年間の教育を立派に修めました。本日の卒業式では、男子 61 名、女子７名、合計 68 名に対して卒業証書が授与されます。これにより、本校では 1,946 名の卒業生を送り出すことになります。

第 28 期生が１年生であった平成 25 年度は、調理室のリニューアル、園庭の人工芝の張り替え工事が行われ、施設設備において充実した環境下で学ぶことができるようになりました。また、スポーツ大会、紫峰祭、合唱コンクールやスキー教室等を通して、上級生との力の差を知り、上級生に追いつき追い越したいという目標ができた１年間でした。２年生となった平成 26 年度は、本学園創立 50 周年にあたる記念すべき１年でした。４月に「武蔵野東高等専修学校」と校名を改め、７月には第９回公開授業を開催、11 月の紫峰祭では、前夜祭の一部としてタイムカプセルセレモニーを行い、10 年後の自分へのメッセージカードのほか、クラス全員でＴシャツに書いた寄せ書きや、たくさんの思い出が詰まった記念写真等をカプセルに入れました。また、ステージショーでは、初めての試みとして、体育コースとファッションコースがコラボレーションしたステージショーとなり、集団行動、ダンス、ファッションショーとひとつのステージの中に生徒たちによる様々なパフォーマンスが盛り込まれ、当日のお客様から大好評を得ました。

そして、３年生となった平成 27 年度は、本学園としての新たな歩みの初年度であり、本校としては開校 30 周年を翌年に控えての準備の年度でありました。仲間との想いを強くしたハワイ学習、スポーツ大会での悔しさ、チロル学園を拠点として取り組んだ農業従事研修、時間をかけて準備してきた紫峰祭での模擬店、最高学年として底力を見せつけた合唱コンクール等、積み重ねてきた経験が学ぶ力、働く力、生きる力となる素地として形成されました。



施設設備においては、トイレの改修工事を行い、清潔感のある環境となりました。また、６年ぶりに文部科学省から委託を受け「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業について、「発達障がいのある生徒等、特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラム等の開発～職業教育と混合教育（インクルーシブ教育）の成果～」と「発達障がいのある生徒等特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着・フォロー支援の確立」の２事業を推進してきました。「ここコン」の愛称で知られる本校の「中学生こころの作文コンクール」は、８回目を迎え、これまでの受賞作品集を作成しました。「職業教育の日」制定を記念する「私のしごと作文コンクール」では、応募総数 3,214 編の中から２年Ａ組の朝比奈更紗さんが「東京都知事賞」に輝き、本校としては、11 年連続で優秀団体賞を受賞しました。

部活動においては、夏の全国高等専修学校体育大会において、卓球部男子団体優勝、個人優勝、準優勝、スポーツ吹き矢団体優勝、個人優勝、準優勝を収めました。また、ラグビー部、陸上部、卓球部は、高等学校体育連盟の大会に参加し、常に高みを目指して取り組んできました。

本年度も『進路指導〈職業観の育成〉』、『自己開示と表現力の強化』を教育重点に掲げ、日々の学校生活を通して取り組んできました。その結果は、第 28 期生の進路活動の成果として、就職内定、大学・専門学校等合格と、全員が進路を決定したところに顕著に表れています。今後も引き続き実生活の中で強く意識して、自己教育力の強化を図っていって欲しいと願っています。

さて、本日卒業する第 28 期生は、いよいよ４月から新しい生活が始まります。本校の卒業生としてのプライドを持ち、胸を張り、努力することを忘れず、夢の実現を目指して精進を重ねることを教職員一同願っております。

最後に、保護者の皆様には、本校の教育に温かいご理解とご協力をいただき、また、本学園発展のために献身的な後援活動を賜りましたことを、衷心より感謝申し上げ、学事報告といたします。

## II 学校要覧（平成 28 年度）をもとに

### 1. 沿革

| | |
|---|---|
| 昭和 39. 11 | 学校法人武蔵野東幼稚園設立 |
| 昭和 40. 4 | 武蔵野東幼稚園開園 |
| 昭和 52. 4 | 武蔵野東小学校開校 |
| 昭和 58. 4 | 武蔵野東中学校開校 |
| 昭和 61. 5 | 武蔵野東技能高等専修学校開校 |
| 昭和 62. 9 | ボストン東スクール開校<br>同時に東スクールへの短期留学制度開始 |
| 10 | 日本商工会議所　検定試験会場認定 |
| 昭和 63. 4 | 日本硬筆書写技能検定協会　検定試験会場認定 |
| 12 | 第１回修学旅行グアム学習実施（次年度よりハワイ学習） |
| 平成 元. 1 | 北原キヨ校長逝去　第２代校長に野田彰就任 |
| 3 | 大学入学資格指定校認定 |
| 4 | 全国経理学校協会・全国商業高等学校協会・実務技能検定協会<br>検定試験会場認定 |
| 平成 2.11 | シンボルマーク制定 |
| 平成 4. 4 | 制服、通学鞄等改定<br>自閉症児のために就職指導部設立 |
| 5 | 全教室に冷暖房設備完備 |
| 平成 5. 4 | 学校５日制（オープンスクール）実施<br>タイプ室ワープロ専用機をコンピュータに交換 |
| 8 | 園庭のコート改装、工事施工 |
| 平成 6. 2 | 一太郎検定　検定試験会場認定 |
| 平成 7. 4 | 同窓会発足　北原勝平理事長逝去 |
| 7 | 第１回公開授業開催 |
| 11 | 野田彰学園長就任 |
| 平成 8. 4 | 技能高等課程「タイプ科」を「情報処理科」に変更 |
| 平成 9. 2 | 10 年の歩み「理想のいしずえ」発刊 |
| 6 | 第２回公開授業開催 |
| 平成 10. 4 | 第３代校長に清水信一就任 |
| 平成 11. 7 | 第３回公開授業開催 |
| 平成 11. 8 | 全国高等専修学校体育大会　軟式野球優勝 |
| 平成 12. 4 | 芸術科音楽コース募集停止 |
| 9 | ラグビー部創部 |
| 12 | 全国高等専修学校駅伝競走大会男子優勝 |
| 平成 13. 7 | 第４回公開授業開催 |
| 平成 14. 4 | トレーニングルーム新設　シャワーコーナー設置 |
| 12 | 全国高等専修学校駅伝競走大会男子優勝・女子準優勝 |
| 平成 15. 4 | 体育科新設（芸術高等課程を文化教養高等課程に変更）<br>３学期制から２学期制（前期・後期）に変更<br>校内着（ユニフォーム）を改定 |
| 7 | 第５回公開授業開催<br>NHK スペシャル「こども - 輝けいのち - 」<br>『こころの二人三脚　～自閉症児と級友たち～』放映<br>全国高等専修学校体育大会　卓球男子団体優勝<br>バドミントン男子団体優勝 |
| 平成 16. 3 | 地下ドライエリアに部室・倉庫設置　職員室増築 |
| 7 | 全国高等専修学校体育大会　卓球男子団体優勝 |
| 8 | 校舎改修工事　ラック付駐輪場設置 |
| 12 | 全国高等専修学校卓球選手権大会ジュニアシングルスの部<br>１～３位独占<br>全国高等専修学校駅伝競走大会女子優勝 |
| 平成 17. 3 | 文部科学省委託事業 専修学校先進的教育研究開発事業<br>「個性を活かし職業観育成を促す研究開発」報告会開催 |
| 4 | １年生研修の場所を「高尾の森わくわくビレッジ」に変更 |
| 7 | 第６回公開授業開催<br>全国高等専修学校体育大会　スポーツ吹矢団体優勝 |
| 9 | 「私のしごと」作文コンクール<br>job 大賞（最優秀賞）、全国高等専修学校協会会長賞受賞・優秀団体賞受賞 |
| 平成 18. 1 | コンピュータ室のコンピュータをノートパソコンに変更<br>スキー教室を栃木県奥日光湯元から長野県白樺湖に変更 |
| 2 | 北原記念館完成に伴い学園本部移転<br>文部科学省委託事業 教育重点支援プラン事業<br>「武蔵野東技能高等専修学校の混合教育の普及」報告会開催 |
| 3 | 学園本部移転による教室増設等の校舎改修工事完了 |

| | |
|---|---|
| 平成 18. 4 | 友愛寮・チャレンジショップ「ゆう＆あい」オープン |
| 5 | 園庭の人工芝工事完了 |
| 7 | 全国高等専修学校体育大会　駅伝男子優勝　軟式野球優勝 |
| | 卓球男子団体優勝 |
| 11 | 創立20周年を盛大に祝い、前後して記念行事を多数開催する |
| | （ギネスに挑戦・公開セミナー他） |
| 平成 19. 3 | 文部科学省委託事業 |
| | 教育重点プラン事業 |
| | 「義務教育までのスキルを活用した職業観育成カリキュラムの構築」 |
| | 専修学校における NPO 団体等と連携したニートに対する職業教育支援事業 |
| | 「専修学校と若者自立塾と公共職業安定所の連携によるニートに対する |
| | 職業教育支援事業」 合同事業報告会開催 |
| 7 | 第７回公開授業開催 |
| | 全国高等専修学校体育大会　駅伝男子優勝　軟式野球優勝 |
| | 卓球男子団体優勝 |
| 平成 20. 3 | 文部科学省委託事業　専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業 |
| | （NPO 団体等と連携したニートに対する自立支援プログラム） |
| | 「専修学校と若者自立塾と公共職業安定所の連携による |
| | ニートに対する職業教育支援事業」報告会開催 |
| 4 | 総合キャリア学科開設 |
| 7 | 全国高等専修学校体育大会　駅伝男子優勝　軟式野球優勝 |
| 9 | 第１回中学生こころの作文コンクール開催 |
| 平成 21. 3 | 文部科学省委託事業 専修学校を活用した就業能力向上支援事業 |
| | （若者対象コース）「キャリアコンソーシアムの展開 |
| | ～ニートに対する就労支援事業Ⅳ～」報告会開催 |
| 5 | 新型インフルエンザのためハワイ学習３月に延期 |
| 6 | Ｃ組を対象とした農業従事研修「おやてっと隊」山梨にて実施開始 |
| 7 | 第８回公開授業開催 |
| 平成 22. 3 | 延期されていたハワイ学習実施 |
| 4 | 高等学校等就学支援金制度開始 |
| 7 | 臨海学習を林間学習に変更 |

| | |
|---|---|
| 平成 22. 7 | 全国高等専修学校体育大会　駅伝男子優勝 |
| 平成 23. 4 | 制服の改定（新１年生より） |
| | １年生研修の場所を八王子「おおるりの家」に変更 |
| 7 | 全国高等専修学校体育大会　駅伝男子優勝　卓球女子団体優勝 |
| 平成 24. 4 | 自転車通勤・通学者に賠償保険加入を義務づける |
| 7 | 全国高等専修学校体育大会　駅伝男子優勝 |
| | 卓球男子団体優勝・女子団体優勝　スポーツ吹き矢団体優勝 |
| 10 | 寺田欣司理事長著「武蔵野東学園物語」発刊 |
| 11 | 「私のしごと」作文コンクール |
| | NPO 高等専修教育支援協会理事長賞受賞 |
| 平成 25. 7 | 全国高等専修学校体育大会　駅伝男子優勝 |
| | 園庭人工芝張り替え工事完了 |
| 8 | 調理室リニューアル工事完了 |
| 9 | 農業従事研修の宿泊先をチロル学園の施設に変更し、研修開始 |
| 11 | 「私のしごと」作文コンクール |
| | NPO 高等専修教育支援協会理事長賞受賞 |
| 平成 26. 1 | 校名変更に伴う正面玄関・昇降口・白看板の修繕工事完了 |
| 4 | 「武蔵野東高等専修学校」に校名変更 |
| | 「調理」は「調理・製菓」に、「被服」は「ファッション」に、 |
| | 「情報」は「情報ビジネス」にコース名を変更 |
| 7 | 第９回公開授業開催 |
| | 全国高等専修学校体育大会　卓球男子団体優勝 |
| 11 | 創立 50 周年記念祝賀会・記念式典 |
| | 「私のしごと」作文コンクール |
| | 全国専修学校各種学校総連合会会長受賞 |
| 平成 27. 4 | 南アルプスチロル学園が本格始動 |
| 7 | 全国高等専修学校体育大会　卓球男子団体優勝 |
| | スポーツ吹き矢団体優勝 |
| 8 | トイレリニューアル工事完了 |
| 10 | 清水信一校長が教育再生実行会議の有識者メンバーになる |
| 11 | 「私のしごと」作文コンクール　東京都知事賞受賞 |

| | |
|---|---|
| 平成 28. 2 | 文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」高専連携分野職域プロジェクト・発達障がい分野成果報告会において、『発達障害のある生徒等、特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラム等の開発～職業教育と混合教育（インクルーシブ教育）の成果～』『発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着・フォロー支援の確立』の２事業について成果報告 |
| 6 | 創立 30 周年を記念して、スポーツ大会において「ギネスに挑戦・世界最大の折り紙教室」を開催 |
| 7 | 全国高等専修学校体育大会　卓球男子団体準優勝<br>スポーツ吹き矢団体準優勝 |
| 9 | 第 10 回公開授業開催 |
| 11 | 「私のしごと」作文コンクール　東京都知事賞受賞 |

## 2. 学校の概要

所在地　東京都武蔵野市西久保３－25－3

課　程　全日制高等課程

| 課程名 | 学科名 | 修業年限 | 入学定員 | 総定員 |
|---|---|---|---|---|
| 文化教養課程 | 総合キャリア学科 | ３年 | 75名 | 225名 |

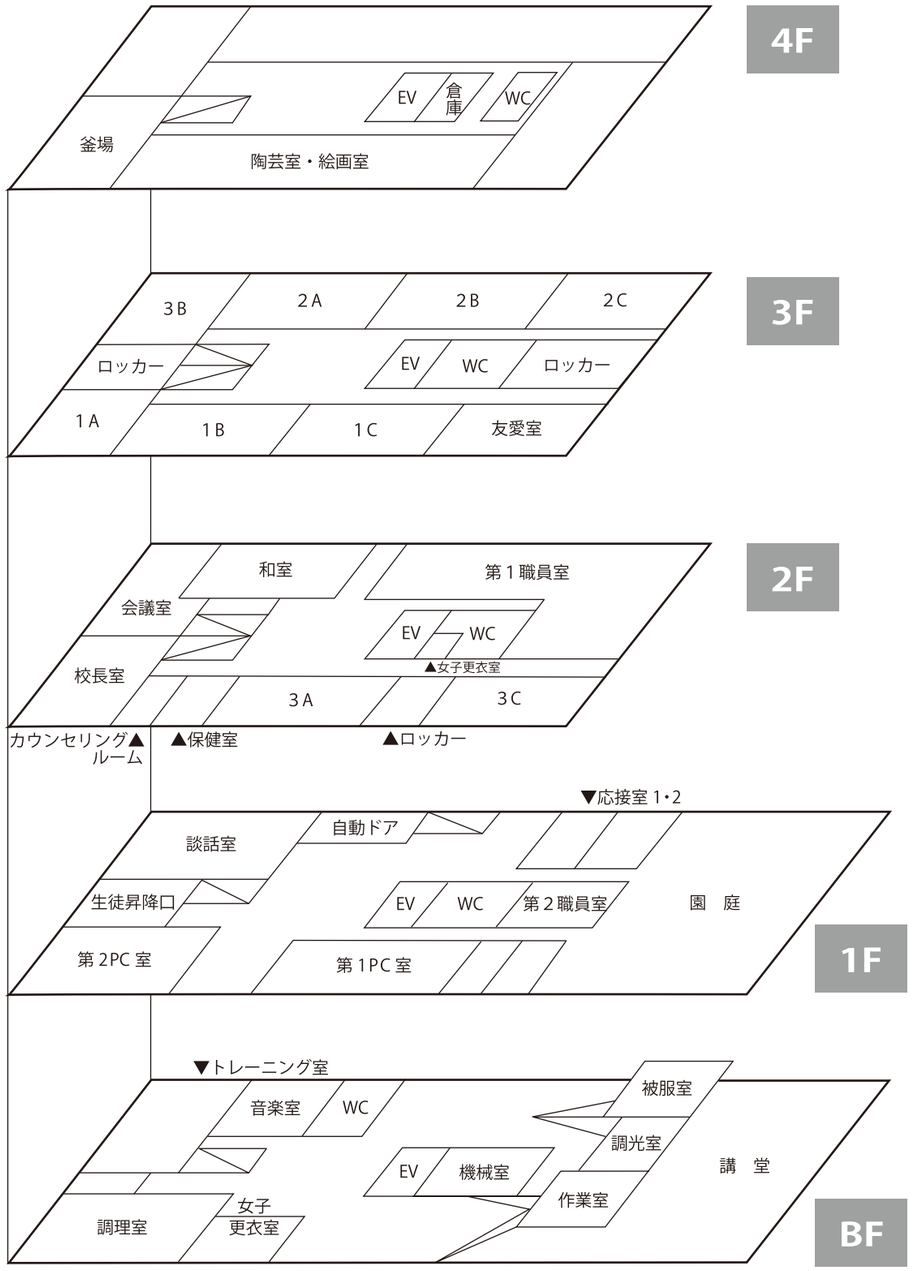
校　舎　地下１階、地上４階
全校舎面積　2802.92 ㎡
全校地面積　1616.52 ㎡
普通教室 10・特別教室 10

| 1年A組 | | 1年B組 | | 1年C組 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 15（10） | 5（2） | 14（10） | 4（1） | 13（13） | 2（2） |
| 20（12） | | 18（11） | | 15（15） | |
| **2年A組** | | **2年B組** | | **2年C組** | |
| 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 21（15） | 3（0） | 20（12） | 5（3） | 12（12） | 2（2） |
| 24（15） | | 25（15） | | 14（14） | |
| **3年A組** | | **3年B組** | | **3年C組** | |
| 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 23（12） | 4（1） | 25（17） | 3（2） | 12（12） | 2（2） |
| 27（13） | | 28（19） | | 14（14） | |
| 男子 155（114） | | 女子 30（15） | | 合計 185（129） | |

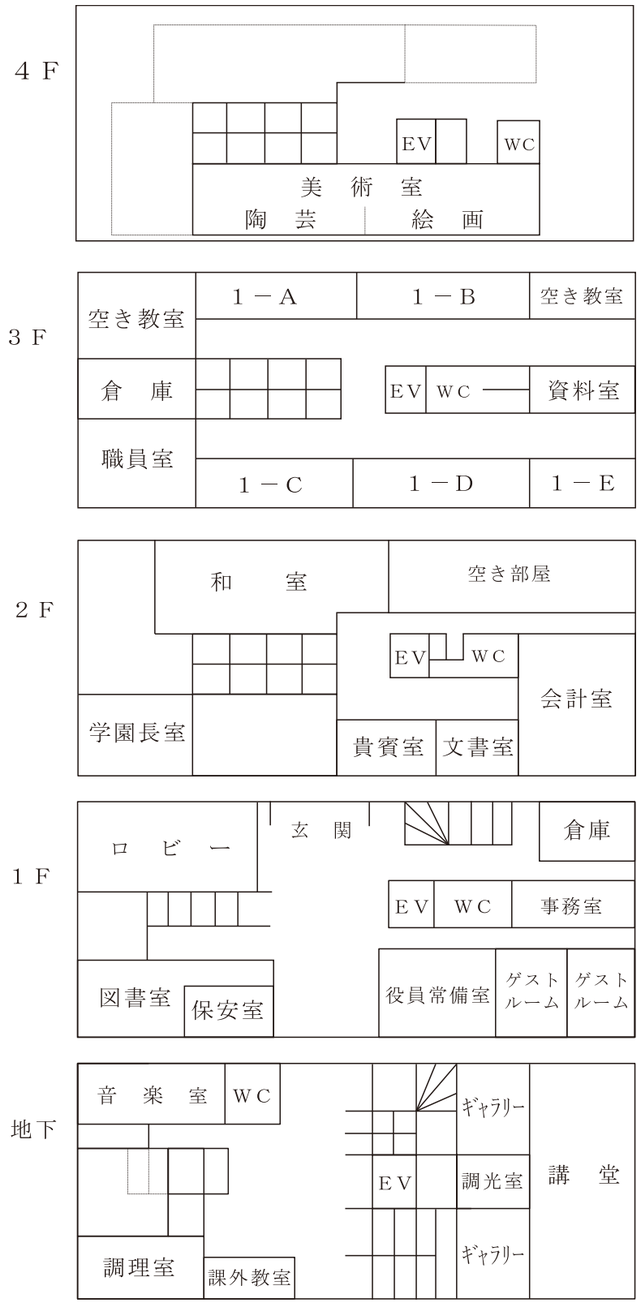
平成 28 年 11 月 1 日現在　（　）の中は自閉症児

## 3. 教室配置の変遷

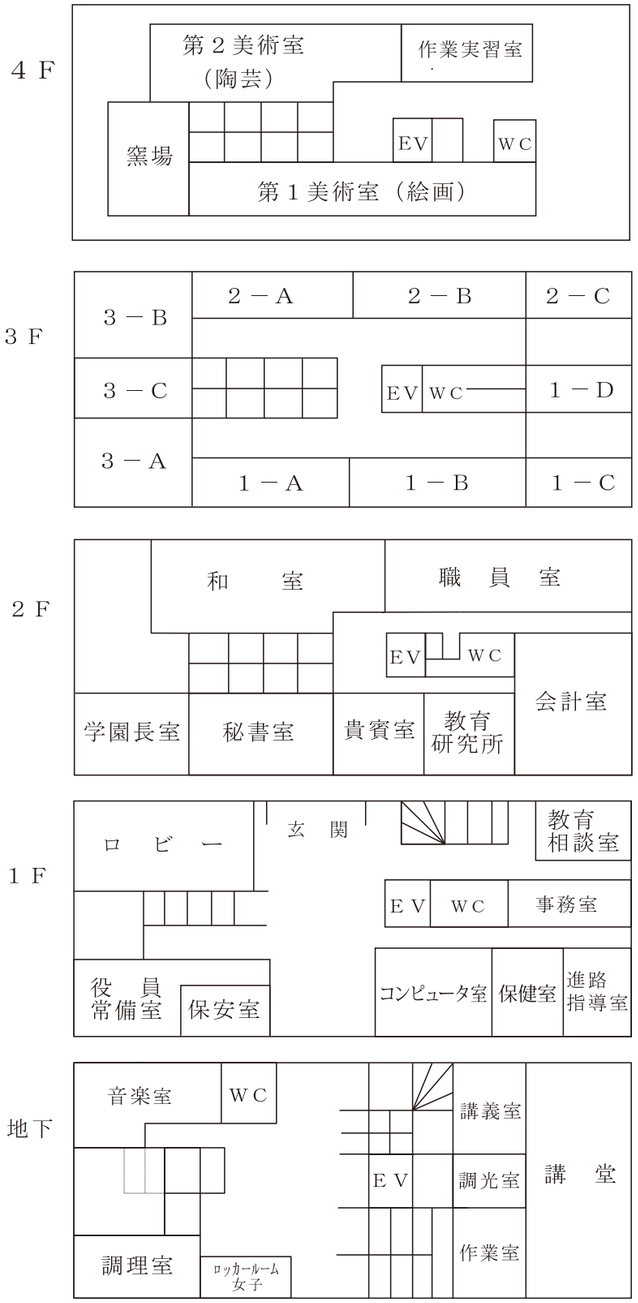
【現在】



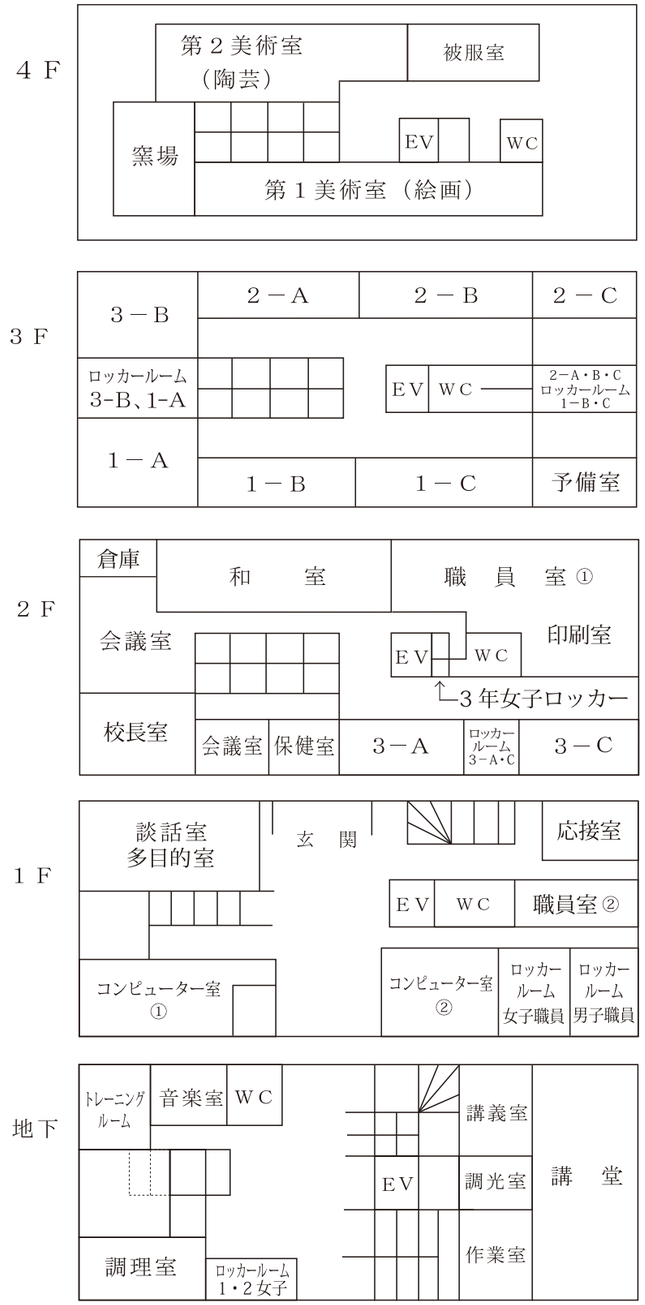

【開校当初】



## 【10年目】

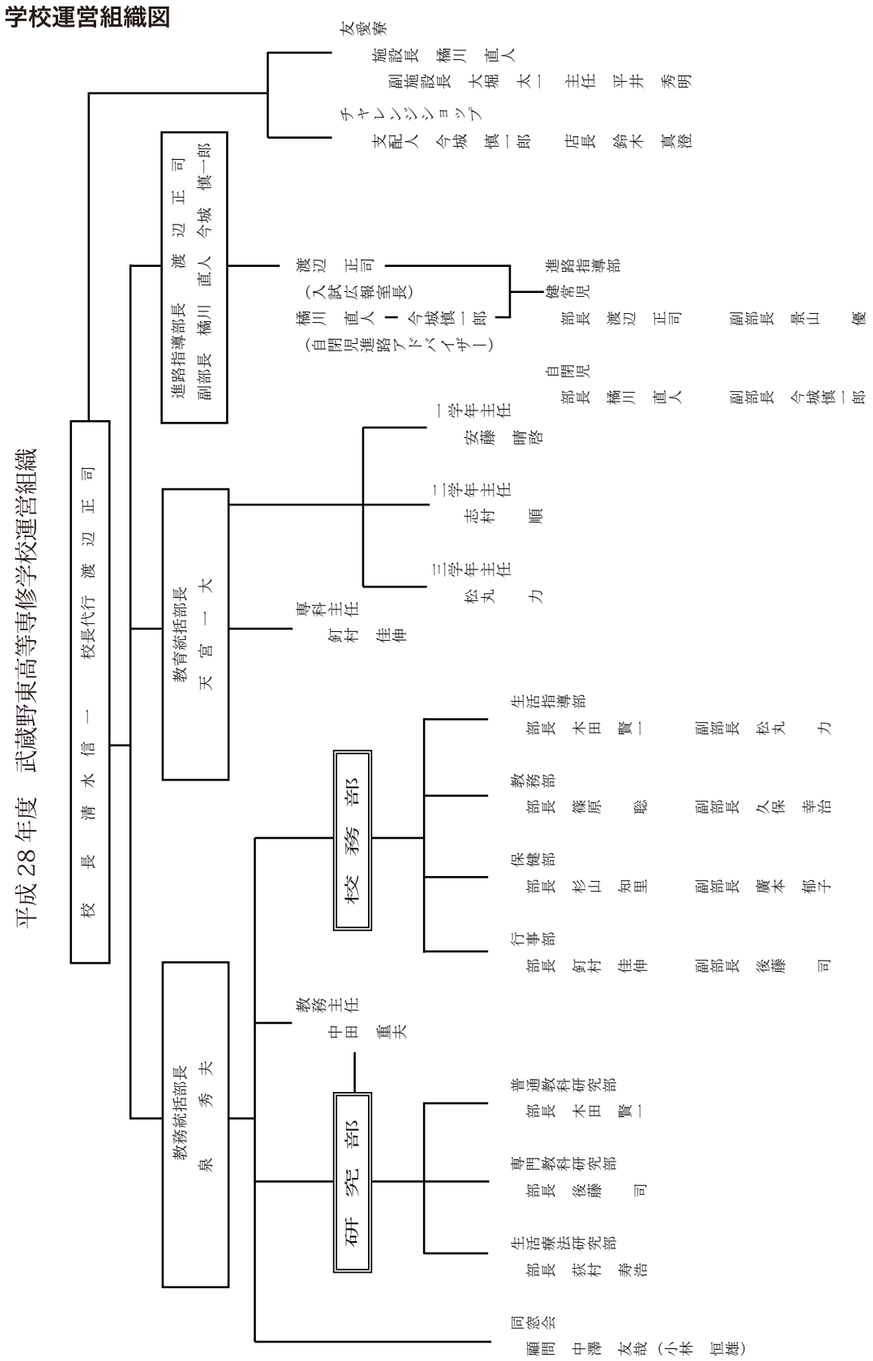

4 F
第２美術室
（陶芸）
作業実習室
窯場
EV
WC
第１美術室（絵画）
3 F
3－B
2－A
2－B
2－C
3－C
EV
WC
1－D
3－A
1－A
1－B
1－C
2 F
和　室
職　員　室
EV
WC
会計室
学園長室
秘書室
貴賓室
教育
研究所
1 F
ロ　ビ　ー
玄　関
教育
相談室
EV
WC
事務室
役　員
常備室
保安室
コンピュータ室
保健室
進路
指導室
地下
音楽室
WC
講義室
EV
調光室
講　堂
調理室
ロッカールーム
女子
作業室

## 【20年目】


4 F
第２美術室
（陶芸）
被服室
窯場
EV
WC
第１美術室（絵画）
3 F
3－B
2－A
2－B
2－C
ロッカールーム
3-B、1-A
EV
WC
2－A・B・C
ロッカールーム
1－B・C
1－A
1－B
1－C
予備室
2 F
倉庫
和　室
職　員　室①
会議室
EV
WC
印刷室
3年女子ロッカー
校長室
会議室
保健室
3－A
ロッカー
ルーム
3－A・C
3－C
1 F
談話室
多目的室
玄　関
応接室
EV
WC
職員室②
コンピューター室
①
コンピューター室
②
ロッカー
ルーム
女子職員
ロッカー
ルーム
男子職員
地下
トレーニング
ルーム
音楽室
WC
講義室
EV
調光室
講　堂
調理室
ロッカールーム
1・2女子
作業室

# 4. 学校運営組織

## 1. 学校運営組織図




## 2. 教職員一覧

| | 職　名 | 氏　　名 | 教　科 | 校務分担 | クラブ顧問 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 校　長 | 清　水　信　一 | | | |
| 2 | 校長代行<br>進路指導部長 | 渡　辺　正　司 | 広　報 | 進路指導・<br>入試広報 | 卓球部 |
| 3 | 教務統括部長 | 泉　　秀　夫 | 大学受験 | 進路指導・<br>入試広報 | 美術部 |
| 4 | 教育統括部長<br>3−A 担任 | 天　宮　一　大 | 保健・体育 | 進路指導・<br>入試広報 | ラグビー部 |
| 5 | 進路指導副部長 | 橘　川　直　人 | | 進路指導部 | |
| 6 | 進路指導副部長 | 今　城　慎一郎 | | 進路指導部 | 野球部 |
| 7 | 1−A　担任 | 木　田　賢　一 | 数　学 | 生活指導部 | 陸上部 |
| 8 | 1−A副担任 | 杉　林　優　子 | 調理・製菓 | 生活指導部 | ラグビー部 |
| 9 | 1−B　担任 | 安　藤　晴　啓 | 絵　画 | 生活指導部 | 美術部 |
| 10 | 1−B副担任 | 加　藤　啓　治 | 調理・製菓 | 教　務　部 | 陸上部 |
| 11 | 1−C　担任 | 荻　村　寿　浩 | 普通教科全般・体育 | 行　事　部 | |
| 12 | 1−C副担任 | 廣　本　郁　子 | 調理・製菓 | 保　健　部 | 茶道部 |
| 13 | 1学年付 | 高　田　一　男 | 国語 | 入試広報室 | |
| 14 | 1学年付 | 大久保　英　之 | 英　語 | 保　健　部 | 陸上部 |
| 15 | 1学年付 | 藤　島　美乃里 | 体育 | 保　健　部 | |
| 16 | 2−A　担任 | 清　水　貴　秀 | 保健・体育 | 行　事　部 | ラグビー部 |
| 17 | 2−A副担任 | 後　藤　　司 | 陶　芸 | 行　事　部 | ラグビー部 |
| 18 | 2−B　担任 | 志　村　　順 | 国　語 | 生活指導部 | ラグビー部 |
| 19 | 2−B副担任 | 野　村　侑　花 | ファッション | 生活指導部 | 茶道部 |
| 20 | 2−C　担任 | 壽　山　博　道 | 陶　芸 | 教　務　部 | 卓球部 |
| 21 | 2−C副担任 | 宮　本　舞　花 | 英語 | 保　健　部 | 美術部 |
| 22 | 2学年付 | 中　田　重　夫 | 社　会 | 教　務　部 | ラグビー・野球部 |
| 23 | 2学年付 | 釘　村　佳　伸 | 体　育 | 行　事　部 | 卓球部 |
| 24 | 2学年付 | 久　保　幸　治 | 情報ビジネス | 教　務　部 | 陸上部 |
| 25 | 3−A副担任 | 本　田　親　平 | 絵　画 | 行　事　部 | 美術部 |
| 26 | 3−B　担任 | 松　丸　　力 | 数学・情報ビジネス | 生活指導部 | ラグビー部 |
| 27 | 3−B副担任 | 那　須　達　磨 | 情報ビジネス | 教　務　部 | コンピュータ部 |
| 28 | 3−C　担任 | 篠　原　　聡 | 情報ビジネス | 教　務　部 | コンピュータ部 |
| 29 | 3−C 副担任<br>養　護 | 鈴　木　沙　蘭 | 普通教科全般 | 保　健　部 | 卓球部 |
| 30 | 3学年付 | 杉　山　知　里 | ファッション | 保　健　部 | 卓球部 |
| 31 | 3学年付 | 中　澤　友　哉 | | 進路指導・<br>入試広報 | ラグビー部 |
| 32 | 3学年付 | 山　浦　弘　嵩 | 数　学 | 教　務　部 | 野球部 |
| 33 | 進路指導 | 小　林　恒　雄 | | 進路指導・<br>入試広報 | |
| 34 | 進路指導 | 和　田　忠　雄 | | 進路指導・<br>入試広報 | ラグビー部 |
| 35 | 進路指導 | 景　山　　優 | 音　楽 | 進路指導・<br>入試広報 | 野球部 |

## 5. 卒業生と進路状況

### 1. 年度別卒業者数

| 卒業年度 | | 卒業者数 | 就職 | 進学 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第 1 期生 | 昭和 63 年度 | 57（53） | 49（47） | 8（6） | |
| 第 2 期生 | 平成元年度 | 54（29） | 35（23） | 14（4） | 5（2） |
| 第 3 期生 | 平成 2 年度 | 71（23） | 45（18） | 25（4） | 2（1） |
| 第 4 期生 | 平成 3 年度 | 79（27） | 46（23） | 31（3） | 2（1） |
| 第 5 期生 | 平成 4 年度 | 74（24） | 44（22） | 29（2） | 1（0） |
| 第 6 期生 | 平成 5 年度 | 66（20） | 46（19） | 20（1） | |
| 第 7 期生 | 平成 6 年度 | 64（29） | 40（27） | 24（2） | |
| 第 8 期生 | 平成 7 年度 | 67（29） | 43（26） | 24（3） | |
| 第 9 期生 | 平成 8 年度 | 71（21） | 43（20） | 26（1） | 2（0） |
| 第 10 期生 | 平成 9 年度 | 60（22） | 34（20） | 22（2） | 4（0） |
| 第 11 期生 | 平成 10 年度 | 69（26） | 37（21） | 28（3） | 4（2） |
| 第 12 期生 | 平成 11 年度 | 74（28） | 34（22） | 34（5） | 6（1） |
| 第 13 期生 | 平成 12 年度 | 70（27） | 36（22） | 32（4） | 2（1） |
| 第 14 期生 | 平成 13 年度 | 63（28） | 30（24） | 32（4） | 1（0） |
| 第 15 期生 | 平成 14 年度 | 79（34） | 41（26） | 38（8） | |
| 第 16 期生 | 平成 15 年度 | 61（29） | 30（20） | 31（9） | |
| 第 17 期生 | 平成 16 年度 | 85（37） | 42（32） | 42（5） | 1（0） |
| 第 18 期生 | 平成 17 年度 | 72（34） | 42（30） | 29（4） | 1（0） |
| 第 19 期生 | 平成 18 年度 | 75（34） | 37（30） | 38（4） | |
| 第 20 期生 | 平成 19 年度 | 81（36） | 44（34） | 36（1） | 1（1） |
| 第 21 期生 | 平成 20 年度 | 78（49） | 50（46） | 26（2） | 2（1） |
| 第 22 期生 | 平成 21 年度 | 69（43） | 49（40） | 20（3） | |
| 第 23 期生 | 平成 22 年度 | 74（44） | 50（43） | 23（1） | 1（0） |
| 第 24 期生 | 平成 23 年度 | 71（47） | 55（44） | 16（3） | |
| 第 25 期生 | 平成 24 年度 | 68（42） | 44（39） | 25（3） | |
| 第 26 期生 | 平成 25 年度 | 56（44） | 50（44） | 6（0） | |
| 第 27 期生 | 平成 26 年度 | 69（45） | 54（42） | 15（3） | |
| 第 28 期生 | 平成 27 年度 | 68（37） | 56（37） | 12（0） | |
| 第 29 期生 | 平成 28 年度 | 69（46） | 57（44） | 12（2） | |

（　）の中は自閉症児

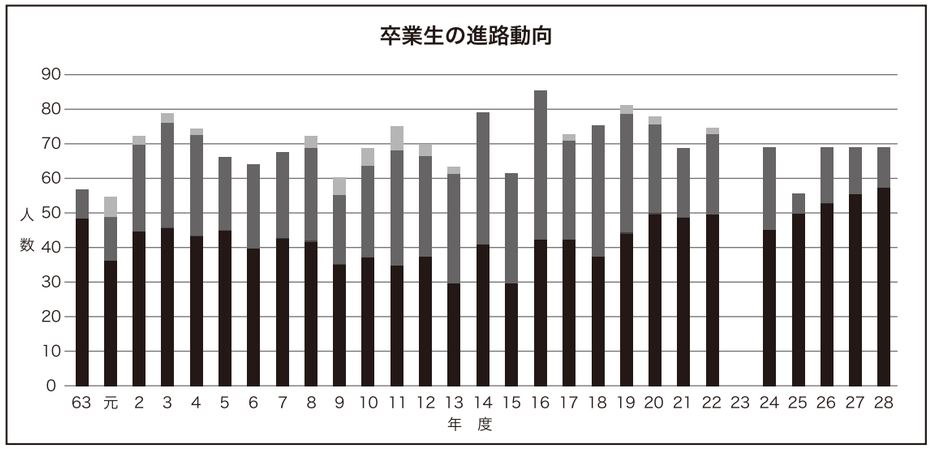
### 2. 主な就職先一覧

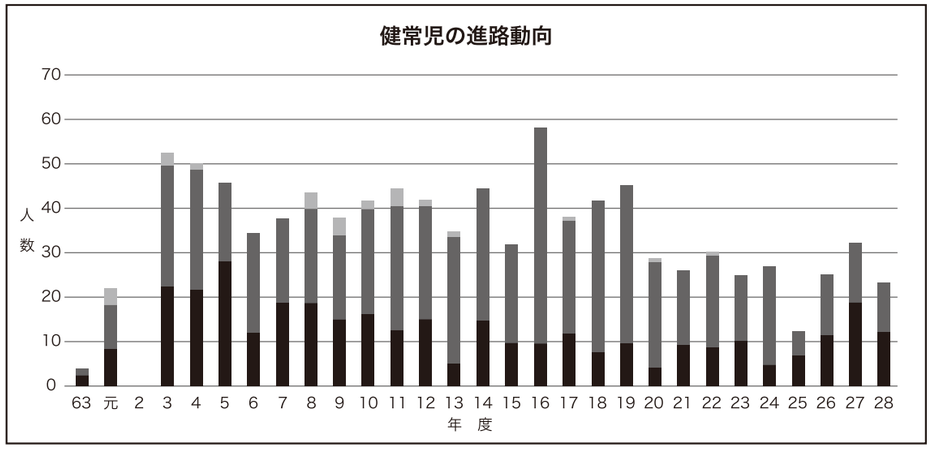
| | |
|---|---|
| 坂善商事㈱ | ㈱ときわスポーツ |
| シチズン物流サービス㈱ | ㈱ティーエムエス |
| ㈱ベネッセスタイル ケア | ティ・ジェイホームサービス㈱ |
| エコル㈱ | あけぼのパン㈱ |
| ㈱ワン フォア オール | ㈱アズパートナーズ |
| ガーデンベーカリー㈱ | ㈱ウィンローダー |
| 東信水産㈱ | ㈱ファッションプラザ・サンローゼ |
| 社会福祉法人徳心会あゆみえん | 社会福祉法人青芳会今井苑 |
| ㈱パソナハートフル | ㈱吉野家ディー・アンド・シー |
| ブレーンバンク㈱ | ㈱ベネッセビジネスメイト |
| オリックス業務支援㈱ | ㈱ワンダーテーブル |
| 東京海上ビジネスサポート㈱ | ㈱ワークスアプリケーションズ |
| ㈱パスポート | キャプラン㈱ |
| キリンビバレッジ㈱ | ㈱大正オーディット |
| 国立大学法人東京大学 | 国立大学法人東京大学医科学研究所 |
| ㈱ナルミヤ・インターナショナル | ㈱日本マクドナルド |
| ㈱田谷 | 西洋フード・コンパスグループ㈱ |
| ㈱チェッカーサポート | ㈱トラベルカフェ |
| 新日エコー㈱ | ㈱チヨダ |
| 東京エレクトロン FE ㈱ | ㈱日本海 |
| ㈱世界堂 | 東和プリント工業㈱ |
| 岩岡印刷工業株 | ㈱カクヤス |
| ㈱三祐産業 | ㈱錦松梅 |
| ㈱美ショウ | ㈱エム・シー・エス |
| ㈱遠藤製餡 | トランスコスモス㈱ |
| ㈱綜合警備保障 | ㈱ KRL |
| ㈱生活科学運営 | ㈱日立物流 |
| ㈱丸井グループ | 日本電波塔㈱ |
| ㈱レオパレス・スマイル | ㈱ワンダーテーブル |
| ㈱ワールドサプライ | ㈱日清医療食品 |
| 社会福祉法人奉優会 | ㈱いなげや |
| アートコーポレーション㈱ | など |

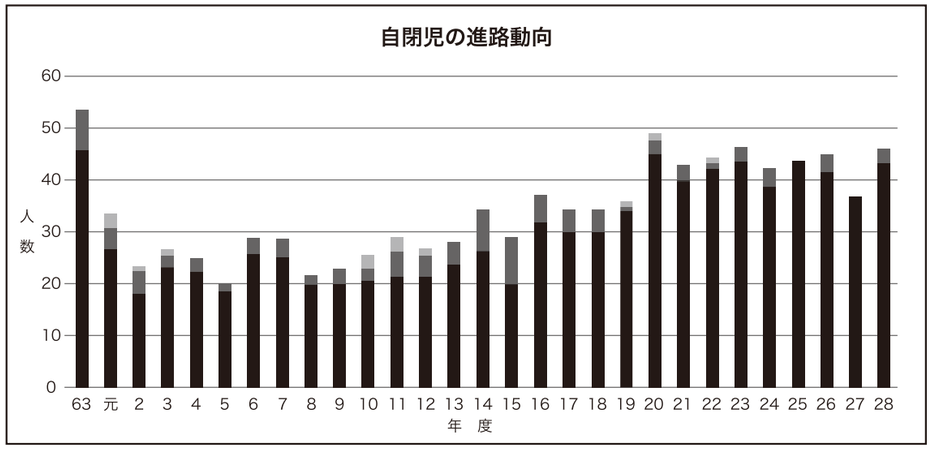
## 3．主な進学先 一覧

| | |
|---|---|
| 早稲田大学 | 慶應義塾大学 |
| 中央大学 | 帝京大学 |
| 拓殖大学 | 日本大学 |
| 専修大学 | 杏林大学 |
| 明星大学 | 神奈川大学 |
| 桜美林大学 | 日本福祉大学 |
| 東京未来大学 | 城西大学 |
| 文化学園大学 | 浦和大学 |
| 武蔵野美術大学 | 駿河台大学 |
| 白梅学園大学 | 国際武道大学 |
| 日本文理大学 | ルーテル学院大学 |
| 多摩美術大学 | ものつくり大学 |
| 女子美術大学短期大学部 | 文化服装学院 |
| 東洋美術学校 | 東京針灸専門学校 |
| 二葉栄養専門学校 | 東京調理師専門学校 |
| 専門学校二葉製菓学校 | 東京福祉専門学校 |
| 草苑保育専門学校 | 創形美術学校 |
| エコール辻東京 | 日本工学院八王子専門学校 |
| 東京工学院専門学校 | 専門学校東京自動車大学校 |
| 専門学校トヨタ東京自動車大学校 | 東邦歯科医療専門学校 |
| 国際文化理容美容専門学校 | 国際パティシエ調理師専門学校 |
| 東京多摩調理師専門学校 | 東京 YMCA 医療福祉専門学校 |
| 日商簿記三鷹福祉専門学校 | 町田福祉保育専門学校 |
| 淑徳幼児教育専門学校 | 二葉ファッションアカデミー |
| 東京エアトラベル・ホテル専門学校 | 専門学校 東京スクール・オブ・ビジネス |
| 専門学校 デジタルアーツ東京 | 専門学校 日本スクールオブビジネス |
| 阿佐ヶ谷美術専門学校 | 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 |
| 日本外国語専門学校 | 東京コミュニケーションアート専門学校 |
| 東京商科・法科学院専門学校 | 東京保育医療秘書専門学校 |
| | など |

■就職　■進学　■その他



# 編集後記

「混合教育30年間の実践記録」は、

・平成 27 年度文部科学省委託事業「発達障害のある生徒等、特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラム等の開発 〜職業教育と混合教育(インクルーシブ教育)の成果〜」

・平成 28 年度文部科学省委託事業「混合教育（インクルーシブ教育）の教育効果の実証と普及・啓発及び発達障害など特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業」の一環として、教職員が和を大切にしつつ２年の歳月をかけてまとめ上げた30年間にわたる混合教育の実践記録です。更に卒業生10名、保護者11名の方々にも原稿を寄せていただき大変感謝しております。

本校が、昭和６1年に創立者北原キヨの「生活療法」の総仕上げの教育ステージとして開校してから早 30 年が経過しました。この 30 年間、混合教育を展開し、自閉症児は健常児から沢山の愛情をもらい、健常児は自閉症児のピュアな心に触れ、お互いが尊重し合い、成長できる教育環境を継続して参りました。この「混合教育 30 年間の実践記録」は、その生徒達の足跡をまとめたものになりました。多くの高等専修学校で障がいのある生徒を積極的に受け入れるようになった今日、混合教育を実践する上で必ずやお役に立てるものと確信しております。

また、平成 28 年という年は、リオデジャネイロでオリンピックが開催され、日本は金メダル12、銀メダル９、銅メダル 21 のメダル総数 41 という快挙を達成し、日本中が沸いた年になりました。本校でも創立３0 周年を記念し「ギネスに挑戦！ 500人で行う世界最大の折り紙教室」を開催し、好評を博しました。

今後も教職員一同、教育の質の向上を追求し、切磋琢磨し、研究・研修を重ねて混合教育を発展させていく所存であります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後に、本校の混合教育、すなわち生徒たちの様々な個性の枠をはずした教育が日本全国に広がり、日本各地で実践されることを切に願い、編集後記といたします。

平成29年１月

武蔵野東高等専修学校
教務統括部長　泉　秀夫

平成 28 年度　文部科学省委託事業
「成長分野等における中核的人材養成等の戦略的推進」事業
『混合教育（インクルーシブ教育）の教育効果の実証と普及・啓発及び発達障害など
特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業』